

発 刊 登 録 番 号

11-B553448-000032-01



공공누리



공공저작물 자유이용허락

日帝強制動員被害者支援財団 翻訳叢書 6 口述記録集

聞こえてる？

日本軍「慰安婦」12人の少女の物語

対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会 | 編

日帝強制動員被害者支援財団・日本語翻訳協力委員会 | 訳



日帝強制動員被害者支援財団

発 刊 登 録 番 号

11-B553448-000032-01

OPEN

공공누리

출판권리
저작권
자유이용허락

공공저작물 자유이용허락

日帝強制動員被害者支援財団 翻訳叢書 6 口述記録集

聞こえてる？

日本軍「慰安婦」12人の少女の物語

対日抗爭期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会 | 編
日帝強制動員被害者支援財団・日本語翻訳協力委員会 | 訳



日帝強制動員被害者支援財団

日帝強制動員被害者支援財団 翻訳叢書 6 口述記録集

聞こえてる？

日本軍「慰安婦」12人の少女の物語

初版 1刷 印刷 2020年 12月 21日

初版 1刷 発行 2020年 12月 21日

韓国語版編著 対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会

韓国語版発行 2013年 2月 28日

日本語版発行人 金容徳

日本語版発行処 日帝強制動員被害者支援財団
ソウル特別市鐘路区鐘路ギル42利馬ビル6階
<http://www.ilje.or.kr>

翻訳 日本語翻訳協力委員会

口述・附録: 李洋秀, 図表: 竹内康人

翻訳にあたり、訂正した個所がある。訳注は〔 〕で示した。

最終監修 玄明喆(韓日関係史学会 会長)

発刊登録番号 11-B553448-000032-01

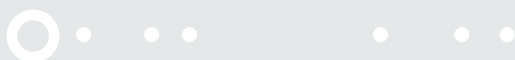
デザイン・編集 Design21

本書の全部または一部を無断で複写複製(コピー)することは、
著作権法上での例外を除き、禁じられています。

凡例

- ・意味を把握しにくい地方語と口述者に特有な表現は、〔 〕に標準語を記載した。
- ・日本語、漢字、動作の描写、編集者の説明は、()の中に記載した。
- ・外国語、対話や引用文は、「 」の中に記載した。
- ・口述者の個人情報、粗野な語は〇〇で表示した。
- ・動員経路地図で色が塗られた部分は、アジア太平洋戦争当時、日本が占領していた最大領域を示す。
- ・翻訳にあたり、表題では慰安婦の語を「 」で括ったが、本文中では「 」を略した。

※ 訳注は〔 〕で示した。



目次

発刊の辞(日本語版)	006
発刊の辞(韓国語版)	008
解題	011
日本軍慰安婦の定義	020
主な用語の説明	026
日本軍占領地全域の慰安所分布図	028

日本軍「慰安婦」被害者 口述資料 | 031

姜道牙 想像したって心の病になるだけ、水に流してさっぱりだ。	032
A〇〇 いっそ死んだ方が楽だった。	062
B〇〇 お前らだけで戦争して来たのか、お前らのせいで大病にかかった	082
C〇〇 哀れさは言い尽くせない、利用されただけだ。	120
D〇〇 日本人のせいで行ったんだ。	138
E〇〇 母が祈ってくれたおかげで、死なずに生きて帰れた。	158
F〇〇 誰にも訴えられず、泣き通した。	180
G〇〇 就職して、工場に行くものと思っていた。	204

H〇〇	こんな話、誰にもせずに死のうと思った。……………	230
I〇〇	再び女に生まれて、恨を晴らしたい。……………	268
J〇〇	姉ちゃんが工場で働いて、牛買ってあげるね。……………	296
K〇〇	死んだも同然だ。……………	330

日本軍慰安婦被害女性人権運動家口述資料 | 355

金文淑 会長 ハルモニの名誉を回復させ、私たち女性が戦争を

防がなくてはなりません…………… 357

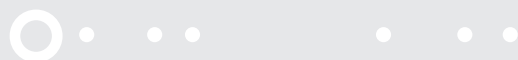
付録 | 383

付録1 日本軍慰安婦、委員会被害認定の現状・検討結果…………… 385

付録2 日本軍慰安婦被害者に対する韓国政府の支援の現状…………… 395

付録3 日本軍慰安婦関係年表…………… 398

付録4 日本軍隊慰安婦関連、委員会所蔵資料目録…………… 406



発刊の辞(日本語版)



財団法人日帝強制動員被害者支援財団は、国内外から多くのご関心とご声援をいただき、今年も5冊の強制動員関連の本を翻訳・発行することになりました。2019年に引き続き、2年目の今年も進めている出版事業は、日本現地の「強制動員真相究明ネットワーク-日本語翻訳協力委員会」の関係者の方々と国内関連分野の研究者の方々の惜しみないご尽力、愛情によって編み

出された成果だと言えるでしょう。

2020年に発行される5冊の本は、旧委員会(日帝強占下強制動員被害真相糾明委員会・対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会)から出された強制動員被害調査報告書と口述記録集、そして遺物図録の日本語版です。日本語訳は去年から本財団と協力してきた日本現地の「日本語翻訳協力委員会」の関係者の方々のご協力を得て作業が行われ、以降国内学界の研究グループの方々の監修で貴重な原稿が整いました。日本と韓国で長い間活動して来られた研究者の方々、活動家、翻訳家の方々の惜しみないご尽力に心より感謝申し上げます。

今回、発行される旧委員会報告書2冊は、中西南太平洋地域強制動員被害真相調査報告書である「南洋群島への朝鮮人労務者強制動員実態調査 1939~1941」(2009)と長崎所在の海底炭鉱被害実態調査報告書である「端島炭鉱での強制動員朝鮮人死亡者実態調査」(2012)です。また、広島・長

崎地域の強制動員と原爆被害者の口述を載せた「我が身に刻まれた八月」(2008)と旧委員会の唯一の日本軍「慰安婦」の口述記録集である「聞こえてる？ 日本軍「慰安婦」12人の少女の物語」(2013)の日本語版も長い議論と陣痛の末、発行の運びとなりました。最後に、日本の北海道地域の強制動員被害者の寄贈遺物と資料などを載せた「写真で見る強制動員の話-日本・北海道編」(2009)の発行を通じて、財団が委託・運営している「国立日帝強制動員歴史館」(釜山広域市南区所在)の所蔵資料の一部を皆さんにご紹介できることは一層有意なことだと思います。

旧委員会の解散後中断していた事業が、このように財団を通じて事業として引き継がれ、そのうえ、強制動員分野の国内外の研究に多少なりとも役立つことができれば、より一層嬉しいことです。財団のこれらの事業に今後も多くのご関心とご声援をお願い申し上げるとともに、財団としても、今後、強制動員の分野の様々な研究報告書や学術資料、テキストの編集に努力を惜しまないことを約束いたします。また、強制動員関連の研究成果が、韓国と日本を越えてアジア全域とアメリカ、欧州など世界中に拡大できるよう、引き続き、ご関心とご支援をお願いいたします。

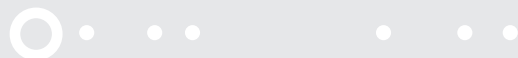
ありがとうございます。

2020年12月21日

財団法人 日帝強制動員被害者支援財団

理事長 金容徳

김용덕



発刊の辞(韓国語版)



今回、国外強制動員犠牲者等支援委員会(以下、「わが委員会」)では、日本軍慰安婦として強制動員された後、劇的に生還された被害者ハルモニ(韓国語で「おばあさん」の意)たち12名と、関連市民団体の活動家1名の生々しい証言を載せた口述記録集、『聞こえてる?日本軍「慰安婦」 12人の少女の物語』を発刊することとなりました。

わが委員会は2004年11月の委員会発足以来、日帝時代の軍人・軍属等、様々な分野に強制動員された被害者たちの証言を収録した口述記録集を14冊発行しました。しかし、日本軍慰安婦被害者ハルモニたちの生々しい声を、口述記録集としてまとめたのは、今回が初めてです。日本軍慰安婦に関する韓国政府の公式的な口述記録集としても、初めてといえます。

日本軍慰安婦問題、すなわち「戦時日本軍性奴隷」問題に対しては、1993年に日本の河野官房長官が、日本軍当局の主導で軍慰安所が設置され、慰安婦が強圧的に動員されたという事実を認め、これに対するお詫びの内容の談話を発表したことがあります。その後日本政府は何度も、この談話が政府の公式的な立場であると明らかにしてきました。ところが最近、日本では上記「河野談話」を否認する一部の政治家が現われ、日本軍慰安婦が強制連行された証拠はないと言います。さらに、慰安婦の強制動員について、「韓国に証拠を出してほしい」とまで、極端な発言をするケ

ースもあります。

ご存じのように、私たちがいう「強制動員」の「強制性」というのは、必ずしも被害者の体をつかまえて縛り上げ、無理やり連行する行為のみを意味するものではありません。その他に脅迫や誘引、欺罔等、違法な方法で被害者を募集し、常に監視または監禁状態を維持しながら働かせ、被害者から仕事の選択と拒否する自由を剥奪する状態を含むものです。その意味からも本書は、日本軍慰安婦強制動員に関する直接的な証拠と言えるでしょう。

本書で証言してくれた12名の被害者ハルモニたちは皆、幼い少女の歳で騙され、またはどこに連れて行かれるのかさえ判らないまま、強制連行された人たちです。当時、幼かった少女たちは、中国、満州、東南アジアをはじめ、太平洋の名の知らない島まで連れていかれ、あらゆる苦難を強いられました。この機会にわが委員会は、ハルモニたちに強いられた日本軍慰安婦としての具体的な被害の実像を、漏らさず初めて整理しようと努力しました。

情報化時代の昨今、日本軍慰安婦被害者に関する知識や情報を断片的に接することは、それほど難しくないでしょう。書店の店先やインターネットを検索すれば、日本軍慰安婦に関する様々な書籍と映像物を見つけられます。今も毎週水曜日、日本大使館前で日本政府の態度に抗議する、慰安婦被害者ハルモニたちの「水曜集会」が開かれています。また韓国と日本のマスコミでは、随時に日本軍慰安婦に関する多様なニュースを報道しています。

当然のことですがわが委員会では当初から、日本軍慰安婦問題の解決が最も重大な課題の一つとして認識し、取り組んできました。日本軍慰安婦強制動員の規模、実態に関して真相を究明し、少なくない被害事例を調査しながら、被害者ハルモニたちの具体的な証言にも耳を傾けてきました。その結果、日本軍慰安婦の強制動員とその実態の概要については、3件の

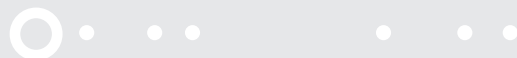
真相調査報告書を発行しています。

しかし残念なことに、被害者ハルモニたちの貴重な証言が、口述記録集としてはまとめられていなかったのです。しかし今、ようやく証言を集めて本書を発行することになりました。遅過ぎた感がありますが、初めて政府レベルで日本軍慰安婦被害者の口述記録が公開されたという点に、本書が発行された意義があります。しかも、日本軍慰安婦問題の解決をめぐる韓日の関係がいつになく厳しいこの時期に、今回の発行の持つ意味はなおさら大きいといえるでしょう。

思い出すことさえ苦しい悲惨な経験を思い起こし、生々しく証言してくださった12名の被害者ハルモニたちに、心から感謝を申し上げます。ハルモニたちの勇気ある証言によって、被害者個人の苦痛として消え去られてしまう真実の記憶を、歴史の証拠として永遠に残すことができました。また、資料集の発行に励んできたわが委員会のスタッフにも感謝します。

今回の資料集を契機に、日本軍慰安婦の強制動員について広く知っていただくとともに、被害者自身の苦痛が少しでも安らぐことを願います。最後に、軍隊慰安婦の強制動員を認めて真なる謝罪と損害賠償を促す国際社会の要請に従って、日本政府が人類の普遍的な良心と正義をもって誠実に応える日が、一日も早く訪れることを願うものです。

対日抗爭期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会
委員長 朴仁煥



解題

本の構成

本書は、日本軍によって日本軍慰安婦生活を強いられた被害者12人の話の口述資料を収録したものである。

被害者については、比較的鮮明な記憶を持ち、本人の被害内容を直接話することができるハルモニたちを選定した。被害ハルモニ12人のうち11人は、本委員会に本人か家族が直接被害を申告した方々である。11人の被害者は皆2005年に委員会に被害を申告し、被害事実を初めて話した。口述聴取は2005年~2006年の間に実施した。

残る1人の被害者は2012年になって自分の被害事実を話した。2012年は委員会の強制動員被害申告の受付を締め切った後だったので、この被害者は〔韓国政府〕女性家族部に被害者登録を申請した。女性家族部はわが委員会に被害調査を依頼し、委員会の調査を経て2012年、日本軍慰安婦被害者に登録された。90歳の高齢にも関わらず、自分の被害事実を詳しく口述したので、収録対象者に選定した。

編集方針

本書では、被害者の個人情報を除き、動員当時から帰国までの状況、帰国してからの生活苦と身体・精神的後遺症等、「日本軍慰安婦被害」に関する内容を伝えることにとした。そのため、口述者の年齢(出生年度)以外の

身元に関する詳しい事項は公開しないという原則の下で編集した。真相調査報告書『インドネシア動員女性名簿に関する真相調査』の発刊の際、すでに実名公開を承諾した姜道牙(カンドア)ハルモニを除き、他の口述者の名前はアルファベットにした。被害者が動員される際の居住地及び動員地域は市・道までを記載した。

口述は短くても一時間半、長いときには数回にわたる5時間以上のものであり、分量はとても長い。面談現場の雰囲気によって同じ内容を繰り返したり、口述の時系列が順序通りにならないことも多い。

こういう口述資料を時系列に編集し、反復する内容は削除し、読み易くして、適度な分量に編集した。口述者の地方語や特有の表現はそのまま伝えようとしたが、その意味がわかりにくい表現については〔 〕の中に説明を入れた。面談当時の雰囲気を表現するために、口述者と面談者の感情状態については、()の中に説明を記した。声を文字にして伝えることになったが、面談現場の雰囲気をそのまま伝えるには限界がある。それが残念である。

口述資料の紹介

・委員会に申告した被害者11名の口述

姜道牙(カンドア)ハルモニの口述資料は『インドネシア動員女性名簿に関する真相調査』(2009)に全体が収録されている。この口述から時系列に、主な内容を整えて収録した。姜道牙ハルモニは「長女だった私が、金を稼いで、家計の助けにならないと」という思いから、見知らぬ募集係について出かけた。しかし、台湾やインドネシアのバリクパパンで日本軍慰安婦の生活を強いられた。業者は「家に金を送ってあげる」と言っていたが、家族は金を受け取ってないという。初めて被害を受けたときの衝撃がとても大きかったせいで、台湾での生活はあまり覚えていない。インドネ

シアでの生活については、現地の言葉まで憶えていて、たくさん話をしてくれた。ハルモニは終戦直前にバリクパパンで臨時看護婦に編入された特別な経験についても、詳しく話した。

A〇〇ハルモニは、この資料集の被害者のうち、一番若い歳で動員された被害者だ。ハルモニは14歳で就業詐欺によって動員され、中国の延吉で2年間日本軍慰安婦生活をした。歳が幼くて「客を受け入れられない」という理由で、ひどく殴られたことが一番辛かったとみられ、それを何回も繰り返して陳述した。「満州の話をするだけで息が詰まる」と言って、話しているうちに思い出すのがつらい様子が、何度も登場する。両親に会いたいという一念で男装をして、二ヶ月間歩いて帰国した経験も、読む者の心を痛くさせる。

B〇〇ハルモニは「処女供出」を避けようと親戚の家に逃げたのに、親戚の家近くの道端で見知らぬ男につかまり、ハルビンに動員された。ハルビンの寒い天気と荒れた環境に、特に苦勞したという。乱暴な軍人に大声で抵抗した経験、休日に「勤勞奉仕」という名目で軍人たちの衣服を繕う仕事の経験と共に、日本軍慰安婦に動員された彼女たちの生活や環境について詳細に話してくれた。

C〇〇ハルモニも、就業詐欺で動員された。動員地まで行く途中に買って貰った服や食事代が、後に全部、借金になった。一緒に生活した同僚が薬を飲んで自殺した話をしながら、「あの時、むしろ死んだ方が楽だった」と回想した。人影のないティモール島の浜辺で泣いた体験、親しい友人が爆撃で死亡して心を痛めた経験を話しながら、ハルモニは日本軍に「利用だけされた」と言う。

D〇〇ハルモニも「お金を稼げる」という言葉に騙され、シンガポールやミャンマーに動員された。先に船に乗った友だちの爆撃での死亡、妊娠中絶の手術を受けた同僚、子どもを出産した同僚、麻薬中毒になった同僚など、不幸だった同僚に対する記憶が特に多い。ハルモニの話は日本軍慰安婦被害者が経験した色々な苦痛を伝えてくれる。自分も病気にかかって、一時苦しんだが、「病気にかかったおかげで軍人を相手にしなくて良かった」と回想した。

E〇〇ハルモニは「日本に行くといいことがある」という罠に騙され、パラオやラバウルへ動員された。ラバウルで妊娠すると、「前線では出産できない」と言われてパラオに送られた。出産前まで掃除や洗濯等の雑役をしながら、パラオで赤ちゃんを生んだ。帰国する時、幼児と一緒にだったので母親がびっくりしたという。ハルモニは「母親が毎日お水を神様に上げながら祈った」おかげで、自分が戦場から生きて戻れたと話してくれた。

F〇〇ハルモニは涙とため息を交えて、体や心に残った傷を聞かせてくれた。中国の漢口(現在の武漢)や海南島に動員されたハルモニは、帰国してから家族に会うにも苦労した。中国では日本軍慰安婦生活によるひどい腹痛や下血症状で、病院の治療を受けなければならなかった。治療後もずっと腹痛に苦しみ、帰国後は卵巣にこぶができて、大きな手術をした。苦労の末に故郷に帰ってきたが、「慰安婦に動員された」という噂が出て、結婚ができず、独りで寂しく暮すしかなかった。

G〇〇ハルモニは職業紹介所で騙され、インドネシアのスマトラ島のパレンバンに動員された。インドネシアに到着すると移動費用と服などが全部借金となった。生活費を前借りすると、さらに負債がたまったという。ハ

ルモニは終戦後、シンガポールの朝鮮人臨時収容所で一ヶ月間生活した経験も詳しく聞かせてくれた。

H〇〇ハルモニは少し特異な被害事例である。最初に動員された日本の長崎県の工場では、働きながら日にちを決めて軍人の相手をさせられ、満州に移動してからは、工場の仕事はせずに軍人だけ相手にしたという。日本と満州での生活についても詳細に話してくれたし、病気に掛って手術を受けた記憶、軍人たちに暴行された記憶も聞かせてくれた。

I〇〇ハルモニは家にやってきた見知らぬ者に無理やり連行された。連れられて行く自分を引き留める母親の様子、船に乗りながら母親を思っ泣いた事などを切なく陳述した。台湾で5年間苦労をし、顔がひどく傷ついて帰国したので、母親が自分を見ても判らなかったという。他の女性のように結婚して子どもを産み、幸せに暮らせなかったことが恨（ハン）となり、「再び女として生まれて、恨を解きたい」というハルモニの話は、被害の数えられない大きさを感じさせる。

J〇〇ハルモニは両親が亡くなり、幼い弟と親戚の家に身を寄せに行く途中、お金を稼げると誘う男性たちに道端で会った。弟に「お姉ちゃんが稼いで牛を買ってあげるから」と言うので、男たちについて行ったところ、日本軍慰安婦に動員された。幼い弟を残して行く場面は、特に胸が痛い。頻繁な爆撃により、命の脅威を感じる戦場で、ただ弟に会いに帰る一念で生き残って帰国した。ハルモニは自分が動員された場所の正確な地名を覚えていないが、陳述内容から見て、南太平洋の小さな島「ナウル」(ナウル共和国)で日本軍慰安婦生活をしたと推定される。

・女性家族部調査依頼被害者1名の口述

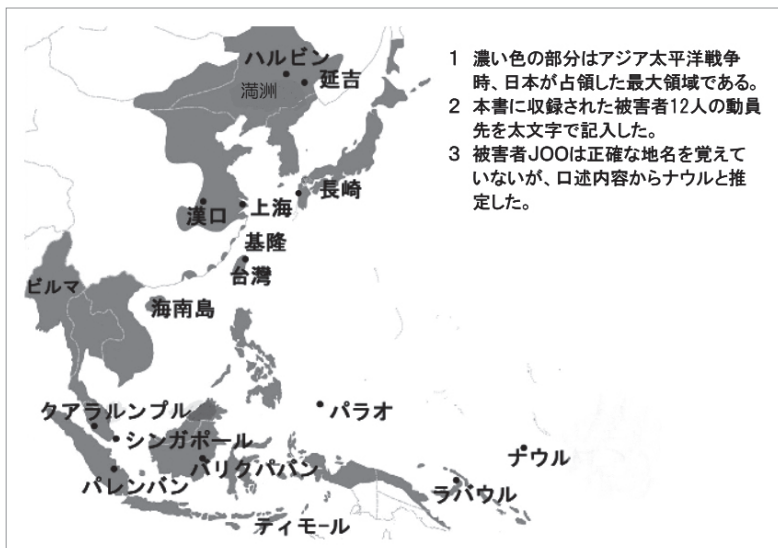
K〇〇ハルモニは委員会が2005年から2008年にかけて3回にわたり申告を受付けたが、被害申告をしなかった。長い間沈黙していたが、2012年になってから女性家族部に被害者登録を申し込んだ。本書に収録したK〇〇ハルモニの口述は、委員会が女性家族部の調査依頼を受けて、ハルモニを訪ねた時に、打ち明けた話だ。ハルモニはいとこと共に海岸で貝を取っていたが、拉致されて日本軍慰安婦に動員された。満州で軍人に反抗したが、殴られて、一ヶ月間入院するほどの大けがをした。一緒にいたいところは終戦の頃、いっそう乱暴になった軍人に銃で撃たれて死亡するというおぞましい出来事もあった。帰国した後は周りの視線が怖くて、故郷を離れ、黙って暮した。2012年になって打ち明けたハルモニの話は、隠し通した歲月ほどに切ないものだった。

・日本軍慰安婦被害女性人権運動の歴史 - 金文淑会長口述

1990年代から日本軍慰安婦被害女性のために活発な活動をしてきた「挺身隊問題対策釜山協議会」金文淑会長の口述である。金文淑会長は日本軍慰安婦被害の申告用電話を開通し、被害生存者を捜し出し、政府支援の政策樹立に大きな役割を果たし、日本政府を相手にした被害ハルモニたちの裁判をも支援した。2004年からは「慰安婦ハルモニのための民族と女性歴史館」を運営しながら日本軍慰安婦の被害実状を知らせ、歴史教育に先駆けている。金文淑会長の口述は日本軍慰安婦の問題解決のための運動の流れを明らかにしながら、これからの課題を考えることのできる内容となっている。

被害者12人が性奴隷の生活を強いられた地域を地図に表すと次の図のようになる。動員地は日本、中国、東南アジア、南太平洋に至るまで広範囲にわたる。

•口述記録集収録、被害者12人が動員された地域



出版経緯

2005～2006年、委員会に申告した被害者11人の口述聴取を実施した時、被害者本人から口述資料を作成することと、口述資料の利用に対する同意をもらった。口述資料集の発刊計画が立てられた2012年後半、陳述してから6～7年の時間が過ぎていたので、口述記録集の出版趣旨を伝えながら、出版同意をもらうため、もう一度ハルモニたちを伺った。

D〇〇、K〇〇ハルモニはご本人が現在も生存されていて、意志疎通が可能な健康状態だったので、直接出版の趣旨を説明して出版同意をもらえた。A〇〇、B〇〇、C〇〇、E〇〇の4人のハルモニは亡くなっていた。4人の場合は、被害内容を知っている遺族がいて、代わりに彼らに出版趣旨を話し、同意をもらえた。この6人の口述資料の終わりには2012年末に本人

や家族を再び訪ねたときの感想を短く書いた。

F〇〇、G〇〇、H〇〇、I〇〇、J〇〇ハルモニは、被害内容を本人以外には知らない方たちである。委員会の被害申告の当時、家族や知り合いの中で、ただの一人も被害事実を知っている人がいなかった。こういう場合、被害者は被害調査の過程で、自分の被害事実が家族や回りの人たちに知られるのを、とても警戒し、恐れていた。調査も、自宅を訪問できず、本人が直接、委員会を訪ねた際に行ったり、食堂の個室やホテルの部屋等で行ったこともあった。調査を行うときも徹底した秘密の保証を何回も要求し、被害事実が知られないかと、とても不安な様子を見せたこともあった。

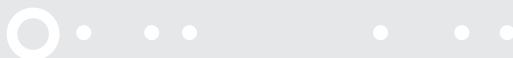
しかし、5人のハルモニも被害内容を陳述する時、口述資料を残すことに同意した。個人情報の保護を前提に、「自分の話が歴史資料になって、後世に役立つなら使え」と話されることもあった。しかしこの5人のハルモニは口述記録集の出版を前にして、再び訪ねることはできなかった。すでに死亡していたり、生存していても健康状態がとても良くないという状況だった。家族や知り合いが被害内容を知らないまま申告した方たちなので、下手に当事者や家族に連絡をとる事もできなかった。被害者本人が望む「秘密の保証」が一番重要だったからだ。そのため、5人の口述は出版の趣旨を説明し、同意を得る手続きがないまま、口述を収録することになった。被害内容を話す際に個人情報の保護を前提に口述資料の作成に同意した経緯から、個人情報に関する内容は除いて、口述を収録した。

日本軍慰安婦の被害は1990年代から申告窓口が設置され、1990年代に200人余の被害者が、女性家族部に被害者として登録され、2013年2月の時点で、236人の被害者が日本軍慰安婦に登録されていた。女性家族部に日本軍慰安婦被害者として登録されると、生活安定支援金、精神的な安定及び看病など、政府の支援をもらうようになる。

しかし、政府の支援政策について知っていても、「回りから指さされるのが怖い」、「自分の被害事実が家族や親戚の将来に害になるかも」と申告しないケースが多い。被害者本人は申告をしたくても、家族が反対する場合もあり、家族や周りに知らせないために、わざと居住地から離れたところでこっそり申告する場合もある。申告を決心しても被害者とその家族は、周りに被害事実がさらされて社会生活がしにくくなるかもしれないという不安に苦しむこともある。

一方、申告する動機について被害者は「死ぬときまで話さないつもりだったが、余りにも悔しくて」、「死ぬ前に恨を解くために」と言うケースが多い。このような理由で、申告窓口が開いた1990年代から現在まで、新たな被害者が見つかった状況である。まだ、被害事実を誰にも明かせないまま死亡したり、生存している被害者の数は、女性家族部に登録された被害者の数を大きく上回るとされる。

この12編の口述資料は長い歳月の沈黙を経て、やっと聴き出すことができた話である。この点をふまえて本書を読めば、日本軍慰安婦の被害について深く理解ができるものと考えられる。



日本軍慰安婦の定義

・定義

日本が満州事変(1931.9.18)を起こした後、太平洋戦争で敗戦する 1945 年までの間、戦争を効率的に遂行するという名目で設置した「慰安所」に強制動員され、日本軍の性奴隷生活を強要された女性を指す。文献や証言の中では、慰安婦は、酌婦、特殊婦女、醜業婦、芸妓、娼妓、女給等の呼称で現われ、慰安所は、陸軍娯楽所、倶楽部、軍人会館、朝鮮料理屋などの呼称で呼ばれた。

・日本軍慰安所の形成と動員の規模

日本は満州事変の後、侵略戦争の戦線を拡大した。日本軍は①現地女性に対する強姦防止②売春による性病予防③兵士たちの性的慰労を名目に慰安所を設置した。1932年1月、中国上海に日本軍慰安所の初期的なものが設置された記録がある。1937年、中日戦争を契機に日本軍の慰安所は急速に増え、日本軍の占領地拡大にともない、日本軍慰安婦の動員地域も拡大した。

中日戦争以後、慰安所の設置、経営、慰安婦の募集、輸送に至る全過程は、軍が主導した。内務省や外務省など日本の政府機関と朝鮮総督府、台湾総督府も積極的に協力する体制を備えた。

現在、日本軍慰安婦に動員された女性の総数は正確には分らない。慰安婦動員の人数を知ることのできる体系的な資料が発見されてないからだ。一部の学者は日本軍の「兵士何人当たり慰安婦何人」という計画が示

された資料や、様々な証言資料により、日本軍慰安婦被害者の総数を推測している。日本軍慰安婦の総数は、最小3万人から最大40万人まで、多様な意見が提示され、研究者ごとに大きな差異がある。

慰安所の設置初期には、日本軍は女性たちを、日本と日本の植民地である朝鮮、台湾から主に動員した。戦争が長期化して戦線が拡大するにしたがって日本の占領地である中国、フィリピン、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、インドネシアからも動員され、インドネシア居住のオランダ人女性も、日本軍慰安婦に強制動員された。日本軍慰安婦問題を永らく研究した研究者吉見義明は研究報告で、日本軍慰安婦の数は最小8万人から20万人と推算し、そのうち朝鮮人女性の比率が半分を越えるとみている。

・動員の方法と輸送

朝鮮人女性が日本軍慰安婦に動員された方法は、就業詐欺、脅迫や暴力による動員、人身売買、誘拐等だ。「工場に就職させてあげる」、「たくさん金を儲けられる」と騙して、女性たちを日本軍慰安婦に動員した。慰安婦を募集する新聞広告が出されたが、勤務内容はきちんと告知されなかった。また当時、新聞の購読状態や女性の文字解読率などを考慮すると、女性に直接、募集広告が伝えられた事例はほとんどなかったとみられる。

日本軍当局が慰安所を経営する業者を選定し、また、日本軍と警察が動員で協力した。業者は募集人を利用したり、自ら直接出向いて女性たちに接近した。就職や金儲けをエサに女性をかき集めたり、脅迫や暴力を利用して動員したり、さらに拉致もした。日本軍は総動員体制により戦争を遂行するには慰安婦が必要とみなしたが、それがこのような物理的暴力を許したのである。

太平洋戦争勃発(1941年)前は「渡航証明書」を得て、国外の慰安所に移動した。輸送に必要な手続きは募集人が公権力の協力を得て進めた。この

過程で戸籍が偽造されることもあった。太平洋戦争勃発以後は、「軍証明書」で国外の慰安所へ移動した。「軍証明書」は募集人や引率者が所持して、日本軍は移動に必要な各種の便宜を提供した。

・被害者らの生活

慰安所の形態、設置時期、地域により、被害者の生活状態は多様だった。動員された女性たちは軍人直営や民間業者が経営する慰安所で生活した。民間業者が経営する場合でも、軍が慰安所の許可と経営を統制したため、事実上、軍の管理下に置かれていた。直営の慰安所や日本軍が新しく占領した地域では、戦争末になるほど日本軍の統制が強化された。

被害者のほとんどが慰安所で日本式に名前を改名させられた。外出は許諾されず、一定の時間、範囲内だけ外出ができた。小さい島に動員された場合には脱出が不可能だったので、外出は特に制限されなかった。

日本軍慰安婦被害女性たちが直接金を受け取るケースはほとんどなかった。代わりに兵士何人を相手にしたのかを証明できるように、伝票と似た軍票や金券を貰った。後で票をお金に変えてくれるという言葉が聞いたりしたが、事業主が管理をしたので実際には、対価を貰えなかったケースが多い。逆に動員当時の移動費、衣服費、食費等、慰安所の生活費等が代価として控除され、借金を抱え込むこともあった。

日本軍慰安婦に動員された女性たちは、性病予防のためにコンドームを使い、定期的に性病検査を受けなければならなかった。コンドームは軍人が部隊や事業主に支給したり、事業主が女性たちに支給したりした。性病検査は1週間か2週間に一度受けるのだが、施設が劣悪なところでは、ひと月に一度くらいだった。この外に性病予防のために軟こうを塗ったり、消毒水を使ったりした。慰安婦が性病にかかるると隔離措置させたが、事業主が軍人をずっと相手にさせ続け、病気が悪化することも多かった。

日本軍が制定した「軍慰安所利用規則」では、慰安婦に対する虐待行為を禁止しているが、事業主や軍人による暴力が日常的に、頻繁に起きた。自殺や殺害事件が起きると、遺体は遺棄されることが多かった。激戦地に動員された慰安婦は、日本軍と生死を共にするしかなかった。戦場で爆撃により死んだり、輸送途中に輸送船が沈没して死亡したりした。

日本軍慰安婦に動員され生き残った女性たちは、帰国するのも大変だった。連合軍の捕虜になり、捕虜収容所に収容されてから帰国するケースもあったが、相当数は現地で捨てられた。日本軍が敗戦後、慰安婦を殺害することもあったし、多くの事業主は被害女性たちを見捨て、帰国の途についた。被害女性たちは日本の敗戦後、一人の力で生き残り、故郷に戻る方法を探さなければならなかった。「戻る方法を見つけられず」、「故郷に戻る面目がなくて」等の理由で、動員された他国に置き去りにされることも多かった。

生き残った被害者は帰国後、深刻な肉体的・精神的後遺症に絶え間なく苦しんだ。殴打や苛酷な行為による外傷、不妊、性病等、日本軍慰安婦被害による直接的な後遺症は、長い間、被害者たちを苦しめた。肉体的苦痛は鎮痛剤などの薬を服用させ続け、薬害もつきまとった。また自身の体に自己決定権を持てなかった屈辱感、被害事実によって韓国社会で受ける不利益と烙印への恐れ、人生の敗北感、鬱病や不眠症などの心理的外傷(トラウマ)などから、辛い人生が続いた。被害事実のために積極的な社会活動ができず、家族を作れなかった被害者は、貧困の悪循環に追い込まれた。

・名称と用語の規定

1990年代の初め、日本軍慰安婦問題が本格的に浮上した時は、「挺身隊」という用語が広く使われた。挺身隊とは「日本国家(天皇)のために率先して献身する部隊」という意で、日帝が労働力動員のために作ったもの

だった。挺身隊(労務動員)と慰安婦(性動員)は本質的に性格が違ったが、女子勤労挺身隊に動員された女性が、慰安婦にされた事例があり、意味が混同され、誤って使用された。その後の研究により、「〔挺身隊ではなく、〕当時使われた用語に近い「軍隊慰安婦」という用語が定着した。

1990年代、日本では「従軍慰安婦」という用語が使われた。しかし「従軍」という言葉は「従軍記者」、「従軍看護師」のように、自発的に軍について行くという意味を含んでいる。強制的に日本軍慰安婦を動員したという、日本の歴史責任を隠蔽させると面があることから、使用には注意すべき用語だ。

国際社会で「日本軍慰安婦」に関する問題を初めて提起した際には、「慰安婦」という単語を直訳してcomfort womenという用語を使ったりした。現在、国際連合など国際社会では、主に「軍隊性奴隷(military sex slave)」と「軍隊性奴隷制度(military sexual slavery)」という用語を使う。1996年国連人権委員会に提出されたラディカ・クマラスワミ(Radhika Coomaraswamy)報告書は、この問題を明確に「戦時下軍隊性奴隷制(military sexual slavery in wartime)」と規定した。

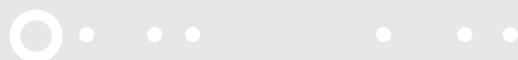
国際社会で「軍隊性奴隷制」という用語を採択したのは日本軍慰安婦問題が、私的な領域で発生する契約によって成り立つ売春の性格や、国家のための国民の自発的な犠牲として説明されるものではないという事実が、広く認識されたからだ。すなわち日本軍慰安婦は、国家が女性を強圧的に動員し、集団的な性暴行を加えたものであり、被害女性の生きる条件は「奴隷」のような状態だった。「慰安婦」という用語は、まさに加害者中心の用語であり、暴力性と強制性を隠す否定的効果を持っている。日本軍慰安婦の募集動機、募集過程、暴力性を考慮するなら、日本軍「性奴隷」という名称が適合する。

現在、私たち韓国社会では日本軍「性奴隷」という用語より、「日本軍慰安婦」という用語を広く使っている。「慰安婦」という用語は、問題の本質をすべ

て示すものではないが、日帝が慰安婦の用語で制度化をすすめた当時の独特な雰囲気伝える。また、生存者自身が「性奴隷」と呼ばれることで、精神的な傷を負うことがある点も考慮されるべきである。被害者の支援のために韓国政府が制定した法でも「日本軍慰安婦」という用語を使っている。研究者の中には、日本軍が使った「慰安婦」という単語に同意しないという意味から、カギ括弧を付けて、「日本軍「慰安婦」」と表記する者もいる。

〈参考文献〉

- 韓国挺身隊問題対策協議会編、『日本軍「慰安婦」問題の真相』、歴史批評社、1997
- 高麗大学民族文化研究院崔徳洙他、『「慰安婦」問題を理解のための基礎入門』、韓国女性家族部、2002
- 韓国挺身隊問題対策協議会、2000年日本軍性奴隷戦犯女性国際法廷編、『日本軍「慰安婦」問題の責任を問う』、プルビト、2001
- 韓日女性共同歴史教材編纂委員会編、『女性の目から見た韓日近現代史』、韓ウルアカデミー、2005
- 李へミ、『日本軍「慰安婦」制度の歴史的普遍性と特殊性：朝鮮人「慰安婦」動員を中心に』西江大学大学院政治外交学科修士学位論文、2007
- 韓国近現代史学会・北東アジア歴史財団、『日帝植民地支配の暴力性と日本軍「慰安婦」』、日本軍「慰安婦」問題国際学術大会資料集、2007
- 対日抗争期強制動員被害調査及国外強制動員犠牲者等支援委員会、『対日抗争期強制動員被害真相究明業務処理マニュアル』、2010
- 日本軍慰安婦被害者e-歴史館 (<http://www.hermuseum.go.kr/>)



主な用語の説明

・606号注射

アルスペナミン(Arsphenamine)注射の別称である。アルスペナミンはドイツの医者パウル・エーリッヒ(Paul Ehrlich、1854～1915)が606番目に合成したヒ素化合物で、梅毒治療に特効を見せた物質であり、「サルバルサン(salvarsan)」という商標名で商用化された。梅毒、回帰熱等の特効薬として知られ、広く使われたが、不妊の原因になる等、副作用が激しく、現在では使われない。被害者の証言によれば、性病にかかった「慰安婦」には606号注射をしたという。この注射を打った被害者は、「熱くて非常に痛かった」、「臭いがきつくて、長い間苦労した」と述べた。

・サック

サックは男性用避妊具、あるいは性病予防器具のコンドームを称する言葉で、コンドームのフランス語のサック(sac)から由来したと推定される。大多数の被害者はコンドームを当時、日本軍が公然と使った「サック」という単語と記憶している。日本軍は性行為を攻撃的で軍事的な行動に比喻して、コンドームを「突撃1番」、「ヘルメット」、「防毒マスク」等と呼んだりした。

・並び

列を意味する日本語。被害ハルモニたちは、軍人が長く列をつくり、立っている姿を「並び立った」と表現する。

・チョセンピー

日本軍慰安婦として動員された朝鮮人女性を卑下して呼んだ言葉。「チョセンピー」の「ピー」というのは、中国語で女性の性器を意味するものという。〔Pは英語の「Prostitute」(娼婦)の略という説もある。〕

・箱部屋

箱を意味する日本語の「箱」と朝鮮語の「パン(部屋)」の合成語で、板張りの粗末な家を、俗っぽく言う言葉。

・帳場

帳簿を記入して会計をする所、または、そういう仕事をする人。

・バイドク

「梅毒」の日本語

・月経、生理、メンス

成熟した女性の子宮から周期的に出血する生理現象。「生理」は一般的に使う月経の別の名称。メンスは月経を意味する英語「menstruation」の略語

・挺身隊

挺身隊は「日本国家(天皇)のために率先して身体を捧げる部隊」という意で、日帝が労働力動員のために作ったものである。本来、挺身隊動員は男女皆に適用されるものだったが、1943年「女子勤労挺身隊」が組織され、女性動員の重要な方法と認識された。女子勤労挺身隊制度は戦争の長期化によって不足した男性労働力に代える目的から、女性たちを軍需工場に動員するために作った制度であり、慰安婦動員とは関係がない。しかし勤労挺身隊に動員されて軍隊慰安婦になった事例があり、女子勤労挺身隊と日本軍慰安婦はともに、女性を動員対象とするものであることから、永らく「挺身隊」=「慰安婦」と間違って認識されて来た。挺身隊は労務動員であり、慰安婦は性動員であり、きちんと区分され、使用されるべきである。

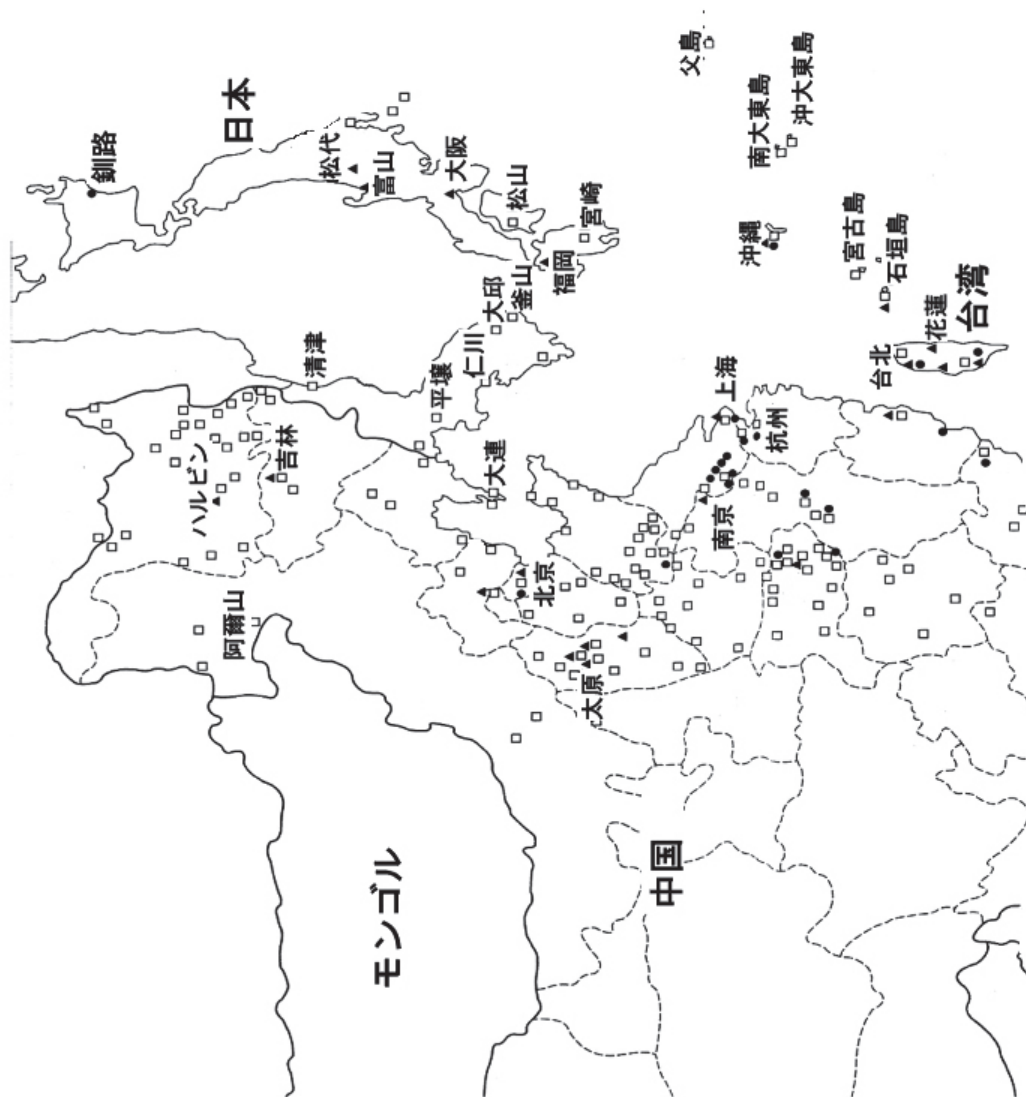
・処女供出

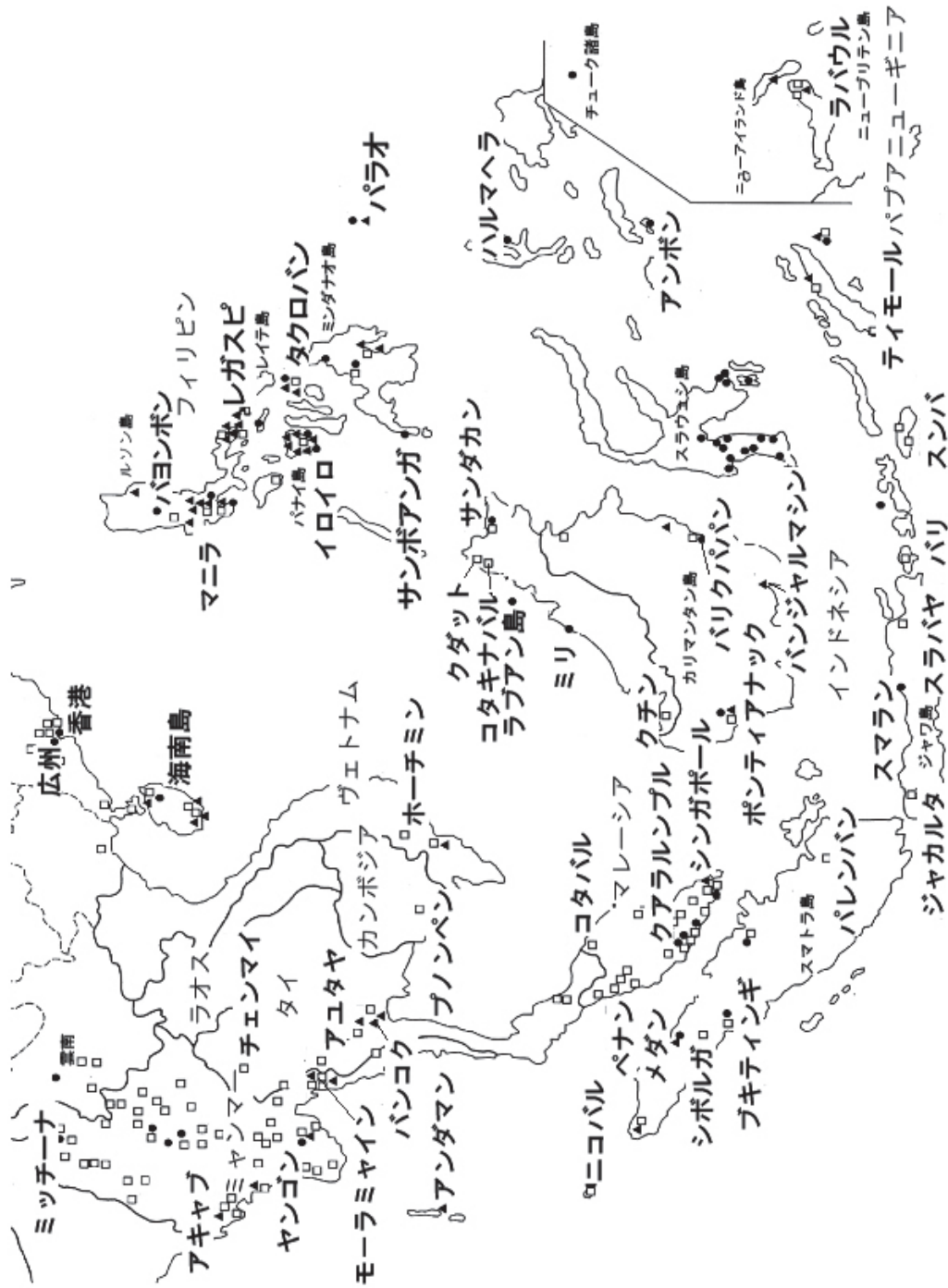
日帝時代を経験した人たちは、「処女供出」という言葉で、慰安婦被害を説明したりする。慰安婦動員の対象が主に未婚女性であり、当時の人々はそれが性動員であったことを意識していた事実を語る。結婚は「処女供出」を避けることができる方法とされ、徴兵・徴用で若い男性が動員される状況とかみ合って、早婚が盛んに行われた。

<<< 日本軍占領地全域の慰安所分布図

VAWW-NET Japan 地域別慰安所分布図(作成者:朴潤南、補充:池田恵理子)を再編集(『「慰安婦」・戦時性暴力の実態Ⅰ-日本・台湾・朝鮮編』、『「慰安婦」・戦時性暴力の実態Ⅱ-中国・東南アジア・太平洋編』、VAWW-NET Japan、緑風出版、2000年所収)。

- ▲ 被害者の証言によって確認された「慰安所」の設置地域
- 公文書によって確認された「慰安所」の設置地域
- 部隊誌・過去の日本軍の証言によって確認された「慰安所」の設置地域







日本軍「慰安婦」被害者 口述資料

- 姜道牙 想像したって心の病になるだけ、水に流してさっぱりだ。
- A〇〇 いっそ死んだ方が楽だった。
- B〇〇 お前らだけで戦争して来たのか、お前らのせいで大病にかかった
- C〇〇 哀れさは言い尽くせない、利用されただけだ。
- D〇〇 日本人のせいで行ったんだ。
- E〇〇 母が祈ってくれたおかげで、死なずに生きて帰れた。
- F〇〇 誰にも訴えられず、泣き通した。
- G〇〇 就職して、工場に行くものと思っていた。
- H〇〇 こんな話、誰にもせずに死のうと思った。
- I〇〇 再び女に生まれて、恨を晴らしたい。
- J〇〇 姉ちゃんが工場で働いて、牛買ってあげるね。
- K〇〇 死んでも同然だ。

姜道牙(カンドア) 1923年生れ

- 1940年頃、慶尚南道(キョンサンナムド)河東郡(ハドングン)から動員される
日本を経由して台湾に移動。台湾で3年間、日本軍慰安婦生活
- 1943年頃、オランダ領ボルネオ島(現インドネシア)バリクパパンに移動
バリクパパンで2年間、日本軍慰安婦生活
バリクパパンから日本を経由して、
- 1946年頃、帰国

動員経路



第1話

想像したって心の病になるだけ、 水に流してさっぱりだ。

姜道牙(カンドア) 1923年生れ

- 1940年頃、 慶尚南道(キョンサンナムド)河東郡(ハドングン)から動員される
日本を經由して台湾に移動。台湾で3年間、日本軍慰安婦生活
- 1943年頃、 オランダ領ボルネオ島(現インドネシア)バリクパパンに移動
バリクパパンで2年間、日本軍慰安婦生活
バリクパパンから日本を經由して、
- 1946年頃、 帰国

私さえ行けば、親兄弟が楽に暮らせると思い…

ハルモニのつらい体験をお話ください。

私のつらい話は口では言い表せない。兄弟が十人で私が長女だから、弟をおぶって食事の仕度をする。おぶったまま家の掃除をして、なので外に出られない。そんな暮しをしていたある日、人が来て「道牙(トア)! 言われた所に行けば、金持ちになれる」、「楽に食べて暮せる」と言われた。それで私も「私さえ

行けば、食べて着るにも不自由がなく、親兄弟が良い暮らしできるのなら、そうしてみよう」と考えてついて行った。

どこへ行ったのですか？

台湾を経由して、インドネシアに行った。その名前はバリクパパン。誰もが行けるのではない。石油が出るから、偉い人の許可を貰わないと入れない所。そこでの生活は、口では言えない。毎日、客が来て、ずっと「並んで」立っている。「ちっこいの(姜道牙ハルモニの呼び名) だけ出て来い」と呼ばれる。「大きいの出て来い」とは言わない。毎日来ては、「ちっこいのだけ出て来い」言う。

幼い子だけを探すのですか？

分からない。毎日「ちっこいの」と、私だけ探す。いつも手ぶりで「こういうの連れて来い」と言う。私が幼く見えたようだ。解放になった時は21歳なのに、米軍からも「15歳にしか見えない。ちっちゃい。」と言われ。

ハルモニが一番幼かったですか？

私がそこで最も幼かった。みな私より年上のように、大きくて、体も太い。私より年齢が下の人はいない。一日に30人も相手にすると、空が黄色く見える。朝起きて、顔を洗う余裕もない。何も考えられない。私はそんな世の中を生きて来た。この頃の子なら、14歳にでもなったら解るでしょう。昔は純粋にバカだった。その頃、私たちが育った時代はまったくバカな暮らしをした。暮らしなんてものじゃない。「もうこんなこともできない。」と断ろうとすると、殴られる。限りなく叩かれた。客を「少ししか取らない」と言って殴る。男がずらりと並んで、やたら入って来る。終わると出て行って、また次のが、入って来る。今出て行ったのに「ちっこいの出て来い」と。そんな奴ら、どこにいる。私がいいた所はそう、人ではない。誰が見ても、人間ではない。殺してやりたかった。

そんな境遇に追い込んだ奴は、人ではありません。

アイゴー、私も人間じゃなかった。そんな経験した私は、人間ではない。最近
は年齢5、6歳でも、以前の大人よりはまし。バカは私だけ。いくら考えても天
下の大バカ。

ハルモニが行く時、どんな仕事をする所なのか知っていましたか？

知らなかった。

ご両親も、ですか？

ああ。知らなかった。お金をたくさん送ってくれるとだけ思っていた。

ご両親は、どんな仕事をしていましたか？

畑で働いていた、野良仕事。他人から土地借りて耕す、小作人暮らし。

誰が「金を儲けられる」と言ったのですか？

面(役場)でそう言われた。

面の職員が出て来て言ったのですか？

分からない。面の職員なのか、業者なのか。私はそれも知らずに行った。見当
もつかない話なのに。

**大坪面(テピョンミョン) (晋陽郡、現在は晋州市(チンジュシ)) からは、お婆
さん一人でしたか？**

村からは私一人だけ。多くの人が集められたが、別の村の人。私のいた大坪面
からは私一人だけ。晋州に十何人集まった。

河東から晋州までは何に乗って良かったですか？

晋州までトラックみたいな車に乗った。

晋州まで一人で行ったのですか？

連れて行かれる時は、業者と私だけ。

晋州から、どこに行きましたか？

釜山。時刻に合わせて来る路線バスに乗った。釜山から大きい船に乗り下関まで行った。下関で業者が交代した。一緒に行った業者でなく、そこにいた女たちも加わった。台湾に3年いた。どういふことなのか分からなかった。最近は年齢5、6歳でも、以前の大人よりはまし。天下のバカは私だけ。いくら考えてもバカだった。

連れて行った業者は、どんな人でした？

業者のことはよく分からない。台湾へ行くと、また別の業者がいた。日本人だ。

年齢はどれくらいでしたか？

何歳なのか分からない。

ハルモニを連れていった人は、台湾で一緒に暮らしたのですか？

ええ。

その人は業者ですか？

ええ。

台湾のどこですか？

どこなのか知らない。台湾とだけ聞いた。

部隊の名前や、日本軍人の名前、友人の名前、思い出しますか？

憶えてない。

台湾に行ってどんな仕事をすると思っていましたか？

ただ家政婦のように、ご飯作って、洗濯して、掃除でもすると思っていた。そんな事をさせられるとは夢にも思わなかった。思っていたら、ついて行くかい？



》》》 台湾の女性たちが日本軍慰安婦被害に遭った日本軍の倉庫。伊藤孝司撮影。
釜山日本軍慰安婦／Vレモニのための民族と女性歴史館展示物。同歴史館提供。

水に溺れて死んだら死ぬまでだった。(遺体を)家にも送らなかっただろう。家族がとても多くて食べ物もなかった。だからそこに行けば「お金をたくさん送れる」からと、私を送り出したんだよ。

台湾に初めて行った時どうでしたか？

台湾での記憶は、…。年齢も幼かったし、何がなにで、どうなったのか分からなかった。あいつらの言われるままにしないと殴り殺される、仕方なくてするんだよ、したくてするかい。

台湾でハルモニのところに、初めて軍人が来たのはいつでしたか？

そこでご飯も作り、洗濯もして、町角を掃除して、お手伝いのような仕事と思っていた。なのに、突然、一ヶ月位過ぎた頃。

どこへ逃げられるの、
どこに逃げたら、あんなことしないで生きられるの

突然仕事が変わったのですか？

うん。一ヶ月位過ぎ。初めてのことで、下部が裂けてしまった。三つや四つに裂けて、下を押さえないと歩くこともできない。嫌がったら、死ぬ程、殴られた。飯にも飢えて、三日間横になっていた。小さいのががっしりした大男に捕まって殴られるのは、耐えられなかった。他人には話せなかったが、今はもう死ぬ歳だから、恥ずかしくても言える。

痛かったでしょう。

とても。話にならないよ。(涙声で) バリバリに裂けて。あんなことを、あの齢で。話にならない。よっぽどでなければ、こんな話、私が若い人たちにしないよ。

医者には行きましたか？

医者にも行かず。消毒液で洗い出しただけ。ああ、恥ずかしい。

軍人を受け入れる前に検査などはしませんでしたか？

しなかった。

ハルモニに初めに来た人は少し偉い人でした？

知らない。それも分からない。記憶もないし、どいつが来たのか。どうやったら逃げられるか。避けることだけ考えて、他に何も考えなかった。でもどこに逃げたら良いのか、台湾であれを受けないで生きられるのか、それしか考えなかった。どこへ行ったら、あの醜いのを夜も昼も長々と、見ずに生きられか。親兄弟にお金を送ってあげる、そんな気持ちもなくなって。夜寝つく前、それだけ考えた。

初めは、一人だけ来たのですか？

こいつも入って来て、あいつも入って来た。私が大声で叫んだら口を塞がれて、みなで殴りかかって来た。

はじめから何人も来たのですか？

初日から何人も来た。よくわからない。気絶したのか、どうなったのか分からない。どんな奴が入って来て、どうしたのかもよくわからない。

台湾で来た人は、主にどんな人でしたか？

分からない。その時は肝っ玉がひっくり返って、台湾では何がどうなったのか。私はしきりに自分の体だけは隠そうとした。人の顔も見ようとしなかった。何も見えない、記憶もない。

一緒にいた女たちも、何をするのか知らずに来たのですか？

一緒にいた女たちが騒ぐのを聞いたから、私だけじゃなくて、他の人たちも知らずに来たようだ。

台湾で、ご飯はどうでしたか？

色々変なもの、あれこれ混ぜて。一日三食食べることは夢の空。客のせいで、食べる時間もくれない。

お客さんが来るとご飯を食べられないのですか？

夕食くらいは、何とか食べられるが。お匙を置いてでも迎えに行かないと、殴り殺される。

誰がそんなにハルモニを殴るんですか？

主人だよ。「言うこと、聞かない」と殴る。ここで死のうと、あそこで死のうと、死ぬのは同じ。ここにいて大変なら、いっそ薬飲んで死ねば楽になると思って、薬も探した。こんな暮しをして、何になるかと思った。でもここでは、誰もそんな薬はくれない。

河東からハルモニを連れていった男が主人ですか？その人が10人をみな連れて行ったのですか？

その人が連れて回って、また別の人も連れて来る。また他の所に移したりする。

移ると、主人が変わるのですか？

他の家に送られた。「お前はあの家に行け」と言われた。「そこで金儲けすれば、朝鮮にお金たくさん送れて良い」と。

先の主人も新しい主人も日本人ですか？

うん。

軍人が偉いのです？そこの主人の方が偉いのですか？

軍人が偉いよ。

初めての所も、二番目の所も皆、軍人が来たのですか？

ああ、軍人だった。民間人はいない。

台湾で過ごした所は、どんな造りでしたか？

1階があって、2階もあって。部屋一間あれば、そこで客を取る。

ハルモニは1階にいましたか、2階にいましたか？

2階にいた。向いや隣りに、客を取る部屋がある。

そこでは他の仕事はしなかったのですか？

うん。そこで一週間に一度検査する。

どこに行くのですか？

病院に行く。何の病院かも分からない。乗り物で行って、脚を上にあげて検査して来る。

台湾でお金貰ったこと、ありますか？

いいや。お金は一銭も見ることがない。

近くに部隊がありましたか？

台湾では記憶がない。そこがどこなのか、それも分からない。台湾に行って、あの凶悪なやつらのせいで。何がどうなったのか、死ぬよりひどいと言っても言い過ぎじゃない。台湾では毎日、「ちっちゃいの、ちっちゃいの、出て来い」って言われて、本当に死にそうだった。私は幼くて、よりひどかった。

台湾にはどれくらい居ましたか？

およそ3年いた。

台湾に3年いて、その後バリクパパンに移られたのですか？

うん。バリクパパンでのことは、大体憶えている。話せるし記憶もある。人が多くて、道にも慣れた。人が入って来て、出て行くのもわかる、だから台湾より、少しはマシだった。しかしバリクパパンでも毎日、軍人が並んだ。

どこへ行くのか分からずに、行くと言われた通り、
ついて行く

バリクパパンに一緒に行った女は、何人でしたか？

10人余り。私よりみな歳上だった。

バリクパパンへは、どうやって行きましたか？どこで降りましたか？

軍艦に乗って行った。海が四方にあって、どこを経て、どこへ行くのか、どこで降りたのかも分からない。どこへ行くのかも分からず、ただ言われた通り、「行くぞ」と言うから、ついて行くだけ。ついて行かなければ、殴り殺される。

軍艦なら軍人も乗っていましたか？

うん。

バリクパパンの家は、どんな風でしたか？

家は…、下はなく、上にだけ壁がある。台湾では壁があったが、階段のない平屋建て。だから一階だけで、2階や3階はない。軍人が門の前に、ずらっと並んで立っていて、門が開くと入ってくる。

炊事や洗濯をする人もいましたか？

ええ、食事の仕度をする人がいて、掃除もした。ご飯貰いに行くと、一さじずつくれる。ご飯とは言えない。草や葉を煮たおかゆのようなもの。この頃は犬でも、あんなもの、食べない。洗濯は自分でする。インドネシア人が主に手伝っていた。

軍人はハルモニに何をくれるのですか？

軍票の紙片を貰って、みな終わると主人に持って行く。

終わる時間は、何時頃ですか？

終わる時間は、7時か8時くらいで終わったり、10時を越す時もある。入って来ると、時間制で寝て行く。朝まで寝る奴はいない。そこは朝まで眠る所じゃない。

ハルモニが票を持って行くと主人が記録するのですか？

ああ、後でお金をくれると言った。「票を出さないと、家にお金送れない」と言う。「お金送ったのか」聞くと、「送った」と答える。

普通ひとりで、どれくらいの時間過ごしますか？

早く行く奴もいて。長くもつ奴もいる。朝までいる奴はいなかった。

酒飲んで暴れる人はいなかった？

なぜ居ない？いるよ。酒飲んで暴れる。それこそ、口では言い尽くせない。それでも受け入れないといけない。他にどうする。

止める人はいないのですか？

そんな人いない。それで喧嘩して、一週間、留置場生活もした。

留置場に閉じ込められたのですか？

留置場生活も同じよ。閉じ込めて外に出られないから。ご飯もくれず、部屋に閉じ込められた。

どれくらい入れられたのですか？

喧嘩して3〜4日座っていた。飢えてもそっちの方が、何日か休めるから、ずっとマシだったよ。アイゴ。

誰と喧嘩したのですか？

そこにいた女と喧嘩した。時なぜ、喧嘩になったのかわからない。

なぜ喧嘩したのですか？

なぜ喧嘩したのか憶えてない。とにかく互いに罵声を浴びせて、外に出た。私は文字も知らない、何も分らないバカだが、口だけは人に負けない、達者だった。私が捕まえて、ぱっと噛みついて、ワンピースとか言うのか、女の服を破いてしまった。口で噛んで、引っ張ったら破けちゃった。破いて捨てた。

その人は留置場に入れられなかったのですか？

うん。

喧嘩した女も軍人を相手にする女でしたか？

軍人を相手にする女だよ。

朝鮮の人？

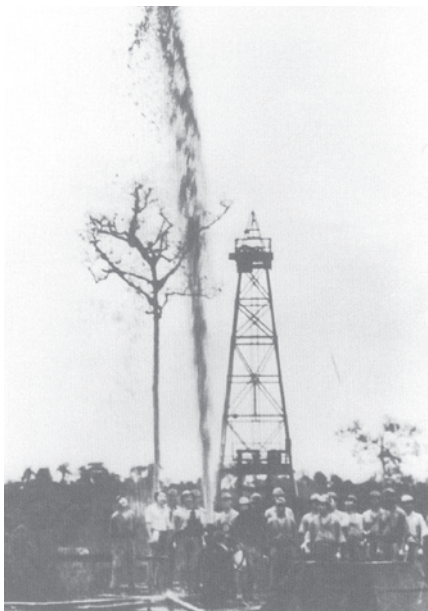
ああ。朝鮮の女だけいて、他の国の女はいない。

逃げるつもりはなかったですか？

脱出は夢でも無理。逃げても島だから、行くところがない。山へ行くと「スェバイ」(現地人のこと?)がいて、人が人を食べるとか。「スェバイ」は、髪の毛が足のつま先まで垂れて、こんなところにも毛が生えていて。だから怖くて出ることもできなかった。

そんな人を見たのですか？

そう。そんなことがあって、私だけでなく誰もが、外には出られない。バリクパンはまわりがみな海なのに、どこへ行く。四方が海で、海が石油で真っ黒だよ。タバコ吸って、マッチ投げたら、即死。ドラム缶に油が入っている。



》》》 ボルネオ(現インドネシア、カリマンタン)の石油産出の様子。

『アジア・太平洋戦争』ポプラ社、99頁収録の写真。バリクパパンは1890年代から石油が開発され、現在もインドネシア、カリマンタン最大の石油基地。バリクパパンには当時、日本海軍所属部隊の102燃料廠が配置されていた。

ハルモニ、病気かったことはなかったですか？

もちろん、かかったよ。その後遺症で、出てからも病気持ちだった。

病気にかかってどうしました？

病気にかかると、その間は客を取れない。

誰がかかったと判定するのですか？

医者が判定する。両足をのせて検査をする。「サック」(コンドーム)といって、男たちがはめるのがある。それをはめても、病気にかかる人はかかる。ひどい人は入院して、薬も貰ってあらゆる手当をする。私は長くはなかったが、一度だけかかった。他の人はみな子どもを産んで暮すのに、なぜ私だけこの有様なのか…。

検査は何時するのですか？

一週間ごと。病院に一週間に一度ずつ、検査しに行く。車を降りると、ずらっと並んでいる。その病院には、一般の人はいない。女の看護婦がいて、仰向けになって足を広げた姿勢でいると、婦人科の検診器具を入れて検査する。病気で引っかかるとその病院に入院する。

病院には、一緒にいる女たち皆で行ったのですか？

ああ。そうだ。

主人が連れて行くのですか？

うん。

検査しに行って、他のところから来た女性に会いましたか？

分からない。入院でもして病院に長くいれば、他所からの人と会って話をするだろう。でも、いつも合格するから会わなかった。齢も幼くて、とても辛かった。

検査の日は、軍人は来ないのですか？

帰って来たら受け入れる。男たちには昼も夜もない。朝も、夕方も、昼間も来る、時間などないよ。

入院しませんでしたか？

入院はしなかった。気候のせいかな、そこではよくマラリアにかかる。マラリアにかからない人はあまりいない。私は2回かかり、病院に行き、薬を飲んだ。一度かかるとすぐには治らない。長引くよ。

そういう時は客を取らなくてもよいのでしょうか？

なぜ取らない。それでも、取らないといけない。「マラリアにかかった」と言っても、病院で聞いてくれない。下の病なら重病で扱ってくれるが、その他は重病とみなさない。

「梅毒」にかかりませんでしたか？

それはかからなかった。そういう凶悪なのに、かかった人もいた。でもかかりたくないから、「サック」をはめる。軍人も「サック」を、ポケットにいつも入れている。自分たちも、病気かかると大変だからね。

洗う水などはなかったのですか？

白い色の消毒液があった。台湾にもあった。いくらあいつらが「サック」はめても、その時洗わないと、自分がそれだけ損する。やつらから病気を移されるから。人のことはわからないから、消毒液で洗わないといけない。自分の体のために、面倒でも必ず洗わないと。いつまでも寝ているのではなく、客を送り出したら洗いに行く。でもまたあの「並んで」いるのが、入って来る。

洗う場所はどこにありましたか？

洗う場所は浴場。

浴場も2階にあったのですか？

ああ、浴場で洗う。

ハルモニの過ごす部屋はどんなでしたか？

床は畳だよ。部屋も大きくない。小さな部屋だけ。

ベッドはありましたか？

ベッドなんてない。そんなのあっても駄目。酒に酔った奴が来て、殴って暴れる。行儀の良い人もいたが、酒飲んで暴れる人が多い。

荷物はどこに置くのですか？

小さい荷物はカバンに入れて置く。ひどい世の中。

そこで酒を飲めるのですか？

酒をどこで飲む？飲んでから、来るんだよ。その家で飲むのは見たことない。他で飲んで来る。

ハルモニ、メンスはいつからありましたか？

19歳(1941年頃)過ぎてからあった。

メンスだと軍人取らなくて良いのですか？

そんなの関係ない。何の意味もない。「サック」嵌めたら、やつらには関係ないから。

「サック」は戦争終るまで不足がなかったですか？

不足しなかった。

妊娠した人はいなかったですか？

そういう人はいなかった。

バリクパパンで外の見物を少しはしましたか？

外の事は分からない。外には出て行けない。出る暇もない。

休みの日はないのですか？

そんなのない。軍人が来ない時は、横になって寝るだけ。空襲が来ると、上も下もみな脱いだまま、パンツ一つ穿ただけで、終日草むらに隠れた。その頃、大東亜戦争になって、空から爆撃受ける。パンツだけ穿いてうつ伏せになり、這って行き、草むらに隠れる。

防空壕はなかったのですか？

ああ、本当に皆、大騒ぎだった。

家の外に出て見物したことはないのですか？

家から出られない。客が行ったら、少し掃いて拭いたり、顔も少し洗ったりする。色々やることがあって、出て行く余裕なんてない。人が行ったら。

ケガしたことないですか？

やたら殴るから、逃げどころんで、腕が折れた。捕まって縛りつけて、殴られた。そんなの普通で。今考えたら、逃げるところもないのに、本当にバカだったよ。

ハルモニ、日本語はできますか？

日本語は結構上手かったが、ほとんど忘れた。「こんにちは」、「いらっしゃい

ませ」は分かる。客が来ると「いらっしゃいませ」と挨拶する。誰でも皆、できないといけない。私はインドネシア語も少しできたが、それもほとんど忘れてしまった。インドネシアでは女を指して「クルムパ」と言う。「ヨニャヨニャ」とか。

「ヨニャ」というのはどういう意味ですか？

女という意味。女を「ヨニャヨニャ」。「サマツスカリ」というのは、何なのかわからないが、お使いに行っておしゃべりするのを聞いて習った。「チョセンピー」。これは賤しい言葉だが。

「チョセンピー」¹⁾という言葉は、どこで聞きましたか？

ああ、そこで、インドネシアで聞いたよ。

誰がそんな言葉を使うのですか？

軍人たちが使う。「チョセンピーがどうした、こうした」って。

朝鮮人が使うのは見たことはないですか？

ああ。

軍人は大体、何歳くらいですか？

若いのもいて、年寄りもいる。大体若いよ。

1) 「チョセンピー」の「ピー」は中国語で、女性の性器を意味する言葉。日本軍は「慰安婦」を民族別に「日本ピー」、「朝鮮ピー」、「支那ピー」と呼んだ。余舜珠(ヨスンジュ)「日本軍『慰安婦』生活に関する研究」、『日本軍「慰安婦」問題の真相』、歴史批評社、1997、121頁。

化粧はしませんでしたか？ パーマをする人いたそうですが？

化粧品なんてどこにある。顔も洗えないで暮しているのに。パーマなんてしなかったよ。

その時、どんな服を着ていましたか？

主にワンピース。主人が持って来る。

ハルモニが主人のことを、何と呼びましたか？

「アジュモニ(おばさん)」

ハルモニはそこで何と呼ばれましたか？

「トミコ」

若しかして「松子」ではありませんでしたか？²⁾

憶えてない。想像してみたって心の病になるだけさ、皆水に流してさっぱりだよ。

管理人の名前は思い出せませんか？

名前なんて呼ぶことなかった。呼ぶ暇もなく、票を貰ったらそれを数える。お金は十円も一円もくれたことはない。他の所は知らないが、でもここでは、おやつをくれた。船もたくさん行き来して、港ではないが、谷間に行くと石油も

2) 姜道牙ハルモニは、自身が「トミコ」という名前で呼ばれたと記憶しているが、戦後バリクパパンに残っていた朝鮮人を記録した名簿「南方朝鮮出身者名簿」には、「松子」という名前で記録されていた。日帝強制占領下強制動員被害真相糾明委員会、『インドネシア動員女性名簿に関する真相調査』、2009年、42～45頁。

出た。およそ二十里入ると石油も見物できる。地面が真っ黒だ。マッチ捨てたら駄目、四方が石油で。(暑くて)服もそんなに必要ないところだった。

お金送ると言ったのに、死んだのか生きたのか痕跡も分からないと

大東亜戦争が終る頃、「看護服を着ろ」と言われた。帽子かぶって、白い服着せられた。どこからそんなものを持ってきたのか分からないが、生きるのに必死だった。解放された翌年、大東亜戦争が終わった翌年に出て来た。

誰が「看護服を着ろ」と言ったのですか？

主人たち。敵の兵隊に、私たちがそこにいたことが知られると、大変だからと。証拠が残っていても駄目。それで看護服を着た。

看護服を着て何をしましたか？

何もしない。米軍が見ているから着ただけ。を着て何かするのではなく、急いで着せただけのようだ。

看護服を着て、病院で働かなかったのですか？

うん。何も知らないし。

なぜ「看護服を着ろ」と言ったのでしょうか？

主人たちが「これを着ろ」と言った。私たちがそこにいることを、「知られては

ばれませんでしたか？

注射できる人がいたから、ばれなかった。注射の打てる人を何人か前に立てて、私たちは後に並んだ。

通過できたのですね？

ああ。

調査はどこで受けたのですか？

病院に行った。

ハルモニが性病の検査を受けた病院ですか？

そう。そこ以外に病院はない。

検査を受ける時、女の看護婦はいましたか？

何人か、いた。そんなに多くなかった。

病院は大きかったですか？

いいや。

病院の名前はご存知ですか？

さあ、分からない。

解放はどうやって知りましたか？

戦争が終わったと言うから。主人も何時いなくなったのかも分からない。ある日、突然いなくなった。日本人はどこへ行ったのか、居なくなってしまった。こ

れまでこき使うだけことはこき使って来て、日本が負けると自分たち同士で、どこかに行ってしまった。そこが無事なわけが無い。爆弾がたくさん落ちて戦場になってしまったから、慰安所の管理人だった人たちはいなくなった。お金のカバン持って、どこかへ逃げたのか。防空壕に爆弾が落ちて死んだ人もいただろう。

女の人も死にましたか？

死んだ人もいる。

ハルモニと何人が残ったのですか？

私と3、4人残った。残っていた人も、どこへ行ったのか知らない。帰って来る時は、私一人だった。

他の人はどこへ行ったのですか？

どこへ行ったのか分からない。死んだのか、生きているのか。

米軍が来てからはどのように暮らしましたか？

米軍が怖くて、インドネシア人の所で一緒に混じった。「来い」と呼ばれても、怖くて行かない。捕まったら、何されるかと不安だった。米軍が「ちいさいの」(姜道牙)を探す。菓子や乾パンなど、四角いブリキのカンにたくさん持って来た。でも、怖くて食べられなかった。

インドネシアの人たちと一緒にいて、その後帰国したのですか？

一緒にいた。インドネシアの人たちに私たちが着ていたパンツやランニング何枚か上げると、食べものを少しくれた。その家に一緒にいてから出て来た。

インドネシアの人々は、ハルモニがいた家で働いていた人ですか？

ええ。「もし、『出ろ』と言われても出るな。じっとしている。むやみに出てはならない」と、そこのヨニヤ、女たちがインドネシア語で言ってくれた。管理人が私たちを見捨てて行った後、私たちはそこでインドネシアの人に真鍮の容器借りて、あちこちついて行った。あちらの人が食べるのを見て、私たちもヤシの実を採って食べて耐えた。そのうち、そこから出た。

インドネシアの人たちは良くしてくれましたか？

悪い事はしない。他の人たちにも。米軍が「出て来て」と言っても、インドネシアの人が私に「出るな」と止める。怖い。恐ろしかった。あそこに閉じこもっていた。

米軍はどれくらいいましたか？

米軍は解放されてから、10日くらいいた。やはり帰る時、「行く」とか「帰る」とか一言もなく、いつの間にか、どこかへ行ってしまい、跡痕もない。

インドネシアの人の家にどれくらい居て、韓国に戻られましたか？

およそ7、8ヶ月いたようだ。

帰国する時、どのように出て来られましたか？

船がある町にいた。インドネシアの住民が、「船がいる」と教えてくれた。

数ヶ月も船がなかったのですか？

ええ。

他の女たちはみな、どこにいましたか？

分からない。みなどこかに行ってしまった。

船に乗って、朝鮮までどれくらいかかりましたか？

昼夜1ヶ月かかった。

誰に話して、その船に乗ったのですか？

誰かに話したのではなく、私が船長に会って、「この船がどこへ行くかは知らないが、乗せてくれ」と言ったら、「釜山に行く」という話だった。私を「乗せてくれ」と頼むと、何日の何時に来たら乗れると言うから行っただが、お金が一文もなかった。「荷物を検査する」と言われても、品物もお金になるものはなかった。船に乗せてくれて、お金は取らなかった。朝鮮にさえ行けば、親兄弟が交通費位なんとかしてくれるだろうと思い、「連れて行ってくれ」と言った。船長が「それなら自分も考えて見る」と、少し考えてから「乗れ」と言ってくれた。

船長は朝鮮人でしたか？

ええ、朝鮮人。船賃は取らなかった。

船に米国人はいなかったですか？

私たちが船に乗ったら、米国人がいた。バリクパパンにいた人たちだ。

ハレモニと一緒にいた女たちは船に乗らなかったのですか？

ああ、その人たちはいなかった。私一人だけ。

船には韓国人が多かったですか？

ええ、男が多くて、女は少ない。

船でご飯はどうしましたか？

船にタダで乗せてくれただけでなく、食べ残しも分けて貰った。タダで食べさ

せてくれるのだから、食器も洗い、洗濯もした。釜山で降りるはずが、コレラのせいで着けられず、「仁川(インチョン)に船を着ける」と言われて、仁川で降りた。降りてもお金がなくて。1銭も無いから話にならない、散々だったよ。他人の家の食器洗いや雑用をして、食べ物を買った。少しお金を貯めると汽車に乗り、またお金がなくなると途中で降りて、この家、あの家と立ち寄った。着ていた服を欲しがられると、少しお金貰って、履物も脱いで売った。そうやってやっと故郷に帰ったら、親兄弟のところにお金は届いていなかった。母からは、私が「死んだのか、生きているのか、痕跡も分からなかった」と言われた。

「お金を送る」と言っていたのに送ってくれなかったのですか？

そう、家に行ったら、母はいたが、父はすでに亡くなっていた。一文無しで戻ったが、私を「死んだもの」と思い込んで、葬式をしたそう。

連絡がないから死んだと思ったのでしょうか？

私は字を知らないから、手紙が書けない。便りが無いから、「どこかで死んだ」と思って祭事を行った」と聞いた。私が文字を知っていて、手紙を書けたら。最近のように電話のある世の中ならともかく。何一つ連絡がないから、間違いなく「死んだ」と思い、「祭事をした」と。

帰ってから、どのように過ごしましたか？

商売をした。魚屋。親兄弟を食べさせて、私も食って生きなければ、どうしても無い状況だった。

結婚はしませんでしたか？

結婚しなかった。あんなことして来て、結婚なんてできるかい。年寄りと会って、少し一緒に暮らしたが、その年寄りは死んだ。

お母さんに、どんな体験をしたのか話されましたか？

母には言わなかった。口から出せない。でも大体、表情を見て、分かっただろう。その時、女の子を捕まえて行くのを見て、何と呼んだか、それを……。

処女供出ですか？

分らない。何か捕まえて行くと言っていたが、「処女供出」のようだ。戻ったら母が、言っていた。私はそれすら、知らなかった。母は私に期待して、金を儲けて送ってくれると待っていたそう。生活ぶりを見たら、私もだが、母が可哀そうで。何、あれこれとする話もなかった。

面談日：2005年4月14日 / 2005年4月15日 / 2006年12月1日

面談者：姜貞淑、朴勝美、

馬山(マサン)(現在は昌原市(チャンウォンシ))市役所 金ジェオク

記録文入力・編集：尹智炫

記録文校正・校閲：李宣始、尹智炫

A〇〇 1930年生れ

1943年9月頃、慶尚北道(キョンサンプクト)から動員される。
清津(チョンジン)〔咸鏡北道(ハムギョンプクト)の都市〕経由
で、満州の延吉(現在の中国吉林省延吉)に移動、
2年間、日本軍慰安婦生活。

1945年頃、解放後、徒歩で帰国の途に。同年10月頃、帰国、

動員経路



第2話

いっそ死んだ方が楽だった。

A〇〇 1930年生れ

1943年9月頃、慶尚北道(キョンサンブクト)から動員される。
清津(チョンジン)〔咸鏡北道(ハムギョンブクト)の都市〕経由
で、満州の延吉(現在の中国吉林省延吉)に移動、
2年間、日本軍慰安婦生活。

1945年頃、解放後、徒歩で帰国の途に。同年10月頃、帰国、

「満州の工場に行けば、札束を熊手でかき集める」 と言われて

満州へ行った話、して下さい。なぜ満州に行くことになったのですか？

わが家は商売をしていた。私が市場にいて、市場に紹介した人の家がある。
「来い」と呼ぶので、「何ですか？」と聞くと「満州の工場に行けば、熊手で
かき集められるほどお金を稼げられる」と言うので、そしたら実家の暮らしも良
くなると考えた。私は長女なので、下に弟や妹が何人もいるから「儲けたい」

と思った。紹介人に「行く」と答えたら、「母にも父にも知らせず、こっそり内緒で来い」と言う。「家から服の一つでも持って来られないか」と聞いたら、「何、そのまま満州にさえ行けば、金の札束を熊手でかき集められる」と。まだ14歳にしかならない、ガキの私に何が分かる。「満州に行けば金儲けできる」、そのひと言で、着の身、着のままで行った。いま思えば、手袋の一つでも持って行くんだった。でも「そのまま」と言われて、手ぶらで行った。

紹介所の人ハハルモニに「札束を熊手でかき集める」と言ったのですか？

「満州の糸を解く工場に行けば、金の札束を熊手でかき集める」と言われた。

紹介してくれた人はどこにいたのですか？

紹介する人は〇〇面(ハルモニの故郷)にいた。紹介所の事務室は、こんな家庭の家みたいな部屋だよ。

その人は朝鮮人ですか？

朝鮮人だよ。

紹介する人が満州まで連れて行ったのですか？

紹介する人は一緒に行かなかった。満州から来た、主人が連れて行った。

主人はどこへ来たのですか？

〇〇(ハルモニの故郷)の家に来て、私に「行こう」と言う。日本語で「えーっ！できないよ」と答えた。

日本語はどこで習ったのですか？ 学校ですか？

学校なんて、門の前にも行ったことがない。村に日本人の子が沢山いて、日本の小学校もあった。その子たちと一緒にままごととして、遊びながら日本語を習った。故郷にいた時、日本語はみな憶えた。

出発する前に慰安所の主人と会ったのですか？

ええ、市場で紹介する人に「ちょっと来い」と言われた。座って話をしていたら、主人が私に「何歳？」と尋ねる。「14歳」と答えたら、「年齢が幼なすぎて、駄目そうだ」と、紹介所の人と私を連れていく主人が、話をしていた。

当日はどのように行ったのですか？

その日は全員、浦項(ポハン)(慶尚北道)駅に集まって、紹介する人が汽車に乗せて見送った。〇〇面からは、私ひとりだった。浦項の子が5人いて、背が高く大人のような子もいた。「満州に行くの？」と尋ねるので、私が「満州に行く」と答えると、「私たちもそうだ」と言う。そして満州まで、一緒に行った。

紹介してくれた人が駅まで連れて行って、主人や浦項の子たちと会ったのですか？

主人に会って一緒に行ったが、途中の駅で次から次にと、どんどん乗せる。大邱(テグ)でも乗せて、3人一組だったり、2人や5人の時もあった。途中で引率者から「清津だ。お前分かるか？」と聞かれた。私に何が分かるか、家から10里しか知らずに、暮して来たのに。

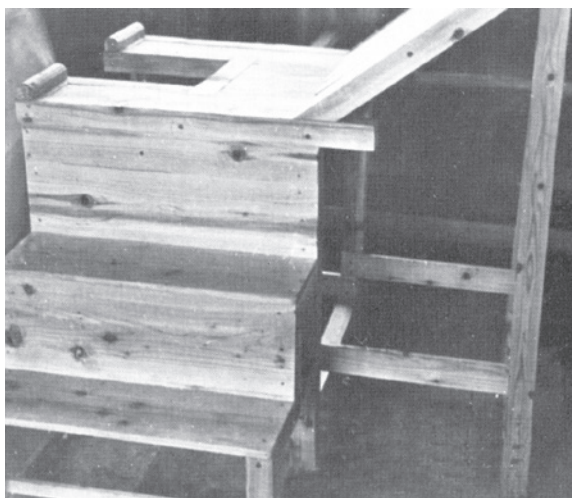
汽車ではずっと、主人と一緒にいたのですか？

ああ、一緒に延吉まで来た。清津を過ぎて、延吉に着いた。「もう少しで、延吉だ」と言われ、駅のホームに降りると、「皆、来たな」と確認した。

たった14歳なのに、子宮が開くかい

延吉駅で降りたのですか？

満州の延吉駅で降りると軍用車が来た。トラックのようなのに全員乗せて、降りたら何か倉庫か工場のようなだった。工場なのに機械は一つもない。部屋に扉が一つずつある。そこが、私たちの暮す所だった。水っぽいお粥のようなご飯をくれたが、ほんの少ししかない。それでもお腹が空いていたので、口に入れると、器に自分の顔が映った。その翌日、新しく入って来た人たちと全員、「検査しに行く」と言われた。私が「検査って何の検査？ 身体検査？」と聞くと、「身体検査だ」と。その時は、まだ殴られなかった。実際、行ってみたら、「横になれ」と言われた。台があって、そこに横になると、「鴨のくちばしのようなもの」(婦



≫≫ 検診台。「慰安婦」に動員された女性は、定期的に性病検診を受けなければならなかった。検診は慰安婦のためではなく、軍の性病感染による軍勢力損失を防ぐためである。東北アジア歴史財団、『日本軍「慰安婦」とナチスドイツ収容所の強制性労働』、2007年、24頁収録の写真。

人科の検診器具)を入れられる。でも、それが入らない。あんなものを見せられて、「どうしようか」とかまごついていると、抱きかかえられて検査した。器具を子宮に入れるのだが、14歳にしかないのに、子宮が開かない。その話をすると、心臓がどきどきする。耐えられない。

落ち着いてお話し下さい。

検査を受ける人の子宮が開かないので、できないのよ。鴨のくちばしのようなものを、子宮に入れようとしても、たった14歳にしかない子の、子宮が開かない。それで日本語で、自分たちは「出来ない」と言った。私は大体簡単な日本語ならできる。「ここは一体何をするとところ？」と私が聞くと。「慰安婦」と言うのよ。「慰安婦って何ををするの？」と聞くと、客を受け入れて、朝鮮語で言えば青楼宅、売春婦がいる家だと。それで「こんな所なら私は来なかった。母や父が知ったら大変だ、死ぬ」と言うと、主人は私の体をつかんで引きずって、温室に入れてしまった。ああ、その話、どこまでする。その話をすると、心臓がどきどきして気が狂いそう。満州、16歳で解放されたが、あまりに殴られ過ぎて、いっそ客を受け入れる方がマシではないかと観念した。お腹が空いて。(涙声で)こんなことになって、いっそ死んだ方がマシ。こんなことまでして、死ぬ方が楽。生きてうちに母や父に会いたくても、奴らに殴りつけられる。(泣いて息の絶える声)

水でも少し召し上がって下さい。

殴られて、温室の中に入れても殴られ続けて、背骨を叩かれて、指がつぶれるほど。こんなに腫れて、ああ(慟哭)。手が痛いのに殴られ続けて。腹が痛くて死にそう。殴られて、背筋どれくらい叩かれたのか、殴られて紫色になって。今だったら自殺しただろう。

延吉に到着したのは何時頃でしたか？

そんなに暗くもなく、明るくもなく、大体5時半か、6時頃。人があちらにいるのが見えたから、その位だった。

トラックに乗って行く途中、風景が少しは見えましたか？

市内だから電気の灯りもあって、家もチラホラ見えた。車はあまり見えなかった。周辺には、中国人の家が多い。

家が多いのですか？

中国人の家が多い。中国人もいて、朝鮮人もいて、日本人もいる。

その朝鮮人は何する人ですか？

何をするのか、それは分からない、私は表に出ないから。閉じ込められて、殴られて、出る時間がどこにある。

朝鮮人が近くにいと、どうして判るのですか？

井戸が庭にあるから、水を汲みに行った。風に当たっていたら、女の人が雑巾を洗いに来た。朝鮮語で話しかけたら「ここには朝鮮人も日本人も、色々な家で暮している」と言う。

その女は何をする人ですか？ハルモニがいる所に一緒にいた人ですか？

いや、隣の人。帰ったら家の主人が、「井戸であの人と何を話したか」と聞くので、「何も話さなかった」と答えた。

主人は日本人ですか？

日本人だよ。男の主人も、女の主人もいる。私が「何も話さなかった」と答え

たら、「この野郎、本当のことを言え」と、やたら殴る。それで「何も言わずに、故郷がどこかと尋ねただけ」と言ったのに、殴ってから、また温室に入れられて、扉に鍵をかけられた。ああ、私が苦勞した話。背筋を殴られて、指が折れて、ここ見なさい。私が朝鮮から出て、その話をするだけで心臓が跳ねる。息が苦しくて、話できない。

主人がそんなに殴るのですか？

ああ、その日本人、慰安婦の主人が。殴られたせいで、今も重い病気だ。

ハルモニ、風に当たりに出て、どれくらい遠くまで行けましたか？

遠くへ行けない。井戸をひと回りして戻って来るだけ。その話をする、息が苦しい。満州の話をする、胸がむかつく。外に風に当たりに出ると、隣の中華料理屋の男の子が、「こんな所って、知らないで来たの」と聞く。それで「知らずに来た」と答えたら、「可哀そうだ」と言ってくれた。

中国の子が朝鮮語をできるのですか？

ええ、朝鮮語で。そこの男の子、朝鮮語がとても上手だった。

検査に初めて行った時、受けたのですか、受けなかったのですか？

毎週金曜日だったか、「明日は検査に行く」と言われる。私は初めての時、検査が駄目だったから、一週間に一度行く時は抜けた。二番目にまた「行く」と言われていたので行ったが、相変わらず同じことで検査できなかった。医者からも「こいつは出来ないよ。」と言われた。すると「これじゃ、客が取れない」とまた殴られて、腫れあがった。倉庫に入れて鍵をかけ、食べ物もくれない。

他の女も、そんなに殴られたのですか？

他の人たちは、殴られない。私が幼くて、客をまともに取れないから。客を一番取らないと。

では客を取らなかったのですか？

客は取ったよ。

何時からですか？

15歳になった年から。

客はどんな人ですか？

全部、軍人だよ。

ハルモニ、その時生理はありましたか？

なかった。解放後、朝鮮に戻ったのは16歳で、その時、生理があった。母に話すと、「女の体はそうなっている」と言う。だから生理もないのが、満州に連れて行かれたのだよ。弟や妹が「満州で何をしていたのか」と聞くから、「糸を解く工場にいた」と説明したが、今はもう一人残らず人に知られてしまった。慰安婦という……。ああ、その話をするだけで、心臓が……。

その家に女は何人いましたか？

あちこちから集まって来て、20人位になる。

病気かかった人はいなかったですか？

週に一度検査するから、病気にかかった人はいない。

検査はどんな所でしますか？

歩いて行ったが、そう遠くない所。そこに病院から日本人が来て、検査する。倉庫のような所で、横になる場所がある。

横になる場所は一つですか？

いくつかあったよ。

検査する人は何人もいましたか？

いたよ。台一つに医者が一人ずついる。台とは、木のベッドのこと。脚の下を、見るところがある、ああ。

医者は男ですか？

男だよ、全部軍人。軍の医者、軍医だ。

看護婦はいないのですか？

看護婦はいない。

いつも同じ家で検査を受けるのですか？

うん。同じ家で。

検査を受けに、女たち20人が皆行くのですか？

皆行かなければ。

そこは病院なのですか？

病院ではない。

他の患者はいないのですか？

いない。そこに行くと検査する台がある。

検査に行った時、ハルモニがいた家の他に、知らない女も来しましたか？

来たよ。他の家の女も、たくさん来る。その人たちも検査する。

満州の話をするだけで心臓が飛び出る

他の家は近くでしたか？

家がどこにあるのか知らない。検査の日は、みな来る。

他の家の女もみな朝鮮の女ですか？ 中国の女はいませんでしたか？

中国の女はいない、全部、朝鮮の女。

ハルモニ、「サック」(コンドーム)って聞いたことありましたか？

ウン。それ、使おうとしない奴がいて、使うとする奴もいる。大体皆、使った。

生理もないのに「サック」を使ったのですか？

そうだよ、皆、した。病気にかかるかと思って。

「サック」は誰がくれるのですか？

主人が皆に、何個ずつかくれる。そして「客を取ったら使え」と、白い薬を一つくれる。それを飲むと、「病気にならない」と。私は「汚い奴ら」と言って、飲まずに捨ててしまった。妊娠しないためだという。でもそれを飲まないで捨てたと、頭をどれくらい殴られたか。

内緒で捨てたらよかったのに。

とにかく私はその頃、素直だったので、「捨てた」と言ってしまったのよ。そんなこと言わないで、ただ「飲んだ」と言えばよかった。その頃の私は捨てたものは「捨てた」、盗んだなら「盗んだ」と正直だった。

妊娠した人はいませんでしたか？

赤ん坊ができた人はいない。私は妊娠しない薬貰っても、捨ててしまって、随分殴られた。

軍人が何か差し入れしてくれたこと、ありませんか？

餅をついて来て、くれた軍人がいた。

お金は？



≫ 当時使われた「軍票」(軍用手票)。鄭慶娥(チョンギョンア)『慰安婦リポート』、道探し、2006年、146頁収録の図。

〔この口述での票は、帳場で渡された票で「軍票」ではない〕

お金は、まったく知らない。金ではなく、印字した票をくれる。

票を貰ったのですか？

ああ、軍人が票をくれると、それを主人に渡す。ああ、死にたい。もう嫌だ。

軍人はいつ来るのですか？

土曜日から日曜日。月曜日は将校。馬に乗って来る奴もいるが、将校はあまり来ない。

客を取った後は殴られませんでしたか？

その時はもう殴られなかった。一人取ろうが、二人取ろうが同じ。あの行為を一年中していて、ああ、満州の話をするだけで、心臓がこんだ。こんな話しても、みな分からない。

客はハルモニを何と呼びましたか？

「君子」

軍人たちはハルモニたちがいる家のことを何と呼びましたか？

知らない。思い出せない。その時は名前があったんだろうが、憶えてない。もう60年も経つ。ただ、慰安婦の家だよ。

近くに軍の部隊があったのですか？

そうだ。日本の軍人の部隊が遠くない。主に将校たちは馬に乗って通う。車に乗って来る奴もいて、歩いて来る奴もいる。

部隊を見ましたか？

部隊は見たことない。

ハルモニの友だち、中国の男の子は何をしていましたか？

近くの家で暮して、食事の仕度をした。

その家にも行ったことがありますか？

近くに朝鮮人や中国人の家があった。でも私は外出できなかった。

ハルモニのいた家は、村の中にあったのですか？

村の中だよ。

軍人たちは村の中の、ハルモニのいる家に来たのですか？

そうだとも。

美しい娘がたくさんいる家に、村の男たちは来ませんでしたか？

いや、そんなのはない。主人が恐いから。

ハルモニのいた所にハルモニの写真を貼り付けていましたか？

付けない。ただ名前を呼ぶだけ。写真を付けたりは、しなかった。

誰が名前を呼ぶのですか？

一度来たことがある奴は、すぐに探せるだろう。何号室とか、一号、二号、三号室、部屋の名前があるから。私がどこか、トイレや飯を食いに行っていなくても、奴らが部屋の前で待っている。日本語が上手いので、軍人が私に「お前は絶対に、朝鮮人ではなく日本人だ」と言う。また日本の軍人の中には、朝鮮語ができるのがいた。朝鮮語で「お前の姓は何だ？」と聞くから、「〇〇家」と答えると、「姓を尋ねると朝鮮人だが、日本語をどこで憶えた？」と聞く。「あんたた



>>> 中国の日本軍指定慰安所。

東北アジア歴史財団『日本軍「慰安婦」とナチスドイツ収容所の強制性労働』、
2007年、22頁収録の写真

ち相手にして、そうなった」と答えると、「そうか。何しにここに来た？」と言うから、「お前たちが、いい仕事があるとわれて来た。私が女でなかったら、こんな所に来なかったのに、女だったから。」と返事した。

私の苦労は、天も地も知っている

この脚の傷跡は何ですか？

満州に行って、殴られてこうなった。今はこの程度だが、当時はぼろぼろになって、傷跡だけ残った。あらゆる所を、みな殴られる。背筋が紫色になって。

それで脚がとても痛い、アイゴ。今は傷跡だが、当時は脚がこんなに腫れた。手も腫れているだろう。満州で16歳の時、解放された。解放されて、日本の奴はみな逃げていなくなった。中国の男の子が、「自分の家に行こう」と言ってくれた。行ってみたら、ギョーザを汁で煮て、それを一杯食べたら、またもう一杯くれた。「日本人は皆出て行ったから、そこにいたらどうか」と言う。「何か食べ物ある?」と聞いたら、畑からトマトもむしって来てくれて、餃子スープも煮てくれ、ナムルもご飯も食べられた。それでしょっちゅうそこへ行ったが、本当に居心地よかった。

隣の中国の男の子ですか？ 主人がその家に行かせてくれたのですか？

いや、もうその時は、主人は日本に帰ってしまい、いなかった。私に「一緒に日本に行こう」という日本人もいた。

誰が言うのですか？

日本人の軍人が、「オイ、日本に行こう」と誘った。でも「朝鮮に母も父もいる。妹もいる。だから朝鮮に帰る」と断った。

名前、憶えていますか？

名前は分からない。

ハルモニの所によく来た人ですか？

ええ。「解放されたから日本に行こう」と、私に言うの。でも私は「朝鮮に行くから、日本には行かない」と答えた。

帰る時は、どうやって帰られたのですか？

その中国の男の子が、解放されたので、私に「朝鮮に行きな。母や父に会

え」と言ってくれた。でも服がなくて、何を着て行くか困っていた。するとその子が「自分のズボンあげる。上着もあげる」と言ってくれ、それを着て帰った。豆満江(トゥマンガン)か、大同江(テドンガン)か、船に乗る渡し場があった。こちら側にはロシア人が立ち、川の向こう側には米軍が立っていた。そこで来た人たちの体を触って、女だったら中国に再び送り帰す。私はまだ16歳なので、乳が大きいかい。男の服着ていて、乳は南京虫のようにぽちっとついただけだから、触っても何もない。それでロシア人の男が私に「向う側に渡れ」と言った。そこからまた何十里の道を歩いて行くのだが、足の裏が全部腫れて破れた。行く時も手ぶらだったが、帰りも着ているものだけで、中国の家で貰って着た服一着だけ。これが全部。1ヶ月も着ていたら、虱がうようよした。それでその服も燃やして、頭も丸坊主に刈ってしまった。

【妹の話】

姉さんが帽子被って、日本の服ではなく、黄色い中国の服、人民軍の服みたいのを着て、地下足袋を履いて「お母さん～」と言って入って来た。「二ヶ月間、歩き続けた」と言う。服は綿を入れてあるようだが、あちこちほつれてしまい、まともに縫ってもない。中国のぼろい服、中国の帽子に頭はすっかり丸坊主で男のよう。そんな恰好で来たので、母が驚いて、後に転んでしまった。

一緒にいた人たちも皆、出て来たのですか？

3、4人一緒に出て来た。その時の私の名が「キミコ」で、他に「ミヤコ」、「ユキコ」、「ハルコ」もいた。でもみな、途中でちりぢりに別れた。満州から出て来ても、腹が空いて大変だった。畑に入ってトマトも採って食べ、植えてあるジャガイモを掘って食べた。どこなのか分からないが、朝鮮人の家に入って、

「ご飯少し下さい」と恵んで貰ったりした。すると「苦勞して歸って来たのに、ご飯があれば、もっとあげるんだが」とくれた。喉が渴いて、水もスプーン一匙飲んだが、一刻も早くわが家に戻りたかった。朝鮮にさえ行けば、自分の家に戻ったら、キムチに麦飯を食べられる。早く帰りたくて、夜も歩いた。そして眠くなったら、どこでも倒れ込んで眠った。私の苦勞は、天も知っている、地も知っている。

面談日：2006年2月9日/ 2006年5月24日

面談者：金ウンヒョン、朴勝美、尹明淑

立会人：A○○/ ヴルモニの妹

録音文入力：禹栄頌、

録音文編集：尹智炫

録音文校正・校閲：李宣姪、尹智炫

◆ 面談後記 ◆

A〇〇ハルモニは委員会の調査官に被害事実を打ち明けてから、4ヶ月後に亡くなったという。本来、ハルモニの被害内容は面談当時、立ち会った妹さん以外、他の家族は知らなかった。2005年、ハルモニが委員会に被害申告をして、娘さんも被害内容を知ることになった。ハルモニの妹さんも死亡してしまった現在、娘さんが被害内容を知る唯一の家族だ。

ハルモニは日頃、突然びっくりしたり、寝ていてパッと起き上り、タバコを吸ったりした。また、日本軍慰安婦の被害者がTVに映ると、チャンネルを他に回したり、TVを消してしまったりした。娘さんは母の行動が変だとは思ったが、詳しい理由は知らなかった。娘さんは母の過去の話初めて聞いて、「母がそんなに苦勞をしたのに、私は今まで知らなかった」と、胸打たれたという。娘さんは自身も、娘を育てた女性として、母の痛みを後になって知り、共に痛みを分かち合えなかったことが、心痛むと話した。娘さんは母のような被害者が再び出てこないことを願うと言って、口述資料の利用に同意してくれた。

B〇〇 1927年生れ

1941年頃、 慶北(キョンブク)大邱の親戚の家の前の路地から動員される
大邱駅で汽車に乗り、満州のハルビン(現中国黒龍江省哈爾濱市)に移動ハルビンで4年間日本軍慰安婦生活

1945年9月頃、 帰国

動員経路



第3話

お前らだけで戦争して来たのか、 お前らのせいで大病にかかった

B〇〇 1927年生れ

1941年頃、 慶北(キョンブク)大邱の親戚の家の前の路地から動員される
大邱駅で汽車に乗り、満州のハルビン(現中国黒龍江省哈爾
濱市)に移動/ハルビンで4年間日本軍慰安婦生活

1945年9月頃、 帰国

娘さん、ちょっといっしょに行かないか

ハルモニ、お齡はお幾つですか？

私は…、79です。

どうして、行くことになったのですか？

あそこへ私は本当に幼い、15歳で行った。今でも姉弟の間で、それをどう表現する。ただ、「行った」、それだけで分かるだろう。昔はみな、村で女をやたら

捕まえて供出された。ああ、私も避けたかった。逃げようとした。大邱に遠い親戚一家がいた。その時ハルモニと呼んでいた大邱の〇〇洞の親戚が、私の家に来て、私一人で大邱に行った。供出されるのを避けようと、母が「連れて行ってくれ」とハルモニに頼んだようだ。

大邱の親戚の家は裕福だったのですか？

貧しかった。何か商売していたようだが、ハルモニは毎日村を廻って、お米を売っていた。その時は米が貴重だった。日本人が「全部供出しろ」と言って、米がなかった。うちでも母は真鍮の器に、隠していた。ところが隠していても、日本人巡査がひっくり返して全部探す。巡査は長い刃物を持っていて、本当に恐かった。現れると、顔を見ることもできなかった。巡査と聞いただけで、誰も出ていけず、家の奥でブルブル震えていた。

捕まらないように大邱へ行ったのですか？ 嫁に行く話はなかったですか？

嫁に行くところなどなかったよ。その頃は何かあるとすぐに、「嫁がせる」と言った。なのに、私は捕って。徴用に取られて、未婚の男性もいなかった。嫁入りできたら良かったのに。捕まって、あんなことさせられるとは思わなかった。15歳にもならないのに、昼夜、何年も。ああ、話…。

大邱に行ったのはいつですか？

数えて、15歳で行った。

大邱に行って、すぐに捕ったのですか？

うん、一週間後に捕まった。すぐ近くに親戚の家があって「遊びに來い」と言う。そして遊びに來って、その家から出て來たら朝鮮の人が、「娘さん、話が少しある。是非、行こう」と言われた。田舎者だから、ただそれだけで、ついて

行った。母が勉強もさせなかったので、私は字も知らなかった。

何を見に行って、捕まったのですか？

15歳で何も知らずに、ただ遊びに行っただけ。田舎娘が「遊びに來い」と言われて出かけて、親戚の家から出たら朝鮮の人が是非「娘さん、少し行こう」と言うから、ついて行った。それで捕まった。いくら「行かない、嫌だ」と断っても、「ちょっとだけ行ってみよう」と言われて。

どこで、ですか？

道端で、「行こう」と言って。



≫≫『連行される』日本軍慰安婦被害者、金順徳(キムスンドク)の作品
ナナムの家/日本軍「慰安婦」歴史館資料提供

その時、ハルモニー一人だったのですか？

一人で道角にいて捕まった。行くと、男が一人いた。そいつらは日本語で話していた。

朝鮮人ですか？

朝鮮人が私を連れて行ったら、そこに日本人が一人いた。そいつは朝鮮語がよく解らなくて、朝鮮人を手先にしたようだ。

ハルモニ捕まえた朝鮮人の訛りはどうでしたか？大邱の人のようでしたか？

言い方が、大邱の言葉ではなかった。

ハルモニをどうやって見つけたのですか？

道端で見つけただけだよ。

なぜ、そんな見知らぬ人について行ったのですか？

手を握って、「何かあるから、行こう」と言われて。その頃、どれくらい私がバカだったか。最近の子なら、ついて行かないだろう。行くと頭が丸坊主の男が一人いて、そいつら同士、日本語でああだ、こうだと騒いでいた。

どこへ連れて行かれたのですか？

連れて行かれた場所は、あまり遠くない。〇〇洞からは近かった。角を曲ると、昔の小さな〇〇路地市場がある。連れて行かれて所は、旅館のようだった。部屋には子どもたちが十何人いた。私だけでなく、女たちでぎっしり埋まった。

市場なら、人が沢山いたでしょう？

多かった…。その時は幼くて愚かで、手を握られたまま「放せ! 放せ!」と田舎娘が大声で叫べるかい。「行けば分かる」と言われて、行っただけだよ。

ハルモニを捕まえた人は、どんな格好でしたか？

背が少し高くて、面長。齢は50越えた、年寄りだよ。

どんな服装でしたか？

服は朝鮮服のようだった。チョッキ羽織って。上は白いチョゴリ(上着)着て、下はしわしわのズボンを履いていた。

そこにいた子たちは何歳位でしたか？

15、6歳、みな同じ位。歳取った人はいない。

様子は どうでしたか？

ただこうやって座っていた。スカートはいた子もいて、モンペみたいなズボンはいた子もいて、韓服を着た子もいた。

ハルモニはどんな格好でしたが？

私は粗末なズボンをはいて、韓服みたいのを着ていた。

髪形は？

髪は短かった。背も小さいし。

ハルモニが行く時、生理はありましたか？

あったよ。私は早かった。15歳になる年にあった。

そこにいた子たちと話をしましたか？

引率者がいない時、「どこへ行くの？」と聞いた。「知らない。私たちも捕まっ
て来たから」と言う。殺されるかと思い、怖くてじっとしていた。一晩寝たら、
「行こう」と言われた。

誰が？

日本人と朝鮮人の奴らに、「行こう」と言われた。

日本人はどんな格好でしたか？

日本人は背が高くなく、平たい顔していた。こいつが皆を連れて行った。女を
連れて来て、人に引渡してお金受け取る。私たちを連れて行くと、「汽車に乗
れ」と言う。

日本人は朝鮮語を少しは話しましたか？

朝鮮語はできない。二人で、日本語だけを話していた。

旅館のような所で、ご飯は貰いましたか？

ご飯は、どこかから買って来てくれたよ。汽車に乗ってからは、何も食べられ
なかった。満州に着いてからも、食べられなかった。ああ、ご飯らしいものは
3、4年間、一度も食べられなかった。満州の原っぱでは、飯がカチカチに凍っ
て食べられなかった。おかずもない。

満州までは、どうやって行ったのですか？

そいつらが、連れて行っただけ。

どこで汽車に乗りましたか？

大邱で乗った。今の東大邱(トンテグ)ではなく大邱駅。途中、どこかで「奉天(ほうてん)」(現在の瀋陽)という声が聞こえた。でも地名を言われても、よく知らなかった。

日本の男と朝鮮の男も、一緒に満州まで行ったのですか？

一緒に行った。やつらは私たちを連れて行くのが役目だから。私たちは、どこへ行くのか知りようもない。捕まって連れて行かれただけ。奴らはまた、捕まえに出かける。

途中でハルモニに何と言いましたか？ どこへ行くか、心配でなかったですか？

私が何を知っている。ただついて行くだけ。「どこへ」と聞いても、「行けば分かる」と言うだけ。

誰が話したのですか？

あいつら、引率者がした話だ。「ついて行けば分かる」と。

途中、ご飯はどうしましたか？

汽車でパンのカケラくれた。ご飯はくれなかった。

ずっと汽車にだけ乗ったのですか？

ずっと汽車にだけ乗った。汽車の中でまる二日、夜を過ごして、ハルビン駅で

降りた。どこなのか知らなかったが、少しいて、やっとハルビンと分かった。

初めて軍人の横で寝ろといわれた時は…

汽車から降りたら、どんな景色でしたか？

ハルビンで降りたら、荒野だった。ある家で引き渡されたが、荒野で何も無い。他に家もない。そこには朝鮮人がいなかった。

ハルビン駅で降りてから、どうしましたか？

トラックのよう車が来て、それに乗った。



≫≫ 中国の戦線でトラックに乗って移動する慰安婦。村瀬守保『私の従軍中国戦線』、
日本機関紙出版センター収録写真

運転は誰がしたのですか？

運転は日本人がした。

軍人ですか？

日本の民間人。軍人なら軍服着ているから、軍人ではない。

運転していた人を、その後も見ましたか？

見てない。その時だけだ。

女たちを乗せた車は、何台来たのですか？

一台だけ。そこに沢山、20人以上乗った。

みな、大邱から一緒に行った人たちですか？

そうだよ、大邱から。

途中で乗った人はいなのですか？

途中から入って来た人いたよ。後でまだどこかから入って来たが、大邱からたくさん来た。全部が大邱ではなく、慶尚道(キョンサンド)の女。全羅道(チョルラド)出身の人はいなかった。

みな朝鮮の女でしたか？

そう。朝鮮の女。

車にどれくらい乗りましたか？

車にはそんなに長く乗らなかった。

その時は昼でした? 夜でした?

陽がみな沈む、夕暮れ時だよ。

満州に行ったのは寒い時でした? 暑い時でした?

その時は寒くもなく、秋頃だった。少しいたら寒くなって、「これじゃ辛くて生きて行けない」と思った。本当に満州の原っぱ。

大邱でから連れて行った日本人と朝鮮人とは、いつ別れましたか?

そいつらは連れて来て、少し経ってから…、20日くらいでまた、「行って来る」と言い残して、どこかへ行ってしまった。女を連れに行ったようだ。私は大体そこに一年くらいいたが、奴らはさっと来ては、また出て行く。

その人たちは来るたびに、何か言いますか?

来るたびに「元気か」、この子たち「逃げなかったか」、そんな風に私たちの様子を見ると、また出かけた。そして新たに、何人か連れて来る。

家の様子ははどうでしたか?

行ったらテントの家だった。家でなくて部屋だけが、一間ずつずっと並んでいる。また向い側にも小さい部屋がひとつずつあって、一番端に便所がある。ボーイラーも部屋になく、黒い石炭で火を焚いても、物凄く寒い。

部屋ごとに火を焚くのですか?

ああ、オンドルはなく、壁側で火を焚いて温かくする。全部の部屋が、みなそう。暖かくない、電気もない。

家に主人がいるのですか？

日本人がその主人で、ご飯くれる。

床で寝ましたか？ ベッドがありましたか？

ベッドはない。布団は良くない、薄いのを二枚だけくれる。

床はどうでしたか？

「畳、畳」これくらいの。二畳のもあって、一畳もある。少し広い部屋は、畳二畳。またずる賢い子がいて、少し大き目の部屋はそんな子が占める。

ハルモニの部屋は何枚でしたか？

私は一畳半。狭い。

その部屋は何時くれましたか？

着くとすぐに、連れて来た日本人が「(部屋に)入れ」と言う。部屋ごとにみな犯された。行った人はみな犯された。その翌日から、…やられる。この世で初めなのに。軍人が「横になれ」と言う。そいつがコンドーム被せる。私は軍人に、「絶対に、そんなことできない」と抗議した。日本語が分からないから、韓国語で「できない、できない」とだけ。しかしあいつらは構わずにつかみかかって来て、それをはめるんだ。内がはり裂けそうだった。一度、医者に来て、薬を塗ったが「一週間程経てば、大丈夫だから、また、軍人を受け入れろ」と言った。そして嫌がると罵声を浴びせて、親分が思いっきり殴る。

親分って誰ですか？

この家で女たちを引き継いだ親分。私は幼いのに毎日、犯されつづけて、腿のつけ根がずっと痛い。その時、年齢は幼いし、あいつらは年上で、無条件、「量

だけさばけ」と命令する。私が痛いことなど、知ったこっちゃない。私たちに病気があると困ると、日本語で「サック」って言うのを、利用する。洗うことを日本語で「洗淨」と言うが、「洗淨」する場所がある。

「洗淨」は、どこでするのですか？

廊下の角を曲がると、風呂場みたいな「洗淨」する所がある。全員、軍人とやったら、「洗淨」することになっている。別の人とやる前に、きれいにしておく。

それでは軍人1人出て行くと「洗淨」して、また1人出て行ったら「洗淨」するのですか？

そうだよ、汚くて。1人出て行けば「洗淨」して、また1人出て行けば「洗淨」する。出て行ったらまた、次の軍人が来る。来たらまた受け入れる。

ハルモニは外に立っているのですか、部屋の中で待っているのですか？

外に立っている。部屋の外の「廊下」みたいな所で、客が来たら私たちを連れて入る。

1人終わると、再び「廊下」に出るのですか？

そう。出なくても、また訪ねてくる奴がいる。続けて来た奴が、また来ることもある。扉叩いて。ああ、口では言えない。

軍人を受け入れなければ、受け入れなくても良いのですか？

駄目だよ。受け入れなかったら、管理する人から何されるか、やたら罵られる。

軍人と喧嘩したことありますか？

軍人と喧嘩した女は、余りいない。軍人が刃持って、やたら大威張りしている

のに。刃物身につけて、やたら「殺すぞ」と言う。だから「部屋に入れ」と言われたら、入るしかない。ある女が「入りたくない」と騒いだが、やつらが力づくで、犯した。

性質の悪い軍人が殴ったりしませんでしたか？

優しい人もいた。こちらが「日本語分かりません」と言うと、「はい、そうですか」と言って。乱暴な軍人は酒飲んで、「こいつら、バカだ」と、罵る奴もいた。殴られるかと思って、怖かった。ああ。

「サック」はどこで用意するのですか？

奴らが持って来る。軍人が持って来た。

「サック」なしでやろうとする奴はいませんか？

いない。全部、皆持って来る。

酒に酔った奴とも、すべてするのですか？

酒に酔った奴は、来たら直ぐ関係持って、終わったらさっさと出て行く。私たちが早く追い出す。

ハルモニは行ってまず検査しましたか？それとも先に軍人を受け入れさせられたのですか？

検査せず、そのまま軍人を受け入れた。もう痛くって、口では言えない。その時、軍人を一人、二人受けて、痛くて倒れ込んでしまった。どれだけ泣いたか。一緒に行った私より年上の子が、「泣くな、私たちが悪いんじゃない」、「私たちの運命が汚くて、こんな所に選ばれて来た」と慰めてくれた。それで私は最近、恨みを晴らそうと寺に通う。夜通し祈って、朝になって帰る。

ハルモニ初めての軍人の名前思い出しますか？

知らない、知らない。

初めてで出血して痛がっているのに、哀れには思わないのですか？

軍人が私たちに、神経なんか使うかい。

初日に二人だけして「痛くてできない」と言ったら、軍人がもう入って来ないようにしてくれたのですか？

初め「痛くて到底できない」と、そこでご飯くれたり、台所仕事する人に話した。私は日本語ができないから、日本語の上手な人が代わりに言ってくれた。そして少し休ませてくれた。その後は昼も夜も「兵隊さん」の相手だ。夜寝ていても、疲れさせるのがある。

どう疲れさせるのですか？

腹の上に昇って、下りない奴がいる。苦しい。初めてそんな所に行って、犯されてみなよ。犬でもあるまいし。その話をする、頭が痛くなる。

そんな軍人に、どう相手するのですか？

「出て行け」とさっさと追い出したさ。

管理人は、厄介な軍人に何か言ってくれないのですか？

あいつらは「誰でも受け入れろ」と言って、何もしてくれない。憲兵隊や軍人が怖いんだ。兵隊の中には酒を飲んで来る奴もいるが、戦争やって来た奴らだから、何を言っても効果ない。私が思わず「お前らだけで戦争しているのか。私たちはお前らのせいで大病にかかった」と韓国語で言ったら、「お前ら！私

たちも人間だ。誰でもここまで来たら、皆同じように可哀想じゃないか」と、日本語の上手な子がそう言った。日本語知らない子も、大声で叫んだ。叫べばあいつらも、表情から判ったようだ。

行く前に日本語少しはできましたか？

分からないよ。どうやって日本語を憶えるんだい。

行ってから憶えたのですか？

行って少しだけだ。きちんとできない。でも「飯食え」だけ分かる。名前呼ばれると朝鮮語で女たちが、「マサコ、どこへ行った」と言い、「ここにいる」と答える。それもそこで付けられた。「マサコ」が、何なのか判るかい。「ハルコ」とか何「子」とか、そんな名前も、みな忘れてしまったが…。でも互いに可哀そうに思い、泣く子もいた。病になる子も多かった。

無条件、何も分からない幼い子たちを引っ張って中に入る。

その女はみな朝鮮の女でしたか？

そうだよ。満州に、日本の女は一人もいなかった。

女は全部で、どれ位いたのですか？

私たちのテントだけで、50人以上いた。奥へ進むと曲がって部屋が一つずつあり、もっと行くと、部屋がまたある。大体50部屋はある。

ええっ、一軒に部屋が50個ですって？

50個以上だよ。台所仕事する人の寝る部屋もあるから。結構大きかった。

家の真ん中に廊下があるのですか？

そう、真ん中に廊下がある。廊下に軍人がどんどん入って来る。ひとつのテントがぎっしりになって、毛布がぱっと敷かれると、手を握って中に入る。

ハルモニのおられた村に、そんな場所が…。

2ヶ所！50人ずついた。上の家は大きいからもっと多かった。そこにどんな子がいるのか、あまり一緒にいなかったので分からない。私たちの所は、大邱や慶尚道の子が多い。上の家のことは分からない。

ハルモニが行った時、もう既に女の子がいたのですか？

いなかった。私たちが一番目。最初にそこに着いたが、どれだけ寂しかったか。

初めハルモニと20人程いて、後でまた来たのですか？

そう。それで50人近くになった。

ハルモニが初めて行った時、家は新築でしたか？

新築ではなく、少し古い家。上は屋根でなく、テントみたいなものの上に石ころを載せた。床があって、こちらが部屋で、部屋、部屋、また、部屋。壁に穴を開けて、火をくべる。壁はセメントのようだった。

上の家には、ハルモニが来る前から女の子がいたのですか？

上の家には、いたようだ。

ハルモニが来る前からいたのですか？

そうだよ。家の中には入ってないが、近所にその家と私たちの家の2軒しかなかった。

軍人がたくさん来るのですか？

「兵隊さん」が毎日、たくさん来る。日曜や土曜、週末はぎゅっしり来る。四方が山で、私たちはその真ん中にいた。山の中に部隊があつて、私たちのような家が2軒あつた。50人、来る日もある。

一日に何人位来ますか？

日曜日、土曜日は、一日に7人とか、5人とか、6人とか。夜は自分たちが部隊を守るので、昼間に「交代」でドンドン来る。無条件、何も分からない幼い子たちの手を握って、中に入る。入って接して、また接する。半月に一度、日本人が、病気が有るか無いか検査する。全員一列に立って並ぶ。膿が少しでもあると医者が軍人と接触できないように、全員検査する。土日は上下の家が「交代」で「勤労奉仕」に行き、「兵隊さん」たちの服を縫う。「勤労奉仕」って軍人の服を縫うこと。女たちが週に一度、軍人の服を縫ったり、靴下を縫ったりする。でもそこがとても寒かった。

土曜日は軍人がたくさん来るのに「勤労奉仕」に行くのですか？

土曜日にたくさん来るが、来ない時もある。全員一緒に行くのではなく、一軒から行くと、他からも来る。私たちが行く時は、昼間は客を取らず、夜だけ取る。夜、客を取って、昼間はそこで働く。

「勤労奉仕」は、どこをするのですか？

働く家がまた別にある。倉庫のようなところに台が置いてあつて、両側に人が

二列に座って、一日中働く。

そこへはどうやって行くのですか？

軍人の車に乗って行く。

「勤労奉仕」に行くとき飯は、少しはマシでしたか？

食事はご飯と薄い味噌汁みたいな汁をくれる。朝鮮風の味噌ではなく、何か材料かもわからない。それをくれたら食べて、夕方5時に帰る。

新しい服を作ったのですか？

古い服を縫って、ぼろな靴下も縫う。破れた所を縫らないと着られないだろう？

縫う服は、誰が持って来るのですか？

誰かが部隊から持って来て、置いて行く。全員軍人だが、新米兵が持って来たのだろう。そんな仕事もさせられた。

清掃はどうしましたか？

自分の部屋の清掃だけした。

洗濯は？

洗濯なんて、そこに洗うものなんてあるかい。服は、ほとんどなかった。

どんな服を着ましたか？

ズボンみたいの一つくれて、それを穿いていた。他の子たちの中には、日本の「着物」着た子もいた。年上の人。その人たちは少し学校に通って日本語も上

手だったから、話を通じると「兵隊さん」が喜んだ。私は幼くて無学で、何が何なのか分からず。ただ「ああしろ」と言われたらああして、「こうしろ」と言われたらこうするだけだった。楽しみ等なかった。解放されて九死に一生で帰って来た。一度に30人くらい来たが、後の人たちはどこへ行ったのか分からない。日本に行った子も多い。

ハルモニも着物着たのですか？

着ていない。「着物」なんかで、着飾って何をする。「着物」は着方も知らない。「着物」を着た知合いは、そこに二人いた。私たちは皆「ズボン」をはいていた。パーマもなし、ストレートの髪のまま。

「着物」を着て、写真を撮ったことはありませんか？

「着物」を着たこともなく、写真も撮らない。田舎で飯もろくに食べられず、あの醜いことだけ、「やれ」と言われた。

軍人たちはハルモニのいた家を何と呼んでいましたか？

何と呼んでいたか、それは知らない。

誰がハルモニに名前を付けたのですか？

日本人の連れて来た奴に、勝手に「マサコにしろ」と決められた。そう、「マサコ」だよ。自分の名前はまだ忘れてない。

部屋にハルモニの名前が書いてあったのですか？

入口に「マ、サ、コ」と書いてあった。みな名前があって、入口に全部名前を書く。軍人が名前を見て「いるのか、いないのか」と、部屋をトントンとノックする。

紙に書くのですか？ 木に彫るのですか？

ただの紙だよ。

名前は誰が書くのですか？

誰か知らない。入口に「マサコ」、「ハルコ」、「ヨシコ」、「トシコ」ってみな書いて貼ってあった。人が多くて、どこに誰がいるか分からないから、部屋に貼ってある名前を見る。すると、ここは「マサコ」だ、ここは「ヨシコ」だと判るじゃない。私は少尉一人が本当に好きだったが、解放されてその人が、どこへ行ったのか、日本に行ったのか分からない。私は自分だけで戻った。

その少尉とはいつ会ったのですか？

行ってから一ヶ月ぐらい後に会った。「幼くて可愛い」と可愛がってくれた。今も生々と憶えている。

少尉の名前を憶えていますか？

分からない。あの人が私の名前を見て、部屋に入って来る。

その少尉もハルモニを好きだったようですね？

分からない。

ハルモニにどう接してしてくれたのですか？

「可哀想だ」と言ってくれた。来ると一日、横になって帰る。その時のお金で、千円や、二千円くれて帰る。

その金は日本のお金ですか？

日本のお金だよ。だけど、使うところがない。買って食べる所もないから、お金

はまるで必要ない。その時、送金する方法など知らなかった、手紙の書き方も知らない。出て行く人は誰もいなくて、入って来る人はいる。手配する奴らだけ、出入りする。日本人が全国を巡って、女の子たちを捕まえて届ける。昔は供出する時は、徴用に行く男たちも、やたら力づくで捕まえた。ああ、太腿のつけ根が痛む。毎日横になって、押さえても。最近の子だったら、本当に…。死ぬ思いだった。その時はただ、何も知らなかった。

少尉は一度来ると、どれ位いたのですか？

昼の12時頃に来て、一日いた。朝早くは来ない。夕方5時から6時になると帰って行く。

少尉は長居できたのですか？お金を多く出したんですか？

そうだ。訳は分からない。早く帰らなくても構わなかったようだ。

軍人は好きに長居したり、すぐ出て行ったりするのですか？

そうだよ。すぐ出て行く人。ぴったり一時間ずつだよ。出て行くと、また入って来て、出て行って、また入って来る。「体が痛くて無理できない」と言うと、あいつらも人間じゃないか？すると「許してあげる」と言うんだ。「休め」と言う。位の偉い人は一ヶ月に一度くらいしか来ない。みな、二等兵。星一つ、二つ、三つのが、土日たくさん来る。

それならその少尉も、一ヶ月に一度訪ねて来るのですか？

うん。

少尉はハルモニがハルビンにいた間、ずっと来たのですか？

いや。二年くらい来た。自分の家に行ったのか、分からない。除隊したのかも



>>> 慰安所の前で順番を待つ日本軍。

村瀬守保『私の従軍中国戦線』、日本機関紙出版センター収録写真。

知れない。

軍人は皆、軍服を着て来るのですか？

そうだよ。軍服着ない軍人はいないだろう？

服を着替えて来る軍人はいませんか？

いや、いない。みな幕舎の軍人たち。向う側に兵舎があって、あちらにもう一軒あって、真ん中に私たちがいる。

部隊が近くにあったのですか？

そうだよ。近くの山の斜面にある。ぐるりと廻った、向う側の急斜面にもある。

そこで訓練するのですか？ 戦場にもそこから出かけるのですか？

弾丸が飛んで来たら、戦闘が始まるだろう。そこが戦場になる。

爆撃して戦争が起きたのは見なかったのですか？

見なかった。そこでは戦闘が起きなかった。爆撃に備えて、防衛のために駐屯していたようだ。でも飛行機が爆撃に来ると、驚いてみな火を消す。「少しでも、火が見えてはいけない」と。

犯されなかった人などいない。

ああ、誰がそれを防ぐ。昼も夜も…。

管理者はどんな人でした？

日本人だ。朝鮮人はいなかった。絶対入って来れないし、近所にも住んでない。日本人しか暮してない。私たちが接待するのは、軍人だけ。

管理者を何と呼ぶのですか？

「何とかさん」と呼ぶ。

管理者は何人いましたか？

何人…。二人だ。食事の仕度するのと、火を焚いたりするのが。

男ですか？

男だよ。

その人たちは軍人ですか？

軍人ではない。

管理する人の地位は高いのですか？ 憲兵が高いですか？

憲兵が高い。管理者は軍人と級が同じ位。

どうして判るのですか？

星を見たら判る。星がひとつ、二つ、三つ。それ見たら判る。

管理人にも星があるのですか？

星をつけたり、つけなかったりする。部隊の中で管理人やお手伝いの人を、日本語で「軍属」と言うじゃない。

ハルモニを管理する人とお手伝いは同じ人ですか？

そうだよ。そういう人たちだ。

ハルモニを管理する人も「軍属」ですか？

そうだ。軍人と一緒に出入りする。われわれが部屋にいと、鐘を鳴らして「飯を食え」と大声で叫んでまわる。ご飯食べに行く奴は出て行くが、食べない奴は行かない。

食堂が別にあるのですか？

部屋だよ。食堂なんてどこにある。部屋に長い板を置いて食べる。おかずなんてホンの少しで、それが一皿ずつ。カチカチに凍って、味もまずい。満州の原っぱで、飯もまともに食べられなかった。満州に行った人に、聞いてみな。寒くて、

キムチもカチカチに凍って、味などしない。水っぽい白菜の葉っぱ、枯れそうなのを漬けて、カチカチに凍ったキムチ。肉の汁、一杯くれない。他に何も無い。買って食べる所もない。

管理する人も一緒に食べるのですか？

食べるのを見てない。あいつらはあいつらで食べたのだろう。

管理人の年齢はどれ位でしたか？

年寄りではない。若い。30を少し越えたくらい。

病気にかかったことはありませんか？

病気は一度もかからなかった。用心して、「サック」をしたから。日本人は徹底しているよ。検査して病気だと、軍人を取らせない。

検査はどこですのですか？

検査するための家がある。病院のような所に、医者が来る。台に上って足を広げて、機械のようなものを入れて検査する。すべて見る。

家は遠いのですか？

歩いて行く。そう遠くない。

検査する日があるのですか？

ある。一ヶ月に二度、半月に一度ずつ。

そこにいる女は皆、一緒に行くのですか？

一緒に行く。およそ50人になる。上の家からも。翌日、行く子もいる。

すると検査の日は家が空ですか？

そうだよ、検査するから。検査する人は、偉い人のようだ。軍人だ（軍医のこと）。検査の間は客を取れないが、検査が終ればまた軍人を受け入れる。入れて、入れて、入れて、常に。それが仕事だ。ああ今、こんな体投げ出しても、金くれるかい。客から紙切れ一枚貰うと、お金くれる。でも、お金貰っても、使うところがない。どこか行って、買って食べる店もない。ある子は「片づけろ」と怒鳴りちらし、「〇〇の奴ら」と韓国語で悪態をつく。乱暴な子はそうやって、ぎゃあぎゃあ大声で騒ぐ。「おい、〇〇の奴。人が死ぬと言っているのに」。乱暴な子はそう言って飛びかかるが、口だけだ。そうやって犯されたことのない人には、わからない。やられた人なら、わかる。誰がそれを防いでくれる。昼も夜も…。メンス(月経)があると、受け入れない。

受け入れないと、何をするのですか？

じっとしている。部屋で座って、横になり寝る。どこか他に行く所があるかい。

外出は全くできなかったのですか？

外出は誰もできなかった。

着る服が足りなくなったら？

なくなっても放りっぱなし。着ている服のまま、買いに行ったりしなかった。なくなれば、軍人が持って来る。どんな服着ていたのか、ろくに着られなかったか、それも忘れた。服3、4着あれば、数年着る。買ったこともないし、売る店もない。こんな戦場に店があるかい。

化粧もしませんでしたか？

化粧品もない。

化粧する人はいなかったですか？

いなかった。「クリーム」一つくれて、それを塗って。化粧もしなかった。

クリームは誰がくれるのですか？

日本人の「兵隊さん」が一つずつくれる。兵舎から石鹸を持って来てくれる人もいて、乾パンもくれた。乾パンが一番美味しかった。近くに店もないし、「兵隊さん」から毎日もらった。将校からは、「可哀想だ」とお金を貰った。中には、良い人もいた。「どこに住んでいた」、「なぜ来たか」と聞く。私は「お前たちのせいであつた」と答えた。

「着物」を着ている人も化粧しなかったのですか？

化粧しなかった。塗る口紅もない。「クリーム」という、変なのをベタベタ塗る。他人が化粧するのを見たことがない。部屋にはいつも軍人がいて、他人の部屋には入れない。若かったから、顔を洗っただけで化粧はしない。軍人たちも、何も言わない。若くて齢がまだ15、6歳、何が判る？

歌ったり踊ったりしませんでしたか？

しなかった。私たちは純真な子たちだけがで、歌は一度も歌えなかった。歌う人もいなかった。酒飲む人もいないし、飲む所もない。

ハルビンの天気はどうでしたか？

寒い！カチカチにすべてが凍りつく。飯もいつも凍った。麦飯のような訳の判らないもの、「食え」とくれても、食べられなかった。おかずもなかった。

腹が減って困ったでしょう？

そうだよ。将兵が持って来てくれた乾パンをモグモグ食べる。心優しい人も多い。

季節が変わるの感じましたか？

うん。それは分かった。あそこは夏でも秋のようだった。夏も朝鮮のように暑くならない。秋になると、もう寒い。一番寒い時は、何でもすぐ凍ってしまう。だから外に出られないし、慰安所にいる。外にどこか行く所があるかい。

親しかった人はいますか？

「ヨシコ」と、一人は「チュンジャ」だが、「ハルコ」と言ったか。

「ハルコ〔春子〕」は朝鮮語で「チュンジャ(春子)」ですよ。「ヨシコ」は朝鮮語で何と呼ばれていましたか？

そう、「チュンジャ」。親しかったが、「ヨシコ」は朝鮮名で何だったか、毎日日本名だけで呼んでいたから思い出さない。私より一歳年上で、体がとても悪かった。メンスになると、お腹が痛くて大変だった。一日に十人も受入れて、もう死にそうだった。「ヨシコ」は毎日、痛がった。小学校卒業したばかりで、人も可愛いかった。

どんな話をしましたか？

あんな話、こんな話。朝鮮にいる母と父は、どうしているか。すると会いたくなって、泣く。互いに慰め合った。

「ヨシコ」と「ハルコ」はどうして来たのですか？

あの子たちも「捕まって来た」と言っていた。

ハルモニと一緒に来たのですか？

そう。同じ汽車に乗って来た。ああ、ヨシコはもう死んでしまっただろう。死んだよ。

帰る時、一緒になかったのですか？

帰りは一緒に来なかった。何人かが集まって、あちらはあちらで私は別の人たちと帰った。一緒に帰ったら良かった。二人で来ても、別れてしまったりした。一緒に帰ろうとしても、人が多くて、汽車の上にも下にも人がいた。混雑した汽車を乗り換えると、また違う汽車に乗る。先に乗った人が優先だから、みなバラバラになってしまった。私たちはまっ直ぐ朝鮮に戻ったが、何人かは日本人と一緒に日本へ行ったようだ。齢の多い人の中には、日本語も上手で星三つの将校たちが好きになり、「私、日本に行って暮す」と言う人もいた。その人たちは日本に行ったのだろう。

少尉はハルモニに「日本へ行こう」と言ってくれなかったのですか？

あんな人が、私のような女を連れて行くかい。

日本に行った人もいるのでしょうか？

「着物」着ていた年上の人たちは、ついて行った筈だよ。私のような幼い子でなく齢の多い人、一番年上は20歳。

年上の人たちを、何と呼びましたか？

普通に「姉さん」って呼んだ。年上の姉さんの中でも、性質の良い人は良くて、悪い人は悪い。中には気性の荒い人や激しい人もいる。力が強くて、激しい人が人を指図する。

ハルモニはどうでしたか？

私はとてもおとなしかった。愚かで顔も上げられなかった。初めて軍人を受け入れた時、どうしたら良いのか判らなくて、初めてというのが、奴らにわかるというんだ。「新しいのが来た。朝鮮の女だ」と、軍隊で噂がぱっと広がった。み

なに知れ渡った。それでやたら押し寄せて来る。一日に十人も体験する時もある。それであの部屋、この部屋と逃げ回って泣き叫ぶ。朝鮮へ帰ることもできないし、どこか逃げ出す所もない。

逃げようとしませんでしたか？

逃げる所がない。捕まれば死ぬ。

逃げた人はいますか？

いない。逃げられない。奴らのがっちり守って、部屋ごと毎日調べる。

誰が、ですか？

管理する日本人だよ。そこで私たちを処理する日本人だと言っているだろ。

どんな人ですか？

どんな人なのか知らない。部屋ごとに毎日調べる。軍服着た奴も来る。逃げるかと、監視する奴も多い。

そんな人たちを何と呼びましたか？

名前で呼ぶ。

思い出す軍人の名前ありますか？

思い出す名前はない。「兵隊さん」と呼ぶだけだ。一等、二等兵、上等兵、それから中尉、少尉。大尉なんて人は来ない。来ても地位が高いから、すぐに行ってしまう。大尉が一番高いんじゃないか。

軍人の階級、判りますか？

星、見たら分かるだろう。

偉い人はなぜよく来ないのですか？

知らないよ。知りようがない。世の中、そうなっている。私が満州に行ったことなど口に出せない。なにを話せと言うんだ。

日本人は、「お前らはお前らで勝手に行け」
と去ってしまった。
私たちは解放されたのも知らずに

ハルモニは解放まで、ずっとそこにいたのですか？

ずっとそこにいた。大体4年位いたよ。解放されたから、直ぐ帰ろうとしたが、服の一つもない。お金もない、あの罰当たりの奴ら、お金をくれない。

お金でなくても、票のようなものはくれなかったのですか？

票はたまにくれたけど、毎日はいくれない。私たちを管理して指導する人たちに、貰った票を持って行くと、お金を少しだけくれた。

票と交換にお金を貰えたのですか？

そうだ。うん。

票一枚で、お金がどのくらいになりました？

千円だったか、分らない。くれない奴もいた。

くれないのに軍人を受け入れるのですか？

知らない。軍人を接待する仕事が「義務」だと。貰えた人は貰って、貰えなかった人は貰えない。くれないものを、「くれ」と言っても無駄。

「義務」というのは誰が言ったのですか？

管理する奴らが言った。

近くの部隊も4年間、ずっとそこにいたのですか？

そう。ずっとそこに部隊があった。人が出て行くと、また別の奴が来る。そしてそこをずっと守っている。

解放はどうやって知りましたか？

解放？ 軍人が来なくなったから。一人も入って来ない。なぜか誰も来ない。みな、日本の家へ帰ってしまった。その内、管理する人たちも知ったようで、「お前ら皆、出て行け」と言う。どれくらい嬉しかったか。それで帰って来た。本当に苦労した。そんな話、うちの弟には一言もしなかった。

管理者はどこへ行ったのですか？

どこへ行ったのか、誰が知るか。私たちは解放されたのも知らなかった。一ヶ月位したら軍人から、「解放された。お前らはお前らで、勝手に帰れ」と言われたが、お金もない。汽車は皆で一緒に乗った。何とか朝鮮に帰りたい、行って母に会いたいと。母も娘を送り出して、どれだけ心配していることか。私たちは私たちだけで帰った。汽車が来たら、みな男たちでぎっしりだった。中に入れないから、汽車の外につかまった。知っている人なら、そんな光景が想い

浮かぶだろう。苦勞して何日もかけて帰ったのが判るはずだ。連れて行かれた時は、どこがどこだか分からなかったが、奉天まで着いた。お腹が空いて、死にそうなのに飯もない。真っ黒なパンだけ貰った。

汽車に乗るにはお金が要ったのでは？

金がどこにある。お前も俺もと、滅茶苦茶に乗るのに、金なんて知らない。

お金なくても無料で乗れたのですか？

そうだ。目茶苦茶だった。その時はそんなだった。

汽車に乗って、どこまで来ましたか？

汽車に乗って奉天で乗り換えて、新義州(シンウィジユ)〔朝鮮北西部、中国との国境の町〕まで来た。そこでまた乗り換える。とにかく家に戻るには、汽車に乗らないと。

新義州に行く時もお金出さなかったのですか？

金は出さなかった。解放後は、やたら集まって乗ることだけが一番なのに。

歩いて帰る人はいませんでしたか？

知らない。歩いて帰った人がいたかなんて、分からない。

パンは誰がくれたのですか？

旅館でくれた。皆でやっと、新義州まで来たのに、南に行く汽車がない。それでそこで一晩寝たら、真っ黒いパンをつくれた。でも私は、「そんなの食べられない」と言った。

帰って来る時、服装はどんなでしたか？

帰って来た時、忘れた。下は黒くなくて、上は少し黒かったのか、白ぼかったのか分からない。

薄い服でしたか？

解放されて、秋になって必死に帰って来た。家に戻ったら、「死んだ人が生き還った」と、大騒ぎになった。金も服も、そんなの何もなかったが…。最近、離散家族探しの放送を、一度も欠かさずに観る。観ると、いつも泣く。今日もどれだけ泣いたか。

その時、お母さんに再会したのを思い出すのですか？

そうだよ。

ハルモニがどこへ行ったか、知っていましたか？

あんな所へ行ったことくらい、分かるだろう。「捕まって行った」と、大騒ぎだったから。母は毎日泣いて暮らしていた。

お母さんはハルモニを見た瞬間、何とおっしゃいましたか？

「生きて帰って来た」と泣き出した。「あいつら、殺したい奴らだ」と。その頃はみな、私だけでなく、同じ年頃の男たちも、皆徴用に連れて行かれた。だから残った者はほとんどいなかった。農作業していた人も供出された。

日本人に良心があるのか。何でもみな持って行く。何も無いのにやたら選んで、真鍮の器も持って行く。

家に帰ってから、お嫁に行かなかったのですか？

嫁には行かなかった。もう、あれをするのが嫌で、身震いする。あのことが恨

みになっている。太腿のつけ根の両側が、痛くて死にそう。毎日、みっともなくここを開くだろう。ここが痛い。

60年も経ったのに、そんなに痛むのですか？

ああ、病気が治るかい。重い病気で、歩くのも大変だ。少し歩いただけで、力がなくなる。ズキズキして、ここが痛い。

申告しましょう。テレビでハルモニのように満州行ってきた人、見ましたか？

見たよ。ああ、私がこの歳で、醜い。弟が「姉さんが可哀想だ。私が申告しましょうか」と言われても、もしかして顔が出るかと思って言えない。無理矢理連れて行かれたことは分かって、そこで実際何があったのか知らないだろう。あんな場所で働かされて、軍人の服を縫って、無理矢理に男たちの相手をさせられる。嫌がっているの、眼でわかって欲しいのに。

嫌だと、顔に出さなかったのですか。

出してどうなる。大きな声は出せない。前は顔も上げられなかった。

ハルモニの過ちではないでしょうが。

過ちでなくても、みっともないじゃないか。最近の女の子だって外出して強姦されたら、「お嫁に行けない」と話さないで隠すだろう。

話せない世の中が悪いのに。

弟が、もう私が齢だから「姉さん、恨を晴らしましょう。すっきりさせましょう。」と言う。でも今さら、恨を晴らして何になる。申告しても自分の顔は出たくない。私、まだ処女だよ、あの時、ああした後、男とはもう再びしたくな

い。あそこで、どれくらいしたことか。

人に「嫁に行け」と言われると、内心、殴りたくなる。私は罪が多いのは、連れて行かれて、そうなった。満州がどこで、奉天がどこかも知らないのに。昨日も説法で、「心を優しくしろ」と、「昔の悪いことはみな捨てろ」と言われた。私が死んだら「何とか救って」と、仏様に願わないと。

面談日: 2005年 3月 23日 / 2005年 4月 4日

面談者: 姜ヒヨン、朴チョネ

録音文入力: 尹智炫

録音文編集: 尹智炫

録音文校正・校閲: 尹智炫・李宣始

◆ 面談後記 ◆

口述資料の利用許諾を貰うために、ハルモニの被害内容を知る唯一の家族である弟さんに電話をした。B〇〇ハルモニは生存しておられたが、健康がとても悪かった。委員会に被害申告するように積極的に勧誘し、申告と調査を助けてくれたハルモニの弟さんが、ハルモニの代わりに同意書を作成してくれた。ハルモニは弟に「お前がしたいようにしろ」と言って、口述資料利用を暗に許諾して下さった。弟さんは「特に、日本人が歴史的な痛みを知るべきだ。」と、姉の話の本で出すことを快く同意してくれた。

〇〇〇 1920年生れ

- 1938年頃、 慶北大邱から動員される
釜山から山口県に移動、台湾を経由してシンガポールに移動
シンガポール、ティモール島、マレーシアのクアラルンプールで
日本軍慰安婦生活
- 1945年 8月 8日 解放後、 クアラルンプールから釜山へ帰国
(正確な帰国時期や経由地は憶えてない)

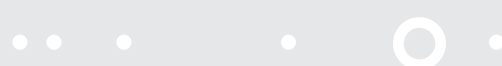
動員経路





第4話

哀れさは言い尽くせない、 利用されただけだ。



〇〇〇 1920年生れ

1938年頃、 慶北大邱から動員される
釜山から山口県に移動、台湾を経由してシンガポールに移動
シンガポール、ティモール島、マレーシアのクアラルンプールで
日本軍慰安婦生活

1945年8月 クアラルンプールから釜山へ帰国
解放後、 (正確な帰国時期や経由地は憶えてない)

服を縫って、借金を償えと。すべて借金だらけ。

親が私を嫁に出そうとしたのに、私が「行かない」と言って、逆に被害に遭った。大邱の寺にいたら、私に「どこ、どこへ行こう」と言う人がいて、「日本へ行こう」という話だった。それで18歳の時、ついて行ってしまった。

誰が言ったのですか？

名前も知らない釜山の男が、私を利用した。「金儲けになる」と言うから、ついて入ったのに、下関で船から降りたら、別の人が引き継いだ。

釜山の男は知っている人でしたか？

知らない人だった。「金儲けさせてやるから行こう。工場に就職させてあげる。」と言われて、ついて行ったんだ。

何の工場へ、ですか？

何の工場なのか誰がわかる。説明してくれないのだよ。でも行ってみたら、違った。私は何も知らなかった。バカだった。

季節はいつでしたか？

分らない。何月かも分らない。古い服をすっかり脱がして、買って着せてくれた。

誰が？

その男が。

どんな服を買ってくれたのですか？

洋服買って、「着ろ」と言う。ところが、それがみな借金だった。朝鮮の服、みな脱がして全部、洋装させた。そして「借金で払え」という話になった。

借金を誰に償うのですか？

引率する日本人に償う。今考えたら、釜山の男はその日本人と約束ができていたようだ。私たちに服を買って着せたら、いなくなった。

釜山の男は何をする人ですか？

知らない。釜山で列車から降りて、友だち4人一緒に、食堂で夕飯を食べた。夜10時の連絡船に乗ったが、下関でその男はどこかに行ってしまった。もう何日か下関で過ごして、汽車に乗り、山口で降りた。行ったら、女が多くいた。

釜山から、他の女も一緒だったのですか？

釜山からは友だち4人と私の5人。

釜山で船に乗る時、何か証明見せましたか？

ない。引率の人が先に立って、説明してから船に入るの…。私たちは証明なんて知らなかった。連絡船に乗ったが、船酔いで死にそうだった。息もできなかったが、「薬を飲め」と言われた。

下関から山口まで、誰が連れて行ったのですか？

日本人が引き継いで連れて行った。

山口に女が何人いたのですか？

20人以上。朝鮮の女が多かった。女たちが逃げ出して…、やたら泣いていた。

なぜ泣くのですか？ 女たちがどうやって来たのか話をしましたか？

怖くて泣くんだよ。その時は互いに知らないから、話はしなかった。心配で、心配で、どうなるか判らなかった。「朝鮮に帰してくれ」と言って、私が一番多く泣いた。

山口では何をしましたか？

3、4日間はじっと待機していた。船に何日か乗って、台湾で降りた。少しして台湾からシンガポールに向かった。

何日間、どう過ごしたのですか？

山口の旅館のような所で、飯を買ってくれた。その年寄りの家だったようだ。下でご飯を食べたら、「2階に行って寝ろ」と言われた。

年寄りって誰ですか？

私をシンガポールに連れて行った日本人だよ。

その人の家だと、どうやって知りましたか？

私たちを食堂のような所に連れて行って、ご飯食べさせたから。

台湾にどれくらいいたのか、憶えていますか？

日本から船に乗り、台湾で降りた。何も知らないたら、ただ旅館で船を待っていたら「船が何日にある」と言う。そうしたら今度は「シンガポールへ行く」とか。シンガポールがどこなのか知らないが、「ついて来い」と言われたら、ただついて行くしかない。台湾からシンガポールへ行く船には、日本人がたくさん乗っていた。

そこが台湾だと、どうやって知りましたか？

旅館に何日かいたら、人々が「台湾だ」と言うので分かった。表に出ると台湾の女たちが多くいて、買物に行ってみたら、日本語上手だったよ。日本が台湾を朝鮮より先にぶん取ったから、私たちよりずっと上手い。

台湾で何を買いました？

主人と一緒に出かけると、食べもの買ってくれ。

お金は誰が出すのですか？

主人が買ってくれた。今考えたら、それがみな借金になった。

主人のことを、何と呼びましたか？

「おじさん」と呼んだ。私が「何か買って来る」と言うと、お金をくれる。それがみな、借金になった。よく考えたら、そいつがその金で儲けたんだ。

その主人って誰ですか？

山口で会った、二人の日本人。他に「シンガポールに行って商売する」と、闇で船に乗る日本人もいた。申請しないとシンガポールに行けないから、隠れて行く。

ハルモニはなぜ隠れずに、船に堂々と乗れたのですか？

引率の人がいるのになぜ、私が隠れるの。隠れる男は証明がないからよ。証明は私たちを連れて行く、日本人の主人がする。何も知らないのに、私がどうやって証明するのよ？

証明するには、ハルモニの書類が必要ではないのですか？

主人が自分たちで、「この人たちが船の下に入る」と言って、その日本人の主人が皆、する。私たちが何をするの、ただ主人について行くだけよ。

全部、軍人相手。何度も死のうとした

初め山口で会った朝鮮の女も、シンガポールと一緒にいったのですか？

うん。およそ20人になった。シンガポールに行ってみたら、工場などなかった。全部、軍人が相手で、私は逃げようとしたが、捕まった。人がそんなこと、できるかい。死ぬよ…。ひとりに一つずつ部屋を渡し、「お前はこの部屋だ、そいつはこの部屋だ」と、一つずつぶち込む。どこに行っても軍人が相手で、民間人は一人もいない。軍人がずっと並んで立っている。この部屋、あの部屋と、一人出て行けば、また一人入って来る。

シンガポールに行って直ぐ、部屋を貰ったのですか？

皆、貰ったよ。泣く女がとても多かった。

部屋の様子はどうでしたか？

部屋にはタンスもなく、蒲団とカバンだけ。化粧品の箱一つと服のカバン一つで全部。木の底に蒲団だけ敷く。家はコンクリート造りだった。

シンガポールへ着く前は、どんな仕事が全く知らなかったのですか？

知らなかった。どこへ行くのかもわからなかったし。

途中、心配でなかったですか？

主人に「行こう」と言われるまま、ただついて行っただけよ。一人ではなく多数で行くから、途中で色々聞きはしたが、何も分からなかった。シンガポールに行くと、朝鮮の女がたくさんいて…。「なぜ、来たのか？」と言われた。



》》 シンガポールセントサ島の昔の慰安所の跡。委員会が現地調査時に撮影。

シンガポールに着いて直ぐ、軍人に会ったのですか？

逃げ出したから分からない。でも行く所もない。主人が人を使って捕まえる。軍人が入って来るのが怖かったから、軍人を避けて逃げた。いちばん最初は気絶しそうで、大泣きした。「朝鮮に帰してくれ」と訴えた。昼間は軍人がごった返して、立って待っている。私は扉を閉じて出なかった。扉を開かなくても、一回、二回と入って来る。夜になると将校、地位が高い奴が来る。夜は、兵士たちは来られない。私が泣くと隣から、「泣くな、泣くな」と慰めてくれる。皆話すのが、恥ずかしくて…、死のうと何度も思った。一緒にいた女は一人、自殺した。軍人相手にした後、薬飲んで自殺したが、死んだ後は、火葬してしまった。

薬をどこで手に入れたのでしょうか？

内緒でしょ？ 隠しているから、そんなこと教えてくれない。真っ赤な薬、呑み

込むと死ぬそうよ。毎日、軍人が「並び」に立って入って来る。そんなの相手にするくらいなら、死んだ方が楽だ…。軍人とは私も「嫌なことは嫌だ」と、喧嘩をたくさんした。

喧嘩して、殴られませんでした？

「泣くな。泣くな。」と軍人が慰めてくれた。その頃、まだ幼くて世の中のこと、何も分からなかった。気が狂いそうだった。そんな話、どこでする。

シンガポールに女たちがたくさんいましたか？

この部屋、あの部屋とたくさんいた。日本の女もたくさんいて、日本の女たちとも喧嘩した。九州の女が「朝鮮人、朝鮮人」と言う。私は「半島人」と言われても大丈夫だったが、「朝鮮人」という言葉が嫌いだった。一度殴ったら、「チョウセンジン〜、お前ら、唐辛子食って、ニンニク食って」とやたら罵る。「お前らが私たちの土地奪い取った。私たちがお前らの土地奪ったか」と殴りかかった。それが「朝鮮人に殴られた」と告げ口されたようで、憲兵の耳に入った。憲兵が追いかけて来たので、歩哨に立つ日本人から「バカ野郎、バカ!」と言われた。他の日本の女は優しくかった。皆同じ運命だから、互いに可哀想に感じていた。「我慢しろ」というのよ。ああ私はもう、こんなこと考えたくない。

日本の女がたくさんいたのですか？

いたけれど、日本の女より朝鮮の女が多かった。日本の女は年上の人が多くて、朝鮮の女はみな若い。年老いた日本の女は、後で送り帰してしまった。

休日がありましたか？

休日なんてなかった。日曜日は休みの日だから、軍人がたくさん来る。また私に「日本軍の慰問をしろ」と「踊れ」と言う、それも日本の踊りを。将校が宴会

する時に、私たちも行って舞台に立つ。

宴会で何ををするのですか？

将校が酒飲む席で、「踊れ」って言う。私と朝鮮の女二人に、日本の女が踊りを教えるのよ。「着物」着て、化粧して舞台に出て行って踊ると、将校たちがどっと出て来て、やたら「踊れ、踊れ」と囃す。

誰が踊りを教えるのですか？

日本の女が、三味線をベンベンと弾きながら私に、「こうやって憶えろ」と教える。何でもやったが、もう忘れた。何も話せない。

宴会はどこをするのですか？

ジープに乗って、劇場のような所に連れて行かれた。劇場に行くと軍人がギッシリといた。

なぜハルモニに踊らせたのですか？

若い者だけ選んで教えた。日本の女とみな一緒に、「着物」を着て踊る。人が足りないから、穴埋めさ。

踊りに行く日が別にあったのですか？

分からない。ただ言われたら出かける。「三味線」を教えるおばあさんに、「今日、舞台に出なさい」と言われると行く。そのころ私は、背が高くてやせていた。

ハルモニはそこで何と呼ばれていましたか？

私をみて、日本語で「とみちゃん」と呼んだ。

軍人は金を払うのですか？

軍人は主人から票を買ってするのよ。軍人がいくら払うのか、自分がいくら貰ったのかも判らない。私が貰った票を主人に持って行くと、いくら儲かったとか記す。お金を貰ったことはない。全部借金になって、差し引かれるとお金はない。

その票に何か意味があるのですか？後でお金に替えられますか？

替えられない。そのまま記しておくだけ。その票を5枚、7枚と持って行くと、いくらとか言って主人が帳簿に書く。借金を減らすことになるから。

妊娠した人もいましたか？

子どもはできない。1人いたが、子どもが死んだとか。消毒水で洗い落とすから、子ども持つ人はいない。



≫≫ 検診を受けに行く中国上海の慰安婦(1938年1月2日毎日新聞提供写真)、
『「慰安婦」、戦時性暴力の実態 I -日本・台湾・朝鮮編』、緑風出版、2000、195頁。

妊娠しないように、消毒水で洗うのですか？

便所に行くと、薬を水道水に混ぜたのがある。一人送り出したら洗いまくって、また一人送り出したら便所に行って、消毒水で洗い流す。だから妊娠した人いなかった。

病気にかかる人はいなかったですか？

病気にかかる人はいたよ。それで一週間に一度ずつ、必ず診察する。

一週間に一度、どこで検査するのですか？

病院へ検査しに行って診察する。軍人が病気にかかるかと思ってか分からないが、検査を徹底的にする。

妊娠しないように軍人が、何か持ってくるのですか？

何も持って来ない。サックは一缶ずつ、部屋にある。「サック」は全員使わないと駄目。しなければ、「出て行け」と言う。私は足で蹴って、そうした。

他の病気にはかかりませんでしたか？

シンガポールでは、マラリアにたくさんかかる。マラリアだと家で治療できない。熱が凄くあがって、入院する。私もマラリアにかかって、熱が出て寒気がして入院した。死にそんな苦労を、たくさんしたよ。話をいちいち、みなはできない。

入院費はどうしたのですか？

主人がみな出す。そして借金にしてしまう。何もかも一切が、借金だ。「服を買え」と言って、借金を背負う。そうやってシンガポールから、ティモール島という所に送られた。女たちも何人かはシンガポールに残しておいて、連れて行かれた。

島で人もいない。海に出て泣いた

ティモールはどんな所でした？

ティモールというのは島で、海辺があって、人もいない…。夜になると獣が鳴いて、そんな所。外に出ると、海辺がある。海へ出て行って泣いた。人もいない。ティモールの人など、見たことなかった。軍人しかいない、本当に山奥だった。日本の軍人だけでギッシリで、人は余り住んでいない島だよ、島。村に住む人も見えない。そこも戦闘が激しくなって、連れ出された。

なぜティモールに連れて行っただのですか？

軍人の相手だよ、軍人相手。あんな島に何しに行く。ティモールでは急斜面に、椰子の木で粗末な家がごちゃごちゃ作ってある。部屋はおよそ十個位。草で編んであって、虫やカエルなんか入って来た。

ティモールではどんな服を着ていましたか？

皆、ワンピースのようなのを着た。

軍人はどこにいましたか？

軍人は戦闘するのだから全員いる。軍人のいる軍隊には、私たちは行けない。軍人たちが出て来る。将校は夜来て。

シンガポールに何年いてから、ティモールに行ったのですか？

憶えてない。シンガポールに何年かはいた。逃げようとしても、誰も知っている人がいない。シンガポールから突然、女たちを半分程残しておいてティモールに連れて行かれた。私の友だちも後に来ることになっていて、日本人がその友だ



》》 マレーシア、マラッカ市内の西側海岸、慰安所の建物。

東北アジア歴史財団、『日本軍「慰安婦」とナチスドイツ収容所の強制性労働』、
2007年、43頁収録の写真。

ちを連れに行った。ところが途中で、爆撃に遭って死んでしまった。その子と私は、飯を分かち合ったりして親しかった。後で「なぜ来ないか」と聞くと、「爆弾に遭って死んだ」と言う、… 哀れで、話せない。ただ利用されただけだ。ティモールでは戦闘が酷くなって、後退させたようだ。私たちが出てくるのに、爆撃に遭うからとても用心した。出してからクアラルンプールで解放になった。クアラルンプールで日本人が、「戦争負けた、戦争に負けた。」とオイオイ泣くんた。船に乗ったが、誰が乗せてくれたのか、日本の船なのか何なのか分からない。乗って、冬に釜山で降ろしてくれた。解放になって出てくることは出てきたが、苦勞した話はしたくない。

初めて行った時から解放されるまで、同じ主人でしたか？

うん。解放してくれない。

釜山に来る船にどうやって乗ったのですか？

クアラルンプールにいて突然、解放されたが、釜山に誰が連れて行ってくれたのかわからない。釜山でどうやって降りたのかもわからない。

クアラルンプールからまっすぐ釜山に来たのですか？

分らない。主人はいなくて、朝鮮の女たくさん乗っていた。クアラルンプールで船に乗って、どこで船を乗り換えたのか…。記憶があまりない。船から見ていたら「釜山だ」と言われた。

クアラルンプールから出たのは、軍人に初めて会ってから何年目ですか？

およそ7、8年経っていた。シンガポールにいたし、ティモールにも数年いた。クアラルンプールにもいた。

ご両親は、ハルモニが海外に行っていたのは、知らなかったのでは？行方不明だった娘が、生きて帰って来たので喜んでくれましたか？

たくさん捜しまわったそうだよ。けれど「連れて行かれた」という噂を聞いていたようだ。帰ると母は、私の体を捕まえて泣いた。父の所に行ったら、「出てけ」と言われた。父は、行く前はそうでなかったのに。それで親戚の家に行って横になって寝ていたら、父が来て、やたら私の頭を触る…。父は私が帰って直ぐに、病気にかかって死んだ。

その間にあったこと、話されましたか？

そんな話、親にはできなかった。兄弟も知らない。ただ「連行された」、それだけで分かるだろう。今は60年も経ったから、日本語もみな忘れた。帰って来た時は、逆に朝鮮語がよくできなかった。誰かに何か言われても、弁明する方法も知らなかった。私をみて、「日本の女」と言うんだよ。今はもう、60年も韓国

で暮したから、少しはマシだろう。逃げることもできず、たくさん苦労したよ。
死のうともした。私は「処女だ」と…。結婚もできずに暮らした。いちいちみ
な、話すことはできない。

面談日: 2005年3月2日

面談者: 姜ヒヨン、朴勝美、朴チョネ

録音文入力・編集: 尹智炫、

録音文校正・校閲: 李宣始・尹智炫

◆ 面談後記 ◆

口述資料利用の同意許諾を貰うために、Ｃ〇〇／ハルモニの弟に連絡した時、ハルモニは「既に亡くなった」という知らせを聞いた。ハルモニの弟さんはハルモニの被害内容を知る唯一の家族であり、委員会に被害申告をする時も書類準備と申請手続きをしてくれた。結婚もできずに、被害内容を周囲に一生隠して来たハルモニに、「恨を解くべきではないか」と言って申告を勧めたという。

ハルモニの弟は同意書を作成して、姉の痛みに対して淡々と語ってくれた。ハルモニが調査過程で被害内容を打ち明けられたことと、ハルモニの話が本に作られることがハルモニの「恨解き」になれば良いと、口述資料利用に同意してくれた。

* 1920年生れのＣ〇〇／ハルモニは、本人が18歳の時(1938年頃)、日本と台湾を経てシンガポールに動員されたと記憶していた。シンガポールが1942年2月日本に占領された点を考えると、ハルモニの陳述は歴史的事実と合わない。これと関連して委員会は、本人の陳述と申告時に提出した写真から見て、「日本軍慰安婦の被害事実は確実」と判断した。Ｃ〇〇本人が高齢のせいで、動員当時の年齢や移動経過などを混同して陳述した可能性がある。

〇〇〇 1925年生れ

- 1943年春、 ソウル(当時は京城)で動員され、釜山に移動
釜山で一月間留まった後、船に乗り台湾経由でシンガポールへ移動
シンガポールで1年間日本軍慰安婦生活をし、
- 1944年頃、 ビルマ(現ミャンマー)に移動
ビルマで1年間、日本軍慰安婦生活
- 1945年、 ビルマで解放を迎え、同年10月頃、釜山に帰国

動員経路



第5話

日本人のせいで行ったんだ。

DOOO 1925年生れ

- 1943年春、ソウル(当時は京城)で動員され、釜山に移動
釜山で一月間留まった後、船に乗り台湾経由でシンガポールに移動
シンガポールで1年間日本軍慰安婦生活をし、
- 1944年頃、ビルマ(現ミャンマー)に移動
ビルマで1年間、日本軍慰安婦生活
- 1945年、ビルマで解放を迎え、同年10月頃、釜山に帰国

「外国へ行く」、「軍人の服を洗濯して、
看護婦の仕事もする」と言われて

シンガポールに何故、行くことになったのですか？

私の父が道楽者だったので、母は私一人を産んで離婚した。父は大きい精米所をしていて、毎日、穀物を挽きに通っていた。私は幼い時から、叔母に育てられた。ところが私が16歳の時に、叔母と伯母が無理矢理、嫁がせた。私の嫌いな奴だったから、夫が部屋に入って来るのを拒んだ。

なぜ結婚した男が嫌いだったのですか？

初めからその男が嫌だった。私は年齢も幼くて、結婚しても男は私の所にもあまり来なかった。近寄って来ても、嫌ってパンパン叩いた。婚姻届も出さず、一年も一緒に暮さずに、出てしまった。実家に戻れず、どうしようもなく、何とか自分で暮して行こうとした。あちこち食堂で働き、仁川の漁港の側の大きな木綿会社にも通った。

木綿会社にはどうやって入ったのですか？

新聞広告を見て。親の印鑑も要らなかった。拇印を押した。でも数ヶ月も通わずソウルに行くと、男たちが出てきて誘われた。誰がそんな風に男を受け入れて、そんな酷いことさせられると想像できる？

そんな所に行けと誘う人がいたのですか？

その時、たくさん募集していて、そんな人が多かった。それで「行ってみろ」と言ったんだろう。「船に乗って、そういう所に行け」と誘う。紹介所に送られて、そんな(働き口が)あるから、「女たちがたくさん行く」と言う。金を儲けようと、欲で(行ったのに)、そうではなく、男たちを受け入れる、そういう場所だった。そこでは、動きもできず、出入りもできない。本当に何も知らないから、そのままお金も儲けられなかった。19歳で行って23歳で出て来た。

紹介所はどこにありましたか？

ソウル。デパートの内側にあった。右側は畑で、そこが紹介所だった。そこで「洗濯もして、看護もして、清掃もして、お金、たくさん儲かる」という話をした。行ってみたらまったく、話が違う状況だった。

紹介所は大きかったですか？

紹介所は人がおよそ5、6人いて、大きくなかった。人が常に出入りしていた。でもどんな奴が出入りし、何のために行ききするのか知らなかった。そこで「そんな場所があるから行け」「金儲かる所、教えてやる」と、口を挟む。紹介所で「膳本を取って来い」と言われて取って来た。父親も知らないだろうが、(膳本)を持って行って受け付けた。

金を儲けて何をしようとしたのですか？

うん、金をあくせく儲けて商売でもして、一人で暮らして行こうと思った。それで行ったのに、待っていた運命は…。

お金をたくさんくれると言われたのですか？

「いくらくれる」とかは言われなかった。初めは、「洗濯もして、看護婦の仕事もする」と言われ。紹介所で「お前ら、羨ましいな」と言うんだ。「どうして」と聞くと、「外国へ行くから」と答える。「行って何をするのか」と聞くと、「軍人の服を洗濯して、看護婦の仕事もして」と言う。「病院に行って、薬を出す仕事」と。「行けるか？」と言われて、それで。その時は私も若くて、お金も儲けたくて行った。釜山の影島(ヨンド)橋の所に1ヶ月間、旅館で食べて寝かせてくれた。釜山でも「軍人の洗濯をして、清掃する」と言われたが、実際に行ってみたら、そうではなかった。

釜山には、ハルモニ一人で行ったのですか？

10人余りだった。紹介所から誰かが、釜山まで一緒に行った。行く時は台湾にも、何日かいた。

シンガポールに行くと、何時知りましたか？

釜山に行ったら、男が「シンガポールへ行く」と言う。業者は船には乗らなか

った。台湾で現れたのが、主人だった。シンガポールでは爆撃があるから、夜だけ進む。船には軍人が多くて、軍人がご飯をくれた。

一緒に行く女は、何人位いましたか？

15人か20人。非常に大きい軍艦だが、下の階で寝た。軍人がご飯持ってくる、それを食べた。トイレは行っても、自由に歩き回れない。

船の甲板に登ったり、しませんでしたか？

登れないようにしてある。出られないようになっている。

清掃すると連れて来て、なぜ軍人と一緒に寝ろというのか、問い詰めた

台湾に停泊した時も外出できなかったのですか？

船の甲板に出て座っていたが、好き勝手に降りることはできない。軍人たちは自由に上ったり降りたりするのに、なぜ私たちには降りられなくするのか、息が詰まる。現地の人たちは中国服を着て、渡し船に乗って行き来していた。その人たちが何か、指差して笑っていた。中国語で騒ぎ立てるのだが、聞き取れない。今になって思うと多分、「あの女たち、男とあれしに行く」と考えていたようだ。シンガポールに行ったら、男を受け入れる所に送られた。何号室、何号室と、みな書いてある。誰々は「一番に行け」。誰々は「四番に行け」と言う。自分の番号は分かるから、部屋を知って訪ねて来るようになる。シンガポールで初めは、とても泣いた。「清掃するとか、何か仕事をする」とか言って連れて来て、な

ぜ「軍人と一緒に寝ろ」と言うのか、問い詰めた。私は泣いたが、それでも仕方なかった。結婚しても、夫と寝なかったのに。初めは裂けてしまった。主人から本当に、ひどい目にあった。痛いとお泣きすると、やたら罵る。飯も食べずに「朝鮮に帰せ」と泣き叫ぶ。「洗濯するからと行った」のに、そんなバカな行動が恥ずかしくなって、ああ、恥ずかしくて話もできない。

ハルモニの部屋はどんなでしたか？

小さい。狭かった。ベッドがたった一つ。部屋がこれくらいで、ベッド一つ置いて、靴置いて、私の服は枕元に置く。蒲団は私が敷く。

ハルモニを呼ぶ名前はありませんでしたか？

私？ ミツコ。

主人はどんな人でした？

やもめ。私が男を嫌って、ひどい目にあった。ここへくる時は金を儲けに来たのに、「客を取らなかったらどうする」、「軍人だけ受け入れろ」と言う。日本の軍人、海軍ではなく陸軍。軍人の帽子かぶったそんな奴らだけ、何人も団体で来て、受け入れては帰って行く。軍人が殴ることもあるが、主人が「なぜ言うこと聞かない」と女たちに狼藉を働く。主人だけが、陳氏とかいう朝鮮の男だった。名前は皆判らない、忘れた。ひとりは凄く背が高くて、出かける時は白い洋服着ていた。そして一人は何時も、とても気さくだった。

背の高い人はどんな仕事をして、気さくな人はどんな仕事をしていましたか？

気さくな人は市場で買って来た物を部屋ごとにくれて、「これ使え」と分けてくれる。例えば私が「体が痛い」と言うと、人を連れて来てくれる。一緒に車に

乗って出かけたり、歩いて出入りしたりする。背が高い人はただそのまま座って、何か自分一人で一日書いていた。部屋にテーブルと机置いて、椅子に座って、何か毎日書いていた。たまに出て行くが、どんな仕事をしているのかは判らない。

その人たちには妻はいないのですか？

妻はいない。

近くに部隊がありましたか？

軍人の部隊があった。新しい道の向かい側に軍人たちがいた。田舎で、街中ではない。街中に行くには、馬車に乗った。票一枚貰って、軍人と「寝ろ」と言われたら寝て。朝鮮がどこなのか、日本がどこなのか、身動きできなくてされて。軍人たちを日曜日も土曜日も受け入れる。軍人は遊ぶ時間があって、よく来るようだ。

軍人は車に乗って来るのですか、歩いて来ましたか？

歩いて来る、自家用やタクシー、ジープに乗って来るのは見たことない。門の前に集まって歩いて来る。新しい道に軍人が五人、六人来る。

ハルモニがいた所を軍人たちは何と呼びましたか？

日本語だから分からない。誰か日本語で「シンマチ」とか言っていた。もう昔で忘れた。

女がいる家が近くに、まだありましたか？

ない、一軒しかなかった。

ハルモニのいた家はどんなでしたか？

平屋建てで、洋館風。物凄く大きくて、両側がずらりとみな部屋だよ。入口の側に台所があって、何号室、何号室、誰々の部屋と皆書いてある。

お金を貰ったことはないのですか？

男を相手しても、お金を私が貰うのではない。入り口で皆、払ってから入ってくる。小遣を貰ったことはない。主人が皆、記している。

軍人たちは何か持って来るのですか？

「サック」(コンドーム)を持ち歩く。「サック」と言った。平たく丸めてあって、風船のように膨らませると、こんなに大きくなる。主人の女が「これ上げたのは、男のあそこに挟めるとあげたんだ。吹けと言ってあげたんじゃない。もう、そんなことするな」と言われて分かった。洗う時は、トイレで消毒した。男が来る前に、洗っておいて迎える。

軍人は何時頃来ますか？

お昼過ぎ、2時か3時頃に来る。朝は客を受付けない。来たら晩までに終わる。12時過ぎると、みな寝る。寝て行く人もいる。番号順に部屋があって、一番なら一番、二番なら二番に「早く入ろう」と言う。入ると男と寝なければならぬ。私がサボって、そのまま出て行ったりする。すると部屋の番号探して、他に少し気にいる女としばらく遊ぶ。軍人を一日中受け入れると言っても三、四人。私は男が嫌で、「下が痛い」と言うと、塗るものをくれた。塗るとマシになった。

軟膏ではなく、他になかったですか？

消毒臭がする真っ赤な水。トイレで毎回消毒する。一カ月に二回ずつ主人が注

射した。ガウンを着た軍医が来て、子宮を検査する。「燕のくちばし」(婦人科の検診器具)で、一月に一、二度きて検査した。「痛い」と仮病を使うと、少しはサボれた。「力が抜ける、痛い」と言うと、注射を打ってくれたりした。

医者はどこから来るのですか？

病院から来るが、軍人なのか、服は白いガウンを着ている。一カ月に二回軍医が来て、子宮を見せる。私たちが病院に行ったことはない。軍人が先導して、鞆一つ持って来て、観る。異常があると、「客を受け入れるな」と言い、異常がなければ、何も言わない。下が痛いという女もいた。それ(コンドーム)「必ずはめてしろ」と言っても、しない奴もいる。それで、病院に行って[赤ん坊を]掻き出す…。

誰が掻き出すのですか？

主人が病院に連れて行って…。

何の病院ですか？

産婦人科か何か、分からないが、そこで掻き出したとか。私は経験がないから。私は、子どもはできないみたいで。子を掻き出した後は、「何日か休め」と言われる。医者が「元気だ」と言う時までは、何日か休んで遊ぶ。そのためか、麻薬の注射を打ったりする娘もいた。人の服を盗んで、売り払ったお金で注射する。「何のための注射か？ 何か病気か？」と聞くと、「病気はない」と言う。私たちが見張りして追いかけてみると、街中に出てある家に入った。病院でもなく、個人の家で注射する。「なぜ、あそこに行くのか」と聞くと、「注射すると死にそうだったのが、生き還る」とか、「気持ち良くなって、昇天する」と言う。薬で「気分が良くなって死にそう」だと、「注射打つと客を迎えられる」と。

その女はシンガポールからずっと一緒にいた人ですか？ 名前思い出せませんか？

分からない。みな忘れた。忘れた。

検査はどのようにしますか？

ベッドに「横になれ」と言われて、脚を両横にこうやって上げて広げる。子宮にこのように燕のくちばしのようなもの(婦人科の検診器具)を、中に入れる。

妊娠した人はいなかったですか？

一人、産んだ子がいた。その子は野菜売りの女に、赤ん坊を任せていた。多分1ヶ月にいくらかあげるには、金を儲けなければならなかったようだ。一日に一度か二度行って、覗いて見るそう。解放されたら(子どもを育てていた女が)、赤ん坊を連れて逃げてしまったが、その人はどこへ行ったのか。あの広い所で、どうやって探す。赤ん坊なくしたその子は、そのまま出てきた。



》》》 シンガポールセントサ島の昔の慰安所の跡。委員会現地調査時撮影。

服はどんなものを着ていましたか？

半袖で、ここに花模様のある「モンペ」、ズボン。寒くなく常に暑い地方だから、雪も降らない。シンガポールに一年いて、主人から「行こう」と言われてトラック、貨物車に乗り、遠くへ移った。

何号室、何号室、みな番号書いてあって、 写真見て女を選ぶ

移った所はどこでしたか？

ビルマ(現ミャンマー)と言った。街ではなく、田舎だよ。二度目に行った所は、2階もあって、下の階もあった。(ビルマには)マンゴーもあり椰子もあって、バナナの葉っぱにご飯を包んでおにぎりにした。野菜ものせてくれた。噛むと白い汁が出て、味が栗みたいでポリポリして、それを削ってのせた。また韓国の杏のような、黄色く熟れた実も取って食べた。

一緒にいた女たちは皆、朝鮮の人でしたか？

女たちは皆、ソウルや全羅道の女。でも〇〇から来たという子は、解放でもないのにやたら「家に帰る」と言い張ったが、戦争の爆撃でいなくなってしまった。古い話で、その子の名前も分からない。

その子には、どこで会ったのですか？

二番目の所で会った。あの子は私に良くしてくれた。私が年上だったから、「姉さん、姉さん」と慕ってくれた。私は解放で出て来たが、その子はどうい

なくなっていた。聞いてみると「朝鮮へ帰る」と駄々をこねて、突然いなくなった。ある軍人が言うには、船が爆撃にあって、乗っていた人が皆死んだとか。韓国の子も乗っていて、一緒に死んだと。解放されて出て来て、その子の家に行くと、その子の兄さんがいた。誰それは「家に戻ったか」と聞くと、一緒にいた子なのに、あの子は「来ていない」と答える。「君は戻れたのに、どうしてあの子は来ないのか」と言われた。「解放前に戻ろうとしたが、『爆撃に遭った』という通知が来た」と、その兄さんが「あの子が死んだ知らせが来たが、遺体を探せないでいる」と私をつかんで泣くのだ。「船に乗ったのに、死んだ」と、「一緒に戻って来られたら、どれくらい良かったか」と言って、あの子の兄さんが泣く。また後に訪ねたら、どこかに去ってもういなかった。

ハルモニは病気にかかったことはありませんか？

シンガポールではなかった。診察してみても、「何も異常がない」と言われた。一度、腫れ物ができて外科手術して、客を2ヶ月間取らなかった。治らないと性交で感染するって、主人が「治ってから、客を受け入れろ」としてくれた。2ヶ月以上遊んだ。主人が「お前、なぜコンドームしろというのに、そのまましたのか」と聞くので、「そいつがはめろと言っても、聞かなかった。酒に酔って来て、抵抗できなかった」。なぜ「いつも、はめろと言うのか」というと、病気にかからないためだ。よく覚えておけ」と言う。主人はよく腹を立てた。次からは主人が「病気が移る、しろ」と、言うからはめた。

それで徹底的に守ったのですか？

はめたよ。客が来ると、「はめなければしない」と言って。でも色んな奴がいて、酒飲んで来て、「言うこと聞かない」とやたら殴る。「オイ、この〇〇たちめ。ここに来るからは、男を相手にしよう」と来たんだろうが。」と殴る奴もいた。

どこで病気にかかりましたか？

シンガポールではない。シンガポールではゴミみたいな病気だけだった。ところがビルマに行ってからは、完全にかかった。男を相手にしたら、痛むんだ。病院に行って子宮検査した。ところが子宮には異常がない。医者が「これで治る人もいる。そこを剥して取る」と言って、火で炙る。薬もくれたが、熱くて、痛い。薬が廻ると、こんなに膨らんだ。それが固まって、かさぶたが落ちると治るんだ。それで薬を二〜三ヶ月飲んだ。火箸のようなのでつつくんだ。目茶苦茶熱くて、痛い。トイレに行ってみたら、白いのがいくつかこんなに膨らんで、大変なことになった。「どうしたら良いか」と医者に聞くと、「男を相手にするな、大変なことになる」と言う。客を受け入れず、横になって遊んでいた。近くの野菜だけ取って食べた。木のように、大きく開く。黄色く開くと、取って食べる。殻を剥すと、黄色い所が甘くて、甘酸っぱくて美味しい。椰子はこれぐらいのカボチャのようなものがあるが、ぼこぼことしている。割るとひものように増える、種がこれぐらいで、あんずのように開くが、それを取る。とても美味しい。暑い時は、そこで実が開く。

病気になって休めて良かったですか？

うん、本当に良かった。ご飯は食べられたが、お金が問題。折角行ったのだから、金を儲けなければいけないのに、儲けられない。

ハルモニそこで貯金しなかったのですか？

いいや、ない。お小遣、少し使っただけ。

そこで朝鮮人を見たことがありますか？

朝鮮人は、ひとりだけ見た。

ハルモニの所に来た人ですか？

いや、他の人の所に来た人。私と一緒にいる女を見て、悪口言った。その女が男を嫌いだったのか、「〇〇の奴」と朝鮮語で罵った。男が朝鮮人とは知らずに罵ったら、「お前、売るところがなくて、こんなところまで来たのか?」と朝鮮語で言うから、朝鮮人と判った。「ごめんなさい、朝鮮人と知らずに言った。」と謝った。

日本の軍歌、習ったことありますか？

習った。日本の国旗を外に掲げて、何々と歌う。幼い時は知っていたが、みな忘れた。

軍人と一緒に、ですか？

いや、その家の女たちと一緒に歌った。軍人は来たら、女の子と寝る、それしかない。

ハルモニのいた所に規則のようなもの、ありましたか？

いや。ただそこにいる女の名前、「ミツコ」とか、「ヨシコ」とか、「ケイコ」とか書いてある。その子を探して部屋を訪ねる。何号室とかみな番号が書いてあるので、写真を見て女を選んで入って来る。自分たちで番号調べて、写真見て「この女どこにいる」と聞く。すると「ここにいる」と返事が来て、それから部屋と一緒に入る。私たちが客引きすることはない。客が訪ねて来て一緒に寝る。梅毒なんか移るから「サック」は必ずはめる。一箱にいくつ入っているか、今でも分かる。6個入っているのもあり、20個入りのもある。

そこで写真を撮りましたか？

写真はみな破ってしまった。団体で撮ったのもあった。紹介所で女たちの写真



》》》ビルマ、捕虜収容所の朝鮮人慰安婦。東北アジア歴史財団、『日本軍「慰安婦」とナチドイツ収容所の強制性労働』、2007年、98頁収録の写真。

を撮った。写真は軍人が撮ってくれた思い出だが、みな破ってしまった。ビルマに一年いて、解放になって出てきた。

父に会いたくて、早く韓国に帰りたいとしか考えなかった。

解放はどうやって知りましたか？

ビルマでも「解放だ」と大騒ぎだった。主人からも「男を受け入れなくても良い。解放された」と言われて、解放1ヶ月で出て来た。船があつてみなで帰った。父に会いたくて、早く韓国に帰りたいとしか考えなかった。

主人はどうなりましたか？

出てきただろう。

一緒に来た女たちも、同じ船で帰ったのですか？

ああ、私たちと一緒にいた女十何人、解放されて皆で同じ船に乗って戻った。釜山で降りて別れた。

船に乗るには、誰かが連れて行ってくれたのですか？

軍人たちと一緒に来た。

どんな軍人ですか？

日本人だった。朝鮮語を使う人はいなかった。私の荷物を積んでくれた男も、同じ船に乗った。韓国の人はその人一人しか知らない。

主人とはいつまで一緒にいましたか？

解放されて、何日か一緒にいたが、いなくなった。軍人が来て運んでくれ、海まで来たら「船に乗れ」と言われて乗った。帰る時、泊る所もなく、誰かがお金をくれた。くれたのは誰かはっきり思い出せないが、主人ではなかった。ここに来る交通費もかかったし、ご飯も買って食べた。小さいカバンだけ持って釜山に来たら、日本人はみな逃げ出した。みな、そこに座って泣いていた。みな、「奪われた」とか。「中村さん」もそこにいたが、私を見て知らぬふりをした。

故郷で、近くにいた日本人ですか？

ああ、うちの精米所にも日本の奴が暮していたから、その人に間違いないのに、見るふりもしない。「奥さん」と呼んでも、見もせずに泣くだけ。釜山に行くと、日本人みな、そこ座り込んで、「盗られた」と座って泣いていた。

船に乗せてくれた人は、知っている人ですか？

うん、その人には会いたい。本当にありがたい。うちの父にも会ったことがあり、父の「娘と分かった」と言う。「あんたを幼い頃にみた」と。どう見ても朝鮮の女のようなので近寄って来て、船に乗るのを手伝ってくれた。私に「誰その娘じゃないか」と、聞くのよ。そのおじさん、私のことを「よく知ってる、精米所もして、そうじゃないか」と言う。そして「なぜ、こんな所に来たのか」と聞くので、「訳も判らず来た」と答えるしかなかった。すると「田舎に帰ったら、このこと言うんじゃないぞ。故郷に行ったら、何も話すな」と言う。なので私も「私に会ったとは、言わないで」と頼んだ。ところが父に会ったら、に「一緒に乗って来た」と話すのよ。精米所で「荷物を乗せてあげたのに、家に戻らなかったのか」と聞くのよ。父はその人を停留場まで送ってあげた。

お父さんにはどう説明したのですか？

包み隠さず話したよ。新郎が嫌いで、日本の工場に行って来たと。父はそれで、推測できたと言った。

荷物手伝ってくれた人は、なぜそこに来たのですか？

軍属だと言っていた。軍人のための労務者で行った。

軍属ですか？

そうだよ。よく聞くと、軍人ではなく労務隊。自分から志願して行く人もいて、選ばれて行く人もいる。その時は日帝時代で、配置されて来たとか。確実なことは分からない。

何年ぶりに戻ったのか、記憶ありますか？

分からない。憶えてない。帰る時は、本当に凄い船だった。外国の豪華な客船、そんな白くてとても良い船に、朝鮮人も日本人も一緒に乗った。行く時は

台湾に寄ったが、帰りは台湾を経ずまっすぐ来た。何日もかからなかった。

帰りに朝鮮人や米国人見ましたか？

見たって判らない。考える余裕もなかった。

天気はどうでしたか？

天気？天気は良かった。寒くも、暑くもなく。

朝鮮人が連れて行ったから、その朝鮮人が憎くありませんか？

なに、日本人にやられたんだ。とにかく日本人は、あらゆる悪いことを皆、した。朝鮮人が送ったのではなく、日本が送ったんだ。朝鮮人がわたしを連れて行ったが、原因は日本人のせいだ。

面談日：2005年9月26日

面談者：姜貞淑、金ミジョン、朴勝美

録音文入力：禹栄煩

録音文編集：尹智炫、

録音文校正・校閲：李宣姪・尹智炫

◆ 面談後記 ◆

口述資料集発刊の趣旨を説明し、同意書作成のためにハルモニを訪ねたのは2012年の冬、初雪がこんこんと降る日だった。ハルモニは脚がひどく痛くて、部屋の外に出るのも大変で、目も耳も悪かった。でもTVが楽しみで、世の移り変わりに関心が多かった。「自分のような慰安婦の生存者が、何人も残っていないと知っている、非常に残念だ」と言われた。「前に面談調査した調査官に会いたい」と、何度も口にした。

委員会に申告をする時、初めは被害内容が周囲に知られるのを極度に嫌った。調査官がハルモニのお宅を訪問する時も、周囲の人たちには調査官のことを「遠い親戚」と嘘をついた。しかし「被害事実をみな明らかにしたので、今はもう恥ずかしいものがない」と話し、口述資料の利用に同意した。

E〇〇 1922年生れ

- 1940年10月頃、 全南(チョンナム)光州(クァンジュ)から動員される。
光州から麗水(ヨス)に移動、麗水で船に乗り、日本と台湾を経由してパラオに移動
パラオ、ラバウル(現パプアニューギニア領ニューブリテン島)で
日本軍慰安婦生活
- 1945年 パラオで解放を迎える。
- 1946年頃、 釜山に帰国



第6話

母が祈ってくれたおかげで、 死なずに生きて帰れた。

EOO 1922年生れ

- 1940年10月頃、 全南(チョンナム)光州(クァンジュ)から動員される。
光州から麗水(ヨス)に移動、麗水で船に乗り、日本と台湾を経由してパラオに移動
パラオ、ラバウル(現パプアニューギニア領ニューブリテン島)で
日本軍慰安婦生活
- 1945年 パラオで解放を迎える。
- 1946年頃、 釜山に帰国

行っってはまた乗せ、また行くと乗せた。

南洋群島に行った話、聞かせて下さい。

光州OO紡織会社で働いていた。大きい紡織会社でそこから、多数が行った。

紡績工場ではどんな仕事をしていましたか？

木綿のホコリをはたく仕事。木綿がこうやって上り下りする時、ホコリをはたく。

工場ではいつから働いたのですか？

工場でおよそ二年間働いた。工場に入ったのは17歳頃。家で野良仕事を手伝っていたら、工場で人を募集すると聞いて行った。故郷から3人くらい行って、就職した。

工場で働いていたのに、なぜ南洋群島へ行くことになったのですか？

その頃、働いていても皆、日本へ行きたくて必死だった。誰が扇動したかも知らないで、私たち皆、すぐにでも日本へ行きたがって、大騒ぎだった。働いている途中なのに皆が、「日本へ行こう」というので、「それなら私も」と付いて行った。

何人一緒に行ったのですか？

分らない。たくさん行ったよ。働いていて、皆行ったが、分らない。

工場では人集めが大変なのに、日本に行くのを放っておくのですか？

ああ、工場では行くのに賛成した。

なぜ？

日本に行くから。

工場を出て、どこへ行きましたか？

(ため息つき) 皆、一度に集って、何人も南光州駅で汽車に乗った。

汽車の切符を買いましたか？

そんなのない。「皆、乗れ」と言うから、そのまま乗った。私はまだ物心もつか

ず、「日本に行ける」と、跳ね回って喜んだ。その時はもう、周りの人たちがみな、「日本に行くといい」と言っていた。

その時、何歳でしたか？

18か19、それ位だった。

季節は何時でしたか？

初冬。

それなら服は少し暖かいものを着ましたか？

別に暖かいもの、着なかった。こんなチマチョゴリ。黒いスカートに白い上衣。

南光州駅から、次はどこへ行きましたか？

次にどこへ行ったのか、どの駅なのかも私たちは分からない。汽車に乗ってどこまでも行って、また寝て乗った。麗水で船に乗り、何日もかかった。

一緒に行った人たちは皆、同じ工場の人ですか？

工場の人だけでなく、別な人も多かった。光州からは、もっと多く乗って来た。その時は人がいないから。田舎で募集して来る。済州島(チェジュド)からもたくさん来た。

麗水で船に乗って、日本へ行ったのですか？

日本へ行ってから何日か休んで、また乗って行った。

何日か休む時は、どこで休むのですか？

どこででも所構わずご飯を食べた。誰がご飯をくれるのかも、知らないで。

一緒に船に乗った女は何人いましたか？

それは分からないが、多かった。時々また乗せて、途中でまた乗せる。光州で汽車に乗せたら、また日本のどこかで、また船に乗せる。

誰が連れて行くかは分かりましたか？

誰が連れて行くのかなんて分からない。

日本から船に乗って、どれくらい行ったのですか？

日本で船に乗る時、どこで乗ったのか、はっきり思い出せない。南洋群島に行くのに1ヶ月と10日間乗った。船に乗ってからひと月以上かかった。

船の中では仕事はしなかったのですか？

ただ、くれるご飯食べて、他にすることもなく。船はとにかく皆で、楽しく行ったよ。

船内のご飯はどうでしたか？

その時は、お米のご飯。食卓で食べたのか、テーブルで食べたのか、それも思い出さないが。誰がくれるのか知らずに、とにかくご飯をくれる人がいた。おかずも分からず、何でもそのまま、出されるものを片っ端から食べた。

1ヶ月半ぶりに船から下りたのは、どこでしたか？

どこで降りたのか、記憶はない。台湾で一度、降りたかも知れない。

台湾で降りて何をしましたか？

ただそのまま歩き回って、また船に乗る、それだけ。

多くの人たちと一緒に歩き回ったのですか？

そう。監督がいて、みなで歩き回った。見物し終わると、「船に乗れ」と言われて、また乗った。

夜の睡眠はどこで取られたのですか？

旅館のような所で寝た。

台湾から再び船に乗って、次に行った所はどこでしたか？

次がどこかは分からない。降りて休んだら、また乗る。

最後は、どこで降りましたか？

南洋群島。パラオ島は後方で、南洋群島は戦場。パラオに到着して数ヶ月いたら、また「南洋群島に行け」と言われた。南洋群島には数年いた。南洋群島は一般人がいなくて、全部軍人だった。

間抜けのように、知らないまま、時間が過ぎる

南洋群島では、何の仕事をされたのですか？

軍人の接待だけした。

接待というのは、どういう仕事ですか？

軍人の接待をした、それで皆、判るだろう、何をやたら聞くのか。それで皆、想像できるだろう。何をまた聞く。知らなくても良い、そんなこと。

軍人がいたというのは、働いた場所は部隊の中にあるのですか？

部隊の中のようなものだ。そこは一般人がいないから。

それなら部隊の外にあったのですか？

ああ。部隊に近い場所。

ハレモニがおられたのは、どんな家でしたか？

ハコ部屋、板張りのアバラ屋がずらりと、ずらりと並んでいる。寄宿舎みたいな長い家が、何軒もある。

何で作られた家ですか？

木。少し高い木を杭にして打ち込み、そのまま縛った家。地面から少し離れている。



≫≫ 1920年代に撮影したパラオの家屋。パラオ教育会『パラオ島風物写真帖』、1928、収録写真。熱帯地方のパラオは通風、地熱遮断、蛇と害虫の接近を防ぐために、地面から床を浮かして家を建てる。

部屋一つに一人ずつ暮すのですか？

うん。

管理人は、どんな人ですか

日本人の若い男だよ。

隣の部屋の人と話しましたか？

隣に誰がいるのか知らない。当時は話をしたかも知らないが、今は思い出さない。

そこにいた女は、どこの国の人ですか？

みな朝鮮の女だよ。

管理する1人だけが、日本の男なのですか？

なぜ1人だけ？もっといる。寄宿舍を管理する人が一人いて、監督はまた別にいる。

食事はどうしましたか？

食堂で食べる。

食堂は大きいのですか？

大きい。

そこにいた人たちが、一度にご飯食べるのですか？

一度には食べない。外で食べたりもする。

食堂で働く人がいるのですか？

うん、南洋群島の人ではなく、大抵みな日本人。南洋の人は真っ黒じゃない。

食堂で働く人は男ですか？

男だよ。

食事の時間が決まっているのではないのですか？

決まってなくて、何時でも行ったら食べられる。

朝食は何時頃ですか？

朝は遅い。

朝食召し上がった後、一日の日課を少し話してください。

一日の日課なんてあるかい。そんな所で山だけ見つめて、軍人が出入りするだけ。接待すれば良かった。

近くに山があるのですか？

全部、山だよ。山と言っても高い山でなく、こんなに低い。低くて丘も余りないので、人が充分、行来きできる。

周辺の風景はどうですか？

どこでもあまり、表を歩き回れない。そこでもほとんど外出させない、出られない。

寄宿舎に柵が張られているのですか？

そんなものはないが、軍人がうようよしている。

軍人が何時、うようよするのですか？

軍人は毎日うようよしている。飛行機に乗って行く人、戦闘に出かける人、また休む人もいて、交代で戦う。休む時間がどこある。

朝ご飯食べると、軍人が来るのですか？

そうだ。

どんな日に軍人がたくさん来るのですか？

そんなのない。そこには暦もなかった。今が何月なのか、それすら分からない。間抜けのように、知らないまま時間が過ぎた。

夜は休むのですか？

夜も軍人が来る。なぜ夜に休める、昼夜などない。暇さえあれば、何時でも来る。

階級による差がありますか？

階級の低い人は、どうしても時間の余裕があまりない。星を付けた人は夜、多く来る。

「慰安婦」や「挺身隊」という言葉を聞いたことがありますか？

もちろん。

何時、聞かれたのですか？

いつ聞いたのか憶えてないが、聞いた。私たちが「挺身隊」に行った訳だ。

勤労挺身隊という名で、工場で飛行機の部品を作った人もいます。

こちらは工場なんて、一切ない。全部、軍人の用足しだけ。

軍人を相手にして終わったら、洗いましたか？

洗う薬をくれた。どんな薬なのか分からないが、皆にくれた。

薬はどのように使うのですか？

洗面台に水を混ぜて洗う。薬を入れると、色が白くなる。

部屋の中で洗うのですか？

洗う場所がある。部屋から出ると、ベランダみたいに出る所がある。

各自の部屋一つごとに皆、そういう洗う所があるのですか？

皆、ある。

部屋の中には、他に何があるのですか？

ベッドにひとつ置くと、小さな空間だけで体は動かせない。他に生活道具はない。

服は、どこに入れるのですか？

ボックス、箱の中に入れておく。韓国のタンスのようなものはない。

ハルモニが行く時は、黒と白のチマチョゴリ着て行ったのではないですか。

服は良いのを着せてくれる。なぜなら、それがみな借金になる。あいつらの金で服着せて、「借金返せ」と。しょっちゅう買ってくれる。

着せてくれる服はどんなものですか？

洋服。あいつらが買って持って来る。私たちは、市場にも行かせない。市場がどこにあるのかも知らない。

外出したことは、ほとんどないのですか？

ない。

周辺に川などありましたか？

相当遠くに、船が通う所がある。そこでは車でなく、船を主に使う。

川ではなく海ですか？

海だよ。山があって海がある、そんな場所。

海辺に行かれたことはありますか？

出て行って、何をする。そんな自由はないと言っているだろ。

ハルモニ、「サック」(コンドーム)って聞いたことがあります？

「サック」。皆使う。軍人が持ち歩く。

軍人は票やお金をくれるのですか？

帳場〔慰安所の受付〕に出してから入って来る。金を出して来るのか、何を出して来るのか知らないが、帳場に皆出す。私たちとは関係ない。

帳場に出して、部屋に来るのですか？ 部屋の扉にハルモニの名前がかかっているのですか？

そんなの、かかってない。部屋の番号が書いてある。

ハルモニが何号室だったか憶えてらっしゃいますか？

11号。

11号というと、長い宿舍の真ん中ですか、端の方ですか？

真ん中辺。

ハルモニの家はとても長かったようですね？

家が大きい。普通の大きさじゃない。一階、二階、三階まである。三階といつても、韓国のように高くない。こうやって路地に一列、二列と三階建てがある。

長い家が上に伸びるのでなく、横に並ぶのですか？

ああ。ずらりと並ぶ。

女たちは少なくとも、6、70名はいたようですね？

もっといただろう、いや、いたはずだ。

さっき話した管理人が、主人なのですか？

管理人だよ。主人はまた別にいる。隣に主人の家が別にあるが、余り来ない。管理人とだけ話す。

ハルモニの宿舍を呼ぶ名前が、別にありましたか？

「名月亭」と言ったか。名前はあったようだが、よく分からない。

主人に家族がいましたか？

妻がいて、子どもはいなかった。

管理人にも夫人がいましたか？

管理人も南洋群島に來た日本人だから、家族はいなかった。

日本人の管理人とは、ハルモニを南光州駅から連れて行った人ですか？

連れて行った人は、また別の日本人だ。その頃はみな日本人で、朝鮮人はいなかった。宿舎のとても大きい事務室に皆、集まってから一緒に行った。

その人が南洋群島まで連れて行ったのですか？

一緒には行かなかった。その人は若い女を相手に商売人で、私たちが間抜けのようについて行っただけだ。

日本人管理人を、南洋群島で初めて見たのですか？

うん。

南洋群島で日本名がありましたか？

「アイコ」と呼ばれた。「アイコ」にもなって、「アヤメ」にもなった。「アヤメ」が、初めに使った名前。

性病検査もしましたか？

した。一週間に一度ずつする。

どこで、ですか？

病院がある。軍人たちも治療する所。

病院には一週間に一度ずつ、その人たちが皆行くのですか？

そうだよ。みな、一週間に一度検査する。一人ずつ検査して出て来るが、一日

できない分は、翌日にする。

検査する日は軍人を受け入れないのですか？

そう。

ハルモニは病気かかったことはありますか？

かからなかった。

一緒にいた人の中に、妊娠した人はいませんでしたか？

妊娠した人も多い。妊娠すると、パラオ島に送り帰す。後方に送られて、妊娠した女が子どもを産んだのか、産まなかったのかは知らない。



≫ 1943年11月5日、ラバウル港に停泊した日本軍艦隊を攻撃する米軍。
ニュースパーク(日本新聞博物館)、『戦後60年 写真が伝えた戦争』、2005、50頁収録の写真。日本軍は1942年1月23日ラバウルを占領して主な拠点とした。

パラオ島にはどれ位おられたのですか？

パラオ島にも、しばらくいた。ここにもいて、あそこにもいて、よく思い出せない。一箇所だけにずっといたのではないから。

ラバウルで子どもができ、パラオに行った、
前方なので子どもは産めない。

何度も往復されたのですか？

一度、移った。パラオという後方から、ラバウル島に行った。

ラバウル島には、同じ主人で行ったのですか？

その主人で行ったのではなく、女たち何人で行った。行ってみたらそこも、パラオのように部屋がずらりと並んでいた。

ラバウルには他の主人がいたのですか？

主人は何時もの同じ主人で、管理人だけが違う。

それなら同じ主人が、ラバウル島にもう一つ慰安所を作ったのですね。

そうだよ。女はみな、主人の私有物なので、家だけ作る。そこでまた金儲けしようと送ったんだ。

ラバウル島でも「サック」は軍人が持って来ましたか？

「サック」は軍人が持ち歩く。

ラバウル島でも一週間に一度ずつ検査をしましたか？

うん。軍人の病院で。

検査する人も軍人ですか？

軍人。病院では白い服装着ていた。

軍人なのに軍服は着ないのですか？

中に軍服着ている。

看護員もいましたか？

看護員もいた。

注射は打ちませんでしたか？

注射も色々打った。

注射をなぜ打つのですか？

ただ、予防注射だよ。

どんな注射ですか？

注射の薬の名前なんて、知らない。どうやって知る。何も言わず、ただそのまま打つ。

注射はどこにいた時、打ちましたか？

パラオでも打って、ラバウル島でも打った。



≫≫ 『ラバウル慰安所』、日本軍慰安婦被害者姜徳景の作品、資料提供 ナヌムの家/
日本軍「慰安婦」歴史館

病気にかかって打った注射ではなくて？

私は病気にはかからなかった。

主人からお金貰いましたか？

そんなのない。借金を一生懸命返そうとしても、服をたくさん買わされて。私たちが好き勝手に服を買って着ることはできない。票をある程度貰ったら、そこでお金に両替する。一万円貰ったら、半分は主人に、半分がやっと私のもの。そして少しずつ返して行く。

解放までずっと、ラバウル島におられたのですか？

ラバウル島に行って、パラオ島に来て、解放になり、その翌年、出て来た。ラバウルで一週間ごとに行って検査をする。病院に行ったら、妊娠していた。子どもができて、ラバウルは前線だから子どもを産めない、「妊娠したら、出て行け」と言われて、〔パラオに〕仕方なく出てきた。それでパラオ島にいて、解放になった。

パラオ島にまた戻られてからは、どこで過ごされたのですか？

一番、最初にいた所。そこしか知る所ないから。行く所がないし、知っている人もいないから。パラオ島に来た時、一番初めに行ったその主人の所に来た。

赤ん坊はパラオ島で出産したのですか？

パラオで産んで連れて出た。子どもは韓国に来てから、3歳か4歳で死んだ。

どうして死んだのですか？

病気が悪くなって死んだ。

妊娠してパラオ島に出て来て、どのように過ごしたのですか？

清掃や台所仕事など、すべてした。

出産して解放後、出てくる時まで、パラオ島にどれくらいおられましたか？

子どもが這い回るくらいまで、しばらくいた。

出てくる時、借金はみな返せましたか？

借金返して金を儲けても、持ち出せなかった。あの国で、政府が、お金を持って行けないようにしたので、みな捨てて来た。船に乗る時、韓国へ帰る人たち、一人三万円〔ママ〕ずつしか、外に持ち出せなかった。私たちが韓国に戻るに船に乗ろうとすると、徹底的に身体調査する、体を調べ尽す。

船に乗る時、米軍がいたでしょう？

私たちが帰る時は、鼻の大きい人たち(米軍)が送ってくれた。行く時は何日もかかったが、出て来る時は一週間しかかからなかった。本当に早くて直接、韓国に来た。

どの港に入って来たのですか？

降りた所は釜山のようなだった。釜山でもまた荷物検査して、持って来た物は、みな奪い取られた。私も持って来た物を奪われた。

ハルモニはどんな物を持って出て来られたのですか？

分からない。忘れた。

パオ島で産んだ赤ん坊を背負って出て来られたのでしょうか？

それは背負って来たよ。

解放になって釜山に到着した時、季節は何時でしたか？

寒くも暑くもなく、秋だった。何月かは詳しく分からないが、そう寒くはなかった。

赤ん坊背負ってどこへ行きましたか？

実家の外に、行く所あるかい？ 母がとにかく驚いた。子どもを背負って来たから、昔はそんな子いなかったから驚くだろう。今のように恋愛してという時代でないから、老人たちが恥に感じた。小娘が出て行って、子ども産んで帰って来るのは、良くない話だよ。

紡績工場から出発する時、お母さんに連絡しなかったのですか？

行く時はできなかった。反対されるかと思って、連絡しなかった。

行ってから手紙は出されなかったのですか？

出した。南洋群島とは言わず、ただ「日本に來ている」とだけ書いた。

何と書かれたのですか？

ただ「元気だ」と書いた。手紙はしょっちゅう送ることができたから、何度も書いた。

ハルモニが直接書いたのですか？

他人に書いてくれと頼んだ。

娘が突然現れたので、お母さんとても驚かれたのでは。

ほとんど死んだと思っていたそう。あとで、何とか手紙で少しずつ連絡したので、分かったと。母が毎日、甕に水を汲んで祈っていたから、私が死なずに生きて帰れたのよ。

面談日：2006年 5月 10日

面談者：尹明淑

録音文入力：禹栄頃

む録音文編集：尹智炫

録音文校正・校閲：李宣姝・尹智炫

◆ 面談後記 ◆

E〇〇/ハルモニは現在、療養院で暮している。活動が不自由で、聴力の良くないハルモニに、口述資料の利用同意を直接貰うのは難しかった。ハルモニの被害内容を知る唯一の家族である、長男の助けを借りた。

息子さんは日本語が上手な母が、外国で看護婦として働いていたと思っていたが、委員会に被害申告する際、被害事実を初めて知った。「日本に行くといい」という口実で、母をトラックに乗せて行ったという、動員当時の状況を聞いた時、特に心が痛んだという。長男は、療養院で過ごす母に「残った人生を楽に送るほかに望むものはない」と言われ、E〇〇/ハルモニの口述資料の利用を許諾してくれた。

〇〇 1923年生れ

- 1940年頃、 平壤(ピョンヤン)から動員される
中国漢口(現在の湖北省武漢市)に移動
漢口で2年間日本軍慰安婦生活
- 1942年頃、 海南島(現中国)に移動、海南島で3年間日本軍慰安婦生活
- 1945年、 海南島で解放を迎える、同年10月頃、帰国する日本軍人について
日本に移動
- 1946年 日本で留まっていたが、釜山に帰国

動員経路



第7話

誰にも訴えられず、泣き通した。

F○○ 1923年生れ

- 1940年頃、平壤(ピョンヤン)から動員される
中国漢口(現在の湖北省武漢市)に移動
漢口で2年間日本軍慰安婦生活
- 1942年頃、海南島(現中国)に移動、海南島で3年間日本軍慰安婦生活
- 1945年、海南島で解放を迎える、同年10月頃、帰国する日本軍人について
日本に移動
- 1946年 日本で留まっていたが、釜山に帰国

行くやいなや、無理矢理、日本軍人の相手をさせられた

ハルモニ、中国にはどうやって行くことになったのですか？

父が悪い病気にかかり、父の友だちが「釜山に就職させよう」と言って、故郷を離れて見知らぬ所に行くしかなかった。ところが汽車の中で泥棒にあって無一文の乞食になり、しかたなく平壤に引っ越した。平壤は都会だから、土方でもして暮らすことができた。ところが「区長」が、今でいう町長が「良い工場に就職させてあげる」と言う。父が「何をする工場か」と聞くと、「そこは良い

工場だから、とにかく行けば良い」と。それなら「月給はいくらか」と言うと、「月給はそこで働いてみて決まる」と。そのようにして区長が私を連れて、平壤の〇〇里に行った。〇〇里は韓国式の家で、中に家に入ると、区長が私をそこに座らせて、またどこかに連れて行く。何か個人の事務室みたいな所に連れて行かれると、私の年齢くらいの女の子が5人位座っていた。そこでは「よく人を募集して送る。金儲けに行く」と言うので、そこに半月ほどいた。

その時ハルモニは何歳でした？

18。

〇〇里で半月間過ごされたのですか？

はい、〇〇里で。ところがいざ連れて行かれる時、区長がまた別の人に引き継がせて、引き継いだ人が平壤の〇〇里に連れて行った。〇〇里で「人を募集しているから、そこでもう少し待て」と言うから、そこで気楽に暮らしていた。すると日本人の女がおおよそ7、8人集まって来た。でも私は日本語がよく分からなかった。

誰が日本人なのですか？

女を受け取って工場に連れて行く人が日本人だったが、どこがどこか分からず、右往左往して汽車に乗り、まるまる二日くらい行った。南京(ナンジン)を過ぎると、日本語で「カンコウ」と言う、「カンコウ」は漢口だと。

南京に行ったのですか？

南京を通り過ぎて、漢口だと。何が何だか分からないから、私はただついて行くだけ。そこで汽車を降り、何か馬車のようなのに乗せられて、降りた家が中国人の家。中国人の家に部屋がいくつもあって、隣りに行ったら女が30人もい



>>> 『1938年10月27日、漢口駅を占領した日本軍。タイム-ライフ編集部、『LIFE AT WAR』韓国語版、52頁収録の写真

た。そのまま着くや否や、全員、日本軍人の相手をさせられた。

民間人はいませんでしたか？

いなかった。民間人はいない。全部、軍人。

ハルモニ、慰安婦になるのを、何時知りましたか？ 初めに連れて行く時は、金を儲けさせてくれると連れて行ったのではないですか？

そこに到着するまで知らなかった。そこでそれを知ってから、「慰安婦」と言われた。

30人、40人。一晩中、夜も眠かせない

到着した日から軍人が来たのですか？

いや、およそ三日後に。軍人が来たら「サービス良くしろ」と、教育させられる。三日休んで、「先に来ていた女のように、客を取れ」、明日からは、下の部屋に座って「先に来た人から聞いて、習ってからしろ」と言われた。牛のようにびくともせず、ただやられるだけ。初めは痛くて、とても泣いた。初めての女、処女を軍人たちがやたら探しまくる。

ハルモニのいた家は、どんな風でしたか？

漢口の家は、巢窟のようだった。二階まであって、部屋がくっ付いて建っていた。女たちはみな二階で待っていて、下の階に客を入れる。板張りの粗末な家で、何か叩くと音をする。ああ! (ため息)、誰かに訴えることもできず、泣いて、泣くだけ泣いて、そこでは誰にも話せなかった。(悲しみがこみあげて、大泣き



≫ 『中国雲南省の昔の慰安所の建物。東北アジア歴史財団、『日本軍「慰安婦」とナチスドイツ収容所の強制性労働』、2007年、46頁収録の写真。』

する)「顔が可愛いから、訪ねて来る人が多い」とか言われて。なので、一日中、休む暇もなく疲れ果てて。ご飯食べる時だけ、一ヶ所に集まる。そして夜が明けても、夜も昼も関係ない。主人の特権で、誰にでも好きに遊ばせる。

ハルモニの部屋は別にありましたか？

別にあった。

部屋でじっとしていると、男が一つずつ入ってくるのですか？

うん、入ってくる。

ハルモニが綺麗か、綺麗でないのか、見もせずに押し寄せるのですか？

「出て来い」と言うのよ。降りて行くと、男たちからこれぐらいの票(手で票の大きさを示す)を一枚ずつ渡される。

男たちがハルモニに票をくれるのですか？

票に番号が書いてある。誰が綺麗か、不細工か知らなくても、一度相手にすれば、顔が可愛いかわるじゃない。次から来る時、私の番号を指名する。

ハルモニの番号があるのですか？

うん。私の番号だけ、持って来る。前方に行って死んだ人もいる。海軍、陸軍、みな全員、軍人。

海軍か陸軍か、どうやって分かるのですか？

自分たちで話すだろう。私は空軍だとか。〔日本軍に空軍はなく、海軍と陸軍にそれぞれ航空部隊があった〕

空軍もあったのですか？

そう。空軍、海軍、陸軍と、別にあったのではない。陸軍は肩に飛行機のようなマークがある。誰が海軍で、誰が陸軍で、誰が空軍で、皆判る。ところが私を一日中、買う人がいた。つまり、お金をたくさん使う人。

そのお金は誰に払うのですか？

主人に上げるのか知らないが、とにかく後ろ盾のある人は、自分で一日独占できる。お金をくれるのか、どうするのか、私はお金と関係ないから知らない。私はただ無条件、「横になって寝ろ」と言われたら、言われる通りするしかない。向うで何を話して、どんな取り引きをするのかは、ひとつも分からない。

ハルモニを一日中、買って、何をするのですか？

一日買って、自分ひとりで連れている。つまりそこで、後ろ盾がある人だよ。あいつら同士で取引して、一日中女を連れて遊ぶから、「他の人は絶対相手にするな」と独り占めにする。将校や、何か後ろ盾がある人だろう。

将校か一般兵士なのか、見ればすぐ分かりますか？

将校は服が全然違うから、服を見たらすぐ分かる。軍隊で式典があると、可愛い子だけ選ぶの、私も招かれた。服も韓国服を着ず、洋装したり和服を着させて。劇団が慰問に来ると、将校が私を呼んで「自分の女だ」と、側にぴったり座らせる。

ハルモニの所に来た人の中で、一番偉い人は誰でしたか？

分からない。将校だと言うから、将校じゃないか。ここにマークがあって、偉い人は糸で線が引いてある。星のようなのを肩に吊るしているから、見れば判る。

ハルモニはお金を貰えなかったのですか？

一銭も貰えなかった。金を見たことがない。だから余計、口惜しい。(しばらくの間、しくしく泣く)そこで3年間、あんなことさせられた。一日に10分ごと、男相手に10分。

一人当たり10分ですか？

うん。

一日に軍人、何人来るのですか？

ものすごく多い。人気のある人は、そこでは良く待遇してくれる。人気がない人は言うまでもなく、まるで糞味噌扱い。それなりに私はそこで良い待遇を受けた方。30人、40人、一晩中。夜、睡眠もほとんど取れない。誰かに抱かれたまま寝る。一人で寝れない。一人でいる時もない。そんな恐ろしい所にいた。

殴られませんでしたか？

殴られはしなかった。日本語で「綺麗だ」と言われた。16歳で、花咲く歳頃。他の人は「気に喰わない」、「言うこと聞かない」と、やたらに殴られ、足で蹴られた人もいた。

主人が良い待遇をしてくれるというのは、どんな待遇なのですか？

人気で客をたくさん相手にすれば、食べものもたくさんくれ、服も一着余計にくれる。売れない人と売れる人とは、少し違う。

主人が差別待遇をするのでしょうか？

ええ、差別をする。夜が明けると、軍人が鈴なりで待っている。入って来ようと

して、軍人たちが押し合う。入って来ると、「サック」を使う。ひとりして一度洗うのだが、時には一日に百回も洗いに通う。必ず洗いに行かなくてはならないから。

規則だったのですか？

そう。月経があっても、関係ない。

関係ないのですか？

関係ない。生理でも男を受け入れないといけない。生理が来ると、腹が痛くて壁に寄りかかって苦しんだ。すると病院に連れて行って、腹に冷灸して貰った。冷灸は大体10分くらいだが、お腹が剥がれるように感じた。一日経つと他人の皮膚みたいで、つねっても分からない。三日くらいすると死んだ黒い血が出た。十日間か治療を受けたら、治って再び出て来る。

なぜそんなに痛むのでしょうか？

月経の時に、男と関係するのが良くない。血がどんどん出るのに、男を数多く受け入れたから。そこに三年程いて、また選抜されて海南島に行った。

海南島になぜ行ったのですか？ 誰かハルモニを選ぶのですか？

主人か誰か、日本人が私に「海南島へ行け」と言い、海南島に連れて行かれた。

海南島には何人位いましたか？

船に乗って行ってみたら、およそ3、40人いた。

ハルモニがいた慰安所に何人位いましたか？

その慰安所に30人以上いた。私たちだけでなく、角の部屋にもいた。

ハルモニがいた慰安所は、朝鮮の女だけでしたか？

朝鮮の女だけ。日本人も中国人もいない。食事の仕度をする人だけが中国人。男と女が夫婦で来て、ご飯を作る。軍人を相手にするのは、みな朝鮮の女だった。

朝鮮の女たち同士、集まって話たりしますか？

遊ぶ時間などない。遊ぶ時間がどこにある。時間的に一日中、体が縛られているから、睡眠もまともに取れない。

そこでは日本の名前が別にありましたか？

日本の名前で「チドリ」と。漢口では「チドリ」で、海南島に行ってから「キクコ」。

病気にかかったことはありませんか？

そこでは病気にかからないようにした。「サック」を使って、一週間に一度ずつ検査して、悪い人は出られない。入院する。

病気にかかった人は多かったですか？

かかった人、いるだろう。いたら、しっかり治す。梅毒にかかったら、606号注射して商売させない。商売できない。病気かかると1ヶ月の人もいるが、6ヶ月入院する人もいる。治療のことは、私は検査しただけだから詳しく分からない。考えてだけで身震いする。

検査しに人が来るのですか？

いや、慰安所から検査する所に、ジープか何かに乗せて、連れて行く。

女たちが一度に検査に行くのですか？

皆で行っても、全員検査できない。7人とか10人ずつ、連れて行く。梅毒や淋病が多かったが、私はそんな病気に一度もかからなかった。

幸いでしたね。妊娠しませんでしたか？

妊娠なんかできない。冷灸で子宮が縮んでしまって。他の人で、妊娠した人はいた。

妊娠した人はどうしたのですか？

妊娠した人がどうしたのか、一つも思い出さない。妊娠した人はどこかに行っ
てしまい、見なくなった。

漢口で、朝鮮人は見ませんでしたか？

みな日本の軍人で朝鮮人はいない。

もしかハルモニが「可愛い」と、こっそりお小遣いくれるような人いませんか？

いなかった。お金はなかった。アイゴー、10円でも、一度も貰えなかった。金があっても使えない。使うところもない。本当はお金を貰って、家に送りたかったが。金があっても、どこかに隠すところもなかった。

服はどうやって買うのですか？

主人が買って来る。

漢口にどれくらいいたのですか？

18歳で行ったから、2年ほどいた。19か20歳で海南島に行った。

漢口の慰安所から何人、海南島に選ばれたのですか？

たぶん7人。

綺麗な人だけ選んだのですか？

綺麗かどうか、別に見もしない。私と一緒にいったのは、17か18歳だった。

漢口から海南島には誰が連れて行きましたか？

漢口から海南島には、誰かが引き継いだから、中間に日本人がいたことだけは確かだが。何も教えてくれないから、誰なのかも分からない。

逃げるなんて…恐ろしくて考えたこともない。

海南島はどうでしたか？

海南島は漢口よりは、少しマシだった。軍人も少なく、昼間に10人くらい来て、夜は将校が来て寝て行く。だから漢口よりは、少しマシ。

漢口から海南島へ行くのに、何に乗ったのか憶えていますか？

漢口から海南島へ行くには、まず汽車で上海まで来た。上海で一週間寝て、そこに女が10人位集まった。そして船に乗って、海南島に入った。行く途中「休むところが台湾」と案内があって、台湾で3日休んだ。休んで、次にまた10日間昼夜乗ると香港。何日から香港にいて、出発して船から見ていたら煙がボワースと出て、戦争で船がひっくり返っていた。そんな光景を見ながら海南島に行った。着いたら熱帯だった。部屋でとかげが這い廻ったりして、恐ろしくて寝ることもできなかった。

ハルモニが乗った船はどんな船でしたか？

軍艦。軍人が乗っている…。

軍人が移動する船に、ハルモニが乗って行ったのですか？

一般人は一人もいない。船内では軍人と寝なかった。海南島へ連れて行かれ、そこで降りてから、軍人の相手をした。でも漢口のように、昼夜何十人ではなかった。

海南島ではどんな家でしたか？

普通の家だが、竹のようなのを編んで、藁で覆った板張りの家だった。

海南島には女が何人位いましたか？

およそ20人。

主人はどこの人ですか？

日本人。朝鮮人を見ることはない。

海南島では海軍が来ましたか？陸軍が来ましたか？

陸軍だけ来た。海軍や空軍はいなかった。

漢口と海南島では、何か違う所がありましたか？

食べ物が口に合わなかった。安南米というおコメで、食べられなかったが後には仕方なく食べた。唐辛子も、ものすごく辛くて食べ物が違った。

海南島でも一週間に一度検査しましたか？

ええ、軍の部隊に入って検査を受けた。しないと軍人の相手ができない。

海南島でも軍人の相手をするたびに、洗いに行了きましたか？

そうだと。それは私の気分なので、一生懸命洗う。洗わないと気持ちがすっきりしない。

どんな水で洗うのですか？

真水。消毒薬もあるが、面倒なのでそのまま真水で洗う。洗って、すぐに流す。

「サック」が足りなくなかったですか？

いいや、充分、器にあった。「サック」なんか山盛りに積まれて、いくらでもあった。どこでも行けば、「サック」を分けてくれる。主人が「サック」しなくてはいけない、「使わなければならない。」と言って。使わなければならない規則があつて、教育受けているようだ。

破ったらどうなるのですが？

引かなかったら自分たちは捕まって、また別の人が来て商売始めるだけだよ。

海南島では、漢口より時間がありましたか？ 外出しましたか？

外出はできない。そこにいただけ。一人で出かけることはできない。熱帯で、見慣れない町だし、行く所もない。ただ軍人が連れて出れば、ついて行った。

そこから逃げた人はいなかったのですか？

逃げた人など一人もない。

逃げようと思いませんでしたか？

逃げるなんて、恐ろしくてそんな事は考えたことない。逃げたら、殴られる。客に

待遇良くしないと、そいつが「お前が悪い」とまた叩く。私はただそのまま、大人しく従うだけ。「ああしろ、ここしろ」と言われたら、そのままよく聞いた。逃げようなど思ったこともないし、そんな人一人もいない。逃げる話など聞いたら、みな離れて行く。

誰が「逃げ出したら、どうなる」と話すのですか？

「逃げればどうなる」と、主人が話す。恐くて絶対、逃げようなどと思わなかった。

ハルモニは殴られたことはありませんか？

私は言うことよく聞いたから、殴られるようなことはなかった。

他の人が殴られるのを見ましたか？

うん。

海南島でも軍人や主人が、お金くれなかったのですか？

何人行くとか、主人が部隊と連絡したかも知れない。あいつら同士、みな知っているのか分からないが、私がお金を貰ったことはない。

海南島でもハルモニの番号が別にあったのですか？

もう既に私がいる家を知っているから、真っ直ぐ来て「キクコ、いるか?」と聞く。

番号はなくて、名前ですか？

そのまま名前で、「キクコ、いるか?」と聞く。客とちょうどあれていると、部屋の外で待っている。時には連れ出して、アイスクリームなんか買ってくれた。



〉〉 海南島の昔の慰安所の建物。委員会が現地調査時に撮影。

アイスクリーム買うには外出しなければならないでしょう。ハルモニー人で出られなくても、連れて出るのは構わないのですか？

主人に話して連れ出す。何も言わないでは、連れ出せない。しばらく遊んでから帰る。客と主人との取引があったようだ。

軍人と二人で、たくさん外出しましたか？

漢口では自由がなかったが、空軍の将校のような人が一度、ドライブに連れて行ってくれた。「本当にこんな所に来て、可哀想だ。哀れだ。」と言って、美味しいもの買って食べさせてくれた。

恋愛しようと言ってくれる軍人はいなかったですか？

私たちは恋愛なんてできない。「男と抜け出た」と、どこかへ連れて行って、目をひん剥いて、ひどい目にあう。

ハルモニがいた家を軍人は何と呼びましたか？ 住んでいた家に看板なかったですか？

漢口では看板があったが、忘れた。何年か前までは思い出したが、看板がそこにあるということだけ分かり、何と書かれているのか知らうともしなかった。ただその中で、自分がすることだけした。主人や慰安婦管理する男と軍人たちが、みな門の前で写真撮る。撮ってから、「出て来い」と言われたら、ついて行く。でも熱帯地方に看板はなかった。熱帯ではそのまま臨時の家のようで、そのまま入って扉だけ開いて閉じる。それだけ、看板はなかった。

女たちはなぜ、そこに来たのですか？ ハルモニは「金儲けできる」と言われたそうですが。

その人たちも皆、「就職させてやる」と言われて来た。その人たちを探して日本語で聞いても、「私たちは知らない。あなたたちが、ああいうことしに来ただけで、私は知らない、分からない」と言う。お金は一銭も貰えなかった。

家財道具は主人から、何を貰いましたか？

家財道具なんてない。蒲団と枕。柳行李みたいなタンスに服入れて、化粧品も入れる。

ベッドは？

ベッドはない。鏡があった。化粧品みたいのをくれたが、私は化粧しなかった。

パーマはしましたか？

パーマする所などない。そのまま長い髪を、こうやって縛っていた。

生理用品等はどうしましたか？主人がくれるのですか？

そう。「生理がある」と、口で言えばくれる。

ガーゼをくれるのですか？

違う。ガーゼではなく、綿みたいので防ぐ。これ貰って自分で作って、子宮にはさむ。

どのように取り出すのですか、ハルモニ？

手でそのまま引き出す。子宮も手で洗った。

化粧品や服は主人が皆くれるのですか？

自分で出かけて個人で買って着るとか、そういうことはできない。ただ「買ってくれ」と言えば、買ってくれる。逃げるかと思って、お金もくれない。代わりに何か「必要」と言えば、そういうのはいくらでも買ってくれる。

主人は「後でお金をくれる」とも言わないのですか？

お金は一切関係ない。「後であげる」と言ったが。後に海南島へ行ったが、一銭も貰えなかった。でも解放されて日本の奴が、海南島から私を連れ出してくれた。

海南島にはどれくらいおられましたか？

海南島にはおよそ3年いた。18歳で行って23歳で解放になったから、合計5年。

故郷に戻ったら、親戚が人間扱いしてくれない

解放はどうやって知りましたか？

解放されたことは、みな判る。日本人、日本の部隊がみな、いなくなった。でも誰かが面倒みてくれないと帰れない。

ハルモニたちを放って置いておいて、自分たちだけ帰ってしまったのですか？

自分たちだけ帰った。それで私が部隊に将校を訪ねて、私を「日本まででいいから、連れて行ってくれ」と頼んだ。

主人はどこにいたのですか？

どこかに行っちゃい、みないない。誰もいない。

女たちだけ淋しく残されたのですか？

ああ、女たちだけ。

ハルモニー一人で将校を訪ねたのですか？

うん。私一人。

他の女たちは？

他の女たちも、何とか出ようと捜し廻った。その時は解放されたから自由よ。

ハルモニには、親しい友だちがいなかったですか？

親しい子がいても、自分が生きることしか考えられない。大騒ぎで、誰か同情

している時間なんかない。自分の手で何とか出て行こうとして必死。私に「可哀想だ」と言ってくれた日本の将校が、「俺が日本まで連れて行ってやる。私と一緒に暮したらどうか」と話してくれて、ついて行った。船に乗ったら、人が多かった。他の女もいて、男も多く、ぎっしりだった。

来る時はどんな船でした？

軍艦なのに日本人も朝鮮人も混じって、一般人がたくさん乗っていた。朝鮮人がたくさんいたが、日本人の方が多かった。それに乗って佐世保まで来た。

日本に入れたのですか？

佐世保まで来たら将校が、下宿屋に泊めてくれた。下宿の主人に向かって、私と「戦争の前線と一緒にいて、そこからの帰り道だ」と話すと、主人が「本当に苦労した」と言ってくれて、とても待遇が良かった。よく考えてみたら、この人について行って何とかしなければ、到底自分一人では生きて行けないと思った。その下宿屋で家政婦をして、半年間その将校と暮らした。でもその男には妻がいて、佐世保に何時までもいることはできなかった。それで誰かに、私を「何とかして朝鮮に帰らせてくれ」と話した。それで誰かに引き継がせて、下関まで汽車に乗せてくれた。

佐世保にどれくらいおられたのですか？

佐世保には半年くらいいただろう。

その時、手元にお金が少しはありましたか？

まったくない、無一文。まったく素っ裸。でも下関の旅館で私が一人で出入りしていたら、「綺麗だ、恋愛しよう」と日本人が寄って来た。日本人が私に良くしてくれて、お金もたくさんくれた。私が日本語上手で、日本の女みたいだったから、

「私と結婚しよう」と言う。私が男に「親もいなくて誰もいない。私の体一つだけ、だから少し助けて欲しい」と話すと、お金もどんどんくれた。その頃、一銭、二銭で生活していたから、一万円は大金だ。それでその金を握って、そこから逃げ出した。逃げて、下関から船に乗る切符を買って、釜山まで来た。

ハルモニ一人で、ですか？

一人で、船に乗って釜山に来たら、朝鮮人がたくさんいた。

朝鮮に来たのは、いつ頃ですか？

海南島を離れたのが10月。日本式に数えれば、24歳で出てきたのかな？

解放されて二ヶ月程海南島にいて、日本軍について出て来たのですね。その二ヶ月間は、どこにおられましたか？

慰安所にいた。主人は逃げていなかったが。解放されたので、そこにあったものは全部、自分のしたい放題だった。ただどうやってここから出て行くのか考えた。熱帯地方の中国では、人々が安南米を炊いて「食べろ」と持って来てくれた。唐辛子やダイコンのような物も、持って来てくれた。そのまま、そこで暮していた。

ハルモニと一緒に戻った日本の将校も、解放後すぐ出て行ったのではないようですね？

うん、日本人も残っていた。先に行く人たちは行き、残った人たちは手続きを踏み、そのままでは行けなかった。私を連れ出してくれた、その人の姓が「鈴木」。10月になって海南島から出て来た。そこは熱帯地方で寒かったり暑かったりしないが、何月かだけは分かる。佐世保へ戻って来たら、少し寒かった。下関では6ヶ月過ごしたかな。そこで24歳になった。

釜山に降りた時の、季節はどうでしたか？

たぶん春になっていた。釜山に1年ほどいた後、故郷にいる兄弟や両親のこと考えて故郷に帰ろうとしたら、38度線ができていた。北には入れず、戻ることもできない。それでも母を探そうと、北側に入ろうとした。考えもせずに、38度線を越えた。〇〇(解放後、ハルモニの家族が居住していた所)に、弟と母がいた。村の辺境に〇〇があって、父もそこで亡くなっていた。私は熱帯地方から連絡していた。

海南島から手紙を出したのですか？

ああ、故郷から手紙貰って、住所は知っていたから。手紙を出したら一ヶ月ぶりに、「父が亡くなった」と返事が来た。でも海南島からは、お金を一銭も持って行けない。手ぶらで日本人に連れられて、日本に行った。

連絡はその一度だけですか？

連絡する時間もなかったが、暇な時に「一度連絡してみるべき」という気がして、連絡したら手紙が来た。

故郷では、少しは良い暮らしをしていたのですか？

アイゴー、口では言えないほど、苦勞していた。母は豆削る工場に通い、妹はミシンの仕事をして。部屋なんて鼻の穴ほど。這って忍びこむ、狭い小屋。

故郷に来られて、どう過ごされましたか？

故郷だからと戻って来たのに、来てみたら親戚が、慰安婦に行ったことを知っているから、私を人間扱いしてくれない。それで何とかして、韓国に出ようとした。

親戚に知られてしまったのですか？

知られてしまった。いなかった数年間で、知られたようだ。

どんな噂が立ったのですか？

「脚のない馬が千里を行く」と言うじゃない。皆が「娘はどこに嫁入りしたのか？」と、何度聞かれても答えられないから。

美人なのに、嫁に行かなかったのですか？

男に飽き飽きして、嫁に行きたいと思わなかった。余りにも男たちに苦しめられたので、男はもう嫌だった。男と暮らしたいと思わなかった。そのうち50代になって、子どももないから、どこか行って働いて、子どもの面倒見てあげて、ニンニク剥いたり、あらゆる仕事、みんなした。

帰国した後に、健康は大丈夫でしたか？

解放になって出て来て、家にいたある日、お腹を触るとこぶがあって、何か変だった。「お母さん、変なこぶがある。押すとびりっとする。ただ押しても何ともなくて、一つも痛くない。でも触るたびに少しずつ大きくなっているみたい」と。それで病院に行ったら、「卵巣に、こぶができています。そのまま置いとくと、腹が膨れて死ぬ」と言う。それで手術した。私が思うのは、「あの時漢口で、ここに氷のお灸をして、真っ黒い死んだ血が出た。そんな出血して一年過ぎても、常に腹が痛くて、火が出るようだった。そこをつかむと、他人の肉のようで。子宮がへこんだ」こと。そこにしこりがあるのは、あの時のお灸のせいではないかという気がする。

面談日: 2005年7月12日

面談者: 姜ヒヨン、朴勝美

録音文入力・編集: 尹智炫

録音文校正・校閲: 李宣姪・尹智炫

GOO 1923年生れ

- 1942年頃、 ソウルで動員される。ソウルから釜山に移動
釜山で船に乗り、シンガポール経由でパレンバン(現インドネシア、スマトラ島)に移動
パレンバンで3年間、日本軍慰安婦生活。
- 1945年頃、 パレンバンで解放を迎える。解放後、残った朝鮮人とシンガポールに移動
- 1946年頃、 シンガポールから釜山に帰国

動員経路



第8話

就職して、工場に行くものと思っていた。

G○○ 1923年生れ

- 1942年頃、 ソウルで動員される。ソウルから釜山に移動
釜山で船に乗り、シンガポール経由でパレンバン(現インドネシア、スマトラ島)に移動
パレンバンで3年間、日本軍慰安婦生活。
- 1945年頃、 パレンバンで解放を迎える。解放後、残った朝鮮人とシンガポールに移動
- 1946年頃、 シンガポールから釜山に帰国

「良い所に就職させてあげる」と、
ただそれについて行った。

ハルモニが行った所はパレンバンですか？

あそこはインドネシアだよ。シンガポールからあの島に行った。

そこへどうやって行くことになったのですか？

その頃、私は大田(テジョン)で暮していた。ソウルへ就職しに上がって来たら、ソウル駅であるハルモニに会った。私がどこへ行けばよいのか、キョロキョロしていたら、そのハルモニが「何を探しているのか」と聞いた。それでこちらから「なぜ聞くのか?」と尋ねたらと、「いや、キョロキョロ見回しているから、自分が紹介してあげようか」と言う、教えてあげると。それで「就職しに来た」と話すと、私を鍾路(チョンノ)3街にある旅館に連れて行った。今でも団成社(劇場の名)があるでしょう? 団成社の後の旅館に、女たちが十人程いて安心した。その「女たちに一緒に就職をするから」と安心して、二、三日そこにいた。ところが次は私たちを連れて汽車に乗り、船でシンガポールに行くと言う。シンガポールで一晩寝たか寝なかったか思い出さないが、スマトラという島に行った。他から来た人と合流して、およそ20人を超えた。「一緒に行く」と言われて安心した。私は船が初めてで船酔いしたが、スマトラまで行った。

ソウルには一人で行ったのですか?

一人でソウル駅まで。もともとソウルに暮していて、田舎に避難していた。大東亜戦争の時、日本語で言うと「疎開」。父が継母に田舎で家を買って、そちらに避難させられた。でもとても田舎過ぎて、野良仕事するところだから、つまらなくなって。田舎からソウルへ戻って就職しようと、一人でソウル駅まで来た。ソウルに(国民)学校の友だちもいて、友だちに会って就職でもしようと来た。ところがソウル駅で、その女に会って。

国民学校に通って、日本語もできたようですね?

日本人と一緒にいて、日本語は上手で、日本の字も書きます。

家は裕福な方だったようですね?

はい。

その頃、18歳なら嫁に行く年齢なのに、ハルモニがお嫁に行く話はなかったのですか？

姉たちは早く嫁に行って、その当時私がそのまま田舎にいたら、逆に嫁入りして良かったかも知れない。「挺身隊」に行かないように、とにかく未婚の男性や寡夫、誰でも良いからそのまま、嫁がせた。下の妹も叔母が嫁がせた。ソウルに就職するために来たら、そんなことが起きてしまった。

当時、「挺身隊」と言ったのですか？

ああ、「挺身隊」。家に日本人が来て、嫁に行かずに齢の子は皆、選んで行ったじゃない。

「処女供出」という言葉も聞いたことがありますか？

はい、それが「挺身隊」。処女供出もそのまま引っ張って行って、ただ働かせる、そう思っていた。

処女供出と言いながら「挺身隊」と言って、「挺身隊」は軍人を相手に…。

それは誰も想像しなかった。

ただ「挺身隊」と言えば？

「挺身隊」とは、嫁に行かない人が齢になると連れて行かれる、出かけて行って働くと思っていた。

処女供出も、そうやって働くと思っていたのですか？

その当時の供出はそういう話もあった。慰安婦に行くという話もあったし、ただ働く所に連れて行かれることもあると。

当時、慰安婦に連れて行かれるかも知れない、慰安婦という言葉もありましたか？

あった。

「挺身隊」とは労働することで、慰安婦という言葉もあり、慰安婦は軍人を相手すると知られていたのですか？

その時はまだ、本当に娘の頃だったから、そういうことは考えなかった。だから私の家では、そんな呼び出しが来ないように、早く嫁がせようとした。嫁に行けば、夫がいれば連れて行かれなかったから。

当時、慰安婦という言葉を知ったことがあるのですか？

はい、ある。私が娘の頃もあった。でも自分が連れて行かれるとは、思いもしなかった。

「挺身隊」という言葉が、必ずしも慰安婦を意味するのではなかったのでしょうか？

ええ、違う。だからそう悪い方には考えなかった。

引率はどんな人がしましたか？

引率した人のことは分からない。男だった、男二人。旅館に来た男は、少し年取っていて、40過ぎ位。旅館では男二人が監視して、女は10人以上いた。二人で引率して、シンガポールに連れて行かれた。船には、女が多くいた。途中、シンガポールで分かれて降りた人もいて、再び乗ったのは20人を超えた。

船はどんな船？

分からない。その時、私は船酔いした。到着まで長くかかった。二ヶ月以上そ

の船に乗っていた。シンガポールでは、許可証が降りるまで船中にいた。やっと上陸すると、ある家に入り、旅館なのかよく思い出さない。とにかく女たちを連れてシンガポールから、「スマトラという所に船で行く」と、そこを出た。スマトラという島、小さい島。〔スマトラ島の面積は日本の本州島の二倍以上〕

ハルモニはスマトラに行くことを、知らなかったのですか？

知らなかった。船酔いで昼夜吐いて、大変だった。

行かれる時、戸籍謄本とか、取った覚えはないですか？

そんなのない。「何か取って来い」なんて言われたら、疑問に思っについて行かなかっただろう。でもそんな言葉も何もなかった。「良い所に就職させてあげる」と、ただそれだけで、ついて行った。

ハルモニの住所を聞かれたりしなかったですか？

ない。団成社の後の旅館にいた時、「現住所はどこで、〇〇に親がいる」と話した。その当時、変には変だった。女が就職するのに、10人も行くのかと思った。全員どうやって就職させるのか。でもただ、工場に連れて行く、とだけ考えた。

女に何か悪い病気があるかと、 一カ月に一度ずつ検診する

スマトラに初めて着いた時、どうでしたか？

女たち、皆25人で、ある二階建ての家に入った。一日、二日寝たら、女たちがずらりという所に、主人が何か紙切れを持って上って来た。その票は、軍人たちが

事務室で買って、上がって来て女を選ぶもの。スマトラに着いて、「軍人を受け入れる」と言われた時、何人も女たちが泣いた。二人の主人のうち、どちらか分からないが喧嘩して飛びかかった女もいた。二年はいなかったが一年半位いて、鳥肌が立つほど嫌で「妊娠した」と嘘をついた。それで、票を受け取る事務をした。

就職しに行ったらスマトラでとんでもない目に合って、逃げようと思いませんでしたか？

逃げられない。もし車に乗って逃げても、船の切符を買わなければならないのに、どうやって逃げる。誰も逃げることはできない。そこから逃げることは思いもつかない。逃げても島だから、行くところがない。

ハルモニがいた町の名前思い出しますか？

いや、分からない。スマトラに到着してしばらく、汽車でなく車に乗ってある家で降ろされた。町の名前は分からない。港の名前がスマトラ。ああ、分からない。その時、そうした、ああした、みな嫌なことばかり。関心があるのは、どうしたら早く韓国に帰れるのかということだけ。

ハルモニがいた家は、どんな家でしたか？

ただ木で建てた家。もともとそこらにある下と上、二階建ての家。ところが部屋が、下にも上にも多い。20人位一軒に一緒にいる、大きい家。

周囲にも同じような家がありましたか？

他に家はなかったようだ。後は知らないが、初めは私たちだけだった。後に別の日本の女を連れて来て、ずっとその家にいた。

ハルモニがいた家は街の中ですか？

いいや。街から少し離れた所。

他の朝鮮の女とは朝鮮語で話すのですか？

そう、朝鮮語。

一緒にいた女たちと話をする時間が、少しはありますか？

ご飯食べる時とか、少しある。

ご飯は誰が作るのですか？

ご飯を朝鮮人が作ったのか、インドネシア人が作ったのか知らない。食堂に入っ
て、一列に並んで食べる。食堂は別にある。

その家に、何人いたのですか？

上下の階全部で一軒に20数人いた。

初めに一緒に行った20数人が、そのまま一緒にいたのですか？

はい。

後に来た人はいなかったのですか？

後に主人が連れてきた女は、3、4名しかいなかった。後で来た女は姉妹と、少
し口が曲った女ともう一人、4名連れて来た。

ハルモニのように国民学校を終えた人もいましたか？

あまりいなかった。後に主人が連れて来た姉妹が、少し学校に通ったようだ。

学校行った人は余りいなかった。

近くに部隊がありましたか？

部隊は少し、遠くに離れていた。だから色々な部隊が交代で、休暇を取って車で来る。日本人は会社や、一般の人たちもくる。近くで事務仕事している人も。私が、運が良かったのは、その会社に通う事務をする日本人が私を買ってくれたから。票を半月とか10日買うと、他の人を受け入れなくて済む。

それなら、その期間は。

はい、その人だけ来る。

その人の名前や会社を思い出しますか？

分らない。日本人だから分らない。

軍人が来る日が、別にあるのですか？

そうではない。休暇を取った人だけ、出てくる。交代で、休暇を二日取った人もいて、一日取った人もいる。昼間取る人も、夜取る人もいて、みな違う。平日は休暇を取った人だけ来るが、週末にたくさん来る。休暇を取った人はしばしば長い夜を過ごす。

長く留まる人もいますか？

そう、多い。将校のような人もくる。

将校だけ長く留まるのですか？

いや。将校だけではなく、自分が選んだ女と一緒に過ごす。さっき話しただろう。票をたくさん切ってくると、別の人は一切受け入れずその男だけ取る。

居間のような所に写真を貼ったりするのですか？

いや、それはない。本人が直接、朝を食べて服を着替えたら、廊下に座る。

廊下に座るのですか？

座っていると男たちが来て、自分の好きな女を選ぶ。

ハルモニがいた家で、病気にかからないようにと何かしましたか？

女たちは一月に一度調査する。病気にかかると思わせるが、病気で休む女はいなかった。女に何か病気があるか、悪い病気があるかと、日本の医者に来て検診する。ところが私は事務室で票受付けして男を受け入れていなかったから、二年近く検診から抜けた。その時までは皆と一緒に検査しなくてはならなかった。

ハルモニたちがいる所に来て検診するのですか？

そう、来て検診する。

病院の医者ですか？

はい、病院の医者。軍服着ていたから、軍人でしょう。

なぜ軍人と判るのですか？

軍服を着ていたから。階級章がある。

調査後に、注射しますか？

する。



≫≫ 慰安所から性病検診を終えて出て来た軍医と看護婦。

東北アジア歴史財団、『日本軍「慰安婦」とナチスドイツ収容所の強制性労働』、
2007年、25頁収録の写真。

ハルモニも注射しましたか？

はい、した。

何の注射か、聞いたことがありますか？

それは知らない。何の注射なのかも知らず、ただ健康のため、病気にならない
ようにと、考えた。

注射される時、何か特徴がありましたか？

いいや。

一緒にいた人の中に、妊娠をした人いましたか？

いなかった。当時、そのまま入れることはない。「サック」をかぶせる。

それは主人がくれるのですか？ 軍人が持って来ますか？

軍人が持って来る。

主人がくれることはありませんか？

なければ、事務室で票切る時、自分でお金出して買う。それは必ずないと、いけない。女が受け入れない。だから妊娠は余りしない。

使わない軍人はいなかったですか？

ええ、そんな人もたまにいる。胸倉つかんで喧嘩するのも見た。

ハルモニはそんな経験はなかったですか？

甘えないと。よく甘えると聞いてくれる。それでも強力に拒否したり、その人の心を何か傷つけると、喧嘩になる。扉をバシャンと開けて出て行って、胸倉つかんで殴り合う、そんなこともあった。

そこに連れて行った費用と服を買ってくれた分、
皆返すまでお金を貰えない。

朝鮮の女は、ハルモニがおられた所にしかいませんでしたか？

ええ、そこだけ。シンガポールでは、生活しなかったから分からない。でもそこには朝鮮の女が少しいたようだ。

スマトラで、軍属や捕虜監視員に来た朝鮮の男を見たことがありますか？

朝鮮人の男は見なかった。日本の兵隊、憲兵と軍人しか見なかった。朝鮮人は

いない。

ご飯はよく召し上がりましたか？

ええ、三食きちんと。おかずが何だったかは、忘れた。でも、ご飯は食べさせてくれた。食堂があって、ご飯を大きな釜で炊いたから、お腹は飢えなかった。代わりに、時間はきちんと守らされた。時間を破ると一食抜かされる。

ハルモニがおられた近所は、日本人がいた所ですか？

現地人、インドネシア人。

ハルモニを連れて行った男たち、二人とも両方が主人なのですか？

一人の男は朝鮮に戻ってから、妻を連れて来た。

主人に家族がいたのですか？

いや、いなかったようだ。一人の男だけ朝鮮に行って、妻を連れて来たことは分かる。妻を連れてくる時に、女を何人か連れて来た。姉妹で連れてこられた女がいた。ところが解放後、その二人の姉妹は日本に行く船に並んだ、日本に行ったみたい。

一緒にいた主人の名前、覚えていませんか？二人とも朝鮮人ですか？

名前は分からない。二人とも朝鮮人で、一人は仁川に家があると話していた。

どこ出身なのか分かりますか？

ふたりとも、ソウルの方言を使っていたようだ。

主人のことを何と呼びましたか？

ただ「おじさん」と、そのまま主人の「おじさん」。李氏か朴氏か金氏か、なかなか思い出せない。でも痩せた方の人は、李氏のような。痩せた主人と太った主人と二人いたから。

外出はできましたか？

自由にできた。

街を見物したことありますか？

主に私は自転車に乗って散歩した。自転車を覚えて、あちこち2kmは乗り廻した。

自転車で通うと、周辺に何が見えますか？

何もない。そのままずっと、村もなく木があるだけ。ポプラのような木が、ずっとある。最後の端まで4kmか8kmずっとあるが、家はない。

原っぱですか？

ええ、原野で道端にずっと植えてある。そこには自動車はなかった。その住民で金持ちでも、自家用車を見たことはない。

ハルモニー一人で、自転車で通ったのですか？

そうだよ。一人で通った。「ハナコ」という子と練習して、二人で通ったりした。主に昼間は、自転車に乗って出かけた。

家は若干、街から離れているといったでしょう？ 街には行きませんでしたか？

街には行かなかった。服は、主人に「服が欲しい」と言うと、主人がインドネシ

アの人を呼んで計る。私たちが出かけて合わせることはない。

服は日本式でしたか？

いや、洋服。ワンピース、ツーピース。

そういう服を作って着たのですか？

ええ。その人たちに作らせる。女たちは、初めは服二着だけで、数年も着られない。主人に「服を合わせて欲しい」と言うと、主人がそこで仮払いするようになっていた。

スマトラから家に手紙を送ったことはありませんか？

手紙はできない。何を書いて送るか分からないから、手紙は一切、駄目。

一月に一度、月給のような物貰いましたか？

貰った。その票を集めて、朝鮮から来た時の船賃、旅費、到着してから服を二着ずつ合わせた費用、貰った票の中からそれらをみな差し引かれる。

お金を主人と何対何で分けたりしましたか？

そうだよ。何対何とか。よく憶えていないが、何対何というのがあった。

票を上げると一枚いくら、そんなことがあったんですか？

そう。票をお金に替える時、例えばそこに連れて行った費用と服を作った費用、みな返すまで、私たちはお金を受け取れない。主人が仮払いしたお金も、また借金になる。

スマトラで貯金できなかったのですか？

ない。貯金をどうやってするの？ 先ず一年間は、連れて行った交通費、船賃、あつらえた服代、みな差し引けばお金はもうない。貯められない。

スマトラで特に病気にかかったことないですか？

ええ、でも盲腸を手術した。19歳の時、行って少しして手術をした。

近所の病院で盲腸の手術をしたのですか？

はい。車に乗せられ日本の病院で。

入院したのですか？

はい。3日入院して、経過が良くて4日で退院した。

スマトラで日本の女を見ましたか？

日本の軍人が「あれは日本の女だ」と言っていた。朝鮮の女を無視したと、随分喧嘩した。

朝鮮人と日本人が、ですか？

ええ、日本の女と。例えば劇場が一つあって、見物する。劇場ではインドネシアの映画しか上映しない。一つを一年中する。昼間に家にいても退屈なので、自転車に乗って散歩を兼ねて、劇場に良く行った。劇場の席で、「私たちも日本人だから、そこに座る」と言うと、ああだ、こうだと喧嘩するのを見た。

何語で喧嘩するのですか？

自分の国の言葉です。

朝鮮人は朝鮮語で喧嘩する？

そう。自分の国の言葉で喧嘩する。

ハルモニではなく、他の人が喧嘩するのを見たという話ですか？

ええ。私は他の20人とみな親しかった。私が、事務をやって票を売るのでから、私に喧嘩を売る子はいない。事務をしていて解放になったので、シンガポールに移った。そこで何日か朝鮮に行く船を待った。半月か20日間か、団体で生活した。

そこで親しかった友だちはいなかったですか？

そこでは親しくなかったが、顔が本当に美しい子がいた。名前は分からない。ただ「ハナコ」とだけ呼んだ。そこでは皆、創氏したので日本語で呼んだ。でも「韓国に戻っても行くところがない。家族が誰もいない。」と言うので、釜山で降りてから私の家に連れて来て、何日か泊めた。

「ハナコ」は、どこの出身ですか？

ソウル方言だったよ。

ハルモニは何と呼ばれていましたか？

私は「ヨシコ」。

「ハナコ」はどんな友だちでしたか、話をたくさんしましたか？

話はあまりしなかったが、その子は母親を早く亡くした。兄弟もいなくて、新しい継母の家に行ったら、芸妓をさせられたと。暫く私の家にいた時、芸妓のことを話してくれた。

芸妓をしていて、どうして入って来たのですか？

芸妓をしていて、連れら来られたようだ。綺麗だった。解放後、行くところがなく、私の家に連れて来て、何日か休んで出て行った。

日本に連れて行かれて、
またあの仕事をするかと思うと
恐ろしくて、私は「朝鮮に帰る」と言った。

スマトラに2年余りいて、帰ったのですか？

そう。2年間いた。

解放を知ったのはいつだったか、憶えていますか？

思い出せない。わざと「妊娠した」とウソをついて、事務室にいたら解放になった。それがいつか、よく分からない。それからシンガポールに連れて行かれて、朝鮮に行く船を待ち、そこにしばらくいた。

シンガポールには、誰がどうやって移したのですか？

主人の男二人が引率して、シンガポールまで行き、朝鮮へ行く船を待った。船が来なくて、一ヶ月以上待ったが、その時、食糧が本当になかった。それでそこに食べられる木があって、花も食べられる花がある。それを拾って食べた。そこに「ハナコ」や朝鮮人があちこちから集まった。男も多かった。演劇をするからと人を選んだが、「ハナコ」と私が選ばれた。その子と「アリラン」という演劇をして、私はアリランを歌った。

歌が上手なようですね？

いや、違う。(笑い) その子がそれに合わせて、アリランの演劇をしたのを思い出す。

シンガポールでの一ヶ月間は、どんな所で暮しましたか？

建物はただの箱部屋(板張りの小家)のように一の字にずらりと並んだ。そこは軍人が寝る所で、兵舎のようだった。

そんな建物がたくさんありましたか？

多いかどうかは思い出さない。私たちの側にずらりと一列あり、向い側にもある。船に乗るまで皆で、そこに寝た。テントが一つか二つか、たくさんあった。

シンガポールでいた場所を、人々は何と呼びましたか？

ただ、軍人たちが今の兵舎のように。木造の家がずらりと並び、そこで毛布を一枚ずつ貰った。

誰かご飯作る人いましたか？

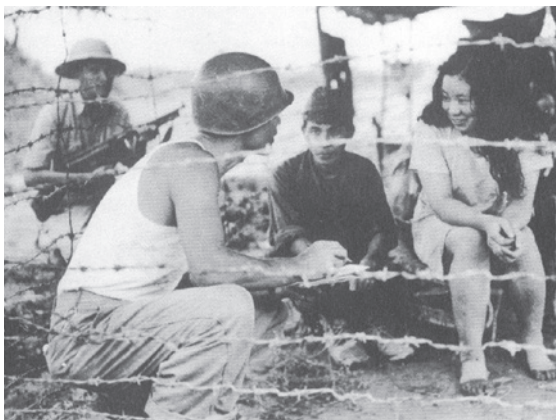
いない。金がある人は、内緒で、裏に来るインドネシア人と取引する。金があれば服等と交換して食べる。

食糧の配給はなかったのですか？

配給が少ししかなくて、腹が空く。金や服も余らない子たちは、とても飢えた。

そこにいた時、演劇以外で思い出すことがありますか？

演劇したことと、服と食べものを交換したことを思い出す。



≫≫ 捕虜収容所の韓国人慰安婦。

東北アジア歴史財団、『日本軍「慰安婦」とナチスドイツ収容所の強制性労働』、2007年、94頁収録の写真。解放後、連合軍が占領した地域に残された慰安婦たちで連合軍の収容施設に収容されたものもいた。

何と換えて食べたのですか？

食べられる花、木の背があまり高くて上がれないから、揺すって落とす。その白い花を皆急いで拾う。長くいると呼ばれるから。

朝起きると起床点呼をしますか？

しない。点呼はしないが、主人が遠出させなかった。主人が引率して連れて来たのだから、また引率して朝鮮に帰す責任があると。

自由に放任して置いた方ですか？

ええ、ただどこにも遠くへは行けない。

何か仕事しましたか。

しない。ただ一日中、そこにいた。

同じ部屋に何人の女と一緒にいたのですか？建物は大きいですか？

大きいよ。軍人の兵舎みたいに、上に箱部屋がずらりと並んでいる。ずっとそこで寝ていた。

軍人の兵舎のように、中に廊下があって、両側にずらりと部屋があったのですか？

そう。そこで朝起きて、顔洗ってご飯食べる。少し出ては、花を拾う。インドネシア人が何か売りに来たら、こっそり裏に出て買う。

シンガポールの収容所に小さい子どもと一緒にいたのを思い出しませんか？

いない。子どもはいなかった。

外でも子どもたちを見ませんでしたか？

ああ。子どもを見たことはない。

周辺は塀で囲われていましたか？

その中にただけだから、よく分からない。トイレ行って、顔洗って。

同じ兵舎に何人いましたか？

私たちと行った人たちは皆、片側の部屋にずらりと横になって寝た。そこで顔洗ってトイレ行って、広場に出て花拾う以外、どこにも行かなかった。兵舎から出ると庭に大きい白い花の木があって、その花を拾って食べた。

男と女が、一緒にいなかったのですか。

いなかった。女は女同士で寝た。船に乗る時だけ、集まった。

兵舎のようなところには、他からもたくさん来ていましたか？

よく分からないが、朝鮮や日本の慰安婦もいた。シンガポールから船がもう出ると連絡がくると、主人が皆を引率した。

そこで日本へ行く人と朝鮮へ行く人に分けられたのですか？

朝鮮に行く人と日本へ行く人に分けられた。日本を望む人は日本に連れていくが、日本でまた同じ仕事をさせられるかと思うと、恐ろしく日本には行かなかった。主人が妻を連れてくる時に、姉妹で連れてきた女たちは日本に行く側に並んだ。日本に行ったようだ。

そこに一緒にいた女たちも皆、分けられたのですか？

船に乗る時、二つに分けられた。

ハルモニ、船に乗る時、名前や住所を書きませんでしたか？

なかった。

ただ並んでいて、「乗れ」と言われて乗ったのですか？

そう。

シンガポールで分かれたのではなく？

違うかな。そこはよく憶えてない。シンガポールで分かれたのか、とにかく分かれたのは確実だが、そこはよく思い出せない。

季節はどうでしたか？

季節？シンガポールは四季が夏。その時も夏。だから長袖は着なかった、家に帰る時も。

船に乗った人はみな、釜山に一緒に来たのですか？

そう、一緒に来た。

どれくらいかかったのか、記憶ありますか？

帰る時はシンガポールで長く待って、船に乗ってから1ヶ月ほどで着いた。

釜山港に降りたら寒くなかったですか？

ああ、寒くはなかった。

服代や仮払いしたお金を差し引かれたと言いましたが、解放されて出てくる時、借金はもうなかったですか？

わからない。私が傭場で働いていた時、無くなったと思う。

借金をすべて返したから、いくらか貰ったということはなかったですか？

ない、ありません。

釜山に降りる前に押収されたそうですが、どこかに預けるという話はなかったですか？

ない。

貰えなかったお金もありますね？

お金貰えなかった女も多いだろう。

日本へ行く人も初め釜山に立ち寄って、その船が日本へ行ったのですか？

たぶん、そう。一緒に乗って、釜山で分かれた。船に乗る時、シンガポールのお金はみな押収された。

交通費は誰がくれたのですか？

その主人。朝鮮に行く人と、日本に行く人に主人が分けた。船は一緒に乗っても、釜山で日本へ行く女は船に留まった。釜山で、大田行の汽車の切符をくれた。

釜山で降りた時、お金少しはありましたか？

釜山で降りる時、みな押収されて、家へ行く切符だけくれた。みなそれぞれ別れて、自分の故郷へ帰る人は帰って、日本へ行く人は主人と一緒にいった。

主人は降りなかったのですか？

いや、よくわからない。私は家に帰る喜びで、そのことを考える余裕がなかった。降りたような気がする。

主人がその釜山で交通費だけくれて、自分は日本へ行く側に乗ったのですか？

私はそのまま家に帰ることだけ考えて汽車にすぐに乗ったから、後のことは分からない。これがわたしの物語。

帰ったら家にご両親はおられましたか？

はい、みないた。私がどこで死んだのか、拉致されたのか、母はまったく知らなかった。昔はどこか、調べるところもなく、警察署や派出所に行っても分からない。生きて帰って来ることを願っていたそうだ。

するとご両親は真相を知らないのですか？

知らない。

帰って来て、どこで何をしていたと話したのですか？

工場へ行ったと。

どこの工場に行ったと言ったのですか？

そんなに詳しく聞かれなかった。そのまま詳しく聞かなかった「工場」に行っ
たと思っていたのでは。

「ハナコ」がハルモニの家まで一緒に来たのですね？

初めは行くところがなくて、家で連れてきた。わが家に何日かいて、母が交通
費をあげて送ったが、その後の消息は知らない。

連絡しても、状況が悪ければつらいかもしれません。

そう。それもある。初めの頃、寂しかったが、少し経ったら考えなくなった。

「ハナコ」以外に、一緒に来た人はいなかったですか？

ええ、いない。釜山でみな別れた。

面談日：2006年2月20日 / 2006年4月20日

面談者：姜貞淑、尹明淑

録音文入力：禹栄頌

録音文編集：金明煥

録音文校正・校閲：李宣姪・尹智炫

H〇〇 1925年生れ

- 1942年頃、 慶尚南道から動員される。釜山で船に乗って日本に移動
長崎県で2年間、日本軍慰安婦生活
- 1944年頃、 満州に移動して1年間、日本軍慰安婦生活
- 1945年10月頃、 麗水に帰国

動員経路



第9話

こんな話、誰にもせずに死のうと思った。

H〇〇 1925年生れ

1942年頃、 慶尚南道から動員される。釜山で船に乗って日本に移動
長崎県で2年間、日本軍の慰安婦生活

1944年頃、 満州に移動して1年間、日本軍慰安婦生活

1945年10月頃、 麗水に帰国

女を何人も捕まえて来たようだ。

あいつら、刃物で刺し殺しても、恨みは解けない

ハルモニの家族は何人ですか？

6人兄弟で私は5番目。長女、兄三人、妹の6人だが、今は皆死んでしまった。

ハルモニは工場に通う前、学校に通っていましたか？

学校に通った後、工場で働いた。3年生で日本語を習った。私は4年まで通ったが、学校を辞めてしまった。

学校はなぜ辞めたのですか？

その頃は、無条件で捕まるから道も歩けなかった。最後まで捕まりたくなくて、紡績工場に入った。

紡績工場にどうやって入ったのですか？

仕事を探していたら、バスの車掌が工場を紹介してくれた。その時、年齢が15歳位だった。満州に行ったのは16か17歳。

紡績工場で給料は貰えましたか？

その頃のお金で、いくら貰ったのか、よく分からない。給料はたくさんくれなかったが、妹にスリッパや下駄を買ってあげた。そこにいた時は、妹の好きなものも買って来た。

工場の名前、覚えていませんか？

毛布を編む工場というのは分かるが、名前は分からない。日本人の経営だった。姉さんくらいの方が監督して、寄宿舎に女がたくさんいた。その原っぱには、その工場しかない。

工場に作業服がありましたか？

韓国服を着て行ったが、中でガウンや運動靴をくれた。手で機を使って織る。

作業監督はいましたか？

小さな女の監督が1号、2号室の責任者で、機械が故障すると直す。日本人だが、朝鮮語も話した。私たちが、日本語がよくできないので、「こうして直す」と教えてくれる。糸屑も落として、「お疲れさん」と言ってくれた。晩ご飯を食

べると、夜学のような勉強時間があつた。時間があると座談もした。

職員が皆、夜学に通うのですか？

皆かどうかよく分からないが、教室があつた。日本の国歌「君が代」歌って、勉強時間終わったら友だち同士座談会して、夜は自由。お風呂で洗ったり、髪を洗う人もいる。歯を磨いて、寝る人は寝る。だれも親に会いたくて、泣く人もいた。

日本になぜ、行くことになったのですか？

毛布を編む紡績工場に入つたのが秋だった。陽が早く沈んで7時頃、表に出たら捕ってしまった。歩いていたら車があつて、やたら「こちらに來い」と言う。私はそのまま行こうとしたのに、趙(チヨ)さんという友だちが「あなた、こちらに來て」と呼ぶので、「どうして」と聞くと、男が一人車から飛び出して來て、3人捕ってしまった。

どんな車でした？

トラック。荷台にテント張つてある。3人とも疲れて出て來たのに、捕つて乗せられた。私が「上がらない」と言つても、「上がれ」とやたらに足で蹴つて乗せられた。

ハルモニと一緒に捕つた二人の名前は思い出しますか？

女の子？ 日本語で「ゆみ子」と呼んだ。姓も名前も知らない。

工場にいた残りの人は捕まらなかったのですか？

よく分らない。トラックに何人か乗つていて、話をしたら「喋るな」と怒鳴られた。

トラックに他の人もいたのですか？

乗ったら朝鮮人もいて、年取ったおばさんもいた。「家に帰る」と声を出すと、「馬鹿やろう」と背中を殴る。後に腕章をつけた日本の軍人がいた。

ハルモニを捕えた人は警察ですか？軍人ですか？

軍人だよ。軍人と警察は黒い服を着ているが、赤いのを着ていた。警察か軍人かは、夜だからよく見えなかった。

「降ろして」と泣き叫ばなかったのですか？

やたら殴られて、みな鼻血を流した。目茶苦茶に殴って、足で蹴る。

車の中で食べ物、貰えましたか？

何も食べられなかった。ここは釜山かと考えたが、おばさんたちとは口も利かせない。

工場からトラックで釜山へ行く途中で、他の女も乗せましたか？

私が乗る前、既に乗せおえていたようだ。釜山に行く時は大きい道を通り、途中では捕まえなかった。前から乗っていたおばさんたち、後ろにはもう乗れなかったみたい。

トラックには女たちが何人乗っていましたか？

15人いた。おばさんもいて、私より幼い子もいた。軍人二人と、民間人に見える朝鮮の男が1人と運転手がいた。本社で「女を何人捕まえて来い」と命令されたようで、朝鮮ではみな捕まえられた。脇目も振らず、みな捕まえて行った時だ。捕まったおばさんは、子どもに会いたくて泣いていた。

釜山から船に乗る時、何か手続しましたか？

チケット出すとか、そんなのなく、「前から乗れ」と言うので、そのまま乗った。トラックでは名前を聞かれたが、船では何も聞かれなかった。

「日本へ行く」と話してくれましたか？

いいえ、話もせず、捕まったことだけは分かった。朝の何時か分からないが、日本語で「埠頭」と言うのだが、乞食のように扱われた。私たちはそこで、「日本に行くらしい」と知った。

釜山に行って、すぐ日本に行く船に乗ったのですか？

直ぐに行った。夜に出た。連絡がついていたようで、人が多く乗っていた。他から連れて来られた人も、私たちを乗せた人もいた。

ハルモニが乗られたトラックと別に、他のトラックに乗って来た人もいたのですか？

ええ、私たちと同じ歳や年上の人。働いていて捕まって来た人も多かった。男もいた。

日本に行く船で食べものくれましたか？

乾パンみたいの、二人に一袋くれた。日本の子たちが食べるの。水筒の水飲んで、死にたくないから、食べる。

船の中で殴られなかったですか？

船内では殴られなかった。私たちは「もう死んだもの」と諦めていた。

日本まで何日かかりましたか？

まる一日。夜乗って、朝降りた。大きい日本の連絡船に寄せられた。お母さんに言葉一言いえず、捕まって夜通し、日本へ渡る。本当によく泣いた。(涙声で)

日本のどこへ行かれましたか？

朝、鶏が鳴いて、どこかで「中山」とか「中島」とか、「着いた」と日本人の声がした。再び車に乗せられ、大きいテントのある家に連れて行かれた。

そこは何をする所でした？

工場と言われたが、入ったら工場ではなく、片方で機を織っていた。私は機を織る技術者だったが、「名前が何か」と聞かれたので、〇〇と答えると、「こっちに来い」と言われた。私と三人で行くと、「機を織れる」かと聞く。それで「でき



≫≫ 『責任者を処罰せよ』、日本軍慰安婦
被害者姜徳景の作品、ナムムの家/
日本軍慰安婦歴史館資料提供

る」と言って、機を織った。それだけで済めば、本当に助かるのだが、自分の身がどうなるか心配だった。

女は何人いましたか？

私と一緒にいった人だけで、15人くらいになった。その話だけで心臓が震える。そこにご飯をくれる所があって、体洗って、足も洗い、みな洗う。行く時は手ぶらだったから、くれた服を着た。その時は、命があって生きて帰れた、生きて来ただけで奇跡のようだった。いっそ来なければ良かったが、私たちが圧迫と苦痛を味わったことを思うと、あいつらを刃物で刺し殺しても、恨みが解けない。

「横になれ」と言われたら横になり、
「座れ」と言われたら座る。
そうしなければすぐ、命が奪われる、殺される。

日本に行ってどんな仕事しましたか？

働いた。あちこち掃除して、服作る所で一緒に働いた。洗濯もして、何でもする。モンペを穿いて、タスキで縛って、ハチマキする。水を貰って足で踏んで洗濯する人、取り入れる人、畳む人、アイロンかける人、日本人の履く脚絆を巻く人、色々いた。

そして人を選んで、数ヶ月後にトラックに乗せられた。15人か16人程で行ったら、部隊で「軍人の接待をしろ」と言う。

女と軍人が踊る所ですか？

いいえ、違う。踊ったり、酒飲む所ではなく、「軍人の接待をしろ」と言われ

た。女たちが泣き喚いて大騒ぎだった。いくら泣き叫んでも、外には声が届かない。

昼間働かされて、夜は軍人を相手にするのですか？

軍人たち昼間は出歩かないでしょう。昼は戦争している頃で、来る日がある。水曜なら水曜、火曜なら火曜と、責任者が連れて来る日にちが決まっていた。

近くに部隊が多いのですか？

車に乗って行くと、部隊が多い。歩いて行くには遠かった。ホロを張った軍のトラックが行き来した。軍人が運転して通訳が乗り、「降りろ」と言われた。

軍人を受け入れる曜日に乗って行くトラックは一台でしたか？

一台だけで20人にはなる。

20人なら、誰でも連れて行くのですか？

選んで送る。年が行った30代や高齢の人は送らず、若い子だけ選ぶ。

部隊に行くと、どれくらいいて帰って来るのですか？ 部隊に女がいる所があるのですか？

部隊の中には入らない。部隊の隣りに家がある。そこでご飯も食べて、そういう場所がある。寝て帰る時もよくあった。

工場から軍人がいる所へ、曜日別に行くのですか？

軍人が多くて、話をよく聞けば、命がもつが、寄宿舎で泣き喚くと、「なぜ泣くか」と殴られた。

なぜ殴られたのですか？

言うこと聞かなかったから。軍人を「受け入れろ」と言われて、逃げ出したから足で蹴る。頬を殴って、ここ触ってみな。(頭を指して)今でもここにアザがあって治らない。脚や関節が痛いのは、足でやたら蹴って腕も刃で刺されたから。

日本の軍人を初めて相手にした所は日本でしたか？

うん、私は処女だったから。それで逃げて、たくさん殴られた。

日本へ行く前にメンスありましたか？

メンスはあったよ。16からあった。

メンスの日に軍人を相手にする時、どうしますか？

メンスの人とは接触できなくなっている。血が出るのにやれるのか。

誰に話すのですか？

日本人に話す。私たちを連れて行く人。「私、今メンスだ」と話す。

医者が女たちを検診しますか？

行ってくる人を検査する。工場にいる時はきれいに洗うから、検査しない。部隊に行く人は、検査してから送る。

軍人を初めて受け入れた時、検査してから受け入れたのですか？

初めて行った時、処女だったから、「あいつ、生娘だった」と皆知っている。そこに一度行くと、みな検査する。保健所かどこかへ、車に乗せて行く。検査して大丈夫な人は、印鑑バンバン押して送り出す。悪い人は病院に送った。

日本の工場で働いて、軍人の相手もさせられたのですか？

土曜と日曜は軍隊の接待に送られることが多い。初めは処女だったから、そんなこと知らずに騙されて行った。初めて行って、次に軍人を相手にする時は、検査した。なぜなら「お前たちは一度、男を相手にしたから検査する」と。

病気にかかった人は入院させるのですか？

病気がある人は治療を受けると病院に送り、でない人は検査を受けて工場に戻る。次は軍艦に乗って満州に行ったが、満州では徹底的に検査した。

ハルモニのいた所に日本の軍人が多かったですか？軍人でなく働く人もいましたか？

そこには朝鮮人もたくさんいた。

ハルモニがおられた所に、軍人でない他の人も来ましたか？

他の一般人はいないが、軍人はたくさんいた。部隊で働く人もいて、一般人も時間があれば、部隊に入って働いた。

工場でどれくらい働いて、軍人の相手をさせられたのですか？

工場で6ヶ月くらい働いて、その後あちこちで軍人を受け入れる仕事だけした。爆撃がひどくて服は作れない。軍人とだけ、一年はいた。

夜、軍人が入って来ると、どうするのですか？

体を奪われる。仕方ないだろう。後で銃を持って、部屋一つずつ与えられ押し込まれるのに、どうする。

部屋がどんなだったか、思い出せますか？

部屋は全部畳が敷いてあった。各階に三畳半や五畳半の部屋があった。三畳半の部屋はとても狭い。

部屋を一人に一つずつ与えられるのですか？

与えられるのではなく、水曜とか土曜とかと、私たちが行く日がある。

軍人の所に行かない日は、どこで生活しましたか？

生活するところは別にある。そこは完全に工場で。襟切ったり、詰めたり、ミシンする人もいた。

曜日を定めておき、何日は行って軍人受けいれる？

水曜日なら一団が行って、そこの人を補充しないと。土曜日の午前には、また一団が行く。帰ると、また別の一団が来る。

ハルモニが働いていた工場の女たちは全部慰安婦にされたのですか？

こっちに行けと言われたらこっち行って、あっち行けと言われたらあっちに行く境遇だから、その場に完全に縛られていた。

工場ではハルモニ4人一部屋で寝ましたか？何人一緒に寝ますか？

軍人が来ない時は、一部屋で寝られて楽だった。班長と15人、20人寝たようだった。

お金は一銭も貰えなかったのですか？

ええ。お金は貰えなかった。服はそこで作ったのを着て、好きに買って着るこ

とはできない。服がなくて。紙を切って作って着る人もいた。

工場に朝鮮の男はいませんでしたか？

いたけれど、何の仕事をしているかは、男たちは車に荷物を乗せて運ぶ人たちで、工場には監督だけ行き来する。

働く所には、女しかいなかったのですか？

いや、男も多くいた。日本人、中国人、朝鮮人。おばさんもいて、私たちのような若い子もいた。私たちが一番幼かった。

工場では一日、何時間働きましたか？

朝の八時から夕方七時まで。終わると体洗って、友だちと話した。軍隊に行かない日は解放された日。

一緒に暮していた女の中で妊娠した人はなかったですか？

そんな人は保健所にすぐ入院させた。

日本の工場の名前や周辺に他の工場があったのか思い出しますか？

分らない。日本の工場は目茶苦茶大きくて、布織ったものを捲いて、車に乗せて運んでいた。工場は多かったが、何の仕事をする工場か、私には分からない。自由に歩き廻れないし。

頭の傷はいつのですか？

頭は日本で殴られた。逃げて、(手で頭を示し) ここを。それで体が不自由になった。「逃げた」と、殴られた。死んでも良いと逃げたのに。

誰に捕ったのですか？

軍人に捕まった。階級は付けてないが、軍服を着ていた。

つらいでしょうが、日本軍人に初めて侵された時のこと思い出しますか？

出血して裂けたよ。ああ、私は幼かったから子宮が裂けて、血がダクダク流れ出た。そんなこと、どこで誰に話す。私はそんな行為も知らなかったが、軍人は自分だけ、その時間で「サック」の中に出したら、そのまま起きて出て行った。(激昂した声で横にもならず、終わったら、自分だけ靴履いて出て行った。私は出血して。血が凄く出た。それでサックをトイレに捨てた。捨てる箱があった。

出血しているのに、またその次の男が入って来ましたか？

いや、できない。「痛い」と話した。ケガしたから、治療を受けないと。

初めの日、その一人だけだったのですか？

その日は一人だけだった。ところが出血して歩けない。朝鮮の女があいつらに屈辱を受け、「入れ」と言われたら入り、「出ろ」と言われたら出る。そうしなければ殺される。命のためには、「横になれ」と言われたら横になり、「座れ」と言われたら座る。何でも言われるままにするしかない。そうしなければ、すぐ命を奪われる。殺される。私たちには国がないから、誰にも言えない。話もできず、「死ね」と言われたら死に、「生きろ」と言ったら生きる、「うつ伏せになれ」と言われたらうつ伏せになって、「立て」と言われたら立つ。日帝時は、そうしないと生きられなかった。

ハルモニ、初めは逃げなかったのに、なぜ後には逃げたのですか？

初めは子宮が裂けて、驚いて逃げた。恐ろしくて、部屋に入らないと。

子宮が裂けて出血して行った病院に、軍人もいますか？

誰でも来たら治療する、大きい病院だった。

ハレモニー一人で病院に行ったのではないでしょう？処女が出血したでしょうに。

そんなこと、私になぜ分かる。(大声で)本当に。ふう(長いため息)。他の人が裂けて行ったのか、それは分からない。私が行くと医者が治療してくれて、「何日間したら大丈夫」と言われた。半月経ったら治った。

体を捧げる所。そこに連れて行かれた

(昔の写真を見て)満州で撮ったのですか？

いや、これは長崎で、写真館に行って撮った。写真館に団体で行ったが、爆撃が激しくて、撮ったらみな出て来てしまった。写真館のおじさんが朝鮮人かどうか知らないが、私に「持っていけ」と言うので、満州に行く時、持ち出した。

写真館に、いつ行ったのですか？

昼間、時間がある時に。近いから「ヨミコ」に「写真館、一度行ってみよう」と言われて、一緒に行った。

写真館は工場の近くにあったのですか？

名前は分からないが、工場からいくらか行かないで、看板があった。市場もあった。私のいた所が長崎で、広島も近いとか。でもみな忘れてしまって分からない。



》》》 日本九州の昔の慰安所の建物。委員会が現地調査時に撮影。

ハルモニ、写真代は誰が出しましたか？ その時金がありましたか？

私たちが払った。払わないといけない。

満州でも写真撮りましたか？

満州では撮らなかった。撮る時間がない。

日本でなぜ突然、写真を撮ることになったのですか？

一度撮ってみた。その日が何の日だったのか、何人かで行った。そこに可愛い「着物」がかかっていて、足袋もあった。女主人が服を着せてくれ、私と「ヨミコ」、二人で一度撮ってみた。「ヨミコ」と二人の写真もあったが、なくなった。化粧もせずに行ったが、唇に可愛く口紅塗ってくれた。でも折角の写真、みななくなった。全部みな捨てた。必要なくなって。持っていても写真見ると、腹が立ってみな捨てた。

満州にはいつ移動されましたか？

大東亜戦争で爆撃が激しくなり、四方にドンドン落ちるから、「これでは駄目だ」と他に移動した。

工場で働いていた人を、他の朝鮮の女たちも、みな連れて移動したのですか？

ええ、私一人でなく、機械もいくつか載せて。朝鮮の女も多かった。

ハルモニ日本から満州へは軍艦に乗って行ったのですか？

うん。(軍艦が)大きくて早い。

どこへ行くのか知って船に乗ったのですか？ただ「乗れ」と言われたのですか？

知らなかった。どこへ行くのか、何一つも知らず。尋ねると「なぜ、尋ねる必要がある？」と、殴られる。齢が幼くて、何も分からない。

工場にいた女をみな乗せたのですか、何人が選んだのですか？

何人か選んで行った。15人か20人。私は皆行くのかと思ったが、行かない人もいたようだ。年取った人はいない。みな若い、10代の人たちだけ。

日本から満州へも、軍人が連れて行くのですか？

軍人。みな日本人。朝鮮人の通訳もいた。今思うと、目がぎらぎらした慶尚道の男二人が通訳だった。

逃げる人々はいなかったですか？

爆撃が激しいから、その時は銃で警備していて逃げることはできなかった。私

と金〇〇という女は、そこで会ってから逃げた。でも捕まって殴られた。

船内で食事どうされました？

ご飯はおにぎりくれた。船でどうやって飯作る？おにぎり一つ、一日に二回くれるだけ。

殴られなかったですか？

ええ、殴られなかった。周囲に上官がいて、新米は口も利けない。軍人はそれほど多くなく、何か灰色の服を着た人が多くて、片方に集まっていた。罪人なのか何なのか、私には分らない。

戦争の最中で、飛行機が来たら船内でどうしますか？

船は夜しか動かない。爆撃が激しいから、夜は灯りも点けず、黒いカーテンで覆って、火も使わないようにした。

軍艦に乗ってどこで降りましたか？

満州〔大連か？〕で降りた。日本に2年以上いたが、今度は全然違う所に送られた。

日本から満州まで、船でどれくらいかかりましたか？

時間など私には分からない。でもまる一日半か、二日位かかったようだ。夜通し行った。夜、みな降りた。

満州には、違う所から来た船も多かったですか？

降りたら避難したのか、逃げて来た人が多かった。人が多く集まった。爆撃で来たのか、よく分からなかった。

満州に着いて、どこに送られましたか？

私たち10何人、いや20人の女を悪い所(慰安所の意)に連れて行った。純粋に軍人だけ受け入れる、体を完全に捧げる所だった。

建物の構造はどうでしたか？

大きい家だった。どこへ行っても部隊が多かった。「着物を着ろ」と言われた。

満州でも軍人の相手させられたのですか？

軍人が毎日入って来て、体を奪う。嫌がると刃を抜いて脅す。後では、私が逃げないように歩哨が立っている。

軍人を相手にすると知って、逃げた人はいなかったですか？

多かった。たくさん殴られて、半分ぐらい殺された。捕えて殺すのは見なかったが、殴られるのはたくさん見た。私も逃亡して、一緒に逃げた三人がみな埠頭で捕った。それで責任者に殴られた。

軍人が来る時、常に「サック」を持って来ますか？

持って来る奴もいて、責任者がくれたりする。軍人がはめて、する。

戦争中で「サック」が不足したりしませんでしたか？

不足しなかった。配給等、関係なくたくさんくれた。

「サック」を使わない人もいましたか？

軍人は自分の身を考え、病気になるからと、使わない人はいなかった。保健所へ一週間に一度は検査に行く。病気になるかと思って、軍人もこちらも互いに行こうとする。

ハルモニは病気にかかったことはありませんか？

なかった。私とは「サック」しなければ、絶対、関係持たなかった。

保健所での検査はどのようにしますか？

子宮の検査をするには、検査台に上る。病気になると、病院に送る。検査しなければ、その家にいることもできない。

慰安所の責任者は女ですか、男ですか？ 殴られませんでしたか？

女もいて、男もいた。人が多いから、一人ではできない。殴ることも多い。

主人は朝鮮人でした？

日本人だった。でも朝鮮人が多いから、通訳は朝鮮人。通訳は軍服を着て「帳場」で働く。

朝鮮の女は何人いましたか？

多かったよ。中国人もいた。

そこにいた人たちとは親しかったですか？

うん。「船に乗って逃げよう」とか、「私たち、いつ故郷に帰れるか」とか、ため息をついて互いに相談した。

親しく過ごした友だちはいましたか？

北の人だが、死んだだろう。「ハナマル」と「ゆみ子」。

その人の朝鮮名は分かりませんか？

本の名前だけで呼んだから、朝鮮名は全く知らない。私たちの間では朝鮮語使

っていたが、そこにいと自然に日本語を覚える。

自由時間はありましたか？

少しはあった。洗濯は自分でしなければならないし、そんな時間はあった。日本の支配時で、化粧は余りしなかった。頭はパーマをして、ピンを挿した。

それでもパーマはしてくれたようですね？

パーマをする人が来た。中国人なのか、日本人なのか来てした。でもパーマは、私たちの所より、他の所の方が上手だった。家ですると、似たようなもの。

ハルモニのいた慰安所に、日本の女もいましたか？

日本の女はその慰安所でなく、違う所にいた。私たちの慰安所には日本の女がいなくて、日本の主人だけいて、韓国人の通訳がいた。

寝て行く軍人もいますか？

自分の家のように気楽に来て、寝て行く人もいる。女に手を触れないで、本見て遊んだり、主人と碁を打ったりして。女たちを煩わせるのが嫌で、保養に来た人たち。

チップくれる人はいなかったですか？

軍人は日本人でも、お金はない。私はまた別に、主人の家の仕事もたくさんした。朝鮮から来た人が多いから、中国人の市場で大根買うと、それを私が漬けてあげた。それで主人に可愛いがられた。

自分の言う通りにしないと、 刀を胸に突きつけて、「殺す」と

満州の慰安所の看板や建物に書かれた名前等見ませんでしたか？

名前はあろう。二階建ての建物だが、部屋がとても多かった。そのまま一の字の形に。

部屋ごとに表示がありましたか？

みな自分の客がいて、自分を訪ねて来ると、管理者が呼ぶ。名前や写真を書いて貼ったりしなかった。

病院ではなく、保健所に行って検査受けたのですか？

保健所ようだ。白いガウン着たお婆さんが、娘さんたちを見て消毒してくれる。性病にかかった人は慰安所に戻れず、他の病院に送られる。

ハルモニも注射打ちましたか？

私もたくさん打った。具合が悪いと打つ。一週間に一回は病院に行って、検査を受ける。大丈夫とハンコ貰ってから、軍人受け入れられる。軍人も受けられないと追い出される。日本人が自分の体だけ、どれだけ大事なのか知らない。

誰でも行ける病院ですか、ハルモニのような女だけ検査を受けるのですか？

男は検査する必要ない。慰安所にいる女が、軍人に病気移さないように、国でする。個人病院でなく、国の病院。

満州で暮らして、ご飯はきちんと出してくれましたか？

ご飯は中国人が作り、一日に二食は必ずくれた。私が「フミコ」、「ヨシコ」、

「ヒデコ」の三人使って、キムチも漬けた。私たち間では朝鮮語を使うが、朝鮮名では呼ばなかった。「姓は何?」と尋ねた憶えはない。

近所に中国の遊郭もありましたか?

話だけ聞いたが、歩き回れないから見てない。少し出かけると酒を売る所もあり、日本人もいるとか。

ハルモニの所は、酒は売らず、軍人の相手だけするのですか?

酒や食べ物売らない。ちかくには妓生のような、家がいくつかあった。

軍人相手の家にずっといたのですか? 歩哨もいますか?

部隊の中に歩哨がいるが、一般地域に歩哨は必要ない。私たちが逃げて、捕まったら殺される。

部隊の名前を憶えていますか?

「688」部隊とか呼んでいた。聞いていたがハッキリしない。何部隊とか書いてないから、分らない。

部隊は港から近かったですか?

いや、少し離れていた。そこが境界とか言っていた。部隊は平地にあって、近いのは大連と奉天(現在の瀋陽)。大連は部隊からそう遠くないようだ。

軍人はみな黄色い服の陸軍でしたか?

全部、黄色服着た陸軍。帽子かぶって脚には「包帯(脚絆)」巻き、軍靴を履いていた。もう私の知っているは、みな話した。これ以上は知らない。

満州にいた時、特に思い出すことがありますか？

軍人が嫌で逃げた。雪がたくさん降って滑り易く、日本のスリッパ、下駄が地面にくっついて必死に走った。捕まったら、ひどい目にあって殺される。口では到底言えない。どうやって生き残ったのかも分からない。軍人相手に、自分の言う通りにしないと、刃を胸に突きつけて、「殺す」と脅された。慰安婦に行つて、私ほど苦労した人いないだろう。

そこによく来た人とか、思い出す軍人の名前ありますか？

ああ! その人、思い出したら捜してくれるかい? 「吉村」といったか、ケガした腕に薬を塗って、靴の紐を解いて血を止めてくれた。それだけ思い出す。

軍人がハルモニに票をくれるのですか？

そんなのない。あいつらも「すみません」と言いながら入って来た。私たちが限で泣いていると、「大丈夫だ」と慰めたり、殺そうとする奴もいた。

日本軍は一日に何人来ましたか？

二人か三人。車にたくさん乗せて来た。私は体がひどく悪くて、手が腫れて病院によく行ったが、女の主人「ヒデコサン」が随分助けてくれた。「何号室に」と配分する責任者だが、配分しない時もある。

軍人を連れてくる時もありますか？

よく思い出さない。軍人で部隊から出て、慰安所に行きたい人は、土曜日に多く送りだす。「他に行きたい」と部隊で言うと、票を責任者にあげるようだ。

軍人を一番多く相手にした日は、何人ぐらい来ましたか？

やたら押し寄せて、あまりにつらくて「殺すなら殺せ、これ以上は無理だ」と叫

んだ程だ。一晩に少なくとも5、6人は来た。人がすることじゃない。

一度来ると、どれくらいの時間いるのですか？

時間がぴったり決まっていて、長居できない。出て行くと、また次の人が入って来る。正確には分からないが、大体30分位か。長くなると責任者が来て、「早く出る」と催促する。時間が来るとベルが鳴るから、好きにいられない。来てただ休むだけの人もいて、日本人には良い人もいる。吉村はただ座っていて、タバコ吸って出て行った。

腕をケガした時、見てくれた人が吉村ですか？

ええ、「故郷離れて、苦勞多い」と、私が泣くと、「泣くな、いつかは良い日が来る」と言ってくれた。お金の代りに軍で貰う毛布もくれた。来ると必ず、私を尋ねた。

一人済むと、すぐ次の人を受け入れるのですか？

いや、違う。洗面場に行って洗う。消毒しないと大変なことになる。ひとり受け入れて、直ぐに他の人は受け入れない。それは徹底している。準備できないと、病気にかかって死ぬから次の人は絶対受けない。

満州での慰安婦生活は、他の建物に移ったのですか？

うん。私たち一行はおよそ10人で、新しい所にまた10人ほどいたから、全部で20人になった。

移った家は大きかったですか？ どんな家でした？

2階まであった。臨時に建てた家なのか、変な家で、倉庫のように大きい。部屋ごとに幕があって、風呂もあった。

ハルモニの部屋は別にありましたか？

うん。みな自分の部屋がある。でも合宿だから、がやがやと賑やかで、同じこと。人が多くて、部屋を一人占めできない。

管理者は何をするのですか？

逃げるのを監視して警備する。責任者は日本語が上手で案内する人、「帳場」とも呼ぶ。

責任者のおばさんは、なぜ満州まで来たのですか？

その人も私と捕えられた人。私より位が高かった。軍人は取らないで、主人の代行をした。齢は50位で、人柄が本当に良かった。齢の若い私たちをつかんで、泣いたりした。

高齢の人もいたのですか？

50歳の人もいた。解放までは出て来られなかったが、年寄りの人がなぜいるのか、よく分からない。捕えられたのか、なぜ来たのか分からない、私たちより位が高い。私たちに、「服はこれを着ろ」、「消毒はどうして、子宮の管理はどうしろ」と教えてくれた。

満州では他に移動しませんでしたか？

うん。満州では、その家にずっといた。

中には酒飲んで乱暴する人いませんか？

そんな人もいた。でもそんな時は、管理者が何とかする。

何時が、一番苦しかったですか？

日本の工場で、曜日を定めて軍人を相手にした時は、それでもまだマシだった。だが、軍人だけ受け入れるのは、本当に大変だった。軍人は平日あまり来ないが、土日に最も多く来る。昼間来た。夜は外出禁止があって、警備があり、ほとんど来ない。

軍人の相手した部屋の構造憶えてますか？

ベッドがあって鏡が一つあった。「畳」部屋だったか、ベッドがあったか。(考える)

窓はなかったですか？

窓が後に一つあって。入って来る扉が一つある。

二階でしたか、一階でしたか？

二階にいた。入口があって、窓からは隣りも見えた。遠くに部隊も見えて。

満州で軍人の相手した時、一日の日課はどうでしたか？

軍人が来ない時は、家でお米から石を除く。机に並べて、小麦があれば、それもきれいにする。今はそんなことしないが、その頃は機械がないから。また違う仕事をさせられたり、洗濯する人はする。誰の服か知らないが、洗濯物をたたむ人はたたむ。

何時頃に起きましたか？

食事を8時か9時にする。

食堂が別にあるのですか？

台所に入ると、こう並んでいる。窯もずらっとかかっていた。入口に空間があって、テーブルを置く。15人、20人集まって、ご飯を器に盛って分けてくれる。

朝ご飯の中味は何でしたか？

ご飯をくれて、おかずもある。食べる人は食べて、食べない人は食べない。軍人が来て乾パンくれたら食べる。乾パンやパンもくれる。

普通、夕方は何時に食べますか？

8時を過ぎて、夕食を食べる。客がいる人は食べられずに、置いてある。軍人が持って来てパンを、食べる人もいる。最後にはおかずがなくなって、たくあん等で食べるから、味噌汁とか水に混ぜて食べた。部隊でそんなのたくさん食べるだろ？毎日、そんなのしかなかった。

軍人受け入れて、次の軍人が来るまで何をしますか？

風呂に洗面器や水道の蛇口があった。消毒薬(瓶の中に入った薬)少し取って、みな洗い流す。女たちがずっと座って洗い水した。配給でくれたガーゼがあれば、洗って干して、また使う。「サック」を使ったのも別に洗う。話にならない。

メンスの時は、どうしましたか？

軍人の相手はできないから遊ぶ。責任者も皆知っているから、お米から石を除去していた。

メンスが終るまで休めましたか？

一月に一度休める、だから23日は相手させられる。

メンスしながら軍人受け入れる女もいましたか？

受け入れられない。なぜなら人の服についてしまうから。服を脱ぐと思っているの。

服は脱がないのですか？

軍隊式だから、そのまま下してする。服、脱いでする時間ない。軍人も脱がない。

一日に何人も来ないし、時間も充分なのに、何故そうしたのでしょ？

その人たちは非常がかかるから、服を脱げない。平和な時代なら脱ぐだろうが。ウーとサイレンが鳴ると、みな飛び出て行く。だから「服は脱げない」と言っていたよ。飛行機が来たらすぐ行く。それが軍隊式よ。軍隊式で相手して、軍隊式で行くのよ。「サック」はめて、すぐに抜いて行ってしまう。メンスがあれば、管理人に言う。「メンスだから、どうする」と話すと、「あっちに行って違う仕事している」と言われる。

責任者が嫌がるでしょ？

米から石を選りわけるのは、大変だった。軍人の相手しない時は、そんな仕事させる。とても大変で。目玉が抜け落ちそう、首が抜けそう。遊べないし、出て行けない。逃げると人が追ってくる。

一番多く聞いた日本語は何でしたか？

日本人が言う悪口。言うこと聞かないと、「朝鮮ピー」¹⁾、「本当にしょうがない」とか。「朝鮮人はどうしようもない」という意味。そう言って怒鳴られる。「しょうがない、朝鮮ピー」だと罵声を浴びる。「朝鮮人は使い物にならない」と言われる。私はそう言われないように、必死に働いたけど、よくそう言われた。

1) 「チョセンピー」の「ピー」は中国語で、女性の性器を意味する言葉。日本軍は「慰安婦」を民族別に「日本ピー」、「朝鮮ピー」、「支那ピー」と呼んだ。余舜珠(ヨスンジュ)「日本軍『慰安婦』生活に関する研究」、『日本軍「慰安婦」問題の真相』、歴史批評社、1997、121頁。

軍人が入って来て罵声を浴びせるのですか？

刀で殺そうとしたりする。みな刀を身につけて入って来る。

たくさん殴られたでしょう？

刀を身につけて殴る、軍人たちは。命が賭かっているから、無理はできない。何か言われても、じっとしていないと。

刀で殺された女性もいたのですか？

わき腹に刺さって。その女は話が下手な女で、平壤の女だった。口が下手で、何か言ったら、腹が立ったのか、思いのままにならなかったのか。グサツ！ わき腹を刺された。出血して物凄かった。死んだらどうすると、恐くて憲兵を呼んだ。小さなジープに乗せて行っただが、私がケガした時も、来た。病院で薬塗る時も、その車で運んだ。

病院で女に病気があるのか検査するのですか？

注射をみな打った。検査の時、みな打つ。病気があってもなくても、お尻に打つ。病気を予防する注射だと。

注射の名前分かりますか？

知らない。〔病気で〕病院に入ると10日くらいいた。行けばみな、注射打つ。慰安所から行くと注射する。悪い菌がないか、検査は徹底的にする。本当に世の中でこんなことあるのか、完全に子宮から、あの穴の中まで見てくれる。病原菌が移ったか、どうか。

軍人の相手をして、お金くれないのですか？

お金は貰えない。お金って、何のお金くれるの。

労賃を後で計算してくれるという話も聞きませんでしたか？

そんな話一切なかった。後に朝鮮へ戻る時くれるとかいう、話もなかった。ご飯だけは食べさせてくれる。出て行く期限だけは決まっていた。解放される年に、送り出すと言っていた。出る日は決めていた。「お前ら、仕事したら、その時送ってやる。」そう言っていたが、そのうちに、やつらが降伏して、出て来た。

国がない時に生まれて、そんな辛い目に遭い、 自分の体までみな捨てて

ハルモニ、仕事しながら、具合の悪い所なかったですか？

股のつけ根を手術して、大変だった。こぶが（手で描いて）二つあった。脚が今も痛む。手術をしてから私は、女を一生捨てた。そんな生活を始めて、直ぐ病気にかかって手術して、子どもは産めない。そこにいて、出てから子ども産んだ人も多いのだが。国を奪われ、私の体を捨てて、お金一銭も貰えず、半身不随になって帰って来て、本当に辛くて、佝びしい。私たちが国のない世に生まれて、悲しみの中で自分の体まで捨てて。そんな体で、誰が結婚する、自分の良心があるだろう。誰かと結婚する気、起きるかい？

こぶができたのはどうして知ったのですか？

痛くて、病院に行って発見した。「痛い」と訴えたら、責任者が連れて行った。病院の人が北朝鮮の人なのか、韓国の人なのか。私が「痛い、痛い」と言うと、「少しだけ我慢しろ」と。一日、二日ではなく、とても苦労した。夏の暑い時で、その辛さは口では言えない。

病院で医者が、ただ「こぶだ」と言ったのですか？

横根。今、韓国でも横根と言うじゃない²⁾。両側にこんな塊ができて、自分でも分らない。

子宮からこぶを取り出す手術を受けた時、病院費は誰が出しましたか？

それは責任者が、みな出した。

責任者から後で、「金返せ」と言われませんでしたか？

私が体で働いているのに、それがみなお金だよ。

日本の医者が言う言葉を聞き取れましたか？

うん。できなければ、韓国人が一人いるし。一緒にいたから、日本語を早く覚えた方だ。自分たちの使う言葉は、早く覚えた。体が痛ければ「ここ、痛いです」と言うと、「そうか、病院に行こう」と言われる。雪が降ると、「今日は雪が降りますね」、「雪が降るから気を付けろ。」そして早く覚えた。

他の病気にかかったことはありませんか？

なかった。消毒して病気を予防するから。サックせず、そのまました女は、病気になる。私は少しでも変なら、病院に行く。「病院に行く」といえば、大歓迎だ。自分の所に来る客に、病気を移さなくするから。

軍人と日本語で話したことありますか？

自分の知っている単語だけ話す。「私は捕って来た」とか、そんな話をする。

2) 横根：上腿のリンパ腺が腫れる症状。性病と同時に現れる症状。

「ああ、そうか、可哀想だな」と言ってくれる。

ハルモニが憶えている吉村はどんな人でした？

お父さんが学校の先生だとか。軍人だが、完全に紳士だった。軍隊の合羽脱いで、「可哀想だ」と、私に被せてくれた。

誰が殴るのですか？

他の人だ。私が体悪くして、「もう、あんなことしない」と逃げた。捕まって戻ってから、「お前死にたいのか」と、朝鮮語で言われた。頭がこうやって、へこんでしまい、また殴りつける。私の姿を見て吉村が合羽で覆ってくれ、「病院に行け」と言ってくれた。「あなたが軍隊で、もしひどい目にあったらどうするの」と聞いても、「大丈夫だ」と私を助けてくれた。

吉村はハルモニの所に、しょっちゅう訪ねて来たのですか？

はい。私が「可哀想だ」、「早く朝鮮に帰れ」と。

階級は何でしたか？

星三つだよ。偉い人のようだった。とても教養があって礼儀正しい。私が病院から出て来ると、「通院して治療受けているか、どうか」必ず聞かれた。下っ端に「ケイチャン、どうなったか」と。吉村という人が、私を見て、合羽で覆ってくれ、血を止めてくれ、「病院に早く行け」と送ってくれたことを思い出す。

満州に何数年いて解放になりましたか？ 解放はどうやって知ったのですか？

1年半、そこにいたよ。ラジオも放送したから、解放は直ぐに分かった。市内が突然さっと静かになって、日本人が往き来しない。日本人はソ連人に捕まるから隠れてしまった。私たちは捕まらないようにと、帽子かぶって「コリア」と書いて貼った。

管理していた日本人はどこへ行ったのですか？

その人たちは皆、一緒にいたよ。船に乗る日まで待っていた。私たちは恐ろしくて一カ所に固まって出られなかった。すると寄宿舎で、ある姉さんが、「埠頭に行けば朝鮮に行く船がある」と言う。それで目がパッと開いた。「あなたは南に行くのでしょうか。私は北に行かなければならないが、一緒に行くか。一旦、乗ってみよう。北へ行く船があるかも知れない」と言われた。

その姉さんと一緒に船を探したのですか？

夜、帽子を被り、頭にピンをして男の恰好で行動した。太極旗を付けていないと日本の奴と間違われて、捕まるから。中国人の人力車から降りると、どこかから朝鮮語が聞こえた。私が「私たちを連れて行ってくれ、お金を上げる」と言うと、「お金は考えなくて良い。出て来られるのなら、乗れ」と言われた。そうやって朝鮮人と知り合った。



》》》 1944年9月、中国雲南省拉孟(ラモウ)で尋問を受け朝鮮人慰安婦、VAWW-NET Japan、『「慰安婦」、戦時性暴力の実態Ⅰ-日本・台湾・朝鮮編』、緑風出版、2000、285頁収録の写真。日本軍の占領地を再び占領した連合軍や中国軍が、日本軍に捨てられた慰安婦を発見したりした。

人々が服に太極旗を付けていたのですか？

服にコリアと書いて。「親元に帰りたいのに、行く方法がなくて行けない。どうか助けて下さい」と言った。するとおばさんが「明日の何時になれば、ここに塩を積みに来る船がある。お金を準備しろ」と言った。それで一緒に行って船長と話した。

そのおばさんが船に乗れるように斡旋してくれたのですか？

晋州から来たというおばさんは、お金をたくさん持っていた。「お金は一銭も無い」と言うと、おばさんが切符2枚分のお金をくれた。

そのお金で韓国へ行く船に乗ったのですか？

船長が「女は乗せない」と言う。「塩を積んで行くから乗せないと」。行く所がなくてどうしたらよいか分からず、ソ連の奴は行き来するし、目の前が真っ暗になった。船長にひざまずいて、事情を話したら、「絶対に女の恰好をするな。帽子を被って、スカート穿くな」と言われた。

船に何人乗りましたか？

私たち女3人と船長、船員の男3、4人、だから皆で8、9人。小さい船だったが、途中で、船がひっくり返った。皆で水汲み出して、船酔いして嘔吐して、やっと麗水まで着いた。

満州から麗水まで何日かかりましたか？

10日はかかったようだが、ハッキリ憶えてない。船酔いで飯も食べられないし、水しか飲むものがなく、フラフラだった。麗水来ると警察が乗って来て、「みな調査する」と言われ、一部始終みな話した。警官がたくさん来て、一人ずつカバンの中までみな調べた。

麗水からすぐに故郷へ戻りましたか？

出て来て、やたら「万歳」を叫んで。あれほど殴られて病気にもなって、朝鮮に戻って来て、誰かに話せた。すぐ母の所に行った。

家に1年数ヶ月いたら、「顔がきれいだ」と、見合いの話が入って来た。私は「あんなひどいことして来て、なぜ嫁入りできるか」と、一切、行かなかった。帰って来た時は、21か22歳になっていただろう。

数年間便りもなく、家族はどう思っていましたか？

連行されて「死んでいた」と思ったようだ。日本人が捕まえて行ったことは、工場で聞いて知っていたから。当時、どれくらい悲惨な目に遭ったか、兄が日本に連行された時も、日章旗振って行ったとか。「死ね」と言われたら、死んで。「弾丸を作るから」と茶碗や洗面器までみな奪って行くので、柿の木の下に埋めて隠した。

村の人たちに、「どこへ行って来た」と聞かれなかったですか？

みな、聞くよ。だけど「そんな所に行って来た」と言えないから、ただ「工場に行って来た」と言ったよ。

お母さんにも話さなかったのですか？

母にどうやって話す。母も知らないうちに捕まって、私のために病気になり、たくさん泣いたのに。(辛さがこみ上げ、しばらくの間、むせび泣く) どちらにせよ、私が口を閉じて何も話さなかった。病気になって具合が悪くて、嫁にも行けず、他の人のように堂々と生きられず、常に他人に面倒になって暮すのが、あまりに辛い。私はなぜ、こんな時代に生きて、こうなったのか。誰にも弟にも、この話はしなかった。この傷も、私が「誤ってケガをした」と、「焔炉で火傷した」とウソをついた。でも今も後遺症で痛む。こんな話、誰にもせずに死のうと思ったが、今度、自分でも分らないが、勇気が出て区役所に行って聞いてみた。絶句するような話で、とても

腹が立つ。全身みな痛い、痛くない所がない。

ハルモニ、次に生き還ったら、良い所に生まれて下さい。

マリア様、私はあまりにも哀れで孤独な人だから、この世の終わりには少し良い所に連れて行ってください(と祈る)。

面談日: 2005年3月21日/ 2005年3月24日

面談者: 金ミジョン、朴勝美

録音文入力・編集: 禹栄頌

録音文校正・校閲: 李宣姪・尹智炫

1923年生れ

1940年頃、慶尚南道から動員される。釜山で船に乗り、台湾に移動。
台湾の基隆(キールン)(台湾北部の港湾都市)所在の日本軍部隊の
近辺へ5年間、日本軍慰安婦生活

1945年8月
解放後、帰国

動員経路



第10話

再び女に生まれて、恨を晴らしたい。

I〇〇 1923年生れ

1940年頃、慶尚南道から動員される。釜山で船に乗り、台湾に移動。
台湾の基隆(キールン)(台湾北部の港湾都市)所在の日本軍部隊の
近辺へ5年間、日本軍慰安婦生活

1945年8月 帰国
解放後、

母が「なぜ、娘を連れて行くのか」
とつかみかかっても無駄。
無理矢理、連れて行かれた。

ハルモニ、思い出すままにお話されれば良いですよ。

そこで苦しみ味わったこと…今、話そうと思う。家では、子どもたちが供出させられるという話を聞いて、うちの母は嫁がせようと思ったのに、無理矢理、連れて行かれた。「嫁に行く」と言われても、「嫁が何なのか」知らなかったのに、連行された。母は私がどうなったのか分からず、病気になった。

行く前は、家でどう過ごしていましたか？

田舎娘が何かすることある？ ヨモギや草むしっていて、強制的に連れて行かれた。

両親は何をさせていましたか？

野良仕事！ 農業で、やっと食いつないで…。農業していても日本人がみな奪ってしまって、まともに食えない。戦争する飛行機に補充すると、茶碗や真鍮の器、スプーン等、みな奪い取る。

その時、何歳でした？

18歳。

どのように連れて行かれたのか、もう少し詳しく話してください。

家にいたら人が来て、強制的に連れて行くのよ。

その人とは、誰ですか？

日本から来た人なのか、何か言っても日本語だから聞き取れなかった。

服はどんなでしたか？

洋服を着ていた。

何人ですか？

二人。

その日本人はハルモニの家をどうやって知ったのでしょうか？

みな供出しようと、郡ごと探して娘たちを連れて行く。部落を尋ね廻り、息子

や娘がいると皆、連れて行く。助かる道がない。

ハルモニの家に娘さんがいることが、なぜ判ったのですか？

あちこち回って話を聞くのよ。どこに行ったら娘がいる、とか。その頃は、里長(村長)を通して来る。ただ探しても、分からないから。

里長にハルモニの家のこと、密告されたのですか？

昔は、里長でなく、区長といった。密告しなくても、「どこそこに娘がいる」と、無条件に来るのよ。

何といって連れて行くのですか？

「良い所に連れて行く」と言って連行するのに、どうする。

ハルモニのお母さんは、その時いなかったのですか？

母は台所仕事をしていて、私は牛の尻尾切って、ただ家の用事をしていたら、見知らぬ人が二人ズカズカと入って来た。母も「なぜ娘を連れて行くのか」とつかみかかっても無駄で、強制的に連れて行かれた。男と女が来た。男は洋服着ていた。二人が日本語で話すから、田舎育ちの私たちは分からなかった。

二人はどんな関係のようでしたか？

あいつらだけで日本語で話すのに、分かるかい。

ハルモニその時、日本語を少しはできましたか？

日本語、少し使ったが、みな忘れた。「ご飯、食べたか。来い、行こう。」こんな言葉は使った。ああ、話にならない、あんな苦しみ、どこにある。通り過ぎた

歴史だ。

その人たちの年齢はどれくらいでしたか？

分らない。その時、私は幼くて、あいつらの年齢がどうなのか判らない…。あいつら同士、「ああだ、こうだ」と言いながら、私を連れて行こうとする。私は「行かない」と泣いて駄々をこねたが、「良い所に行かなければならない」と連れ出した。

その時、他の兄弟はいなかったのですか？

姉はもう嫁に行っていた。私も嫁がせようと考えていて、そうだった。腕をやたら引っ張って行く。なので、うちの母が「どこへ連れて行くのか」と止めたが、「工場へ、良い所に入れてあげる。そこでは人が足りないから、連れて行くと。」と言う。

何の工場ですが？

何の工場なのか、知らない。二人が連れて行くという口実だけだよ。そんな「むさくるしい所に行く」なんて言えるかい。それだけだよ、他にない。

突然、家に来て、「工場に就職させてやるから行こう」と言うのですか？

「良い工場に入れてやるから、行こう」と言う。

「行かない」と言いませんでしたか？

私が「行かない」と言うと、「田舎の片隅なんかにはいないで、良い所に行け」と連れて行く。どうするつもりか、ああだ、こうだと、強制的に連れて行かれた。それだけで、他にない。

何月頃か思い出しますか？

何月かは分からないが、暖かな服は着ていなかった。薄着で行った。だから春だったのか…。今も分からない。服は厚着でなかった。

どこへ連れて行かれたのですか？

車に乗せられた。昔、ジープと呼んだ黒い車だった。車が来て、手を挙げて乗った。

周囲に助けを求めませんでしたか？

人がいてくれたら、「助けてくれ」と言うが、運転手とそいつらだけしかいない。

乗ってどこへ行きましたか？

乗って、晋州に行った。

晋州になぜ寄ったのですか？

晋州の子たちも強制的に連れて来たようだ。4人が連行された。山清郡(サンチョングン)の子と晋州の子、私と統営(トンヨン)の子。埠頭に釜山水上警察署があり、連絡船に乗った。

晋州の子を連れて来たのは、他の人ですか？

みな、同じ人たち。

晋州の子は、どんな子か思い出しますか？

どんな子か知らない。田舎娘なので聞くこともできず、泣いてばかりいた。

ハルモニより年上？年下？

同じ年頃だろう。山清の子は不細工だった。それでも連れて行く。

山清の子には、いつ会いましたか？

みな、同じ車で行った。その人たちが釜山で、旅館かどこかに一日眠らせた。

晋州や統営の子たちの名前は思い出せませんか？

昔のことで分からない。日本の名前も分からない。

その子たちは最後まで一緒にいましたか？

途中で具合が悪くなって、どこかへ送った。死んだだろう、あんな苦しみを…。

旅館で一日寝たのですか？

4人で寝た。私たちは「死に場所に行くのか、生きられる所に行くのか」、互いに見つめて合って泣いた。

旅館の名前、思い出しますか？

何も分からない。田舎から出て何が分かる？最近ならテレビもあるが…。昔の田舎娘は、村で飯食って、ヨモギ採って、牛の尻尾切って、他には何も知らない。

ハルモニ連れて行った人たちは、どこで寝ましたか？

その人たちは小さい部屋で寝ただろう。

逃げたらどうするつもりだったのでしょうか？

女は私たちと一緒に寝た。

旅館で何か話してくれませんでしたか？

何も言ってくれない。その人たちが釜山かどこか、旅館に私たちを一日眠らせて、埠頭にある水上警察署で何か書いた。私たちは何も知らない田舎の娘で、「行かない」と泣くと、なんども頬を殴られた。めちゃくちゃに殴る、強制的に連れて行くのに…。下に降りたらもう、船の中だった。船酔いがひどくて、耐えられない。船では何も食べられなかった。ラジオからカッコーが鳴く声が聞こえて、母を思い出した。カッコーの声を聞いたら、涙がひとりでに出た。船では…、ずっと泣いていた。母を思い出して、死にたかった。一夜半、行くと朝鮮の地ではなかったようだ。

警察はハルモニが殴られているのを、ただ見ているのですか？

そんなこと何でなく、それは連れて行く人の責任だから、警察が何を言える？そんなこと、いちいち助けてくれない。私たちには何の権利もない。連れて行かれるだけ。どれだけ殴られたか…。耳がぼうっとして聞こえない。

釜山から連絡船に乗ったのですか？

日本に連れて行く連絡船は名前が「大和丸」で大きい連絡船。「富士丸」、「大和丸」、船の名前が二つ、三つあったが、みな沈没してしまった。爆撃でみな壊れた。私たちみな乗る船の、後から来た船が沈没してしまった。戦争は体験してみないと分からない。大東亜戦争、恐ろしい。

船に乗って到着した所はどこですか？

船に乗って日本の下関で降りた。降りて、一晩寝たか、するとまた船に乗る。再び船に乗って、どこへ行く。今考えると、台湾の基隆だった。

釜山から日本までは、時間はどれくらいかかりましたか？



》》『連行される船の中』、日本軍慰安婦
被害者金順徳の作品、ナヌムの家/
日本軍慰安婦歴史館資料提供

日本に行くのに8時間か、夜乗ったら、日が明るくなって「降りろ」と言う。時間も分からず、日付も知らず。バカな田舎育ちに何が分かる。

下関から船で台湾まで、時間がどれくらいかかったか思い出しますか？

行くのに2日かかったか…。とにかく船に乗ると、ご飯も食べられず、考える余裕もない。どこがどこかも分からないし…。何日、何日…、どうして分かる。

台湾の港で降りて、暮した所までどうやって行きましたか？

次は管理する人たちが連れて行く。小さい車に乗って数時間、2時間か、3時間かかった。時計もないし、よくわからない。降りたら一般の家のようで、次の日は軍人が占領している所に連れて行かれた。

死ぬよ。それ、生きると言えるかい。

過去のことだから話すのだ。

行って少し休まれましたか？

行ったら、すぐ仕事させられる、何が休める？ すぐ仕事する。部屋でもない、畳二枚敷いて板で仕切っただけ。女の子が何人かいる。死ぬよ。それ、生きると言えるかい。過去のことだから話すのだ。恥ずかしくて、話せない。そこに行くのと、若い女がたくさんいた。本当に死にそうだった。家も変で、強制的に連れて行かれて、板小屋のようなのに所に入れられて、部屋でもない変な小屋。そこで軍人と接触させられる。みすばらしい畳二枚敷いて、板で隣と仕切って…。そして日本の軍人を受け入れる。部隊の近所で、軍人をみな受け入れる。部隊の名前は「1776部隊」だった…。

5年間過ぎて、解放直後に戻って来た。顔は黄色い、キュウリ花が咲くような顔(黄色くて、やる気を失った顔を比喩的に言う)になり、母は「命だけでも長らえて帰って来い」と待っていた。母は重い病にかかっていた。私はそれでも生きて帰って来た。苦しみもたくさん体験したが、死なないで生きて帰った。

その村の名前は何か？

私が行った所は台湾の基隆という所。そこは日本人が戦争して奪って占領していた。香港、上海、シンガポール、みな日本が奪った。軍人がみな占領して暮らしていた。

ハルモニがいた家を、何と呼びましたか？看板はなかったですか？

看板はない。軍人の相手する所だよ。

家はどんな作りだったか思い出しますか？

家はみすばらしい。家というのは、箱部屋に板を張って、畳二枚敷いただけ。板で仕切って、そんな形だけで、そこに軍人が来る。平屋建て。

部屋はいくつありましたか？

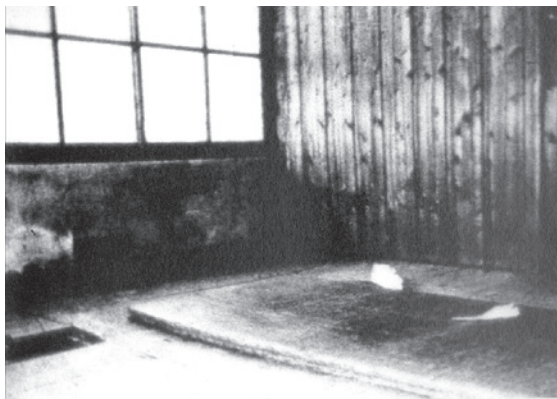
部屋数は多い。畳二枚敷いて、数は多い。お腹も空くし、苦しくて、つらいことさせられて、今は口にもできない。

そこにいた女の子たちは、どこの国の人ですか？

うん。みな朝鮮の女たち、郡ごと集められて連れて来られた女たち。

主人はいましたか？ どんな人でしたか？

女は故郷が北の人。名前は知らない。



≫≫ 慰安所の部屋の内部。東北アジア歴史財団、『日本軍「慰安婦」とナチスドイツ収容所の強制性労働』、2007年、23頁収録の写真。

何と呼びましたか？

日本語で「奥さん」と呼んだ。大体45歳くらい。しくじると棒で殴る。私たちが客を嫌がり、「もう、耐えられない」と言うと、やたら殴る。ご飯もあまりくれない。白い粥を沸かして、たくあん一切れと、黄色の大根一切れだけで、とても飢えた。やたらに、ここを殴り、あそこを殴る。それでもどうする？ 行くことも、来ることもできず、命つないで暮すだけ。

なぜそんなに殴るのですか？

そいつは、思いのままにならないと殴る。主人は「しくじった」と殴り、ご飯もまともにくれない。白い粥一匙貰って、死んだのと同じ生活。そんな歳月を送った。主人のお婆さんが「日本の名前に変えろ」と、「アヤコ」と呼ばれた。一緒に行った人はみな、名前を日本式に変えられた。

朝鮮語、使っても大丈夫でしたか？

朝鮮語は使えない。使うと殴られる。その人たちに、人情などあると思う？ 事情を考慮しない。朝鮮語一切できないから、話が通じない。それで毎日、日本語を勉強する。「いらっしゃい」、「ごめんください」、「座りなさい」、「いきなさい」。言葉をみな習わなければならないから、苦労が多い。下手をすると鞭で殴る。田舎娘を連れて来て、あいつらも頭が痛かったようだ。何か少しは知らない。私たち、何も知らないから。

主人に、夫はいなかったですか？

一年くらいいたら、男が一人で、きたみたい。どこから来たかは知らないが、北の人。

ハルモ二を連れて来た日本人は？

北の人に引き渡して、行ってしまった。北の人と主人に、私たちを渡してから

は見えない。そこからどこへ行ったか、知らない、分からないよ。

どこから見えなくなりました？

その部隊に行ってから。

その後は見たことないですか？

分からない。何日かしたら、また三人、連れて来た。その人たちが連れて来たようだ。主人は女の子受け取って、私たちに責任もたせた。

女主人の性格はどうでしたか？

性格はとても冷たい。口も利かない。お前たちとは話さないと、だから話もあまりない。

話す時は、主にどんな話をしますか？

「きれいにして、軍人に待遇良くしろ」と、そんなこと。他にはない。

ハルモニのいた家に何人いましたか？

10人くらいいて、病気で出て行って少し減ったが、また新しく来た。

どれくらい経って、新しく来たのですか？

数ヶ月いて来た子もいて、一年経ってから入って来た子もいた。

何人ずつ来るのですか？

二人で来る時もあり、三人で来る時もある。

集落に民間人はいませんでしたか？

民間人はいない。軍人が占領した所だから、民間人はいない。私たちが外出しないから、見えないだけかも知れない。

服はどんなものを買って着ましたか？

ズボンみたいの、でなければ、変な日本の「着物」みたいなもの。

どこで買うのですか？

主人がくれる。女の子たちは外出できない。出られない。まるで懲役生活。出かけたことはない。

他の仕事、されたことがありますか？

そこに縛られていて、何をする？ 何もできない。歳月が経ったから、話すのだが、若い頃は話せなかった。

ハレモニの部屋の掃除は？

部屋は汚い箱部屋、拭く所もない…。

ご飯は誰が作るのですか？

主人が一、二回、出してくれる。軍人から安南米、食糧を貰って作るようだった。アイゴ、粥も軍隊式で、食べものもなく。軍用米も米が足りなくて、ご飯から粥になった。

三食食べましたか？

三食くれても、一匙、二匙だから、お腹がとても空いた。買って食べる所もないし、お金もない。死のうが生きようが、一匙貰えばそれで終わり。タクアノー

切れと、後は粥。白い粥だけで、命だけやっと思えた。

ハルモニ、病気になったことはないですか？

悪い所があっても、ただ注射して。下半身も病気になった。軍人に病気が移ると、下半身に器具を当てて検査する。歳が過ぎたから話すが、恥ずかしくて口では言えない。

病気になると検査するのですか？

下の検査は一週間に一度続ける。病気が有るか無いか見る。病気だと、軍人たち大変なことになるから、週に一度ずつ。

検査は初め、行ったら直ぐ受けましたか？ でなければ、何日か後に受けましたか？

何日かいて受けた。

検査受ける所はどこですか？

軍医が見る所があって、そこで受けた。小さな病院。

一週間に一度、決まった日があるのですか？

ああ、決まった日があった。

検査の日は、軍人受け取らないのですか？

みな受け取るよ。検査の数時間、受けないだけだよ。

検査する医者は日本人ですか？

ええ、日本人だった。軍人のよう。

軍人だとして判るのですか？

そこが軍隊式だから。

検査して病気があると、どうなるのですか？

病気があれば、一週間は休む。

下を検査して、入院した人はいなかったですか？

病気があそこにあれば、一週間休む。

ハルモニは入院したことありますか？

いや、具合悪ければ、軍隊病院で注射する。

注射の名前分かりますか？

よく分からない。

606注射、聞いたことありますか？

600注射¹⁾ それは梅毒にかかると打つ注射。600注射は、病気の人が打つ。

ハルモニは打ちましたか？

私は600打ってない。

その注射のことは、どう知りましたか？

何をしたという話になって、「私は600打った」とか言うから。

1) ‘ハルモニは606号注射’を‘600注射’と記憶していた。

その人は病気にかかっていたのですか？

いや、何かあると600打つが、色々な注射があつて、みなは打たない。とても悪ければ600打つが、普通は打たない。

そこでは妊娠した人、いませんでしたか？

生まれない。子宮が壊れてしまつて。色々な人を相手にして、変になつてしまふ。おかしくなる。だから子どもはできない。違ふかい。

「サック」というのは使いませんか？

「サック」。する人はして、しない人はしない。

誰が持って来ますか？

軍人が持って来る。

軍人は一度来ると、どれくらいいるのですか？

一夜寝て行く人もいて、時間で出る人もいる。寝て行く人は階級が高くて、時間で出て行く人は下っ端…。

一晩寝る人は少し違いますか？ 何かもう少しくれますか？

何もくれない。

チケットのようなもの貰いませんでしたか？

ない。主人が処理していた。

軍人が持ち歩くチケットはなかったのですか？

主人が扱っているかは知らないが、私たちは分からない。

逃げようとしませんでしたか？ お金もくれず、嫌なことだけさせられて。

逃げられない。どこへ行く。逃亡は無理。出られない。行ったら駄目。

酒に酔って入って来る軍人はいませんか？

酒に酔って来る人もいて、来てから乱暴働く人もいて、さまざまだよ。酒飲んで罵声浴びても、口閉ざしてないと、一緒に話などできるか。「バカ野郎」、「お前、生意気だ」と怒鳴りつける。

軍人は陸軍？ 海軍？

陸軍。もし海軍船が入って来たら大変だよ。黄色い服を着た陸軍が占領していて、軍艦が入って来たら、陸軍は手を出さない。海軍が来て一週間とか一ヶ月過ぎると出て行って、また陸軍がやって来る。全部、軍人相手。民間人はいない。

5年間ずっと見る軍人もいますか？

いや、ひとりが5年もあるか、しょっちゅう変わる。色々な人が来た。自分の家に帰る軍人も人もいて、そのまま残る人もいた。また戦闘で、大騒ぎだ。ここを占領して、あそこも占領するから、民間人のように一ヶ所にはいない。

今日死ぬか、明日死ぬか分からないから、
人情も何もない

軍人は一日何人来ますか？

10人は相手した。10人も。だから女はボロボロになった。休日や土曜はもっとひどい、昼も夜もたくさん来る。民間人はいない。無条件、軍人だけ相手にす

る。その頃は戦闘状態で、今日死ぬか、明日死ぬか分からないから、人情も何もない。軍人が「並び」立って、押し合い、へし合いだ。軍人も戦場に出て行って、命懸けだ。戦争に行けば、死ぬか生きるか分からない。連日、爆弾が飛んで来る、飛行機で爆撃するから、必死だ。基隆は爆撃で、みなやられた。それでも何とか私は死なないで、生きて出た。

ハルモニがいた所に、慰安所は他にありましたか？

地域に5、6軒ある。所々にあった。

他の家の人たちと会ったこと、ありますか？

話をするとか、そんなのはない。外に出なかったし、同じ家の女たちと、少し話するだけ。私たち、友だち同士では「いつ解放されるか」話した。お前は「故郷がどこで、どうやって帰る」とか、「どこへ行く」とか、無駄話をたくさんした。

家はみな同じ作りでしたか？

軍人と接触する所だから、家は良くない。

そこから他の所に移ったのですか？

そこにずっと2、3年いて、どれくらい経ったか。他の所に移動するからと、もっと険しい所に行った。そこに1年いた。

もっと険しい所とは、どんな所でしたか？

もっと谷間の内陸の部隊。

なぜそんな険しい所に行ったのですか？

女たちを何人か連れて、谷間に行った。1年くらいで出て来た。営業にならなか

ったのか、移動して少しいただけ。

そんな山奥に家があったのですか？

家はやはり箱部屋。前からの家でなく、形だけ作って身を置くだけ。

ハルモニ、行く前に生理ありましたか？

いや、遅かった、18歳超えた年にあった。それも使う道はない。あっても軍人を相手するのに関係ない、容赦ない。さっと洗って受け入れなければならない。一度受け入れたら洗うから、下半身が冷えて、他人の肉になったようだ。

洗う所は、どこにあるのですか？

洗う所は他にある。ずらりと並んで、洗わなければならない。男が洗う所もあって、女が洗う所がある。暖かい水はなく、冷たい水だけ。水で毎日洗うから、下半身痛めつけてしまう。メンスの時はさっと洗って、浮き出ないようにする。

主人がさせるのですか？ 軍人がたくさん来て、何か良い事ありましたか？

それが仕事だ。

主人はそんな仕事すれば、お金が儲るのですか？

軍人が券を出すと、その金が国に入るのか、どこへ行くのか知らない。女の所に来ると、お金を少し主人にあげるようだ。それが国に入るのか、どうか知らない。

ハルモニにはお金くれないのですか？

私たちは、お金くれない。

お小遣も貰えないのですか？

くれない。

ハルモニが可哀想だと、お金くれる軍人はいませんでしたか？

そんなの、いない。

軍人の中に朝鮮の男もいましたか？

朝鮮の軍人はいない。朝鮮の男は全部、徴用にとられて苦しんでいるのに、そんな所には来ない。遊びにも来ない。

親しい友だちはいなかったですか？

友だちと話す暇などあるかい？夜が明けると、ご飯食べて。ただする話は、「お前、ご飯食べたか」程度で、親しい人もいない

名前思い出す友だちいますか？ 名前は「チサコ」、「カシキ」、「タイナ」。全部日本の名前で、朝鮮の名前一つもない。

主に朝鮮のどこからきた人たちですか？

すごい田舎からも来て、どこからでも来ていた。いちいち憶えてないが、慶尚道の人、全羅道の人、郡ごとにみな来た。

他の人たちは、そこが何する所か知っていて来たのですか？

何をする所か、知らないでついて来た。他の人も拉致されて来た。知っていたら、誰が来るかい。知らないでみな、拉致されて来たんだよ。

病気にかかったり、具合の悪い人いましたか？

お腹が痛かったり、具合の悪い人がいた。

悪いと主人が少しは面倒見てくれますか？

それでも容赦ない。「死ぬ病気でなければ大丈夫だ」と言って。

つらくて死のうとした人はいなかったですか？

そこで死んだって、自分が損するだけだ。誰か知らせてくれるかい。誰も知らせてくれない。

腹が痛い以外に、大病にかかった人はいなかったですか？暑くて病気になったとか？

むず痒い病気にかかって死ぬ人がいた。

むず痒い病気の症状はどうでしたが？

全身、むず痒くなって。その女、死んだ。とても痒がったが、隈の部屋に閉じ込めて、消毒した。恐ろしい。伝染病だ。病気が移るからと中国人は来ない。軍人に移ったかも知れない。そんな流行病にかかった人がいた。熱は出ないが傷を負って、らい病のように全身から粘液出て、見ていられない。ひどかった。

病院があるのに、なぜ隔離するのですか？

そういう病気。治療しないで隔離する。

一週間に一度は検査しているのに？

その検査と、この検査とは違う。

それでも病気にかかったら、病院に送るのでは？

いや、送らない。

台湾に何年おられたのですか？

5年、5年過ぎて、解放直後に送り帰された。帰りは病院船。大きい船で、それに乗った。

顔が黄色くて胡瓜花のようになって帰って来た

5年もどうやって耐えられたのですか？

歳月がいつ過ぎるのか、サッと言ってしまった。人は楽だと、歳月が遅々として進まない。忙しくて、時間がどうやって過ぎたかも判らない。

解放は誰が教えてくれましたか？

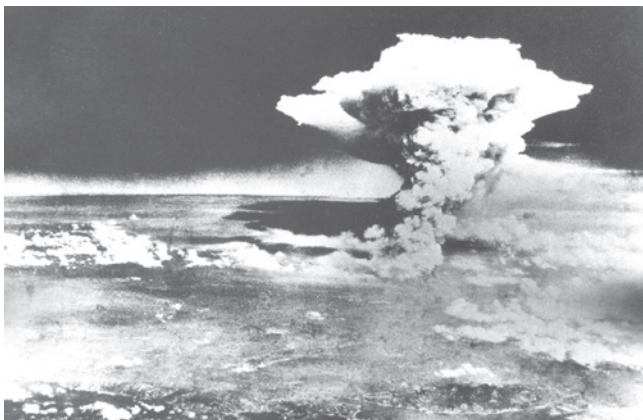
「原子爆弾が落ちた」と、大騒ぎだった。それで、みな解放された。「行きたい所に行け」と、送ってくれた。その時、交通費に、お金千円貰った。

原子爆弾落ちたのは、どうやって知りました？

皆、聞いたよ。「原子爆弾落ちて、戦争はみな終わった」と言って。「行きたい所に行け」と、「もう解決した」と。原爆落ちて、軍人は皆抜け出てしまった。

その後、軍人は一人も会いませんでしたか？

軍人は、必死に戦ったのに負けてしまったから、酒飲んで自分たちの部隊内で



》》》 1945年8月6日、広島に原子爆弾投下。『アジア・太平洋戦争』74頁、ボブラ社収録の写真。
広島に続き、8月9日、長崎にも原子爆弾が投下された。惨敗と広島・長崎の原爆投下で、日本は8月15日に無条件降伏を宣言した。

喧嘩したり、自殺した人もいた。船に乗って帰る時、米国人がいたが、まともに見られなかった。米国人が皆占領したから、皆が「若い女は気を付けろ。米軍を見るな。笑うな」と厳しく戒めた。「米軍が朝鮮に行って、強制的に女、襲う」と大騒ぎだった。

解放されて、船はどこで乗りましたか？

基隆。連絡船が着いて…。

解放されて船はどうやって探しましたか？

みな、人に会って連絡船に乗ろうとして、「この船、どこへ行くか」と尋ねる。「日本へ行くのか、朝鮮に行くのか」と尋ねた。「あの病院船に乗れば、朝鮮に

行く。一ヶ月かかる」と言われて乗った。非常に大きくて山のような船。名前が病院船で、色々立ち寄って行くから、一ヶ月かかった。香港、上海、日本の各地に寄って、人を載せるから時間がかかる。

乗った船に、ハルモニのような連行された女もいましたか？

女はいるが、話をしないから、何をする女なのか、どうやって分かる？ 話をしないと分からないだろう。女も多くて、男も多かった…。

服は何を着ていましたか？

ワンピースを着ていた。

荷物はありましたか？

荷物はない。小さいカバン一つ持って、何もなしに船から降りた。釜山で「故郷に帰る」と言ったら、お金を千円くれた。

釜山から故郷まで、どうやって行きましたか？

釜山に来て、日本語で話す訳にも行かないから、朝鮮語で「汽車はどこで乗るのか」と尋ねると、「あの汽車に乗れ」と言われた。帰ったが、母が私を見ても分からない。あまりに歳月が経って顔が変わったので、「知らない」と言う。

戻ったらお母さんは何をしていましたか？

母は私のせいで病気になった。知らない所に子どもを取られて、どれほど心苦しかったことか。だからいつも水を浴びて、「命だけでも生き延びて、帰って来い」と、天に祈っていたという。母は初め私のことを、顔が黄色くて「判らない」と見違えた。じっと見つめて、「お前、誰だ」と言うの。ああ、その話したくない。でも朝鮮に帰ったら、水が変わって、お腹が痛くてご飯が食べられな

かった。すると母が私を深い山奥に連れて行った。薬水を飲んだら腹痛は治った。もう、話にならない。醜い黄色い顔になり、嫁にも行けない。「汚い」、誰が「嫁に來い」とも…。

他人が、どうして知ったのですか？

なぜ、知られない。噂が立って、皆知っている。人を見たら分かる。顔が黄色く胡瓜の花のようになって帰って來たから、すぐ分かる。あの子が「強制的に連れて行かれて、どうなったのか」、皆知っている。嫁も行けない。來いとも言わない。赤ん坊も産めない…。下半身を駄目にして、赤ん坊がどうしてできる？ そんな苦しみに会って、今まで歳月を送った話、もうできない。恥ずかしい歳月、もう過ぎたが、どれくらい恥ずかしいか？

お母さんはハルモニが、どこにいたのか知ったのですか？

そんな所にいたことは知らない。母に何と言う。「日本人の下で働いていた」としか言えない。今日、先生たちが來て、調査するというから話すのであって。他の誰にも言えない。

一緒にいた女の人と会ったことはありませんか？

浦項の子と一緒に來たが、連絡先は知らない…。分からない。

お母さんから「嫁に行け」とは言われませんでしたか？

「お前も相手を決めて、お嫁に行かなくてはならないのに…」と言われても、「私は嫁にいけない」と答えるだけ。親は、なぜ行けないのか、知らないから。

ハルモニはどうでしたか？

行く気なんか無い。

一人で何をして暮らして来られましたか？

母の傍にいて、他人の家で世話になったりした。時が過ぎたから、こうやって話せるが、誰にも話せない。話すかい、みっともなく話せない。先生たちにこんな話をするのも、恥ずかしい。

私も心が痛みます、ハルモ二。

心が痛い…。私が話すことで、何か、申し訳ない。

再び生まれ変わっても、女に生まれたいですか？

新しく生まれ変わったら、勉強して、字も学びたい。嫁に行って、赤ん坊も産みたい。恨のまま死んでも、再び女として生まれ、恨を一度晴らしたい。



>>> 『奪われた純潔』、日本軍慰安婦被害者姜徳景さんの作品、ナムムの家 / 日本軍「慰安婦」歴史館提供

資料面談日：2005年4月27日 / 2005年4月28日

面談者：姜ヒヨン、朴チョネ

録音文入力・編集：尹智炫

録音文校正・校閲：李宣姝・尹智炫

J〇〇 1924年生れ

1943年頃、 全羅南道で動員、釜山から
日本に移動日本からでナウル（推定、現ナウル共和国）に移動
ナウルで日本軍慰安婦生活

11945年 帰国
11月頃、



第11話

姉ちゃんが工場で働いて、 牛買ってあげるね。

J〇〇 1924年生れ

1943年頃、 全羅南道で動員、釜山から
日本に移動日本からでナウル（推定、現ナウル共和国）に移動
ナウルで日本軍慰安婦生活

11945年 帰国
11月頃、

一年いたら牛二匹買えると

ハルモニ今年で、年齢はおいくつですか？

私は82歳のネズミ年。戸籍には一年か二年、遅く載せた。その頃はみな、そうだった。

ハルモニ、幼い時、学校に通われましたか？

ああ、〇〇学校。日本人が教えていた。

先生は日本人でした？

先生は日本人。だから「アイウエオ、カキクケコ」とか、よく分かる。日本の文字、よく知っている。国民学校でも日本の字書いたが、震えて書けなくなった。名前も「アキコ」と呼ばれた。（「秋子」と紙に書く）

ハレモ二、日本語も話せますか？

話すのはあまりできない。でも聞くのは聞ける。上手くは話せない。

ご両親はその頃、何をしていましたか？

母は何もしていなかった。父は牛の仲買をして、昔は豊かにご飯食べて暮していた。金持ちではないが、子ども三人兄妹で可愛がられて育った。ところが母が病気になるって、私が9歳の時に死んでしまった。それで妹は一歳で、乳も飲めずに死んだ。だから弟と私は、とても苦労した。父は「私たちに苦労させたくない」と再婚しなかった。その頃、お腹を空かした女たちが、父を自分のものにしようと、競って家に入ろうとした。でも父が拒んだ。うちの父は一人暮らしで、39歳で亡くなった。

ご両親亡くされて、どうやって生活したのですか？

父が亡くなって、弟を連れてあっち行ったり、こっち行ったりした。「ご飯食べたい」と弟が言うので、叔母の家へ行った。すると「人々を募集する」という話が合った。それで私が行くことになった。

どこで募集する人に会ったのですか？

叔母の家に行こうとしたら、「働く人を募集する」という話を聞いた。それで叔母の家には行かず、「お金が儲かる」というから釜山に行った。

何と言って募集するのですか？

〇〇駅前に集まったら、日本人が二人いた。釜山から来た体の大きい年寄りが、「釜山に行けばゴム靴の工場があって、お金儲けができるから行こう」と言うんだ。

釜山の人が「工場に金儲けに行こう」と言ったのですか？

「金を儲けに行くか、そこの子？」と言った。それで「どこへ行くの？」と聞くと、「釜山、ゴム工場に行くとお金がたくさん儲かる」と言えから、私が「それなら行く」とついて行った。「一年いたら、牛二頭買える」と。それで「これは良い」と思った。

弟さんには何と話したのですか？

弟に向かって私は、「私が釜山のゴム工場に行って牛買ってあげるね」と言った。男が「釜山に行けばお金たくさんくれる」と言うから。(涙) 日本人のせいで傷ついたことを考えると、歯ぎしりする。

弟さんは「行って来い」と言ったのですか？

アイゴー、私が弟を置いて行ったことを考えると、涙で話もできない。「早く叔母の所に行け。」と泣くと、弟は「姉さん、一緒に行こう。」と横になって言う。「お前は叔母さんの家に行きな。私はお金儲けて持ってくる」と泣き叫んで、弟を引き離した時は、本当に胸が裂けそうだった。

ハルモニが行かれたのは、何頃でした？

うん、正月前だったようだ。天気は寒かった。雪がシンシンと降っていた。でも南洋群島に着いたら、暑くて死にそうだった。

男たちは〇〇駅で現れたのですか？

そう。〇〇駅に来て、汽車と一緒に乗って釜山へ行った。

日本人は朝鮮語も話したのですか？

うん、朝鮮語も少しした。私服を着た日本の奴だよ。

何をする人のようでしたか？

まるで泥棒のようだった。一人朝鮮語を話す奴は痩せていた。もう一人は泥棒のようで、怖く陰悪な感じだった。

ハルモニに何と言ったのですか？

「可愛くない」と、随分けなされた。私は南洋群島に行っても、「可愛くないから、客も来ない」と言われた。日本の奴らは、心暖かいと言うが、可愛くないから客が来なかった。

その時、何歳でした？

18か、19歳くらい。

なぜ嫁に行かなかったのですか？

アイゴー、嫁に行きたくなかった。「嫁入りしろ」と言われても、「弟の世話する」と、私は行かなかった。

〇〇駅で汽車の切符は誰が買いましたか？

あ、あいつが買った。私たちは手ぶらだった。

汽車に乗って〇〇駅からまっすぐ釜山に行ったのですか？

そう、釜山にまっすぐ行った。初め、女は私と新興(シンフン)(慶南河東郡)の子だけ。大田に行くとき群山(クンサン)〔全北(チョンブク)〕の女がいた。行く先々で群山からも、裡里(イリ)〔全北〕からも乗って来た。どこでも行く所ごと、たくさん乗って来た。乗った女が20人になるかも。

女たちだけで来るのですか？

あいつらが連れて来た。それでみな、群山や裡里で乗って、釜山に着くと旅館で飯買ってくれた。そして私たちはすぐ、休みもせず日本に行った。やつらは「日本に送らないと金儲けにならない」とか、「日本は工場が多くて朝鮮人がたくさんいる、韓国人が多いから良い」とか言っていた。

新興の女の名前、思い出します？

「ウメコ」(梅子)

朝鮮名は知りませんか？

知らない。

女の子20人が一度に行ったのですか？

皆、行った。

釜山で降りたら、女が集まっていたのですか？

釜山駅で降りたら、全部女たち、皆、日本に行った。その時、新興の女は私のことを「妹のようだ」と言い、私は「姉さん」と呼んで、一緒に泣いた。

釜山の男は、いつ見えなくなりましたか？

釜山駅で降りたら見えなくなった。もう金を受け取ったのだろう。

釜山の男が消えて、誰がハルモニたちを船に乗せたのですか？

その時の、韓国語を少しする日本人。私たちを連れて行ったやつ。

その人たちはハルモニの写真を撮ったりしましたか？

写真なんて撮らない。私たちを連れて行く人がいて、船に乗せられた。

船に乗る時、名前を書いたり、印鑑を押したりしましたか？

いや、そんなことしない。そのまま乗った。

釜山から日本に行く船には、何時頃乗りましたか？



≫ 『連行される朝鮮の娘』、日本軍慰安婦被害者李容女(イ・ヨンニョ)の作品、
ナムムの家 / 日本軍慰安婦「歴史館」資料提供

昼間の3時頃じゃなかったか。

釜山から日本まで、どれくらいかかりましたか？

昔のことで分からない。それ何時の話だ。時が経って忘れたが、まる二日かかったか。

船賃は誰が出しましたか？

それはあいつらが出す。

釜山から日本へ行く船はどうでしたか？

釜山から日本に行く時は、何も荷物は載せなかった。日本では凄くたくさん積み込んだ。

釜山で船に乗って、日本まで何日かかりましたか？

日本まで？そこは何日もかからない。

どこへ行くのか分かりましたか？

分からなかった。分からなくて泣いた。私たちは日本へ行くと思っていたが、どこに行くのか知らなかった。

どこへ行くのか、聞かなかったのですか？

その時は幼くて、そのまま聞かなかった。純真で他人の家に世話になって、世間のことを知らないから分からない。でも私があまり泣くので、日本の奴らに「気ちがい」、「狂った女」と怒鳴られた。

そんな罵声を浴びせるのですか？

私が「弟に会いたい、家に帰りたい」と言うと、「口を縛っておけ、口結んでおけ」と。

殴られましたか？

殴られなかった。他の女はじっとしていたが、18歳の私が一番幼くて、たくさん泣いた。

そこで軍人や警察は見ませんでしたか？

見なかった。いても誰が、誰なのか分からない。私も「なぜ、こんな所に来てしまったのか」と泣きっぱなしで、正気でなかった。でも他の人は泣きもしない。私と新興の女が、「何しにここに来たのか」と、昼も夜も泣いた。

日本人はハルモニの悪口を言い続けるのですか？

うん。私が泣いてばかりいるから。

他の女たちと話しましたか？

話はしなかった。私は「ここはどこ、弟の顔も見られず、死んでしまう」と泣いてばかりで、話などできなかった。

日本のどこで降りたのか、思い出しますか？

大阪か、横須賀か。分からない。

南洋群島に行くというので、気が遠くなり、
遠い山だけ眺めて……。

日本に何日いましたか？

船から降りて泊りもせず、平洋丸という船に乗り換えて、そのまま出た。

すぐ南洋群島へ行く船に乗ったのですか？

そう。すぐ家へ帰りがかったのに、そんな所に行くと言うので、気が遠くなって
遠い山だけ眺めていた。

平洋丸はどこまで行く船ですか？

南洋群島まで。何階もあり、とても大きくて空まで伸びるようだった。船の大き
さにみな驚いて、目がくらんだ。釜山から日本に行く船は、そんなに大きくない
が、南洋群島に行く平洋丸は、口で言えないほど大きい。大きい平洋丸¹⁾に何
でも積む。あらゆる食糧等、みな運ぶ。

日本から南洋群島へまっすぐ行ったのですか？

うん。まっすぐ行った。他へは行かなかった。

途中で、どこか寄らないのですか？

寄らない。どこにも寄らず、直接行った。

1) 「平洋丸」を指すと推定される。〔平洋丸は1941年1月、海軍に徴用され、1941年末以降
横須賀や佐世保から数回、南洋へと輸送、1943年1月、南洋に向かう中、雷撃で沈没〕

日本から南洋群島まで、どれくらいかかりましたか？

南洋群島へは、平洋丸に乗って昼夜10日間。本当に遠い。寝ても起きても、何時着くのか分からない。ある日の夕方、「途中で投出されたら死ぬから、ゴムみたいなのを着ろ」と命令された。戦争が激しい頃だった。そんな時に行った。

行く間、ハルモニに何か言いましたか？

ただ「行ったら、お金儲かる」と。船で私たちにあいつが言うのは、「南洋群島まで行く。そこで金儲けられる、看護婦に行く」と。飯はくれた。

看護婦をした人がいるのですか？

いない、アイゴー、そんな人、いない。

行く時、お腹は空きませんでしたか？

ああ、ご飯食べなければ、お腹空くだろう。でも弟のこと考えると、目が潤んで腹が減ったのも分からない。

船の中でご飯はどうしましたか？

船の中でご飯は出る。でも気が減入っているから、飯が喉を通らず、死にそうだった。食べたくなくて、胸が震えて食べられなかった。でもパンは食べた。

誰が食事の仕度をするのですか？

船乗りの男たちが、みなする。船が一階、二階、三階、四階と、何階か分からないが、私たちは三等船室に乗った。アイゴー、平洋丸、昔、そんなのに乗せられた。

それが平洋丸と、どうして知りましたか？

うん。あいつらが「平洋丸だ」と言うから。

平洋丸には日本人が連れて行く女が何人位乗っていましたか？

25人か30人くらい。何している人かは分らないが、みな怖がっていた。徴用に行く人もいただろう。

他の女はいませんでしたか？

いない。〇〇から売られて行く女だけ。

船ではずっと冬服を着ていたのですか？

うん。冬服をみな着ていた。降りてからは、ワンピースのようなのを着た。

平洋丸に乗った人たちは、皆同じ場所で降りましたか？

ああ、みな降りた。そこが終点だから。

ハルモニが行ったのはどこですか？

ナウルとか、その人たちがナウルと言ったよ。

南洋群島という言葉は、どこで聞きましたか？

そこで聞いた。「南洋群島だ」と。

そこは南洋群島ですか？南方ですか？

南方ではなく、南洋群島。

降りたら何が見えましたか？

バナナみたいな木。現地人の黒い人たちがいて、海軍、陸軍、日本の軍人もいた。そこで女たちも、どれだけ苦労したことか。死ぬ思いしてやっと、男でも行けない所まで行き、死んだら「もうこの世は見られない」と、死ななくて、内心ホッとした。

ハルモニ行ったところは島でした？

島もなく、バナナ、パパイア、椰子、マンゴーのほかは、何もない。それを現地の人に「採ってくれ」と言って食べた。

船から降りた時、ハルモニ連れて行った日本人も一緒でしたか？

いや、その人たちがどこへ行ったのか、どうしたのか、まるで分からない。



≫≫ 1944年2月、マーシャル諸島クエゼリン環礁の日本軍魚雷貯蔵庫を攻撃する米軍。
ニュースパーク(日本新聞博物館)、『戦後60年 写真が伝えた戦争』、2005、58頁収録の写真。

案内人が平洋丸の降りる所まで訪ねて来るのですか？

そこで降りると日本人の案内人が、また別にいる。私たちが降りるとその人たちが来て、「行こう」と言われ一緒に来た。

船から下りた女の子たちを連れて行くのですか？

案内人のおじさんがそこに連れて行った。部屋がずらりと並び、名前が書いてある。

弟にも会えず死んだらどうしよう、どうする。

案内人について行ったら、何がありましたか？

私がそこに着くと、みな誰の部屋、誰の部屋と書いてある。「アキコ」の部屋、「梅子」の部屋と。それで案内人は、どこかへ行ってしまった。私たちは他の所ではしなかったが、南洋群島では体を売らなければならなかった。昼間も売って、夜も売って。恥ずかしいことだが、本当の話だ。話すると限りがない。

「アキコ」という名前を、誰が最初につけたのですか？

そこに行ったら日本人が、「あの子はアキコだ」と呼んだ。案内人が皆つける。「何子」とか、みな呼ぶ。

部屋の多い家までは、歩いて行くのですか？

歩いて、そう遠くない。箱部屋のように、ずらりと並んでいる。廊下は真ん中にあって、「アキコ」、「梅子」と名札を書いて貼ってある。

家から、何か買い物に行くのはどうするのですか？

買うものはない。日本からみな、船に積んで持って行った。味噌も唐辛子もみな。その頃のタバコは「光」や「さくら」。タバコが一番高いが、私たちは吸わないから、現地人に上げてしまった。一日に一箱ずつ上げる。

船から品物持ってくるのは朝鮮人ですか？

日本人だよ。軍人や船員は、みな日本人。

品物持って来る船の名前、思い出しますか？

平洋丸。

市場や、お店はありましたか？

ないったら。何もないと言っているだろう。

ハルモニがいた所から海が見えましたか？

アイゴー、海がどこにあるのかも分からない。

歩いて行く途中、海が見えませんか？

海がどこなのかも知らない。歩いて、山もみな、バナナ、パパイヤ、マンゴーだらけ。四方はバナナばかりで、現地の人と西洋人がいた。海がどこなのかも知らない。

人家はありましたか？

ない。でも5里ほど遠くに、西洋人が暮していた。でも行けない。なぜなら昼間でも「爆弾」が投下されたから。ちょうど戦争が激しい時で。

そこには何年いると約束したのですか？

ない、無理矢理連れて行っただけだから、知らない。

完全な新居でしたか？

うん、新しい家。いや、箱部屋みたいな平屋建て。雨が降らず。水が汚くて、飲めない。病気にかかる。

雨が降らないのですか？体を洗ったり、水はどうするのですか？

水は機械のようなポンプで汲んで溜める。

家に主人がいましたか？

主人はいない。案内人が誰の部屋、誰の部屋と分けると行ってしまったからわからない。ご飯は配給で日本人がくれる。現地人はバナナ採ってくれて。食べていても、ゴーゴーと飛行機が島に爆撃に来て、こちらでも戦闘、あちらでも戦闘、大騒ぎ。みなご飯もまともに食べられない。私は第一人者おいて、会えないまま死ぬのかと思って泣いて、ご飯も喉を通らない。今も、弟が昼夜電話して来て、「かわいそうな姉さん、苦労した」と泣く。

そこでもずっと、弟のことだけ考え続けられたのですね。

ああ、ただ弟のことだけ思っていた。他のことは、何も考えない。第一人者のことだけ考えて、ただ泣いてばかりいた。「お金を儲けして、私が牛二頭買ってやるね」と言ったのに、こんな身の上になってしまったと。飛行機の爆音が聞こえると、もう生きた心地がしなかった。

ハルモニの部屋があったと仰いましたね？

名札を付けてある。私が行ったら、部屋に「アキコ」と書いて貼ってあった。こ

こは私の部屋で、あちらは誰の部屋とか、ずらりと並んでいる。私はそんなことは考えられず、「なぜ、寝ろ」いうのかと思っていた。後で「梅子」が、私たちは「体を売られて来た。それで連れて来たのだ」と話してくれた。でも「どうしよう。私が死んだら弟はどうなるか。」と思った。

ハルモニを部屋に案内した人は朝鮮人でしたか？

あの日本の奴だよ。でも若くて朝鮮語が上手かった。

その後、また会ったことありますか？

それからは見てない。そいつは一ヶ所だけでなく、四方を駆け回っているみたいだ。他の所へ船で行き来する。中に女の子たち乗せた船が「攻撃されて、たくさん死んだ」と聞く。船は日本語で戦艦よ。戦艦が沈んで、たくさん死んだ。

家の主人は見ましたか？

家の主人はいないと言ったじゃない。主人もいなくて、何かする人もいない。女たちだけ残しておいて、「(体)だけ売れ」となっている。

女の子は何人位いましたか？

20人位。それほどいなかった。

そこおられた間に、新しい女は来ましたか？

いや。来なかった。

20人が、初めから最後まで一緒にいたのですか？

一緒にいたが、あちらのグループはあちらに行ってしまう、私たちはこちらに

いたから分らない。あちらは他の建物の人たちだから。

同じ家に一緒に住む人たちなら互いに分かるでしょう？

一緒にご飯も食べたが。忙しくて、一緒に座って話す暇がない。

「梅子」の他に、友だちはいなかったですか？

いない。アイゴー、友だちもいない。私は、弟にも会えず死んでしまうかと思って、泣いてばかりいた。

部屋には何がありますか？

部屋には何もない。ただ着る服、一張羅。脱いで着て。暑くて寝られない。布団も何もない。四季暑くて大変。飛行機の音がすると、壕に逃げて寝たり、少し出て来たりする。そんな暮らし。

「サック」はハルモニが用意するのですか？

軍人が持って来る。あいつらが買うのか、なぜかみなある。

軍人はみな「サック」はめますか？

それは皆、はめる。はめないと妊娠するから、怖くてできないだろう。赤ん坊できたら、どうしようもない。

病気にかかった人はいなかったですか？

うん。検査を良くするから、病気にかかった人はいない。梅毒にかかったら、病院に直通だよ。月に一度ずつ注射打つ。

注射は痛いですか？

ヒャ〜、肩に打つ。物凄く痛い。

「サック」が切れると、誰か持って来るのですか？

いつもあいつらの下っ端が持って来る。一人だけ来るかい？ こいつも来て、あいつも来る。誰かがいつもいて、死にそうだ。苦しくて、生きられない。辛くて死ぬ、本当に。

ハルモニ、洗い水するにはありましたか？

あるよ。外に出ると、洗い水する所がある。たった今、終って出たら、また次の奴が入って来る。だから洗う時間があまりない。

軍人が一人出て行くと、その度に洗い水するのですか？

そうしないと、日本人が嫌がるから。

「サック」を使っても、嫌がるのですか？

やはり嫌がる、汚いと。

洗い水は真水ですか、薬品でしたか？

消毒薬はくれる。注射は五日に一度、必ずする。606号打つのは、物凄く痛い。それでも病気にかかると、直ぐ出される。

注射する人は誰ですか??

軍人だよ。病院があつて一カ月に二回は、病気があるかないか、みな検査する。日本人の医者がある。日本の看護婦の女も来た。

検査はどのようにするのですか？

「下をみな脱げ」と言って、検査する。検査する道具を中に入れて見て、「病気はない」とか診断する。

その日は軍人受けなくても良いのですか？

そうではない。夜はみな、受け入れないといけない。

軍人がいない時は、何をしていましたか？

ああ、休んだ。壕の中で寝た。みなで家の話をしたり、新興の女と二人で話したりした。「死ぬなら死ぬしかない。でも弟に再会できず、死んでしまったらどうしよう」と泣くと、彼女は「泣くな。泣いてどうする。私たちは決断して生き続けなさい。」と慰めてくれた。でも私は「そうね。でも何時帰れるのか、帰れなかったらどうする、大変なことだ。」と心配だった。

病院はどこにありますか？

バスに乗って終点の所。

注射を打ちに病院に行くのですか？

病院に行かなければ。向うから来るし、こちらからも行く。606号打つが、とても熱くて痛い。私たちは梅毒にかからなかったが、かかればそのまま入院。

注射は痛むのですか？

ズキズキ痛い。熱くて、物凄くズキズキする。まるで撃たれたようにズキンズキンする。蜂に刺されたみたい。

注射は、そこにいる女たちがみな打つのですか？

ああ、私だけでなくみな、全員打つ。

注射代を出すのですか？

あげなくても、ただで打ってくれる。何でもただ。タバコもただ。服も、ご飯も。それで、体だけ売る。

ハルモニ注射打ったことありますか？

うん。606号打った。それで治った。

「サック」使っても、病気にかかったのですか？

いや、そうではない。悪い奴が無理矢理バカなことに、「サック」しなかったのだ。それで一度かかってしまったが、すぐ治った。

「サック」は一度使うと、みな捨てるのですか？

ああ、そのまま捨てる。二回は使わない。

ハルモニを見て、何か話すのですか？ 名前呼びますか？

名前も呼ばず、ただニコッと笑って入って来る。入って来て「アキコだな」と聞かれると、「そう」と答える。そこでひとりに苦しめられると、すぐ次の奴が来る。たくさんの男たちの相手をさせられて、死にそうだ。生きられない、人情などない。日本人は独身で、若い。7人も相手をすると気絶する。本当に惨めだ。

部屋の壁はどうなっていましたか？

板で仕切ってあった。

部屋が20もあったのですか？

こちら側にずらりと10個。向かい側にも10個。真ん中は廊下。ここを通る。ここでは、可愛い子だけ選ぶ。海軍は特に、可愛い子だけを。

可愛い子をもっと苦しめられるのですか？

もっと苦しめられる。

ハルモニがおられた所に、日本の女もいましたか？

私たちの所は全部朝鮮の女だけ。日本の女は一人もない。

ハルモニのいた所は、部屋20個の家一軒だけでしたか？

ああ、一つ。でも向うにもあった。

他の家には日本の女がいませんでしたか？

いない。そこにもいない。私たちが乗って行く時、みな朝鮮の女だった。

ご飯はどうしましたか？

日本の軍人が皆、「食え」と出してくれる。私たちも一緒に作る。ご飯といってもおかずなどない。でも味噌だけは持って来た。味噌つけても、皆痩せて。アイゴー、私もガリガリに痩せて骨だけだった。ぞっとする。飛行機の音が聞こえるとすばやく隠れて、壕に泊った。

ハルモニの所に一日に何人来ますか？

アイゴー、私の所にもたくさん来た。15人来たり、20人来たりした。夜は壕に入って隠れる。606号打って体も痛いし、夜も気楽に寝られない。話にならない。

泊って行く男もいますか？

夜は戦闘に出かけて、来られない。昼間だけ。飛行機乗って戦う奴らのあそこ、汗で萎んで、それ、引っ張り出して、ああ汚らしい。

爆弾が落ちない日は部屋で寝るのですか？

いや。壕に行っても寝ないと安心できない。這ってでも、そこに行く。男たち来ても、私が嫌がって泣いて。一人でも二人でもなく、もう死にそう。自分が汚らしくて、本当に醜くて。それで私は結婚したくなかった。アイゴー、一人暮らしを続けようとしたのに、お金がなくて一人では生きられなかった。周りでも絶対、結婚しなければならないと。旦那はとてもいやらしかった。結婚したくなかった。

爆弾落ちるのを見ましたか？

ああ、バカスカ落ちるから、近くに疎開した。飛行機がたくさん飛んで来た。水上機は二人乗り。戦闘機は一人乗り。煙がバーツと散り、死ぬかと思った。壕をとて深く掘った。現地の人も入る。

そこで死んだ人も多かったのですか？

爆弾落ちてたくさん死んだ。でも女たちは死ななかった、みな森の中に隠れて、死なずに出られた。それだけでも運が良かった。新興の女も私も、解放されて死なずに出て来られたから幸運だった。そこから出られなければ、爆弾で死ぬ。

徴用で来た人を見ましたか？

見てないが、あの遠い朝鮮から「徴用で来た人たちが、たくさん死んだ」と壕の中で、皆でそう言って大騒ぎだった。

ケガした軍人の看護したことありますか？

しなかった。他に看護師のような人がある。服は平時のままだったが、ケガ人に薬を塗る。

服は誰が買ってくれるのですか？

西洋人。目の青い人がそこに、たくさん暮していた。衣料品店を開いて、ワンピースなんか売っていた。

西洋人を見たのですか？

ああ、いたよ。多くはいないが。でも日本の奴しか出て来ない。日本人がうじゃうじゃしていた。西洋人は目玉が青くて、たくさん暮していた。

西洋人はインド人とは違いますか？

ああ、現地人は黒くて、西洋人は顔が白くて目が青い。良い服がたくさんあって、それ持って来させて、私たちが着た。

ハルモニと話は通じましたか？

できない。私たち朝鮮人なのに。

服一着いくら位だったか思い出しますか？

いくらだったか、どうしたのか忘れた、思い出さない。ワンピース着ていた。こちらから行けないから、持って来させる。

服を買って、化粧品も買いましたか？

化粧はしない。

髪は？

髪もそのまま。切りもせず、ただ縛っていただけ。誰かが編んでくれるのでもなく。

軍人が来るとどれくらいの時間いましたか？

忙しいから、すぐに出て行く。長くても一時間、そうでないと30分。忙しいから終わって、すぐ出て行く。

偉い人も来ましたか？

いや。下っ端だけ。

ハレモニおられた所に名前ありましたか？

ないってば。ただ体売るだけ。

酒等も売りましたか？

ない。酒も何もない。バナナ、パパイヤ、そんな食べ物しかない。タバコは日本から持って来た「光」や「さくら」。

ハレモニのいた家を軍人は何と呼ぶのですか？

(記憶を探って)部屋を見て何とか言っていたが。(独り言で)思い出さない、みな忘れた。

家に看板がありましたか？

知らない、聞いたことない。とにかくそんなのなく、部屋に私たちの名前だけ書いて、上に付けてある。すると軍人が来て、みな一度してから出て行く。

洗濯はどうしましたか？

洗濯もあまりできなかった。水も貴重で、現地の人に「水、少しくれ」と頼むと、バケツで持って来る。どこかで汲んで来る。(現地の人たちに)お金あげて、タバコあげる。タバコは凄く喜ぶから、たくさんあげた。

南洋群島に行かれた時、もう生理がありましたか？

ああ、あった。

生理の間、軍人の相手は休めましたか？

ああ。受け入れない。私は6、7日あった。

それでは一週間、軍人受け入れないのですか？

うん。受け入れない。

その時は何をしますか？

ただ、部屋にいただけ。外の遠い山だけ眺めていた。女たちは私だけでなく、みなそう。メンスになるとできないから。それでも気が変になって、仕方なく受け入れる人もいる。

生理に必要な布はどうしましたか？

ガーゼみたいのがある。私たちが形を変えた。西洋人にもあって、ぴったり付けていた。

逃げようと思ったことがありますか？

逃げるって、どこへ行く。気が狂うほど逃げたいが。どこへ行く？隠れる所もな

く、水もないのに、どこへ行く。行けない、死ぬ。

インド〔現地?〕人は何をしていました?

昼夜、ふんどしで、歩き回っている。

その人たちは日本人とどんな関係でした?

関係ない。かれらだけで固まっている。バナナなど採って食っているのが現地人で、黒い人。私たちがタバコあげると、喜んで山ほどバナナを持って来る。バナナ、パパイヤ、椰子、マンゴー、そんなの。

外出は自由にできましたか?

近辺なら、少しは出られる。でも飛行機のせいで出られない。望遠鏡ですぐ見つかって、撃たれるから行き来できない。ご飯食べていても、気が気じゃない。死ぬ思いだった。本当に陰しい世の中を生きた。



≫≫ 1944年 5月、チューク諸島の海上を航海中の米軍航空母艦を攻撃する日本軍の爆撃機。ニュースパーク(日本新聞博物館)『戦後60年 写真が伝えた戦争』2005、64頁収録写真。

ハルモニの所に頻繁に訪れた軍人で、思い出す人いますか？

岩本とか。

ハルモニによくしましたか？

よくしてくれた。礼儀正しくて明るい、本当によくしてくれた。「可哀想だ、苦労が多い」と、昼夜言ってくれた。

ハルモニ「可哀想だ」と言いながら、寝て行くのですか？

いや、そいつらは18歳くらいで、幼くて寝て行かない。25とか27の年取った奴らがする。

寝ないのに、何をしに来るのですか？

ただ、そこで暮す軍人だから、しょっちゅう来る。「バナナでも食え」と持って来る。

言うこと聞かないと、殴られますか？

よく殴られる。体を与えるのを拒むと、軍人に殴られる。

ハルモニも殴られたこと、ありますか？

ああ、殴られた。「なぜ、そんな、いやらしいことを強いるのか」と泣いて嫌がっても、無理矢理強えられる。20人も来てどうする。苦しくて死にそうだ、生きて行けない。そういう話だが、恥ずかしくてどこでも口にできない。本当の話で、嘘ではない。私が奴らにされたこと、友人にも話したことはない。

ハルモニのおられた所に、軍人で以外の人は来ませんでしたか？

軍人だけ来た。他の人はいない。生粋の日本人の軍人。

目の青い人たちは？

目の青い人たちは、自分の家が村にある。そこが故郷だそうだ。

軍人が来るとお金くれますか？

そう。

いくらくれましたか？

いや、軍人にお金なんてない。たくさん渡すなど、指令があったようだ。そこで貰ったのを少しずつ集めたが、使うところがない。

どれくらいでしたか？

170円か。いや1600円か1700円かになった。後でソウルに来て、一晩寝るのに使った。お金が問題じゃない。ただ早く家に帰りたいだけ。どこに使う、お金への欲とか、そんなの本当に絶対ない。考えるのは、家に帰ることだけ。

軍服を着て入って来ますか？

ああ、軍人だから軍服着て入って来る。

刃や銃も持っていますか？

銃を持っている人もいた。でなければ、そのまま手ぶらで来る。私服に着替えず、みな軍服。

そこで看護婦していたと言った

解放になった後、南洋群島にどれ位いたのですか？

二年はいたか、よく分からない。一年以上いたようだ。とにかく解放にならなかったら出て来られなかった。私たちそこで死んだよ。解放されて出て来た。

来る時、米軍見ましたか？

どこかで一人くらい見た。多くは見なかった。なぜ一人だけ見たのかな。日本人は船に乗って、「爆弾持って戦っていたが、終わった」と喜んでた。私たちはただ「良かった」と我を忘れていた。でも朝鮮の男、労務者に行った人たちは、なぜか一人も乗らなかった。そこにはいなかった。私たち朝鮮人の女だけ出てきた。

一緒にいた女20人みな船に、はぐれずに乗りましたか？

はぐれないで、みな乗った。それぞれ各自の所に帰った。

お金や品物は積み込めましたか？

アイゴー、みな、調べられて、絶対に持って来られない。服は持って来られず、みな置いて来た。服は何着かワンピースみたいな、西洋人にあげた。自分で着る服も、カバンをいちいちみな調べる。何か縛ってあると、それも解いて調べる。

誰が船に乗せてくれたのですか？

日本人が乗って来た。日本人が旗持って、出て来た。

船賃払ったのですか？

船賃？ 払わないで、日本人が出てくる時、一緒に出て来た。

日本の船ですか？

そうだよ。南洋丸に乗って来た。日本に来るだろう。

日本のどこに着きましたか？

大阪か、どこか分からない。

南洋群島から来る船には、どんな人たちが乗っているのですか？

口では言えないほど、多い。みな徴用に行った人たち。日本人が多い。

日本人は何をする人たちですか？

海軍の人、みな軍人。解放で大混乱、日本に来たらとても人が多い。日本人が「息子が帰って来る、あの子も来る」と。喜んで旗揺って、日本の旗振ってみな出迎えた。私たちも「帰って来た」と、歓迎受けた。「行った人たち、苦労多かった」と、そして「日本にも、朝鮮の人たくさん暮している」と言った。

日本に着いたのは何時でしたか？

旧暦の十月に出て来た。秋だから服を買って、暖かく着ていた。

南洋群島から日本までどれくらいかかりましたか？

相当かかった。昼夜、何日かかったのか分からない。今なら自分でするだろうが、その時は家に帰れるのが本当に嬉しくて、朝鮮に帰るのが嬉しくて何も考えず、そのまま来た。ただ家に帰ることだけ考えて、お金の使い道なかった。

日本から釜山に來られましたか？

釜山に到着して直ぐ、ソウルに來た。ソウルで一晩寝て、全羅道に戻った。手紙も書かず、そのまま來た。帰ったら家では、私が「死んだかと思っていたのに、何とか」と大騒ぎだった。皆、どこへ行っていたのかも知らないから。

故郷に戻られたら、誰がいましたか？

父の友だち。弟は他人の家で暮していた。

弟さんに会いたかったでしょう？

だから帰って來た。ソウルで暗くなり、一晩寝て朝の汽車に乗って來たら、弟がいなかった。その父の友だちは、まるで家族に不幸があったように「どこへ行って來た。どこかで死んだと思っていた」と泣いた。「弟はまだ15歳で元気だ、お姉さんが生きて帰って來られたのは、幸いだ。他人の家で暮している」と言われた。

解放後はどのように暮らされましたか？

家に戻って、あんなに醜いことはみたくも、思い出したくもない。アイゴー、私の苦勞。幼くて9歳で母を失い、14歳で父を失って、苦勞なんて口では言えない。

こちらでは、どのように暮らしましたか？

一人暮らししようとしたのに、あまりに困っていて。弟にも世話になるのは嫌だった。それで、材木の商売する年寄りと一緒に暮らしたが、死んでしまった。

韓国に來て、何年後にお年寄りに会ったのですか？

二年後。

国でハルモニのような人から申告を受付けているのはご存じでしたか？

ああ、徴用に行った人たちが話すから知っていた。私たちは話さなかったから、(申告を)一番遅くしたのではないか。徴用の人たちはまた、私たちとは違う。私たちは体を売りに行ったが、徴用の人たちは仕事をしていたから違う。私は女だ。でも私は恥ずかしくて「体を売ったのではなく、看護婦をしていた」と言った。〇〇売りに行ったと思われるのが嫌だった。金を儲けに行つて、そんな所に入れられたのだから、どうしようもないが、恥ずかしくてとても口にできなかった。「南洋群島に行った」と言えば、〇〇売りに行ったことがばれるだろう。だから…。(涙)

ハルモニ、生き帰っただけでも大変なのに、何が恥ずかしいのですか？

そうかい？でも人がそう思うから。村ではそんな経験しなかったが、「汚い」と言われると考えた。それで、今まで話さなかった。

面談日: 2005年4月27日 / 2005年4月28日

面談者: 姜ヒヨン、朴チョネ

録音文入力・編集: 尹智炫

録音文校正・校閲: 李宣姪・尹智炫

K〇〇 1923年生れ

- 1939年頃、 慶尚南道から動員。日本の名古屋に移動
名古屋で約10人の女たちと一週間、監禁。船に乗って中国・満洲に移動
満洲と上海で約6年間、日本軍慰安婦の生活
- 1945年、 上海で解放、中国に留まる
- 1948年頃 中国から帰国

動員経路



第12話

死んだも同然だ。

K〇〇 1923年生れ

1939年頃、 慶尚南道から動員。日本の名古屋に移動
名古屋で約10人の女たちと一週間、監禁。船に乗って中国・満州に移動
満州と上海で約6年間、日本軍慰安婦の生活

1945年、 上海で解放、中国に留まる

1948年頃 中国から帰国

魚獲りに海へ行って、日本人に捕まった

ハルモニ今年で、お年齢はお幾つですか？

ちょうど90。

ハルモニ、その頃…。

私の昔話しょうか？

はい、その昔話です。

16歳になって。〇〇〇へ行けば、〇〇〇という海がある。魚獲りに海に行って、日

本人に捕えられた。でも私一人が捕まったのではなく、一つ年上の従姉と二人で捕まった。(むせび泣く) 話すだけで涙が出る。

ハルモニを連れて行ったのはどんな人でしたか？

私を日本に連れて行ったのは日本の軍人。軍人に捕まった。

軍服を着ていましたか？

軍服を着た人が捕まえた。

連れて行ったのは何人でした？

二人だ。無理矢理引っ張って乗せる。

無理矢理連れて行くのですか？

そう。車は大きくなく、小さい。黒い車、それに乗せられた。

どこへ行かれたのですか？

捕まって、日本に連れて行かれた。

日本のどこへ行かれたのですか？

日本人が連れて行ったのは、名古屋という所。

魚獲っていた時に捕まえた人が、名古屋まで一緒に行ったのですか？

そいつらは一緒に行かなかった。ここで捕まって日本に行く時、そいつらは影も形もなかった。また別の人が連れて行った。

名古屋にはハルモニのように連れられてきた人が、たくさんいましたか？

その時、つかまった子が多くいて、こうして座っていたよ。私たち二人だけでなく、たくさんいた。10人以上いたようだ。監獄みたいな所に、女の子たちが座っていた。(涙拭く)

みな朝鮮の女の子ですか？

そうだ。でもどこで暮していたのかは知らない。全羅道、慶尚道、各地の色々な村から来たようだ。

日本人が名古屋のどこに連れて行きましたか？

日本の名古屋に連れて行って、こちらで言えば懲役暮らしの牢獄のような所に、私たちをぶち込んだ。

どこかにハルモニを閉じ込めたのですか？

ああ、閉じ込められたのと同じだった。(涙) 話すと涙がでる。

閉じ込めた後、日本人はどうしましたか？

一週間閉じ込めておいて、ご飯はおにぎりを朝と夕方持って来る。それだけで後は人影もない。誰も来ない。

一週間そうだったのですか？その後は？

一週間過ぎたら、「出ろ」と言う。出ると私たちの朝鮮服を全部、みな脱がす。「脱げ」と言う。脱がして日本の服を着せると、サッと化粧をさせた。

化粧した後は、どうしましたか？

日本の服を着せられて化粧したら、「出て来い」と言われた。でも年齢も幼いし、怖くてビクビクしていた。日本人が言うまま降りて行くと、「車に乗れ」と言われて行った。

車に乗って、どこへ送るのですか？

車に乗ってどこかで降りると、水辺だった。今度は、「船に乗れ」と言われて乗ったが、どこへ行くのか、その時は分からなかった。

どこへ行くのか話してくれないのですか？

話してくれるかい？ 口も利かない。もし話をしても、分らない。年齢が幼くて、日本語知らないじゃないか。

当時は日本語、あまり知らなかったのですか？

知らない。16歳なのに。田舎暮らしで日本に行ったのに、どこで日本語覚える？ それで船に乗ってどこかへ行き、一時間超すと「みな、降りろ」と言われた。降りたら、また汽車に乗せられた。

船に乗って、また列車に乗ったのですか？ どこへ連れて行かれましたか？

うん。汽車に乗って、またどこまでも限りなく行く。一夜、まる一日。一日半行く汽車の中で、おにぎり貰った。乗物酔いする人には薬もくれた。吐く人にも薬くれて。そうして連れて行かれた所は、中国の満州だった。

死ぬことも生きることができない。

軍人の相手をさせられて。

「そこが満州だ」と話してくれたのですか？

うん、中国。中国に連れて行ったら、「カッパ」の家が並んでいた。「カッパ」の

ように家が作ってある。

どんな家ですって？

「カッパ」、「カッパ」。

「カッパ」って何ですか？

テント。テントで大きな家が作ってある。中に私たちをぶち込んで、翌日から軍人が入って来た。軍人が限りなく。(涙声で) 初めてだから、怖くって。あいつらの話が分からないし、聞きたくもない。すると殴りかかって来て、言うこと聞かないと野球のバットみたいので、やたら殴る。殴られて、腰の骨が折れてしまった。前にドシンと倒れて、日本人が「お前ら、言うこと聞かないと殺すぞ。」と、そんな話、理解できる？分からないだろう。

日本語なので、聞き取れなかったのですね。

ああ、日本語だから。「お前、言うこと聞かないと殺す」と、やたら殴る。腰が折れてしまった。それでしゃがみ込んだら、仮病かと思って起こされた。余りに殴られて骨が飛び出し、横にねじ曲がったから車を呼んだ。そこに日本軍の病院があった。

病院に連れて行って治療してくれたのですか？

病院に連れて行って、寝かされて診察を受けた。すると骨が折れていた。ケガした腰に何かバンドで縛りつけて固定した。またあばら骨も二本、折れていた。

軍人専用の病院ですか？

うん。日本の軍人が通う病院。そこで見たらがっしりした骨なのに、あばら骨が二本折れていた。息ができなくて、ご飯も食べられない。一匙だけ。奴らは嘘か

と思って、触ったり、揉んだりした。「本当に折れている」と医者が話した。そして一ヶ月横になっていた。

一カ月間入院されたのですか？

うん。一カ月横になっていて、体が少し動くようになると、また連れて行かれた。

元、いた所に再び連れて行かれたのですか？

うん。その「カッパ」の家に連れて行く。軍人がまた入って来る。言うこと聞かないとダメ。今度は無理矢理、強制的にとびかかって来た。力では勝てない。強制的につかまれて、「嫌だ」と手で払っても、手が抜けるほど引っ張る。それで手もまた、抜けてしまった。

手首が少し飛び出ていますね？

(手を触りながら)力ずくで引っばるから、手も抜けてしまった。その時は死ぬことも、生きることもできなかった。それからは軍人の相手をするようになった。

満州では朝鮮人だけでしたか？

中国の子もいた。

中国人も捕って来たのですか？

中国の子も捕まって来た。朝鮮人だけでなく、中国人も捕まっていた。

解放までずっと満州におられたのですか？

そうやって暮していて結局、満州からまた上海に移った。

上海に行く時は、満州にいた人たちが皆一緒に行ったのですか？

その時は一緒に行った。解放されて、それぞれ別れた。中には死んだ奴もいて、銃で撃たれて死ぬ奴もいた。逃げて殴られて死ぬ奴もいた。

満州から上海に、軍人に連れられて移ったのですか？

うん。上海に連れて行かれた。軍人がいる所に、また連れて行く。そこでまた慰安婦。(しばらくむせび泣く) その時はもう、慰安婦として連れて行く。言葉にならない。(むせび泣く) 一日10人も、20人も。もう死んだ遺骸と同じようなもの。そうやって男が襲いかかって来る、軍人たちだ。その時は、米軍と戦争の真っ最中だった。

もしかして「処女供出」という言葉を聞いたことがありますか？

処女? これが処女供出じゃないか。何のために私が行った。処女供出だよ。



》》》 中国河南の慰安所で順番を待つ日本軍。東北アジア歴史財団、『日本軍「慰安婦」とナチスドイツ収容所の強制性労働』、2007年、22頁収録の写真。

満州へ行く前にも聞いたことがありますか？

知らなかったが、私たちが慰安婦でいた時、「処女供出」と言っていた。そう言っていた。朝鮮から処女を、「嫁に行っていない娘は、みな捕まえて来る。慰安婦にする。」と言っていた。供出する時、何と言うかといえば、「軍人たちがいる所へ看護婦に入る」と、そう言って供出させた。

「看護婦に行く」と言って処女供出させたのですか？

うん。そしてみな、慰安婦の家に入れたようだ。

名古屋にいた時、そんな話聞きましたか？

そんな話は聞かなかった。

でも満州では、人々がそんな話をしていたのですか？

うん。そんな話を聞いた。

満州へは、何も知らずに連れて行かれたのですか？

うん。知らなかった。でも知っていたら、どうする。分かっても、何もできない。方法がない。その頃、私たち朝鮮人は、王様すら好き勝手にできないのに、どうやって私たちが好きにできる。捕まって「死ね」と言われたら死に、「生きろ」と言われたら生きるだけ。死ぬしかない。何ができる？何もできない、方法がない。

満州や上海で、ハルモニの名前が別にありましたか？

日本語で「ジュンコ」と呼ばれた。

「ジュンコ」という名を付けられたのですか？

そう。日本の名前を付けられた。姓も日本の姓にされた。

ハルモニのおられた近くに部隊がありましたか？

ある、ある、部隊がある。部隊から休みの日や半ドンの日には、限りなく軍人が来る。半ドンや、休日は、軍人が遊ぶ日だよ。

休みの日には軍人がたくさん来るのですか？

その日は日本人が休む日だ。だから女の所に来る。日本の奴らが来たって、罵声浴びせるだけ。良いこと、言ってくれる人、ひとりもない。

何と悪口言うのですか？

全員、来たら良い表現はしない。「朝鮮人」と、口さえ開けば「朝鮮人」。中国人見ると、何と言うか？「支那人」(中国人の蔑称)、何ジンと。

中国人にも何か言うのですか？

必ず、何何ジンと。私を見て「朝鮮人」というだけでない。とても人を傷つける、辛い思いをする。私たちだけ殴るのではなく、中国人もたくさん殴る。よく殴られた。

軍人が来たら、何か渡されるのですか？

全部、紙切れみたいのをくれる。くれても慰安婦の人たちは受け取ったら、主人に渡してしまう。

軍人からもらった票を主人にあげるのですか？

軍人が票をくれると、私たちはそれを受け取って、主人に渡す。

票を受け取った主人は、それをどうするのですか？

服の代金、食事代とかを、みな差し引く。

票をあげても、そこでみな差引かれるのですか？

私たちには何一つくれなかった。みな、服代や食事代に消えた。

洗濯する人は別にいましたか？

そこで全部してくれる。どうやって私たちがする。

軍人たちが来ない日は、洗濯や清掃をさせられないのですか？

中で全部する。服を洗う子がいる。アイロンがけは慰安所でしてくれる。

服はどんなでしたか？

全部、日本式の服。

主人は日本人でしたか？

そう、日本人が慰安婦の主人だった。



≫ 1938年1月上海の楊家宅に作られた慰安所。

東北アジア歴史財団、『日本軍「慰安婦」とナチスドイツ収容所の強制性労働』、
2007年、27頁収録

ハルモニのように連れて来られた人を管理するのは日本人でしたか？

ああ、慰安婦の管理する人、食事の仕度する人は日本人。朝鮮人ではない。

中国人や朝鮮人ではなかったのですか？

朝鮮人がなぜ、そんな所にいる。そこはどこ。中国人でもなく日本の奴。

主人は一人でしたか？

男と女だった。

夫婦ですか？

ああ、それも地位の高い奴ら。言わば憲兵隊みたいな奴ら。「言うこと聞かないと、銃で撃つ」と、拳銃を身につけていた。

脅すのですか？

そう。話を聞けと。

外出できましたか？

女たちが逃げるかと、絶対に外には出さない。

体の具合が悪いと病院に行きますか？

病院には車に乗せて連れて行った。また、病院から医者が来たりする。

医者が来るのですか？

うん。

医者は民間の医者ですか？

軍人だよ。軍人が来る。

軍医官がどれくらい来るのですか？

医者？どこから来るのかは知らない。

医者が週に一度とか、定期的に来るのですか？

一週間に一度は、必ず来る。なぜかと言えば、女たちの検査。悪い病気が移ったか、移ってないか調べる。病気にかかると、軍人にも移るから、週に一度は必ず来る。軍人が使うコンドームも、持って来る。

コンドームは軍人が持って来るのですか？

持って来ない。私たち慰安婦が、そこで渡す。すると、その人たちが被せて使う。

コンドーム使わない人もいましたか？

うん。使おうとしない人もいる。

それで、検診をするのですか？

そう。一週間に一度来て、血を抜いて行く。

血を抜くのですか？

うん。竹筒に、これくらい。ひと筒ずつ抜く。

週に一度来る毎に、血を抜いて行くのですか？

いや。一カ月に二回採る。注射も打つ。治療はしてくれる。注射打って、血を

抜いて。

一緒にいた人の中で、病気が移った人いますか？

病気があるのか、ないのか知らない。自分の体がきれいなら、それだけ。分からない。

ハルモニは大丈夫でしたか？

私はそんな病気に移らなかった。殴られて骨折したが。

腰殴られて悪くした他に、痛いところなかったですか？

軍人たちが腹を立てて、頭を殴った。それで耳が遠くなって、目も暗くなった。

頭をととも殴られたようですね？

滅茶苦茶だ。人間扱いしない。獣以下。殴られて大怪我して、半身不随になった。

なぜそんなに殴るのですか？

言うこと聞かないからと。私が少し意地を張ったようだ。

ハルモニが、気が強く、たくさん殴られたのですか？

そう、他の人より多く殴られた。

そこにいた人で、赤ん坊を産んだ人もいますか？

いない、絶対にいない。子ども持った人はいない。男たち何人とも接触するのに、どうやって子どもができる。考えてみる。一人でも、二人でもなく。日曜に

なれば、女一人の前に、十人並んで入って来る。多くの部隊の軍人がみな出て来る。子どもはできない。

近くに部隊がありましたか？

ああ、一ヶ所、二ヶ所でなく、軍の部隊があちこちにある。でも私たちは中国と戦争した時に入って行き、米国と戦争が始まるまでいたが、話すこと何がある？話すことないよ。

**あいつら敗けたから、私たちが喜ぶと、
憎くて殺すと。**

解放された時、どこにいましたか？上海で解放を迎えたのですか？

私が16歳の時に連れて行かれて、22歳で解放された。日本と米国が戦争をして、日本が負けたのよ。

解放はどうやって知りましたか？誰かが教えてくれたのですか？

すぐに判った。あの慰安婦の主人が泣いていたから。

その日本人の主人が泣いて、何と言いましたか？

泣きながら、「お前ら、飯たくさん食え」と言った。おにぎりを持って来るので、「なぜ、そんなにご飯たくさん食え、と言うのか」と聞くと、「死ぬか生きるか、わからないから、飯たくさん食え」と言う。「なぜ、死ぬか生きるか、わからないのか」と聞いたら、「わが日本が今、米国に負けた」と。

「日本が米国に負けた」と言ったのですか？

その時、負けたんだよ。それで解放されたことが判った。

解放されて、一緒にいた女はどうになりましたか？

日本が敗けたから、女をみな連れて行けないだろう？ その時から、銃殺させた。従姉が夜、逃げて捕まり、そのまま銃殺…、殺されてしまった。

解放されたのに人をたくさん殺したのですか？なぜ殺すのですか？

日本が滅びたから。日本が敗けて、「私たちが喜ぶから、憎い」と殺そうとした。

日本が戦争で敗けたから朝鮮人が喜ぶ、と殺すのですか？

そう。憎くて殺そうとする。「日本が勝っていれば、朝鮮人が、頭を下げるのに。敗けたから、朝鮮人が喜ぶ」と、それで「チョウセンジン」「朝鮮人」と罵声を浴びせる。

朝鮮人をそう呼ぶのですか？

朝鮮に日本人が暮っていて、「朝鮮人」たちが解放されたから、朝鮮人が日本人に「害を与える」と。だから私たちに復讐すると。

解放された後の雰囲気はどうでしたか？

男たちが異常だった。

軍人の雰囲気が異常だったのですか？

ああ、軍人がそわそわして。以前は大人しかった奴も、殴り、喧嘩して。日本が敗けたから、女も門から出られなくした。

解放後も軍人がたくさん残っていたのですか？

私たちは逃げたから、軍人がどこか行ったのか、残っていたのかと知らない。従姉が逃げて、銃殺されたと言っただろう。わからない。

主人は日本に行きましたか？

私たちは逃げたから、主人が日本に行ったかどうかわからない。

ハルモニが逃げる前に、主人はまだそこにいましたか？

その人たちが出る前に、私たちが先に逃げた。

解放されて後も、軍人が罵声を浴びせたようですね。

ああ、解放された後も、たくさん殴られた。それで頭がよく、くらむ。頭をやたら殴られた。今は年取ったから、もっと良くない。

ハルモニはどうやって逃げられたのですか？

従姉が死んでしまい、私一人残った。他の人たちもいて、怖くてぶるぶる震えていると、ある女が目パチパチさせて、「逃げよう」と言う。慰安婦だから、「ここで死のうが、あそこで死のうが同じだ。逃げよう」と。見ると見張りがいたが、そっと這い出て逃げた。

どこに逃げたのですか？

まず中国人の家に逃げた。一緒に逃げた女は、どこへ行ったか分からない。私は中国人の家に入ったが、入ったところが敵だった。敵にひっかかった。男やモメ。

中国の男が良くなかったようですね？そこにどれ位いましたか？

「自分と暮さなければ、殺す」と。それで仕方なく、中国の奴と暮した。(涙声で)

中国から韓国に帰ってくる時は、どのように出られましたか？

ところが中国の奴が安心したのか、金を少しくれた。十円、百円と。それを少しずつ貯めて、大事に隠して置いたら、朝鮮に帰る交通費くらいになった。その頃のお金で一万円位。それを持って朝鮮に帰った。でも切符を間違えて買って、釜山に行ってしまった。

中国で帰って来る時、上海から何に乗って来られましたか？

その時、列車に乗って、北朝鮮まで来たら、列車が止まってしまった。北でまた列車を乗り換えて、韓国に来た。韓国に着いても、途中でまた列車が停まったりした。

解放後、中国にどれくらいいて出て来られたのですか？

解放されて3年くらいして、出て来た。



》》 上海郊外の江湾鎮にあった昔の陸軍慰安所の現在の姿。金文淑撮影。

釜山日本軍慰安婦ハルモニのための民族と女性歴史館展示物。同歴史館提供。

中国から列車乗ってくる時、朝鮮人だと不審がられませんでしたか？

中国には朝鮮人もいる。多く住む町がどこか知らないから、中国人と暮した。知っていたら、そこに行っていた。

奴らに侵された、昔の夢もたくさん見る

汽車乗るのに別に問題なく、切符買って乗れましたか？

ああ、でも北で汽車が停まっていまい、見たらお金もなかった。1万円あった筈が、どこへ行ったのか影も形もない。その頃は5銭、10銭で、汽車に乗れたのに。

上海から釜山に来たのですか？

22歳で解放になり、列車に乗って朝鮮に来たが、間違って釜山まで行ってしまった。でも釜山でお金を落としてしまい、行くところがなかった。釜山に行ったことなかったから、どこがどこかも分からない。

釜山に到着してから、どうしたのですか？

行く所がないから、ぼんやりと列車の前に立っていたら、あるハルモニがトボトボと歩いて、私の所に来た。そして「娘さん、行く所がないのか？」と尋ねるので、「ハルモニ、私、行く所がないの」と答えた。「どうして」と聞くから、「たった今、どこ、どこから来たが、どこがどこだか分からない。行くところがない」と話した。慰安婦だったとは話さなかったに。「本当に、行くところがないのか」と言うので、「本当でない」と答えると、「他人の家でも、子どもの面倒見てくれる所にでも行くか」と言う。「連れて行って下さい」と頼んで、ついて行った。

釜山駅で会った人について行って、どんな仕事しましたか？

行ったら風呂家だった。6ヶ月か7ヶ月の子がいて。子どもを面倒見て、ご飯もあげて、汁も煮て、入浴もさせ、子どもの服を着替えるなど、その家でお手伝いをした。そうして3年暮した。

その後、故郷に度行ってみましたか？

釜山で3年暮して故郷を訪ねたら、母も父も亡くなっていた。兄が一人いたが、全羅道に行っていなかった。従弟だけいた。

従弟に会って、その間の話を少しはされましたか？

従弟は私が捕まった時、まだ、幼かった。ところがもう、妻や子がいて、良い暮らしをしていた。私は「慰安婦をして来た」とは、話せなかった。朝鮮では昔から、本家と分家の区分が強いが、私の故郷ではその区分がもっと強い。男が歩くと、女は男の前を歩かない。三步下がって、後からついて行く。そんな社会で、私が「慰安婦をして来た」という話ではできなかった。

従弟はハルモニに、「どこに行っていたのか?」と尋ねなかったですか？

私を見て「どこに行って来たのか」と聞くのよ。「子どもの時、出て行って、どこへ行って来たのか」と尋ねる。それで「子どもの時、釜山に誤って行って、他人の家でお手伝いをして暮していた」と話した。

すると何と言われましたか？

「今までなぜ、嫁に行かなかったか」と言うので、「嫁が何で、どういうものか、私は知らない。お手伝いして暮していた」と答えた。でも喉が詰まって、言葉が出て来ない。「お手伝いして、お小遣い貰って、服も買い、そんな暮らしをしていた」と話すと、「家の一つもないのか」と聞くから、「家はない」と答

えた。ダメ、話にならない。従弟と一緒にいられなかった。

どこか他に引っ越したのですか？

〇〇という村に行った。山の谷間の村で、そこに一人暮らしのおじいさんがいた。良い人で、そのおじいさんと暮すことになった。でもおじいさんは齢が多くて死んでしまい、結局、また一人暮らしになった。

子どもはいないですね？

慰安婦に行って、赤ん坊を産めないじゃないか。壊れた機械のようで、もう産めないのよ。おじいさんは死んでしまうし、おじいさんの親戚もいない。

中国でケガした所はどうですか？

韓国に来てからは、ケガしていない。誰かが私を殴ったり、ケガをすることはない。中国にいた時、ケガした所が、今も痛む。その時、たくさん殴られた。齢を取ると、若い時の傷がみな再発する。腕も、重いものは上げられない。

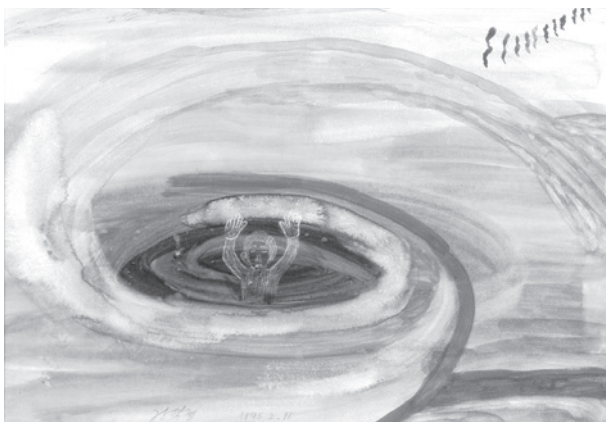
他に具合が悪い所はありませんか？

話すのはまだ大丈夫で、座るのも大丈夫。でも、思うように起きられない。歩いても、まともに歩けないから、乳母車を前にして出かける。部屋の中では、杖をついている。遠くへは行けない。

ハルモニ、後に韓国に戻ってから、悪い夢をみたりしませんか？

夢？夢はたくさんみる。昔の夢もたくさんみて。いつも、奴らに侵される、そんな夢をたくさんみる。

よくお眠りになれないでしょう？



》》『悪夢』、日本軍慰安婦被害者姜徳景の作品、ナヌムの家 / 日本軍「慰安婦」歴史館資料提供。

うん、そんな夢をたくさんみるから。若い時、苦勞した夢を、なぜか続けてみる。もうそんな夢、みなくても良いのに。

まだそんな夢を、たくさんみますか？

16歳の時、侵されて、今は齡が90なのに。90歳にもなって、そんな夢みて、何になる。考えると悔しくて、腹が立つ。私だけ子どもを産めずに、最後まで苦勞して。こんな運命しかなかったのかと思うと、わびしい。

ハルモニが昔、苦勞したことを知っている人はいますか？

私が慰安婦に行ったことは、兄弟でも知らない。「逃げた」と、話した。幼い頃の話、自分で忘れた。忘れたと考えるしかない。16歳だったから、今なら中学生程度。誰も捕まって、慰安婦に行ったのを知らない。従姉も皆死んで、兄も死んで、従弟の妻一人残った。その人も、「幼い時、逃げた」と思っていて、慰

安婦に行ったことは知らない。それで話もできず、このように隠している。こうやって老いて、死ぬ時になったら発表する。「これは一体、何だ」と。(むせび泣く)もっと前に発表していたら、マシだったかも知れないが…。私は田舎者だから苦勞が多い、仕方がない。(涙声で)

幼い時に連れて行かれて、今まで苦勞多かったですね。

子どもの時、16歳から苦勞して、今日まで変わらずに苦勞した一生だよ。その時、生まれたから、この有り様だった。それで、より怨めしくて、わびしい。それともう一つ、一家親戚に会っても、私が「日本人に捕まって、慰安婦だった」と話せず、内心も語れない。

国や政府に言いたい言葉はありませんか？

私はもう死ぬ時になった。言いたいことがあれば、話すが、話して何になる。私にどうしろと言うのだ？

それでも言いたいことあったら、一度話して下さい。

他でもなく昔、私たちの国が、王様が誤って、こんな苦勞をした。それだけが腹立たしい。(胸を打って)王様がしっかりしていたら、朝鮮が滅びなかったし、朝鮮の人があんな悲しみを受けなかっただろう。だから何よりも私たちの王様が、臣下の話を聞かずに誤って、私たち韓国が苦勞したのよ。苦勞多く、悲しみをたくさん受けた。でも、こんな話させて、何をするつもりかい？その王様がまだ生きているかい、死んでしまったじゃないか。今は大統領がいるが、大統領が出て来てどうするんだい？

面談日：2012年8月10日

面談者：尹智炫、禹栄頌

録音文入力・編集：禹栄頌

録音文校正・校閲：李宣姪・尹智炫

◆ 面談後記 ◆

K〇〇ハルモニは中国から10年ぶりに帰国したが、家族は離散して親戚だけ残っていたという。親戚は「海辺で貝を採っていて失踪し、溺れ死んだのかと水辺で必死に探した」とハルモニに伝えてくれた。

ハルモニは被害事実を一生隠して来たが、2012年になって女性家族部に申告した。ハルモニは申告後少しずつ、話を打ち明ける心の準備をして来たようだった。しかし陳述している途中、感情がこみ上ってとても苦しかった。体を震わせ、涙を流されたりした。ハルモニの経験は、面談者が想像もできないような苦しみだった。感情の消耗をできるだけ減らして調査したかったし、質問の一つ一つが申し訳なかった。

ハルモニに会って4ヶ月後、口述資料利用の同意を貰いに、再び訪ねた。幸い被害を打ち明けた後は、気持ちが少し落ち着いたのか、「悪い夢をあまり見なくなった」と言う。ハルモニは「日本は陽暦で正月を祝うが、韓国の人が陽暦で正月を祝うのは良くない」と考える。「日本に圧迫を受けた歴史を、最近の子たちがよく知らなくて残念だ」とも言われた。本人の話を「本に残して、多くの人が日本の誤りについて知ったら良いと思う」と話され、口述資料の利用同意書に本人の名前、三文字をきちんと書いてくれた。



日本軍慰安婦被害女性 人権運動家口述資料

(社)挺身隊問題対策釜山協議会金文淑会長

- ノルモニたちの名誉を回復させ、
私たち女性が戦争を防がなければなりません

民族と女性歴史館特別展示館で
中国に残した日本軍慰安婦被害者褒サンヨプハルモニの写真
(写真作家安世鴻(アン・セホン)の作品)を持って立つ金文淑会長



의 원으로 김현균과 무장투쟁을 전개하던 중 김현균(김복일)으로부터
36명으로 구성된 회부를 아꼈다.

중국의 인종간(人種間)과 임시정부의 호소장(呼召狀)은 독립한 내포
자이자 항일전사로 은국한 그녀의 주동자를 중국의 신문에 기고하였
다. 유래는 김현균의 전영기 있는 할당에 인정되었다.

전국훈장독립장 훈장증

전국훈장독립장 메달 및 배지

十三番目の話

ハルモ二の名誉を回復させ、 私たち女性が戦争を 防がなくてはなりません

金文淑 会長

(社)挺身隊問題対策 釜山協議会会長
1927年生れ、慶北永川（ヨンチョン）生れ

- | | |
|-------------|--|
| 1965年～1987年 | (株)アリラン観光旅行会社社長 |
| 1985年～1986年 | 釜山女性団体総連合会第8代会長 |
| 1986年 | 釜山女性の電話設立 |
| 1990年 | 挺身隊問題対策 釜山協議会設立、会長歴任 |
| 1992年 | 釜山従軍慰安婦・女勤労挺身隊公式謝罪等請求事件
(別名関釜裁判)原告代理人 |
| 1995年 | 釜山性暴行被害相談所設立 |
| 1997年 | 「日本軍慰安婦問題の正しい解決のための民族運動」
釜山本部常任代表 |
| 2005年～現在 | 「日本軍慰安婦/ハルモ二のための民族と女性歴史館」
設立・運営 |

お前は皇国臣民なのになぜ、 ハンゲルで詩を書いて随筆を書くのか

この間ずーっと慰安婦人権活動をされておられますよね。なぜ、慰安婦人権運動をなされるのか、またどうしてこのような大変なことをすることになったか記録に残しておこうと思います。

会長様何年生れですか？

1927年生れ。今年85、卯年。

永川で生まれたと仰りましたね？

父が永川にいらっしゃった時、今の大韓通運の所長をしていて、その次は大邱支店長で行って、大邱で育った。だから経済的には非常に裕福に暮らした。父が解放頃には常務までなさって。

それではお父様も当時、勉強をたくさんされたでしょうね。

釜山第2公立商業学校、現釜山開成(ケソン)高等学校を出られた。

お父様の故郷は本来釜山なのに、永川で勤務されていた時会長様が生まれ られたのですね？

ウン。少し大きくなると大邱に引っ越して大邱で成長し、慶北女子高を出た。

兄弟は何人おられますか？

六人兄弟で女四人、男二人。上は全部娘で、私が長女。

それでは幼い頃からたくさん愛され、また責任感も強かったでしょうね。

はい。苦労は全くせずに育ちました。

学校卒業後には何をされましたか？

人々をやたら慰安婦に連行する解放の前年に慶北女子高を出ました。その時は教師資格証を持っていれば連れて行かないと言われました。でないと私たちに、日本軍の看護婦に志願しろと凄く強要しました。私たち慶北女子高から戦場に看護婦を送った。私は死んでも行かないと貫いた。私は学校ではずーっと成績が良く、入学した時も1等で卒業した時も殆ど1等だったのに、看護婦を支願した子だけに賞を上げた。

看護婦を支願しろと。

ええ、支願しろと。そう言われても私は、日本の看護婦として戦場に行くのが嫌いで、教員資格証取って学校の先生をしていた。

その時何才でしたか？

その時17才、そんな歳。私は7才で入ったから、少し早く卒業し。その時は6年でなく女学校は4年だったよ。17の時卒業して、その翌年解放になった。学校の教員を2年して解放になった。解放された年の9月に梨花(イファ)女子大学に行った。

どこで教員をされたのですか？

永川国民学校で。日本人が皆教員をしていた時、一緒にした。

それでは解放前の大変だった時期、供出や防空訓練、こういうのみな憶えておられますね？

そう。サイレンが鳴ると皆、防空壕に避難した。

実際に空襲に合いましたか？

1、2度上空を飛行機が過ぎ去っても、ここ直接爆弾は落とさなかった。

学校では勉強もさせず、訓練をたくさんさせられたようですが。

運動場に集めて行進し、負傷した人を運ぶ訓練も、戦争末期にはした。私たちはそれが何の意味なのか、何故するのかも知らず、ただ戦争だからするのだと思った。その時、私たちは日本人と全く同じ民族で。朝鮮語も全く教えず、朝鮮の歴史も教えずに。先生も殆ど日本人で。朝鮮人の先生は二人しかいなかった。

学生も日本の学生が多かったでしょうね？

違う。大邱女子高は日本の子だけ通い、慶北女子高は韓国の子だけ通う。バスケットボールの試合の時は、日本の子と戦ったりして。(笑い)

永川国民学校で何歳で先生になられたのですか？

17、18の時。学校の先生といっても、子どものようだった。日本人の教師も多かった。ところで何か対立があった。その時は靴も配給だったから。すると日本の先生には二、三足くれて、私たちには一足貰うのも大変で。そんな区別をした。自分たちに少しでも批判的だとくれずに。不公平だった。

永川国民学校では朝鮮人先生が多かったですか？

殆ど韓国の先生で、三分の一は日本から先生が来ていた。月給も私たちは39円なのに、日本の女の先生は60円も貰って。そんなに差があった。それで私たちは私達だけ、朝鮮人同士集まって文学をした。ハングルで随筆を。

ハングルでね？ 隠れて？

ウン。隠れて。私はその時、文学が好きで世界文学全集を皆読んで、ハングル

で随筆を書き詩を書いた。白楊という随筆集を私たちで出した。ところが中にスパイがいて、大邱憲兵隊に告げ口して、憲兵隊に捕えられた。それでわが家が大騒ぎだった。その時、お父さんがお金があるので、お金をとでもたくさん持って行って、私を釈放させてくれた。その時、他の男の先生は捕えられたまま出られなかった。私は大邱の憲兵隊に一週間か捕まっていた。

一週間もおられましたか？

うん。出してくれない。

憲兵は静かに放って置きましたか？

いいや、拷問をする。その時、拷問というのは指の間に鉛筆を入れておいてこするんだ。死ぬかと思った。もう死にそうだった。

何と言って拷問するのですか？

「なぜ、ハンゲルで詩を書いて、随筆を書くのか。お前は日本人ではないか。皇国臣民ではないか。」と言う。我慢できず「ただ、文学が好きで書いただけで、他意はない」と話しても。その時は捕まると皆死んだ。その時、男の先生の中には帰って来られなかった人もいた。うちのお父がお金をとでもたくさんふろ敷に包んで持って行き、私を釈放して貰った後は、どこにも出られないように閉じ込めた。そして私の世界文学全集を全部焼いてしまった。私がいけない間に。

みな焼いてしまったのですか？勿体無いですね。若しかして問題になるかと思っ **て焼いたのでしょうか？**

ウン、問題になるかと。トルストイとかドストエフスキーとかは、ソ連の作家だと。その世界文学全集、昔の日本の世界文学全集は厚かった。よく装丁してあって30冊を並べると本当に見栄えが良かった。それをとても熱心に読んだのに、その本

をみな焼いて、何も読めないようにした。解放されるまで、とても悩んだ。そして逃げるようにしてソウルに行き、梨花大学に入った。私が話もせずに梨花大学へ行ったので、父が学費も送ってくれず、母が間でとても苦労した。

梨花大学の何科に行かれましたか？

薬学科に入った。女は後に職業がないと、金を儲けられないから。文学をしたいのに薬学科を選んだ。ある友だちが「薬学科が一番よく儲かる、私たち薬学科に行こう。」と入ったのに、勉強は一つもせず、毎日政治演説聞いて、デモに行くことだけに追いかけて。

学校の勉強はどうでしたか？

学校でも勉強しなかった。解放されても教材は全部日本語で、翻訳しながらするから授業にもならない。学校で勉強しないのよ。先生もみな落ち着かず。梨花大学では勉強した記憶がない。結局後には学校の門を一時閉じた。よく考えたら、行き詰まって。いる所もな、母が学費を送るのも大変で。その頃は学校の先生がいないから、中等教員養成所というのが大学の代りにあった。一年終われば女学校へ先生として送りだす。それで大邱に来て中等教員養成所の地理課に入った。

日本が隠していて知らなかった。

1990年になって慰安婦の存在を知ることになった

なぜ文学をせずに地理課に行ったのですか？

私は地理と歴史が好きで。教員養成所を終えて晋州(チンジュ)女子高に発令が

出た。晋州女子高で先生を一年した。その時ノ・ヨンナン詩人と一緒に舎監教員をしながら。ところが夫が、私を好きだと何時もつきまとして、断りきれず。

夫はどんな方でしたか？

その時はソウル大学の学生。学生運動して毎日西大門（ソデムン）刑務所に入りしていた金持ちの家の息子で。大邱で父が大きい漢方薬の薬局の名医だった。ところがその男子学生が来て、結婚しようとしつくくて。嫌なのだが、結婚は何時かするべきで。母が見て、人が良さそうなのに、どうして駄目かと問い詰める。それでその一瞬、どうしても結婚するのならしようと。大邱で一番の金持ちで薬局の息子だから、条件は良い方だった。でも私は結婚自体が嫌だった。独身主義だった。結婚したくなく。勉強だけしたくて。学校を辞めて一月に結婚したが、その年の6月に戦争が起きた。

その大学生は美男子でしたか？

うん。そう、でも朝鮮戦争の時、学生運動したとこの人を捕まえに来て、両親を捕まえて行った。私たちは朝鮮戦争の時、酷い目にあった。私は新婚生活もできなかった。実家から行き来したが、朝鮮戦争が起きて、息子が学生運動したと、老人二人を捕えて行った。

新郎はどこに隠れていたんですが？

他人の家の床に隠れて生き残り、釜山に二人で来た。ところで舅姑二人を連れて行った。私は本当に腹が立って。どこで亡くなったのも分からない。私もたくさん探し廻った。後で見たら大邱から少し離れた達城郡(タルソンゲン)嘉昌面(カチャンミョン)に、報道連盟の人と何百人一緒に殺して埋めてしまったと。だから両親の命日も知らず、墓もなくて。なので夫が少し変わってしまった。とても柔順だったのに、よく短気を起こして。私は理解した。誰でも親を

そうして失ったら、そうなるだろうと。そんなことで病気になったのか、癌ができて60にもならず亡くなった。

早く亡くなられましたね。ご子息は何人ですか？

五人。

あれっ、独身主義だった筈ですが？

独身主義？ 人が聞いたら笑うだろう。(笑い)

新郎はどんな仕事をして生活されたのですか？

私が観光会社をした。夫は両親を失ってから、あまりに悲観して何もする意欲もなく。

観光会社は何時からしたのですか？

その時、交通部で通訳案内員の試験があった。結婚して何もしてなくて家で遊んでいて、突然試験を受けた。1965年か、1966年。日本語、中国語、フランス語、スペイン語、5か国語の試験を受けた。その間ずっと日本の本を買って、対馬に中継塔があって、釜山で日本のテレビが見られる。アンテナ付けて日本放送をずっと見る。日本語の試験があるから、ソウルに行って交通部で試験を受けたら、受験者がとても多くて。それで試験を受けたら、一等に選ばれた。その時はその通訳案内員証がないと、観光会社が許可されない。

なぜ観光会社をされたのですか？

通訳案内員証があると観光会社の許可が得られると言うから。観光会社が何かも知らないまま、株式会社の登録をして。今考えてみたら本当に滑稽で死にそう。知り合いが観光会社を許可なしにしているのを、以前に少し見たが。私

は観光会社を独自の方法で経営した。後には観光船まで作った。またその頃は旅行制限があり、世界へ出られなかった。でもよく見ると医者や学会の人たちは、外国に出て行くのよ。それで世界の会議情報を入手して、どこの国で韓国の人が行ける会議があるのか研究した。その人たちのパスポートの手続きをして飛行機のチケットを売った。そんなこと誰もしたことないのに、私一人でした。だから観光会社がとても上手く行った。その時から私は世界一周を十一回もした。観光会社社長がいる所には75%割引|世界一周チケットを一年に一度ずつ上げた。

どうしてそんなこと考えられたのですか!

観光会社の社長は一流ホテルに行っても、ホテル代を払わない。そのホテルに人を送って欲しいから。事実、韓国はその頃旅行の自由がなかったのに、私は会議に行く団体を捉まえて出て行った。マニラで会議が多かった。それでマニラにもたくさん行き、フランスもたくさん行った。そして世界一周のチケットがでると直ぐに荷物をまとめて、行きたい国に行った。イタリア、スイス、どこへ行っても無料だから。

どこが一番良かったですか?

やはりベニスやローマが良い。スウェーデンやノルウェーは本当に人々が良くて。規則をよく守って法を守って、静かで本当に発達している。

事業が繁盛したのに、どんな契機で慰安婦の人権活動をするようになったのですか?

梨花大学に通った時から、政治には少し関心があった。政治演説をあちこちで聞いて。呂運亨(ヨ・ウニョン)が演説するといえば学校さぼって聞きに行き、金九(キム・グ)先生の演説にも行ってみて。そうしてずっと女性運動をして来た。

女性運動に期待し、結婚して釜山に来てからは女性団体を作った。

女性団体を直接作られたのですか？

うん。一ヶ月に一度、有名夫人を集めてご飯と一緒に食べ、講師を呼んで話を聞いた。いわゆる女性運動を、その時から始めたの。一番初めはお母さんの会を作って。本格的に女性運動を始めたのは「女性の電話」。

「女性の電話」ですか？

1985年にソウルに「女性の電話」というのができた。その時は夫が妻を殴って、誰にも話せない時で。それが悔しくて、これをどうしたら良いのか。いくら男女同権を叫んでも、男たちは聞いたふりもしない。ところがソウルに「女性の電話」ができて、夫の暴力を告発すれば捕まえて行くというから、直ちソウルに行った。「女性の電話」がどのようにしているのか見たら、電話を何台か置いて、相談員に殴られた妻たちが訴えると、その夫を呼んで和解をさせたり離婚させたり。それで釜山に来て即座に1986年、女性の電話を置いた。電話を10台買った。

どんな風に運営されましたか？

10台買って釜山大学の福祉課を出た学生のうち、一番優秀な学生を呼んで相談員を教育した。夫が暴力をしたらどんな罪を受けるのか、また離婚するにはどうするのか。その頃は男たちがやたら殴って追い出しても、離婚は絶対にしない。それで離婚する方法を教えた。離婚させたり、離婚する時、夫のいる所で部屋一つ借りるお金貰って上げたり。夫が殴ったりしたら、夫を連れて来る。そして説得もして、駄目なら私が説教して警察署まで引っ張っていけば、間違っていたと反省する夫もいる。とにかく女が殴られたら「女性の電話」に飛び込んで来る。殴られて来ても、眠る所があるかい、家には帰

れないし。わが家に連れて行った。

憩い場も提供したんですね。

その時は憩い場もなくて、わが家に連れて来て寝かせたり。服も替えて着せ、何日か後に夫を呼んで、間違っていたと反省すると、再び殴るなどたしなめて送り出した。それができないと無料弁護士に依頼して離婚させた。離婚もたくさんさせた。それが「女性の電話」の始まりだった。また1993年頃になると「性暴行防止法」というのができた。それで性暴行相談所の許可を得た。

性暴行相談所ではどんな活動をされましたか？

性暴行を受けた子たちの救済をした。以前は性暴行されても、それでお終い。下手をすると売春に流れてしまい、でなければ自殺して。これでは駄目だと思い、性暴行された人はみな来てと集めて。警察署に行って相手の男の逮捕を要求した、こらしめて賠償しろと。性暴行相談所をしていたら1990年キーセン(妓生)観光が余りに多いため、ソウルの尹貞玉(ユン・ジョンオク)先生と、少しでも日本人が、韓国に入って来られないようにしようと！

尹貞玉先生とはどのように知り合いになりましたか？

そのキーセン観光反対運動を一緒にしながら。釜山で私がキーセン観光反対運動をしていたら、尹貞玉先生もソウル金浦(キンポ)空港ですと言って。私がソウルに行った。キーセン観光反対運動をいくら釜山でも何の影響もなく、私たちに力がないからソウルと一緒にすれば、力が少しは出ると思って尹貞玉先生を訪ねて行った。行くと考えもしていなかった慰安婦問題が出て来た。

あ、キーセン観光反対運動と一緒になさったのですね。

空港に行ってプラカード持って、キーセン観光反対、日本人は入国するなど。

プラカードを持って金海（キムヘ）空港と金浦空港で立っていた。だから日本人がやたらあざ笑うのさ。嘲笑しながら「お前ら戦争の時、体売りに行っていた女が幾らでもいた。今は俺たちがお金をたくさんあげている」と言うのよ。ところが1990年度になって慰安婦という存在を知ることになった。その時までには日本が隠していて知らなかった。1965年の韓日会談では、慰安婦の「い」の字も出なかった。

私たちは日本政府の謝罪と賠償を求めたのであって 日本国民のお金は要らない

女性の電話をなさり、性暴行相談所も運営されて、挺身隊問題対策釜山協議会の活動は何時からですか？

釜山協議会は1990年に慰安婦の申告電話を受けて始めた。尹貞玉先生はソウルで挺身隊対策協を作った。二人で一緒に。初めは尹貞玉先生と一緒にした。ところが私が行き来し続けるのが難しくて、釜山は私がする、ソウルはソウルで。慰安婦の存在を知ってからは、性暴行であれ何であれ、みな職員に任せて私はこのハルモニたちを探しに出かけた。

いつからハルモニに会われましたか？

1991年に李貴粉(イ・キブン)ハルモニが、自分が慰安婦だったと釜山日報に電話して釜山日報の記者が訪ねて来た。それで一緒に李貴粉ハルモニの所に行くと、小さい食堂をしていた。それからは晋州にいるといえば、晋州にも行き。行くと、違うとみな隠すのよ。自分が慰安婦だったのに。絶対に害を与えないと話をし、少しずつ助けてあげた。みな乞食のように暮していた。今は一ヶ

月に何万ウォンずつ助けて貰える。1992年には日本で裁判を始めた。

関釜裁判¹⁾ですか？

うん、関釜裁判。1992年12月に勤労挺身隊ハルモニと慰安婦ハルモニが関釜裁判を始めた。裁判は3ヶ月に一度ずつ、6年で23回開いた。李ハルモニを連れて、福岡に行って、福岡の支援する会がバスを貸切にすれば、それに乗って下関に行って下関裁判所で裁判をした。幸い下関の裁判長が人が本当に良かった。だから六年も引っ張って。

裁判の過程はどうでしたか？

裁判の状態は本当に涙ぐましくと言うか。李ハルモニにいくら、泣かないで、罵声を口にせず、ただ問われたことだけに答えろと、夜を明かして教えても、裁判長が「お前たちが体を売るためについて回ったのだろう？」と聞くのよ。するとハルモニが「私たちその時、何歳なの？ そんなこと何も分からない時に、野菜を採っていたら、突然トラックが来て拾い上げ、日本語を二、三教えて日本の服を着せ、台湾や中国にみなを送った!」と、私、通訳をしたのよ。それで

1) 1992年12月25日慰安婦被害のハルモニと勤労挺身隊被害のハルモニが日本の山口県地方裁判所下関支部に、日本国の国会及びUN総会での公式謝罪と補償を要求して、日本国を相手に起こした裁判。裁判の正式名称は「釜山従軍慰安婦・女子勤労挺身隊公式謝罪等請求事件」である。「関釜裁判」は日本軍慰安婦被害者に日本司法府が、日本の誤ちを一部でも認めた唯一の事例だ。第1審で日本政府は公式謝罪の義務はないが、「日本の国会議員は日本軍慰安婦被害者が戦争中に体験した苦痛に対して戦後被害回復の措置を取る義務があり、1993年8月の官房長官談話以後至急に賠償立法をする憲法上の義務があるのに立法義務を果たさないのは違法であり、日本軍慰安婦被害者に慰謝料として各30万円を支払わなければならない」という判決を下した(1998年4月27日)。広島高等裁判所判決(2001年3月29日)でも日本軍慰安婦被害に起因した原告の心的外傷後のストレス障害(PTSD)を認めた。しかし日本の最高裁判所は2003年3月25日上告審で原告の請求をはね除けて、結局敗訴が確定した。

「ハルモニ、悪口を言わずに、ただ聞かれたことだけに答えて」と、それでも「お前ら、自分の娘がそうやって強制的に連れて行かれても許すのか」と、私が日本語でそう通訳をする。裁判長は何も言わずに、コクリとうなずく。河順女(ハ・スンニョ)ハルモニは話始めると、何も言えず泣き出す。オンオンと。傍聴客もみな泣く。

本当に心痛みますね。

裁判が二十三回あった。二十三回、福岡や下関に飛行機に乗せて行き来した。

初め李貴粉ハルモニ出て来て、他のハルモニはどう探しましたか？

うん。申告電話を置いた。

誰が申告をするのですか？

だから、本人は絶対に申告しない。周囲から「うちの叔母は、どう見ても慰安婦に行って来たようだ。話はしていないが、会長様一度来てうちの叔母に会って下さい。」と言われると、私が飛んで行く。行ってみたら、河順女ハルモニはこの下に敷くものもない土間にいた。人を迎えても嬉しくなく、反感に満ちた……。

また、何かされるのかと思って？

ウン。「私に何をしに来た」と言って。それで私が「ハルモニ、私はハルモニを助けにきた」と言って。そっと気を使って、どうやって暮らしているのか尋ねると、村の事務所で米を一ヶ月に三升くれるとか。それだけでも甥の家へ送って、ご飯だけ食べるのよ。部屋の床に敷くものもなく座っていた。「ハルモニ、その時どこにいたの」と聞くと、「光州にいた」という。連れて行かれた時、どんなだったのかと聞くと、ひとの家の子ども背負っていたと。



≫≫ 初の裁判を終えた後、当時原告団の代理人として原告を補佐して活動した金文淑会長と原告/ハルモニの姿。左の端が金文淑会長。日本軍慰安婦/ハルモニの民族と女性歴史館、『関釜裁判の記録』17頁、2011年。

赤ん坊を世話しているのに？

ひとの家の子を見ていたら、日本の奴一人と朝鮮奴ら一人、二人来て、「工場に行ったら働けば、お金もたくさんくれて、勉強もさせてくれるからと行かないか」と言って、自分は二つ返事でついて行った。

は一ん、そんなに純真でしたか。

うん。そして中国の上海に連れて行った。頭を見たら、切り傷があった。何回も逃げようとしたと。自分たちが軍人だからと強引に、15、16にしかならなかい生娘たちを……。

鬱憤晴らしを妻子にしたのでは。

うん、刃物で頭を。頭に切り傷が三、四カ所ある。そこを見せながら話をしてくれた。私に気を許してくれた。次からは私が行くと喜んで、裸足で飛び出て来る。私が服を買ってあげたりお金をあげると、何をしたと思う？

何をしたのですか？

花の靴のようなの、一つでもなく三個、四個と買って置く。お金が一つもない人が。私が何か食べるとお金あげると、靴を買う。「ハルモニ、何のために靴を三足も四足も買うの?」と聞くと、買いたくて買ったと。その次にまたお小遣いを少し上げると、タンスを買って来た。こんなタンス置いて一度暮らしたら死んでも悔いがないと。彼女の生活の場が新しいタンスと花の靴で満たされていくのよ。

他のハルモニはいかがでしたか？

朴頭理(パク・トゥリ)ハルモニは、弟から電話が来た。「会長様、一度来て下さい。うちの姉はどう見ても慰安婦に行って来たようだが、自分は死んでも違うと言うから、来て助けて下さい」と言われて飛んで行った。「毛羅(モラ)」といって、とても遠い。毛羅市場に行くと、野菜をこんなに積んで、それ売って暮らしていた。「ハルモニ、ハルモニには誰もいないの」と尋ねると、初めは警戒して「また、どこか連れて行くのか」と言うのよ。

どこか連れて行くのかと言われて…。

「そんなこと言わないで。ハルモニ助けに来たのだから。私の話聞いて」と。「どこで暮しているの、行ってみよう」と話した。これ位の部屋一つ借りて一人で暮らしていた。このハルモニは帰ってから、スマートで人物も良く一度結婚した。娘一人産んだが、慰安婦行っただけで発覚して追い出された。一人で来て野菜これ位置いて、それを売って暮らしていた。釜山市にはデスクを一つ作り、慰安婦のハルモニの申告を受付けると要請した。慰安婦のハルモニが申告するの受付けると。慰安婦に行った人は申告さえすれば、助けて貰える、官庁がやれば信じるから。それでハルモニを一人、二人探し出した。

ハルモニの生活支援もしたのですか？

その時までには私がハルモニに一月五万ウォンずつあげて暮してていたが、私が政府にハルモニの支援をしろと。私たちが申告するから、少し手伝えと言ったら、15万ウォンずつくれるようになった²⁾。ハルモニたちはお金を持てるようになった。

毎月くれるからですか。

うん。毎月くれるから。それでオンドルの床も敷いて。ハルモニと親しくなると、私が行けば喜んで、踊って歌も歌って。申告を全国で受付けて合計250人探した。各道に公文書を送ったよ。慰安婦からの申告を受付けてくれと。その時まで隠れていたハルモニたちが皆申告して。李貴粉ハルモニは昔の話を、昨日のようにする。台湾に連れて行かれて、その将校が何をして、入場料は幾ら取って。慰安所の管理人がいて軍票を受け取るが、管理人がみな持って行ってしまう。ハルモニは十ウォンのお金もなかった。

はい。金があったら逃げるからと。

逃げようとしても出られない。慰安所には日本人もいて、韓国人もいた。晋州には慰安婦ハルモニがいて探して行ったら、慰安所を運営していたハルモニがいた。その人に会って慰安所の話をたくさん聞いた。軍艦に乗せて来ると。乗せて来て配分をする。昼間は酒を売って、軍人が来ると部屋ごとにこう一人ずつ。

2) 韓国政府は1993年「日帝下日本軍慰安婦被害者に対する生活安定支援及び記念事業等に関する法律」を制定した。1993年8月から一時払い500万ウォンと月15万ウォンの生計費を支援し、医療恩恵と永久賃貸住宅の入居権も付与した。1995年には毎月20万ウォン、1996年には毎月25万ウォンの生活費が支援された。2013年現在、居住地用意などのために一時金4,300万ウォン、生活安定支援金1人当月953,000ウォン、年間1,200万ウォン範囲内での看病費支援、精神的・身体的苦痛緩和のための治療を支援している。

それでもその方が会長様を少し信じて、話をみなしてくれたのですね。

うん。管理人はどうやって帰って来たのか尋ねると、自分たちはお金があったと。酒場もして。自分たちは戦争終わったと聞いて、何とか帰って来たと言うよ。李貴粉ハルモニがどのように帰って来たのかいうと、ハルモニを韓国に連れて帰るは誰もいなかったと。中国服を着て慰安婦ではないようにして、朝鮮人ではないようにして、友だちと二人彷徨ったと。ある日海辺にいたら、向うを船が通るので、その船に向かって服を降って「助けて」と大声で叫び、ピョンピョン飛び跳ねたら、その船から小さい船が降りて来た。

それは何の船ですか？

帰還船といって、当時私たち僑胞（海外在住韓国人）が外国にいて、解放されたからと韓国に戻る船が、上海や台湾に時々あった。僑胞たちはそれに乗ってみな帰ってきたが、その船に出会ったのだ。だが帰って来ても、故郷に行った



》》「女性のためのアジア平和基金」撤回運動の姿。真ん中が金文淑会長。(1995年8月)
日本軍慰安婦ハルモニの民族と女性歴史館、『関釜裁判の記録』、2011年、65頁

ら親はみな亡くなっていて、故郷にいと汚い女とご飯もくれなかったと。それで釜山に来た。釜山で他人の食堂の皿洗いをしていたが、私が会った時は小さな食堂をしていたよ。それで私が行くと、ご飯を食べると出してくれて、昔慰安婦の時に歌った歌を一つも忘れずに、すべて歌ってくれた。

ハルモニ歌お上手ですね。

そう。歌って、何日か行かないと「キム会長、来ませんか」と。これでは仕事もできない。それでまた飛んで行って、食べ物買って話をし、帰る時になると寝て行けと。これ位の部屋に一緒に寝たりして。日本政府に対抗して裁判を数件したが、関釜裁判だけがハルモニに慰労金を支給しろという判決が下された。それでも慰労金をくれると言っても、ハルモニたちが「お前たちが請求しろ。私たちはしない。そんなお金なくても構わない。」と。お金は貰えなかったが、唯一勝ったのが関釜裁判。そしてその後で私と李貴粉ハルモニが日本の国会に行った。李貴粉ハルモニも日本語が上手い。だから私と二人で、速射砲のように話をしたよ。すると村山首相が90度で挨拶して謝罪をし、国民基金を作った³⁾。国民から金を貰ってハルモニに補償する。私たちは国民基金反対運動をした。私たちは日本政府の謝罪と政府のお金での賠償を求めたのであって、日本国民のお金は要らないと。

ところで関釜裁判は慰安婦ハルモニだけでなく、勤労挺身隊のハルモニも一緒にしたでしょう？ 二つ性格が違うのになぜ一緒にしたのですか？

3) 1995年、日本政府は「女性のためのアジア平和国民基金」を募金するために政界、学界、法曹界等、社会的に影響ある一部の人たちが「国民基金」創設を公布し、国民の参加を促した。この基金の性格は法的賠償に対する日本政府の責任を否認し、道徳的責任だけを前提にした国民主導の財政募金で、生存している被害者に慰労金を支払うというものだった。官民協同形態の解決案だが、アジア各国の被害者と民間団体は日本政府の回避的な解決を拒否し、反対する運動を展開した。

その時は勤労挺身隊も慰安婦も、日本に虐待された女性としては同じ。こう思っ
て一緒にした。プラカード見ると、勤労挺身隊と慰安婦と一緒に書いてある。

その時の写真見ると皆美人ですね。

何十年も前だろう。それまで船に乗ることもなかったハルモニたちを、私が飛
行機に乗せてビザも受け取って来る。またビザを出したがない日本領事館に
行って、大喧嘩してビザを取って。それで飛行場に行くと、パスポート忘れて
持って来なかったというので、タクシーでパスポート持って来させて。それを
23回もした。その時うちの娘が旅行会社をしたっていたから、飛行機のチケット
は娘に出させて。

観光会社はお嬢さんに譲られたのですか？

うん、今は娘がする。観光会社は「女性の電話」のために辞めた。それでよく
娘が私に、「お母さん、飛行機代は何時くれるの?」と聞く。「日本から補償貰
ったら、私が上げるから。待ってて!」。飛行機代が一千万ウォン (百万円)。

千万ウォン、飛行機代だけでですか？

私はお金出してくれる後援会を作らなかった。なぜならば人々が心から慰安婦
ハルモニたちが可哀想で、国家がなかったために起きたと考えずに、金会長を
見て幾ら出すと言うから。

今の人たちは植民地の歴史を忘れている、 特に二世たちは全く知らない

展示館は何時から運営されたのですか？

8年目になる。私は観光会社で成功して、その時お金をたくさん儲けた。中央洞（チュンアンドン）に建物が一つあった。それをどんと売って通帳に入れ、おろして使うのよ。だからお金を惜しいとも思わずに使った、お金惜しかったらこんなことできない。この歴史館、空っぽだった。何もなかった。

なぜ歴史館を作ろうと思われたのですか？

挺身隊問題対策協議会を作って、資料もたくさん作りインタビューもたくさんした。ところで人々が、ただ慰安婦というのが存在して、「日本が捕まえて行って、そんな酷いことした」とまでは分かっても、このハルモニたちを国が少しは助けてあげるべきだったのでは、こう思うだろう。今良い暮らしをしている人たちは、植民地の歴史を完全に忘れている。特に二世たちは全く知らない。これでは駄目だと考えた。そして私がこの間日本や中国に行って資料と本をたくさん集めた。こういうの集めて、私ももう年齢80越えたから、死んだらこれが何になるか、受け継ぐ後輩もいなくて。それではいけない、歴史館を一つ作って、こんなハルモニがいたとことも知らせて、展示会もして歴史を教えなければならない。目的はそれだった。初めは本を数千冊作って学校に送った。そのうちにいくつかの学校の良い先生たちと連絡がついて、子どもたちを連れて教育を受けに来ると。そんなやり甲斐が少しはある。

歴史館を直接しながら展示会もたくさんされたでしょう？

毎年する。年ごとにテーマが変わる。一昨年は国辱百年展示会をした。今年は女性独立闘士。

立派です。この展示物、ハルモニの絵ですか？

うん。これはみなハルモニの絵。ナヌムの家から本を一冊くれた。ハルモニの絵本を。それを私があのように、立派に装幀した。絵のコピーは高いから。

はい。原版だと思いました。すごい。ここで本もずっと発刊されるのでしょうか？

ウン。日本で1992年にハルモニ記録を詳細に貰って、日本で本を出した。それで日本人のたちが知り始めた。今、歴史館の会報は11号が出た。独島（トクト）問題と、慰安婦問題と、女性問題と、少し入れて。この前は関釜裁判の記録を全部翻訳して本にした。五百冊作って全国の図書館にみな送った。

会長様、歴史館運営だけでなく、老人たちを助ける活動もするでしょう？

ウン。老人たちを助けるのは何でもない。一人暮らしのハルモニが寂しく暮らし、二十何人一ヶ月に一度は呼んで、美味しいもの食べて、独島の歌教えて、みな覚えて来たら賞も上げます。

一生、女性問題に対する活動をして来られました。

学校に通う時も勉強は後回しで、毎日女性運動すると追いかけて回り。次は女性を組織して。釜山女性団体協議会の私が8代目の会長で。

活動を続けながら、辛くて精神的も苦痛を多く体験されたでしょう？

そう。荷が重かった。この前、李泰錫(イテソク)神父の話を聞いて、本当に感動し泣きながら考えた。私も李泰錫神父のように、何も持っていない時までこの仕事をして、ハルモニ名誉を回復させ、わが国の名誉を取り戻さなければならない。そして日本が今、戦争をしたくて武器を物凄くたくさん作っている。それを売ろうと。私たちの女性が戦争を防がなければならない。男たちは分からない。



≫≫ 民族と女性歴史館の発刊物と金文淑会長が出版した本。

右下『韓国女性からの告発』は、金文淑会長が1992年に日本で発刊した本だ。

政治をする人は、戦争がどれくらい恐ろしいか判らない。それで女性たちがこういうことを少し悟って、気を遣ったら。それで日帝強制動員歴史記念館のような城が一つできたら、そこを中心に平和教育をしたい。

二時間半近く話しましたが、お疲れでしょう?最後にしたい話ありますか?

今は日本から真の謝罪を受け取るのが、先です。ますます私たちを見下して謝罪しないようです。謝罪も賠償もすでに行ったと対応する。1965年韓日会談の時、慰安婦がいるという言葉もなかったのに。また、国家があってこそ私たちもある。個人がいくら立派でも、国がだらしなかったら駄目だ。だから子どもたちにわが国の歴史と私たちの立派な民族性を教えて、自尊心を持つようにしなければならない。そして親の役割も重要だから、私が女性教育を定期的にして、母親たちを教えたい。

健康でこの歴史館もしっかり守られ、歴史教育の先頭に立てます。健康で頑張ってください。

いつでも来なさい。さようなら。ありがとう。

面談日: 2012年10月16日

面談者: 鄭恵瓊(チョン・ヘギョン)調査2課長

面談場所: 日本軍慰安婦ハルモニのための民族と女性歴史館特別展示館

録音文作成: 尹智炫

録音文編集: 尹智炫

録音文校正・校閲: 李宣姪・尹智炫

◆ 面談後記 ◆

「社団法人挺身隊問題対策釜山協議会」金文淑会長のインタビューのために、釜山広域市水営区（スヨング）水営洞の歴史館を訪ねた。動画撮影と補助面談は調査2課の尹智炫調査官が担当した。午前11時40



分釜山駅に到着し、釜山経済大の講師金潤美先生の車両で移動した。広安洞（クァンアンドン）で昼食を取った後、午後1時30分頃歴史館に

到着した。歴史館の前に釜山経済大史学科の大学院生2人が待っていて一行は5人になった。先に周辺の姿を動画で撮影してから歴史館の室内に入った。去る9月25日資料調査のために訪問した時は、金文淑理事長がのり巻きの食事を中断して会って下さり恐縮したので、今回は予め食事を終えて待っておられた。「前回の訪問後、委員会がマスコミに紹介してくれたおかげで、観覧客が増えて嬉しい」と前回と同じく熱情的な抱擁で迎えてくれた。

インタビューは企画展示室で進められた。尹智炫調査官が録音と映像機器を設置した後、主面談者(鄭恵瓊)があらかじめ用意した質問目録を中心に、インタビューを進めた。釜山経済大大学院生は金潤美先生と共に先に他の展示室を観覧し、インタビューの中盤から同席したが、口述者のお話に感嘆の声を連発した。口述者(金文淑会長)は観覧客の来訪にも中断されない集中力と情熱で、インタビューを続けられた。満85才という年齢が感じられなかった。インタビューはおおよそ2時間40分に達したが、金文淑理事長の生涯と慰安婦及び女性人権守護活動の状況を込めるには充分でないと感じる程だった。裕福な家庭環境のように結婚生活は平坦ではなかったが、熱情的で先進的な性格で困難を克服し、周辺の助けが必要な人たちに視線を転じることができる余裕を有していた。特に大学の時期から女性人権に関心を注ぎ、性暴行被害女性と一人暮らしの老人を助ける奉仕は特別な悩みなしに、慰安婦被害者問題にまで拡大したように見えた。

全体的にインタビューの場所(歴史館企画展示室)も、口述者の回想を引き出すのに適切だったし、映像と録音機器等機材の使用も円滑だった。口述者が多い著書を出した履歴と国際活動経験がある方で、自身の経験を話すのがスムーズだったので、参加者皆が貴重な思い出を作ることができた。



付録

日本軍慰安婦、委員会被害認定の現状・検討結果

委員会日本軍慰安婦関連調査の現況

日本軍慰安婦被害者に対する韓国政府の支援の現状

日本軍慰安婦関係年表

日本軍慰安婦、 委員会被害認定の現状・検討結果

1. はじめに

日本軍慰安婦問題はその被害の特殊性と残酷性のため、国内外で主な関心事であり続けている。委員会でもスタート以後、慰安婦動員被害の特殊性と残酷性に照らし、被害者個々人に対する調査、真相調査の実施と研究委託の推進等、多様な方式で調査を遂行した。その結果、厳正な調査を経て、22人の日本軍慰安婦被害者を明らかにした。また真相調査3件と研究委託調査6件を完了した。

ここでは2005年被害申告の受付以後、委員会で実施した日本軍慰安婦被害調査結果に対し、被害認定、棄却・却下、判定不能等、議決区分別に分類し、検討する。基本的には、被害認定事例を集中的に調べるが、棄却・却下、判定不能等に対しても、それぞれ理由を明らかにする。

2. 委員会日本軍慰安婦被害処理現況

2005年以後、委員会が受付けた強制動員被害の申告は、計22万8,126件に達する。この中で日本軍慰安婦動員の被害申告は386件だった。学界では、日本軍慰安婦動員被害者が数万人に達するという研究結果が報告されているが、これと比較すれば、委員会の被害申告件数は非常に少ないもの

といえるだろう。日本軍慰安婦動員の特殊性のせいで、本人が被害事実を明らかにしなかったり、家族の立場から被害事実が知られるのを嫌っているために、現れた結果と理解される。委員会に申告された386件の被害処理の現状を整理すると、次の通りだ。

受付	取下げ	計	処理結果				
			被害者	却下	棄却	不能	重複
386	50	336	22	7	1	305	1

受付後、取下げた案件が50件に達し、調査対象になった案件は336件に減った。このうち1件の重複申告が確認され、最終的に被害調査対象になった申告件数は335件と集計された。

3. 被害認定事例検討

1) 被害認定の根拠

調査の結果、日本軍慰安婦と認定された被害者は22人である。それぞれの被害認定根拠は四種類の類型に整理される。一番目、生存者として強制動員被害事実を証言している場合、二番目、既に死亡したが生存時に関連団体・言論・放送等に被害事実を知らせて記録を残した場合、三番目、被害事実が資料を通じて確認できる場合、四番目、女性家族部登録の被害者の場合等である。被害者の中には認定根拠が重複する場合もある。

委員会認定の被害者はほとんど、一番目と二番目のケースに該当する。まず生存者として被害事実を直接証言したケースは、15人と集計される。生存被害者15人のうち、10人は本人が直接、被害事実を申告し、残りは弟や

甥等が申告した。これらの生存被害者は委員会の被害調査時に、動員時期、地域、実態等を具体的に述べ、陳述内容に信憑性があると判断され、被害者に認定された。

二番目のケースに該当する被害者は6人と確認される。6人のうち3人は死亡前、国内日本軍慰安婦関連団体に被害事実を証言した。これらの被害事実は各団体が発刊した冊子等に収録されている。解放後も現地に居住していた被害者2人は、慰安婦動員事実が現地言論に報道された後に、国内に紹介された。残り1名は生存時、居住地の面長(町長)に慰安婦動員被害者であることを知らせる陳述書を残し、この陳述書が決定的な証拠になった事例だ。

三番目のケース、日本軍関連資料に登載されている被害者も2人確認される。この場合、資料では慰安婦でなく、臨時看護婦と記載されている。これらの被害者は全員生存者であり、自分たちが日本軍慰安婦被害者であると証言している。日本軍が残した慰安婦関連名簿が発見されていないという点からみても特記するべき事例である。

四番目のケースは、女性家族部登録の被害者で2人が確認される。2人のうち1人は生存者で委員会の調査時、再度、本人が慰安婦動員被害事実を証言した。残り1名は1993年の死亡前に、政府から日本軍慰安婦と認定された。

2) 年齢、本籍地及び動員方法

被害者22人は全て1920～1930年の間に出生し、動員当時は14～22歳程と把握される。この範疇に含まれなかった被害者は、1人に過ぎない。彼女は1914年生れで1944年動員当時、31歳だったことが分かっている。

被害者の本籍地を整理してみると、次の通り。

地域	京畿	忠南	全北	全南	慶北	慶南	未詳
人員	1	3	2	3	9	3	1

この表に現れるたように全体被害者のうち、半分以上の12人が嶺南（ヨンナム）出身と確認される。特に慶北出身が9人で、他の地域に比べて飛びぬけて多い。湖南（ホナム）と忠南等、韓半島西南部地域出身被害者も8人確認される。しかし黄海道以北の地域出身者等はいない。地域的不均衡が大きい。

一方、本籍地が確認されない被害者が1人いるが、動員当時、慶南に居住していたことから見て、本籍地も嶺南地方だった可能性がある。

被害者の動員当時の居住地を整理してみると、次の表の通り。

地域	ソウル	忠南	全北	全南	慶北	慶南	黄海	平南	咸南
人員	1	1	1	3	5	7	1	2	1

本籍地分布と同じように、動員当時の居住地も嶺南地域が12人で、最も多い。ただ本籍地の場合、慶北出身が多かったのに比べて、動員当時の居住地は慶南が7人で、慶北(5人)より多かったという点で差がある。

嶺南出身の被害者12人のうち、動員当時の居住地が嶺南地域であった被害者は11人と確認される。反対に本籍地と動員当時の居住地と一致しない被害者も11人である。被害者が慰安婦に強制動員される以前に、既に本籍地を離れて、他地に居住していたケースが多かったのだ。

被害者のうち平安道から2人、咸鏡道から1人が動員されたと確認される。かれらの本籍地は全て韓半島南部だが、色々な事情から韓半島北部に居

住したときに動員されたことが確認される。

動員方法としては拉致、誘拐、就職詐欺、人身売買等、多様である。

方法	就職詐欺	人身売買	誘拐	拉致	その他
人員	11	4	2	1	4

就職詐欺が11人で、全体被害者の半分を占める。その他に分類された4人の中には、日本人がむやみに連れて行ったという事例もある。すなわち、初めから意思に反して、強圧的に連行された場合が多かったことが、被害調査結果からもわかる。

3) 動員時期、地域及び帰還

動員時期は中日戦争勃発以後、等しく分布していると把握される。

時期	1937	1939	1940	1941	1942	1943	1944
人員	1	4	4	4	4	4	1

1937年と1944年を除いては、被害者の動員時期が等しく広まっていることが確認できる。ただし動員時期に関連しては、注意深く調べる必要がある。被害者の動員時期は多くが被害者の陳述を根拠にして特定した。ところが当時の戦況に照らしてみた時、多少矛盾する事例が発見されたりする。一例として1937年慰安婦に動員され、シンガポール、ティモール、クアラルンプール等の地を転々としたと証言した被害者がいる。しかしこれらの地域を日本軍が占領したのは1942年のことだ。このような事例が時々発見される。おそらく被害者が時期を間違えて憶えていたと考えられる。だから

と彼女たちが慰安婦被害者ではないというのではない。動員時期以外は、被害事実が具体的であり、口述に筋が通っているからだ。

被害者の動員地域としては、中国、満州、東南アジア、太平洋方面等が確認される。

地域	中国・満州	日本・台湾	東南アジア	太平洋	その他
人員	8	2	8	2	2

そのうち、配置地域として2ヶ所以上の地名を述べた被害者が7人いる。この中で5人は中国の国内で移動したケースだ。残る1名は東南アジアから、1人は中部太平洋から、それぞれ移動したものと調査された。

日本に動員された被害者は1人で、沖縄に配置された。その他に分類された2人は、それぞれ広東省からシンガポールに移動したケース、清津から動員され、琿春で再配置されたケースである。

被害者の帰還時期は解放後の1945年末、あるいは1946年と把握される。しかし解放後も帰還できず、現地に放置されたケースも3人が確認される。3人のうち2人は現地で命を落とし、1人は1990年代に永住帰国した後に死亡した。

4. 被害不認定処理検討結果

被害不認定の類型としては却下、棄却、判定不能等がある。それぞれの処理理由を調べると、次の通りである。

1) 却下と棄却の処理の検討結果

被害申告書を検討してみた結果、委員会の調査対象ではないと判定され、

却下処理した案件は7件と把握される。却下理由は四種類に区分される。一番目は年齢上の問題だ。被害申告者のうち2人は提出した除籍簿から、それぞれ1898年生れ及び1904年生れと確認された。慰安婦の動員対象が主に未婚の女性だったし、実際の事例も10代から20代始めの未婚女性だったという点から、上の2人は一般的な事例から外れると見た。

二番目は国外への移動理由だ。1人の申告件がこれに該当するが、被害申告書上、父親と同行して国外に出たという。申告内容から見て、これは自由渡日と判断され、却下処理した。

三番目は死亡時期に関するものだ。1人がこれに該当するが、提出した除籍簿によると、申告対象者は満州事変以前に死亡したと確認される。特別法上、強制動員被害の時期的範疇は「満州事変以後、太平洋戦争に至る時期」である。したがって除籍簿で確認された死亡日時を根拠に、却下処理した。

四番目は年少者という点が考慮された。3人がこれに該当するが、これは大阪で出生した後に居住していた姉妹の間だった。申告人は彼女たちが1938年に動員されたと主張するが、当時彼女たちは全員10歳未満だった。慰安婦動員が未婚の若い女性を対象にした点を勘案しても、彼女たちの年齢が過度に低いという点から却下処理された。

却下された被害申告の内容を調べると、強制動員の具体的な状況が確認されず、単純に当時日本に居住した女という理由から、慰安婦と申告したことがわかる。委員会では自由渡日以外の6件に対しては、強制動員被害調査対象ではないので申告人に取下げを勧告した。しかし申告人が皆拒否したので、最終的に却下処理した。

一方、委員会の被害調査の結果、棄却処理された被害申告件は1件だけだ。このケースでは調査過程で、被害者に指定された人が強制動員されて

はないという証言が確保される等、申告内容が事実でないことが明らかになり、棄却処理された。

2) 判定不能処理の検討結果

委員会の被害調査の結果、根拠資料が不足で被害の有無を判定できず、判定不能と処理された申告は305件に達する。被害調査対象の335件のうち91%を占める。

305件の判定不能の理由は全て、証拠資料不十分だった。被害当事者は既に死亡し、被害事実を証言できず、別の資料を残すこともなかった。申告人の申告内容以外に、参考人、保証人、陳述等、別途の証拠を確保できないケースだった。

周知の通り、日本軍慰安婦動員に関連した資料は少なく、さらに日本軍が残した名簿資料は発見されていない。また被害の特殊性及び残酷性のせいで、当事者と遺族が被害事実を隠すケースが多い。このような理由から慰安婦動員被害の場合、参考人調査を通じて被害事実を糾明するのには、限界があった。

5. 結び

強制動員被害の受付の結果、日本軍慰安婦動員被害の調査対象者は計335人と集計された。しかし調査の結果、実際の被害者と認定されたケースは6.6%の22人に終わった。立証資料の不足から305人に対して、判定不能という措置を出すしかなかったという点が残念だった。このような結果が導き出された理由は、次の通りだ。

一番目は被害を立証する資料がないという点だ。今まで日本軍慰安婦動員

被害者が登載された名簿が公開されたことはない。慰安婦動員の特性上、今後も名簿資料が発掘される可能性はそれほど大きくはない。資料の不在が、被害調査に否定的な影響を及ぼしている。

二番目は参考人の確保が困難ということだ。軍人・軍属・労務者等、他の類型の被害者の場合、関連事実を家族や周辺の知り合いが知っていて、参考人調査を通じた被害立証が可能だ。しかし慰安婦の場合、被害の特殊性のため、家族すら知らないことが多い。知り合いや隣人が知っているケースは、非常に珍しい。そのために参考人調査を通じた被害立証が、事実上困難だった。

一方、申告人の無知により間違って申告したケースもあった。強制動員の具体的な状況が確認されないのに、単純に当時日本に居住した女という理由から、慰安婦と申告した事例があった。

日本軍慰安婦動員の被害調査は、ほとんどが生存者の証言に頼っている。そのため動員時期や動員地域等が歴史的事実と一致しない部分も、時々発見される。それでも、生存者の証言の信憑性が落ちるというわけではない。動員の年度や場所のような部分で記憶が多少不正確な場合もあるが、全体的な脈絡を勘案すれば、充分納得ができるからである。

この間、慰安婦動員に関する文献資料の発掘のために、数多くの人々が時間と情熱を注ぎ込んだ。その結果、慰安婦動員の一般的な形態や日本軍の関与等に関する資料が発掘された。にもかかわらず、被害事実を立証する名簿類は、まだ発見されていない。慰安婦動員の実状を明確に究明し、被害者を救済するためには、持続的な資料収集の努力が必要である。いまでも、政府や学界がなすべきことは数多いということである。

委員会日本軍慰安婦関連調査の現況

1. 日本軍慰安婦被害調査

- ・日本軍慰安婦関連被害受付及び処理現況

受付	取下げ	計	処理結果				
			被害者	却下	棄却	不能	重複
386	50	336	22	7	1	305	1

2. 真相調査及び研究委託調査の実績

- ・慰安婦関連真相調査の実施

連番	真相調査の題名	完了時期
1	戦時下、日本地域の「企業慰安所」と朝鮮人「企業慰安婦」に対する真相調査: 北海道と九州地域を中心に	2008
2	インドネシア動員女性名簿に関する真相調査	2009
3	海南島に連行された性的奴隷に対する真相調査	2011

- ・慰安婦関連研究委託調査の実施

連番	研究委託調査の題名	完了時期
1	フィリピン慰安所と朝鮮人慰安婦の実態及び帰還に関する研究	2006
2	日本国内労務慰安所開設関連接客業実態調査のための基礎研究	2006
3	海南島朝鮮人「慰安婦」に関する実態研究	2007
4	インドネシア軍「慰安婦」実態及び生存家族追跡調査	2007
5	台湾地域公娼制も及び「慰安所」の実態と朝鮮人「慰安婦」に関する研究: 台湾日日新報記事資料集(1931~1944)	2008
6	「慰安婦」問題解決方策研究: 決議案通過以後	2008

- ・女性動員関連資料集発行

連番	資料集の題名	完了時期
1	戦時体制期朝鮮の社会像と女性動員: 毎日新報(1937.1~1945.8)を中心に	2007

日本軍慰安婦被害者に対する 韓国政府の支援の現状

■ 概要

韓国政府は1993年「日帝下日本軍慰安婦被害者に対する生活安定支援及び記念事業等に関する法律」を制定した。1993年8月からこの法律に基き、日本軍慰安婦被害者に登録された被害者に支援が始まった。1993年には政府から被害者に、一時金500万ウォンと毎月15万ウォンの生計費を支援して、医療恩恵と永久賃貸住宅入居権も付与した。政府の支援規模は次第に拡大し、1995年には毎月20万ウォン、1996年には毎月25万ウォンの生活費を支援した。2013年現在、居住地用意等のために一時金4300万ウォン、生活安定支援金1人当り月95万3000ウォン、年間1200万ウォン範囲内での看護支援、精神的・身体的苦痛緩和のための治療を支援している。

被害者審議・被害者登録及び支援は、現在の女性家族部が担当する。被害者調査は女性家族部の依頼を受けて、私たちの委員会で実施し、調査結果を女性家族部に通知する。女性家族部で実施する被害者支援事業の目的と支援内容は、次の通りだ。

■ 事業目的

一日帝によって強制動員され、慰安婦生活を強要された被害者の生活安定

と福祉増進のために、国家が保護・支援し、被害者の名誉回復と真相究明のための記念事業を遂行することで、国民の正しい歴史観確立と人権増進に寄与しようとする。

■関係法令

一日帝下日本軍慰安婦被害者に対する生活安定支援及び記念事業等に関する法律(法律第11599号)

一日帝下日本軍慰安婦被害者に対する生活安定支援及び記念事業等に関する法律施行令(大統領令23641号)

■生活安定支援の内容

・月生活安定支援金

―日本軍隊慰安婦被害者の生活安定のために国内外生存の日本軍慰安婦被害者に毎月、生活安定支援金を支援。1人当月95万 3000ウォン支援

・看病費支援

―挙動が不便な国内居住日本軍慰安婦被害者に看病費支援。1人当り年間1200万ウォン範囲内で支援

・生活安定一時金支援

―最初、日本軍慰安婦生活安定支援対象者に登録時、居住地用意等のために一時金4300万ウォン支援

・情緒的安定及び健康治療費等治療事業支援

―被害者の精神的・身体的苦痛緩和のために在家訪問活動、外出活動、趣味活動と非医療保護適用対象の漢方薬、歯科治療費等を、事業主管機関を通じて支援

■ 支援対象者現状(2013年2月現在)

計	生存者			死亡者
	小計	国内	国外	
236人	59人	53人	6人	177人

■ 地域別居住現状(2013年2月現在)

計	ソウル	釜山	大邱	光州	蔚山	京畿	忠北	忠南	全北	全南	慶北	慶南	米国	日本	中国
59	16	2	5	1	1	13	1	2	1	2	2	7	2	1	3

■ 日本軍慰安婦被害者支援年度別新規発生者及び死亡者数現状 (2013年2月現在)

区分	計	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
登録	236	153	15	5	6	6	5	4	6	6	1
死亡	177	3	3	10	5	9	5	12	10	5	11
区分	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
登録	5	3	8	11	-	-	-	-	-	2	
死亡	6	8	18	6	14	15	6	9	16	6	

■ 年齢別分布現状(2013年2月現在)

計	平均年齢	77～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
59	86	4	22	24	9

<参考資料>

- ・韓国挺身隊問題対策協議会真相調査研究委員会編、『日本軍「慰安婦」問題の真相』、歴史批評社、1997
- ・女性家族部ホームページ(<http://www.mogef.go.kr/>)

日本軍慰安婦関係年表

- 1931 09.18. 柳条湖爆破事件（南満州鉄道）で満州事変勃発。
- 1932 01.28. 日本軍、上海攻撃。第1次上海事変勃発。
 - 01. 日本海軍、上海に4ヶ所の「海軍指定慰安所」設置。
 - 03. 上海派遣軍参謀部長岡村寧次の指示で日本、長崎、福岡から「慰安婦団」上海に到着。
 - 03.01. 日本、「満州国」建国宣言。
 - 12. 上海日本総領事館、「上海に海軍慰安所17ヶ所存在」と記録。
- 1933 03. 日本軍、中国熱河省占領。
 - 04.16. 中国平泉に日本軍の「慰安所」開設。
- 1935 末 上海日本総領事館、「上海に海軍慰安所14ヶ所存在」と記録。
- 1937 07.07. 中日戦争勃発。
 - 12.13. 日本軍、南京占領。1938年1月まで、首都南京で民間人と捕虜大虐殺。
- 1938 01.13. 上海派遣軍、上海に陸軍直営慰安所「楊家宅娯楽所」を設置。
 - 03.04. 北支那方面軍、「軍慰安所従業婦等募集に関する件」作成。
 - 04.01. 国家総動員法公布。
 - 06. 日本・北支那方面軍参謀長、「速に性的慰安の設備」を整備することを提案。
 - 10.21. 日本軍、中国広東占領。
 - 11. 日本軍、中国武漢占領。
 - 11.25. 北支那方面軍第2軍、武漢に慰安所開設。
- 1939 01. 漢口総領事、「漢口に軍慰安所20ヶ所存在」と記録。
 - 02.10. 日本海軍、海南島占領開始。
 - 05. 海南島、海口に海軍慰安所竣工。
 - 07.08. 国民徴用令公布。

- 10.16. 国民総力朝鮮連盟結成。
- 1940 02.11. 創氏改名申告実施。
- 04.16. 中国漢口に「妓女検査所(性病検査所)」設立。
- 08. 日本軍、北部フランス領インドシナに進駐。ハノイ、ハイフォン等の地に駐留。
- 11. 北支那派遣軍軍人性病患者の相手女性国籍別調査 5,418人のうち、朝鮮女性を相手にした者2,455人。
- 1941 07 日本軍、南部フランス領インドシナに進駐。海南島より4万以上の兵力駐屯。
- 夏 日本関東軍、中国東北部で特別軍事演習を実施し2万人の朝鮮人慰安婦募集計画樹立。
- 11. 支那派遣軍第13軍、第3飛行師団第91飛行場大隊、上海に慰安所設置。
- 12.08. 日本、真珠湾攻撃。太平洋戦争開始。
- 12.25. 日本軍、香港占領。
- 1942 01. 日本軍、タイのハジャイとシンゴラに慰安所設置。
- 01.02. 日本軍、マニラ占領。
- 01.23. 日本軍、ラバウル占領。
- 02.15. 日本軍、シンガポール占領。
- 02.27. 日本軍近衛師団通信部隊、駐屯地近辺に慰安所設置。
- 02. マニラ日本軍憲兵隊、マニラに17個の慰安所存在、酌婦(慰安婦)は1,064人以上存在。4個の将校用慰安所に119人の慰安婦存在と記録。
- 03. 日本軍、オランダ領スマトラ、ジャワ、ボルネオ、セレベス、モルッカ群島、ニューギニア、ビルマ・ラングーン占領。
- 03.12. 日本軍南方総軍、ボルネオ行き慰安婦50人派遣を要求。(3.16認可)
- 05. フィリピン、パナイ島イロイロに慰安所2個以上設置。
- 05.09. 日本閣議、朝鮮人徴兵制度実施決定。
- 06. ミッドウェイ海戦、米国との戦闘で日本が大敗し、海上戦争主導権は米国に移動。
- 06.20. フィリピン、レイテ島タクロバンに慰安所設置。
- 08. マレーシア、クアラルンプールに朝鮮人女性を置き、慰安所開設。
- 08.07. 米軍、ガダルカナル上陸開始。

- 09. 日本陸軍省、海外慰安所合計400ヶ所余りと集計。
- 10. 日本軍独立守備歩兵第35大隊、第10独立守備隊、フィリピン、ミンダナオ島タンサランに慰安所設置。
- 12.31. 日本軍、ガダルカナル放棄決定。
- 1943 02.14. フィリピン、ミンダナオ島カガヤンに下士官及び兵士用慰安所開設。
- 03. 沖縄に慰安所設置、本格化。
- 06. バタビア(ジャカルタ)に慰安所設置。ヨーロッパ系女性20人余り存在。
- 07.28. 海軍特別志願兵制実施。
- 08.01. 朝鮮人徴兵制実施。
- 10.25. 朝鮮人学別志願兵制実施。
- 1944 01.17 朝鮮京城龍山(ヨンサン)管内で料理営業関係の雇用人(満16歳以上)から特別女子青年挺身隊を結成
- 06.19. マリアナ海戦。日本軍大敗。
- 07.07. 米軍、サイパン島占領
- 07.20. 日本軍、第3魚雷艇隊、海軍指定食堂及び遊郭のうち6ヶ所を慰安所に指定。
- 08.23. 女子挺身勤労令公布。
- 10.20. 米軍、フィリピン、レイテ島上陸。
- 10.24. レイテ海戦。日本艦隊全滅。
- 10.25. 日本海軍。「神風特攻隊」出撃開始
- 1945 01.09. 米軍、ルソン島上陸。
- 01.14. 沖縄に慰安施設増強のために人員増員。
- 03.05. 国民勤労動員令勅令
- 03.10. 東京大空襲
- 03.13. 大阪大空襲
- 03.22. 硫黄島日本軍守備隊全滅
- 07.26. ポツダム宣言
- 08.06. 広島原爆攻撃
- 08.09. 長崎原爆攻撃
- 08.12. 関東軍司令部、満州国新京から通化に退却

- 08.15. 日本降伏宣言、朝鮮解放
- 10. 沖縄40人、琉球諸島110人の慰安婦帰国待機
- 1946 (～1948) 極東国際軍事裁判
- 1948 バタビア裁判(オランダ女性35人の「慰安婦」問題裁判)
- 1965 06. 韓日条約締結
- 1971 07. 日本人軍慰安婦城田すず子の自叙伝「マリアの賛歌」出版。
- 1975 10. 裴奉奇(ペ・ポンギ)、沖縄で日本軍慰安婦被害を証言。
- 1984 03. 盧寿福(ノ・スボク)、台湾で日本軍慰安婦被害証言。
- 1985 08. 城田すず子、「カニタ婦人の村婦女子保護施設」に慰安婦鎮魂碑設立。
- 1988 07.20 韓国教会女性連合会、挺身隊研究委員会設置。
- 1990 06. 日本国会、「慰安婦は民間業者が連れて行った」と政府答弁。
- 11. 韓国挺身隊問題対策協議会発足
- 1991 07. 日本、内閣外政審議室で慰安婦調査開始。
- 08. 金学順(キム・ハクスン)、国内最初の日本軍慰安婦被害を公開証言。
- 12.06. 東京地方裁判所にアジア太平洋戦争韓国人犠牲者補償請求訴訟-金学順他慰安婦35人訴訟
- 12.02. 文玉珠(ムン・オクチュ)、大邱で日本軍慰安婦被害公開証言。
- 1992 01. 宮沢首相訪韓時、慰安婦問題に謝罪と反省表明
- 01. 日本中央大学吉見義明教授、軍隊慰安婦関連公式文書を多数収集・発表
- 01.08. ソウル、日本大使館前で水曜集会開始
- 01.24. 韓国政府、「挺身隊問題実務対策班」設置。
- 07. 日本政府、第1次慰安婦関連調査発表。日本軍の関与を一部認定。
- 10. ナムムの家開設
- 12.25. 釜山従軍慰安婦女勤労挺身隊公式謝罪等山口地方裁判所下関支部に請求訴訟(関釜裁判)。朴頭理他慰安婦被害者2人、勤労挺身隊7人訴訟
- 1993 03. 韓国政府、慰安婦被害者に対する政府の生活支援開始
- 04.05. 在日韓人慰安婦被害者宋神道(ソン・シンド)東京地方裁判所に提訴(1999.10.01棄却)
- 06. 国連世界人権会議(ウィーン)、性的奴隷制の人権侵害に対応を要求

- 07. 「日帝下日本軍慰安婦に対する生活安定支援法」発効。被害者に最小限の医療・生活支援提供
- 08. 河野官房長官、日本軍慰安婦強制動員事実を認め、お詫びと反省の談話発表。
- 09. 金泳三大統領、「慰安婦被害者は韓国政府が助けることで、日本政府に物質的な補償を請求しない」と発表
- 1994 08. 村山総理発表:民間募金を通した個人的補償(慰労金支給)推進
- 1995 07. 日本政府が「女性のためのアジア平和国民基金」設立 法的な責任を回避し、道徳的な責任を負う趣旨から設立。この「国民基金」に対する反対運動が拡大
- 1996 02. 国連人権委員会「女性に対する暴力とその原因及び結果に関する報告書」(クマラスワミ報告)
- 03. ILO専門委員会、日本政府に慰安婦被害者に徹底した補償と謝罪を勧告
- 05.30. 日本自民党議員板垣正、妄言「慰安婦は歴史事実でない」
- 06.05. 日本自民党議員奥野誠亮、妄言「慰安婦募集に参加した人々が商行為をしたのであって、戦場に行くのに軍の交通便宜を受けたのかは分からないが国家(軍)が関与した事実はない」
- 06.08. 日本池田行彦外相、奥野の慰安婦妄言を謝罪
- 06.15. 日本、慰安婦調査法案「戦時性的強制被害者問題調査会設置法案」提出
- 09.23. 日本自民党議員綿貫民輔、妄言「軍隊慰安婦はなかった」
- 12. 日本新しい教科書を作る会発足
- 1997 01.24. 日本官房長官梶山静六、妄言「慰安婦、公娼取り扱い」
- 04. 日本中学校歴史教科書に慰安婦関連内容収録。
- 1998 04.27. 関釜裁判山口地方裁判所下関支部が日本軍慰安婦に慰謝料支払いを命じる。
- 08. 国連人権小委員会、日本政府の法的賠償責任と処罰を骨子とするゲイ・マクドゥガル(Gay McDougall)の報告書採択。
- 10.09. 日本軍慰安婦問題解決のための南北韓国・日本3者女性会談。中国北京で3日間開催。

- 1999 03.24. 日本筑波大学波多野澄雄教授、日本防衛省防衛研究所で「金原節三資料」と「麻生徹男資料」の分析結果、中国北部100、中国中部140、中国南部40、南方100、南海10、サハリン10個の合計400個の軍慰安所の存在を確認。
- 03.31. 中国天津市で日本軍が慰安婦を動員した文書発見 1944.6.8.警察局長から天津市長への報告書
- 05.10. 日本、アジア女性基金、韓国人慰安婦に慰労金支給放棄
- 08.23. 日系議員マイケル本田(民主、サンノゼ州下院議員)上程決議案、米国カリフォルニア下院で採択日本軍隊慰安婦被害者に対する日本政府の公式謝罪と直ちに賠償を要求
- 08.28. 「慰安婦賠償消滅していない」国連人権決議案採択
- 10.01. 在日韓人慰安婦被害者宋神道1次訴訟東京地方法院で棄却
- 10.07. 在日韓人慰安婦被害者宋神道2次東京高等裁判所に控訴(2000.11.30.棄却)
- 10.28. マイケル本田決議案、連邦議会でも採択推進
- 2000 11.30. 在日韓人慰安婦被害者宋神道2次訴訟東京高等裁判所で棄却
12. 東京で「日本軍性的奴隷戦犯女性国際法廷」開催
- 12.20. 在日韓人慰安婦宋神道3次最高裁に(2003.03.28.棄却)
- 2001 03.26. アジア太平洋戦争韓国人犠牲者補償請求東京地方裁判所で1審訴訟棄却判定
- 03.29. 関釜裁判広島高等裁判所2審訴訟棄却判定
- 04.12. 関釜裁判最高裁に3審控訴(2003.03.25.棄却)
12. オランダ、ハーグで「日本軍性的奴隷戦犯女性国際法廷」最終判決 天皇裕仁には有罪を日本政府には賠償責任を判決
- 2002 03.25. 関釜裁判最高裁で3審訴訟棄却判定
- 03.28. 在日韓人慰安婦宋神道3次訴訟最高裁で棄却
- 07.22. アジア太平洋戦争韓国人犠牲者補償請求東京高等裁判所で2審訴訟棄却判定
- 2004 11. 日帝強占下強制動員被害真相糾明委員会発足。
- 11.29. アジア太平洋戦争韓国人犠牲者補償請求最高裁で3審訴訟棄却判定
- 2005 日本中学校歴史教科書から「慰安婦」の用語除外。

- 02. 日帝強占下強制動員被害真相糾明委員会、慰安婦被害申告受付
(2008.06.まで3回受付)
- 04. 日本・藤岡信勝(新しい歴史教科書を作る会副会長)、慰安婦妄言「今
韓国では従軍慰安婦が定期的に日本大使館の前でパフォーマンスを
している。
だが、彼らは本当に慰安婦でなく北朝鮮の工作人員という話を聞いて
た。私は本当にそうだと思う。」
- 2007 03. 日本安倍首相、国会で、慰安婦の強制連行はなかったと発言、「慰安
所運営業者による強制はあったかも知れないが、官憲による強制連
行を後押しする証拠はない」
- 03. 日本官房副長官下村博文、妄言「国家が慰安婦を強制動員した事実
はなく、一部親たちが娘を売ったようだ。」
- 03. 日本政府の慰安婦に関する公式見解、「政府が発見した資料の中か
ら軍や官憲による強制連行に対する記述は発見されない。」
- 03. 日本、「国民基金」事業終了、解散
- 05. 東京都知事石原慎太郎、慰安婦妄言「従軍慰安婦を軍隊が調達した事
実はなく、戦争中軍隊がそのような(従軍慰安婦)女性たちを調達した事
実は全くない、単に軍にそんなものを提供して営業する人はいた。」
- 06. 日本政治家40人余、ワシントンポスト紙に全面広告掲載「日本政府や
軍が、慰安婦を強制的に狩り出したという文書を探してみることは
できない」、「日本軍が若い女性を性奴隷に追いやったというマイク
・ホンダ議員の決議案内容は歴史的事実と違う」、「慰安婦を「性奴
隷」と表記しているが、事実は公娼であり、多くは日本軍将官より収
入が多かった」、「日本軍が若い女性を性的奴隷に追いやった20世
紀最大の人身売買事件の一つを犯したという (米国)下院の決議案
は、重大で意図的な事実の歪曲である」
- 07. 米国下院本会議で日本政府の謝罪と反省を促す決議案通過
- 2008 11.08. オランダ下院で日本政府の謝罪要求を決議
- 11.28. カナダ下院で日本政府の謝罪要求を決議
- 12.13. EU会議で慰安婦に関する決議
- 2009 07.24. 大邱市議会、地方議会では全国で初めて「日本軍慰安婦問題解決を
促す決議案」採択

- 12.24. 慶南道議会、「日本軍慰安婦問題解決を促す決議案」採択。
- 12. 日帝強占下強制動員被害真相糾明委員会、慰安婦被害処理22件被害者と認定
- 2010 10. 米国、ニュージャージー州/パリスサイズパーク市に慰安婦記念碑を建設
- 2011 01 対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会、慰安婦被害真相調査(3件完了)
- 08.30. 日本軍慰安婦、憲法裁判所に憲法訴訟提出(2006.07.25.)に対して勝訴判決
- 09.15. 韓国外交通商部が日本政府に慰安婦問題協議提案 韓日請求権協定紛争解決のための初の両者協議提案
- 09.16. 日本政府協議拒絶、すでに法的に解決された問題を理由に、協議に応じない。
- 12.18. 韓日首脳会談で慰安婦問題解決議論
- 2012 06.18. 米国、ニューヨーク州ナッソー郡に慰安婦碑建設
- 06.22. 極右派日本人、日本大使館の前の少女像に杭のテロ
- 09. 安倍自民党総裁、妄言「子孫が慰安婦強制動員という不名誉な荷物をずっと負わせることはできない。河野談話を廃棄して新しい談話を出すべきだ」
- 12.02. 米国カリフォルニア州オレンジ郡に慰安婦碑建設
- 2013 01.30. 米国ニューヨーク州上院、「日本の慰安婦動員は犯罪」という内容の決議案、全員一致採択。
- 02.07. 京畿道広州(クァンジュ)市議会、「日本軍慰安婦被害者問題解決要求決議案」を採択。

付録4

日本軍隊慰安婦関連、委員会所蔵資料目録

1. 委員会発刊物及び研究委託

番号	種類	資料名
1	真相調査	インドネシア動員女性名簿に関する真相調査(2009)
2	真相調査	戦時下日本地域の「企業慰安所」と朝鮮人「企業慰安婦」に対する真相調査 北海道と九州地域を中心に(2008)
3	真相調査	海南島に連行された性的奴隷に対する真相調査(2011)
4	研究委託	海南島朝鮮人「慰安婦」に関する実態研究(2007)
5	研究委託	インドネシア軍「慰安婦」実態及び生存家族追跡調査(2007)
6	研究委託	台湾地域公娼制度及び「慰安所」の実態と朝鮮人「慰安婦」に関する研究 台湾日日新報記事資料集(1931～1944) (2008)
7	研究委託	「慰安婦」問題解決案研究：決議案通過以後(2008)
8	研究委託	フィリピン慰安所と朝鮮人慰安婦の実態及び帰還に関する研究 (2006)
9	研究委託	日本国内「労務慰安所」開設関連「接客業」実態調査のための基礎研究(2006)
10	単行本	戦時体制期朝鮮の社会像と女性動員：毎日新報(1937.1～1945.8)を中心に(2007)

2. 単行本、セミナー資料、連続刊行物(国内)

番号	種類	資料名
1	単行本	日本軍慰安婦問題の真相 韓国挺身隊問題対策協議会真相調査研究委員会、歴史批評社 / 1997

番号	種類	資料名
2	単行本	従軍慰安婦 伊藤孝司 / 雪の光 / 1997
3	単行本	日本軍慰安婦問題に対する法的解決の展望 韓国挺身隊問題 対策協議会/草の光 / 2001
4	単行本	日本軍慰安婦問題の責任を問う: 歴史・社会的研究 韓国挺身 隊問題対策協議会2000年、日本軍性的奴隷戦犯女性国際法 廷韓国委員会/真相究明委員会 編/草の光 / 2001
5	単行本	慰安婦でなく性奴隷だ 戸塚悦郎 / 松の木 / 2001
6	単行本	性的奴隷と兵士作り アンヨンソン / サムイン / 2003
7	単行本	日本軍「慰安婦」問題に関する国外資料調査研究Ⅱ 鄭鎮星 / 女性部権益企画課 / 2003
8	単行本	性の歴史学 藤目ゆき / サムイン / 2004
9	単行本	日本軍性的奴隷制 鄭鎮星 / ソウル大学校出版部 / 2004
10	単行本	日本軍性的奴隷被害 / ハレモニ作品集 ナムムの家 / 2004
11	単行本	歴史を作る話日本軍慰安婦女性たちの経験と記憶 韓国挺身隊 問題対策協議会・戦争と歴史研究チーム/女性と人権/2004
12	単行本	全北地域日本軍「慰安婦」生存者の話 キリストの暮らし女性 会[編] / 奉天出版社 / 2004
13	単行本	文玉珠/森川万智子著金ジョンソン翻訳挺身隊 / ハレモニと共 にする市民の会編/美しい人々/2005
14	単行本	中国居住日本軍慰安婦被害者支援研究報告書 女性家族部権 益企画/女性家族部権益企画 / 2006
15	単行本	慰安婦リポート.1私は告発する 鄭ギョンア著/道探し / 2007
16	単行本	日本軍「慰安婦」とナチスドイツ収容所の強制性労働 東北ア ジア歴史財団 編 / 2007
17	単行本	(日本軍「慰安婦」金スアク)私の気持ちは誰にも分らない 金 ソングム文; 挺身隊 / ハレモニと共にする市民の会編 / 挺身隊 / ハレモニと共にする市民の会 / 2008
18	単行本	日本軍慰安婦制の植民地性研究 姜貞淑/ 成均館大学校大学院 / 2010

番号	種類	資料名
19	単行本	インドネシア/パレンバン朝鮮人名簿を通じてみた軍「慰安婦」動員/姜貞淑/釜慶歴史研究所/ 2011
20	セミナー資料	第1回日本軍「慰安婦」問題市民講座、日本軍「慰安婦」問題正しく見る挺身隊/ハレモニと共にする市民の会/2000
21	セミナー資料	「強制性」とは何か:日本軍慰安婦問題 日帝強制占領下強制動員被害真相究明委員会、韓国挺身隊研究所、民族問題研究所、民族の精気を立てる国会議員の会/韓国挺身隊研究所/ 2007
22	セミナー資料	(第8次)日本軍「慰安婦」問題アジア連帯会議韓国挺身隊問題対策協議会/ 2007
23	セミナー資料	日本軍「慰安婦」問題国際学術大会資料集「日帝植民支配の暴力成果日本軍「慰安婦」」韓国近現代史学会、東北アジア歴史財団/ 2007

3. 単行本及び連続刊行物(国外)

番号	種類	資料名
1	単行本	従軍慰安婦悲史 千田夏光 / エルム / 1976
2	単行本	羅南憲兵隊史: 胡馬北風に嘶く羅南隊の回想と終焉 羅南憲友会編 / 羅南憲友会 / 1981
3	単行本	慰安婦 秀雲 江先光 / 叢文社 / 1982
4	単行本	声なき女8万人の告発 千田夏光 / 双葉社 / 1983
5	単行本	現代の慰安婦たち 臼杵敬子 / 徳間書店 / 1983
6	単行本	赤瓦の家 朝鮮から来た従軍慰安婦 川田文子 / 筑摩書房 / 1987
7	単行本	慰安婦たちの太平洋戦争 山田盟子 / 光人社 / 1991
8	単行本	従軍慰安婦110番電話の向こうから歴史の声が 従軍慰安婦110番編集委員会/明石書店 / 1992
9	単行本	従軍慰安婦資料集吉見義明/大月書店 / 1992
10	単行本	戦場口誌に見る従軍慰安婦極秘資料集琴琴洞/緑蔭書房 / 1992
11	単行本	従軍慰安婦・内鮮結婚 鈴木裕子 / 未来社/ 1992
12	単行本	慰安婦たちの太平洋戦争:沖繩篇 山田盟子 光人社 / 1992

番号	種類	資料名
13	単行本	(続)慰安婦たちの太平洋戦争 山田盟子 / 光人社 / 1992
14	単行本	母・従軍慰安婦 尹静慕 / 神戸学生青年センター出版部 / 1992
15	単行本	証言従軍慰安婦・女子勤労挺身隊 伊藤孝司 / 風媒社 / 1992
16	単行本	朝鮮人従軍慰安婦・女子挺身隊資料集 金英達 / 神戸学生青年センター出版部 / 1992
17	単行本	強制連行と従軍慰安婦 平林久枝 / 日本図書センター / 1992
18	単行本	従軍慰安婦のはなし 西野留美子 / 明石書店 / 1993
19	単行本	従軍慰安婦と十五年戦争 西野留美子 / 明石書店 / 1993
20	単行本	従軍慰安婦問題と性暴力 鈴木裕子 / 未来社 / 1993
21	単行本	従軍慰安婦 山田盟子編 / 光人社刊 / 1993
22	単行本	慰安婦強制連行 責任と償い 国際人権研究会 / 新泉社 / 1993
23	単行本	性と侵略「軍隊慰安所」84か所元日本兵らの証言1992京都「おしえてください!」慰安婦 情報電話 報告集編集委員会 / 社会評論社 / 1993
24	単行本	従軍慰安婦 吉見義明 / 岩波新書 / 1995
25	単行本	日本軍「慰安婦」を追って 西野留美子 / マスコミ情報センター / 1995
26	単行本	インドネシアの慰安婦 川田文子 / 明石書店 / 1997
27	単行本	慰安婦強制連行はなかった 大師堂常慰 / 展転社 / 1999
28	単行本	慰安婦と戦場の性 秦郁彦 / 新潮選書 / 1999
29	単行本	台湾慰安婦報告 婦女救援基金会編 / 台湾商務印書館 / 1999
30	単行本	皇軍慰安所とおんなたち 峯岸賢太郎 / 吉川弘文館 / 2000
31	単行本	インドネシア従軍慰安婦の記録 現地からのメッセージ、ブデイ・ハルトノ・ダダン・ジユリアンタラ著、宮本謙介訳 / かもがわ出版 / 2001
32	単行本	日本軍性奴隷制を裁く2000年女性国際戦犯法廷の記録 vol 1-6 VAWW-NET Japan編 / 緑風出版 / 2001
33	単行本	台湾慰安婦関係資料集 第1巻～第2巻 朱徳蘭 編、解説 / 不二出版 / 2001

番号	種類	資料名
34	単行本	よくわかる韓国の慰安婦問題 韓国挺身隊研究所 / アドバンテ ーじサーバー / 2002
35	単行本	「慰安婦」問題と私の国会審議 本岡昭次東京事務所 / 本岡昭 次東京事務所 / 2002
36	単行本	Q&A女性国際戦犯法廷VAWW-NETジャパン / 明石書店 / 2002
37	単行本	マツシロをあくる もうひとつの歴史館 / もうひとつの歴史館 松代建設実行委員会 / 2004
38	単行本	日本軍に棄てられた少女たち インドネシアの慰安婦悲話 プラムディヤ・アナンタ・トゥール / コモンズ / 2004
39	単行本	戦時下北海道における朝鮮人労務慰安婦の成立と実態 西田 秀子 / 第10回全国女性史研究交流つどい実行委員会 / 2005
40	単行本	台湾総督府と慰安婦 朱徳蘭 / 明石書店 / 2005
41	単行本	追索 陣麗菲・蘇智良 / 広東人民出版社 / 2005
42	単行本	日韓近現代史 ジェンダーの視点からみる 日韓女性共同歴史 教材編纂委員会編 / 梨の木舎 / 2005
43	単行本	上海日軍慰安所実録 蘇智良、陣麗菲、姚霏 / 上海三聯書店 / 2005
44	単行本	日本対海南の侵略及其暴行 蘇智良他 / 世紀出版集団、上海 辞書出版社 / 2005
45	単行本	戦争・暴力と女性3 植民地と戦争責任 早川紀代 編 / 吉川弘 文館 / 2005
46	単行本	韓日間における歴史問題の解決案に関する研究 日本軍「慰 安婦」問題の解決のために 日本戦争責任資料センター、女た ちの戦争と平和資料館編 / 東北亜歴史財団 / 2007
47	単行本	現代日本の歴史認識: その自覚せざる欠落を問う 中塚明 / 高 文研 / 2007
48	単行本	日本軍の性奴隷制: 日本軍慰安婦問題の実像とその解決のた めの運動 鄭鎮星; 岩方久彦、鄭大成 訳 / 論創社 / 2008
49	単行本	「慰安婦」強制連行〈史料〉オランダ軍法会議資料〈レポ〉 私は“日本鬼子”の子 梶村太一郎、村岡崇光、糟谷広一郎 / 金 曜日 / 2008

番号	種類	資料名
50	セミナー資料	1939-1945日占海南下の皇軍慰安婦 朱徳蘭 / 中央研究院中山人文社会科学研究所副研究員 / 1991
51	連続刊行物	道南女性史研究8号 道南女性史研究会 / 1991
52	連続刊行物	(季刊)戦争責任研究第17号日本の戦争責任資料センター / 1997
53	連続刊行物	(季刊)戦争責任研究第18号日本の戦争責任資料センター / 1997
54	連続刊行物	(季刊)戦争責任研究第19号日本の戦争責任資料センター / 1998
55	連続刊行物	(季刊)戦争責任研究第38号日本の戦争責任資料センター / 2002
56	連続刊行物	(季刊)戦争責任研究第47号日本の戦争責任資料センター / 2005

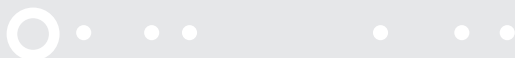
4. 日本軍慰安婦被害関連その他資料

番号	種類	形態	内容
1	視聴覚	ビデオテープ	アジア映画から見えた戦後50年/エリは慰安婦になった 日本テレビ放送網 / 1953年 / 125分/日本語
2	視聴覚	ビデオテープ	従軍慰安婦1編-できなかった話MBC / 1992 / 58分
3	視聴覚	ビデオテープ	従軍慰安婦2編-消された歴史MBC / 1992 / 60分
4	視聴覚	ビデオテープ	従軍慰安婦3編 野蠻の土地MBC / 1992 / 54分
5	視聴覚	ビデオテープ	従軍慰安婦なぜ今日の問題なのかMBC / 1993 / 27分
6	視聴覚	ビデオテープ	生きている間に語りたかった 日本の戦後補償に関する国際公聴会 ビデオプレス / 1993 / 40分/日本語
7	視聴覚	ビデオテープ	ビデオテープ フン・ハルモニの真実(PD手帳、284回) MBC / 1997年/ 48分
8	視聴覚	ビデオテープ	ある日本軍慰安婦の失った55年EBS / 2000年/ 56分
9	視聴覚	ビデオテープ	黄(ファン)/ハルモニの特別な授業KBS / 2001年/ 49分
10	視聴覚	ビデオテープ	平壤からの告発YTN / 2003年 / 37分
11	視聴覚	ビデオテープ	朝鮮女性ワカ/ハルの真実MBC / 2003年/ 45分
12	視聴覚	ビデオテープ	中国の朝鮮人慰安婦、私は帰りたい(PD手帳、626回) MBC / 2005年 / 52分
13	視聴覚	ビデオテープ	帰郷-中国に連れて行かれた軍慰安婦たち 女性部 / 未詳 / 未詳

番号	種類	形態	内容
14	視聴覚	ビデオテープ	沖縄23万人の碑 未詳 / 未詳 / 日本語
15	視聴覚	ビデオテープ	朝鮮人前従軍慰安婦の証言-掘り起こされた歴史-千葉と朝鮮人強制連行 ビデオプレス / 未詳 / 日本語
16	視聴覚	ビデオテープ	追跡 従軍慰安婦47年目の真実 未詳 / 未詳 / 未詳 / 日本語
17	視聴覚	ビデオテープ	50年目の従軍慰安婦 / 告発731部隊 未詳/未詳/未詳 / 日本語
18	視聴覚	ビデオテープ	50年目の従軍慰安婦 / 大本営発表の裏と表 未詳/未詳 / 未詳/日本語
19	視聴覚	ビデオテープ	1997～2000年ビルマ現地調査記録 ビルマの日本軍 '慰安婦' 森川万智子 / 37分 / 日本語
20	視聴覚	ビデオテープ	ハルモニ、50年の間埋もれた秘密 台湾慰安婦の話 TAIPEI WOMEN'S RESCUE FOUNDATI / 中国語
21	文書		日本軍「従軍慰安婦」被害者の拉致事件を処罰した戦争前下級刑事判決を発掘-資料国外移送誘拐被告事件に関する長崎地方裁判所刑事部1936年2月14日判決、長崎地方裁判所刑事部 / 1936年 / 25枚 / 日本語
22	文書		支那渡航婦女募集取締二関スル件 高知県知事 / 1938年 / 36枚 / 日本語
23	文書		南方第9陸軍病院部隊略歴 1942～1946 / 5枚 / 日本語
24	文書		南方第9陸軍病院復員名簿 1946 / 9枚 / 日本語
25	文書		岡村寧次大将資料 戦場回想編 稲葉正夫/原書房 / 1970年 / 10枚 / 日本語
26	文書		従軍看護婦 双葉社 / 1975年 / 26枚 / 日本語
27	文書		日本の戦後責任と従軍慰安婦問題 日本社会党女性局 / 1991 / 37 / 日本語
28	文書		朝鮮半島出身のいわゆる従軍慰安婦について 内閣官房内閣外政審議室 / 1992 / 3枚 / 日本語
29	文書		従軍慰安婦と天皇 千田夏光 / 1992 / 33枚 / 日本語
30	文書		沖縄 戦争と女性—慰安所マップが語るもの 第5回全国女性史交流会 / 1992 / 23枚 / 日本語

番号	種類	形態	内容
31	文書		告発「従軍慰安婦」朝鮮時報 / 1992 / 19枚 / 日本語
32	文書		日帝下軍隊慰安婦実態調査中間報告書 挺身隊問題 実務対策班 / 1992 / 216枚、1992 / 72枚 / 日本語
34	文書		Gedwongen prostitutie van Nederlandse vrouwen in voormalig Nederlands オランダ 日本軍慰安婦被害を 受けて オランダ政府 / 1994年 / 9枚
35	文書		旧内務省資料でわかった「従軍慰安婦」の実態 日本 共産党中央委員会 / 1997 / 18枚 / 日本語
36	文書		問われる戦争責任 朝鮮人強制連行真相調査団 / 1997年 / 84枚 / 日本語
37	文書		参議院予算委員会要求資料 内閣官房 / 1997年 / 68 枚 / 日本語
38	文書		金福童さんのケース調査報告 金富子 / 2000年 / 17枚 / 日本語
39	文書		Java,het laatste front(オランダ日本軍慰安婦被害報告 書) WRINZEMA-ADMIRAAL / 2000年 / 8枚
40	文書		軍医のみた大東亜戦争 福岡良男 / 2004年 / 10枚 / 日 本語 2005年 / 50枚 / 日本語
42	文書		日本軍「慰安婦」国際司法裁判所提訴に対する意見 書 / (社)挺身隊問題対策釜山協議会 / 2005 / 4枚
43	文書		共同研究日本軍慰安婦 吉見義明、林博史 / 9枚 / 日 本語
44	文書		「日本軍慰安婦」をどのように教えるか 林博史他 / 5枚 / 日本語
45	文書		軍慰安婦関連資料 方善柱 / 43枚/英語
46	文書		朝鮮人従軍慰安婦 鈴木裕子 / 33枚/日本語
47	文書		いわゆる従軍慰安婦問題の調査結果について 未詳 / 未詳 / 24枚 / 日本語
48	文書	製本	従軍慰安婦女子勤労挺身隊(2003.9.5)関釜裁判上告・ 控訴棄却文

番号	種類	形態	内容
49	文書	製本	慰安婦勝訴、女子勤労挺身隊棄却(1998.4.27関釜裁判)〔山口地裁下関支部判決〕
50	文書	製本	女子勤労挺身隊従軍慰安婦 公式謝罪等 請求事件 (1993.12.13)
51	文書	製本	防衛研究所所蔵 慰安婦関連資料
52	文書	製本	従軍慰安婦関係文書綴(1)
53	文書	製本	従軍慰安婦関係文書綴(2)
54	文書	製本	従軍慰安婦関係文書綴(3)
55	文書	製本	従軍慰安婦関係文書綴(4)



出版参加者

日本語版(2020)

企画・発行

日帝強制動員被害者支援財団

日本語翻訳

日本語翻訳協力委員会

口述・附録: 李洋秀, 図表: 竹内康人

最終監修

玄明喆 mchyun79@hanmail.net

韓日関係史学会 会長 北海道大学博士(Ph.D)

韓日歴史共同研究委員会委員

主要著書: 《明治維新初期の朝鮮侵略論》, 《19世紀後半の対馬州と日韓関係》

韓国語版(2013)

編著: 対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会

企画: 孔(コン)ジュンファン、鄭惠瓊(チョンヘギョン)

責任編集: 尹智炫(ユンジヒョン)

面談者: 姜貞淑(カンジョンスク)、姜ヒョン、金(キム)ミジョン、金ウンヒョン、
朴勝美(パクスンミ)、朴チョネ、禹栄頌(ウヨンソン)、尹明淑(ユンミョンスク)、
尹智炫、鄭惠瓊

録音文作成・入力: 禹栄頌(ウヨンソン)、尹智炫

録音文編集・校正・校閲: 金明煥(キムミョンファン)、禹栄頌(ウヨンソン)、
尹智炫、李宣始(イソンリョン)



日帝強制動員被害者支援財団



写真出处 大韓民国・国立日帝強制動員歴史館所蔵

- [左] 『巨港朝鮮人会員名簿 (バレンバン)』インドネシアのスマトラ島バレンバンに動員された朝鮮人の名簿 (「慰安婦」を含む)。
[右] 『1946年南方朝鮮出身者名簿 (ボルネオ、バリクパパン)』インドネシアのボルネオ島バリクパパンに動員された朝鮮人が帰国する際に作成された名簿 (「慰安婦」推定者を含む)。